

男女共同参画に関する
市民意識調査報告書

平成 28 年 6 月
佐賀県小城市

目 次

| | |
|--------------------------------|------------|
| 調査概要 | 3 |
| 1 . 調査の目的 | 3 |
| 2 . 調査の実施方法 | 3 |
| 3 . 報告書利用上の注意 | 3 |
| | |
| 調査結果 | 7 |
| 1 . 回答者の属性 | 7 |
| 2 . 結婚や家庭生活について | 13 |
| 3 . 教育・子育てについて | 43 |
| 4 . 働くことについて | 63 |
| 5 . 夫婦や恋人同士などの暴力について | 68 |
| 6 . 男女共同参画社会について | 88 |
| 7 . 自由意見 | 141 |
| | |
| 参考資料 | 149 |
| ○調査票 | 149 |

調查概要

調査概要

1. 調査の目的

本調査は、小城市における男女共同参画に関する意識と実態を把握し、今後の男女共同参画社会の実現に向けた施策の基礎資料とする。

2. 調査の実施方法

(1) 調査方法 調査票による郵送調査

(2) 調査期間 平成 28 年 2 月 2 日～平成 28 年 2 月 22 日

(3) 調査対象者 小城市内に居住する満 19 歳以上の市民

(4) 標本抽出方法 住民基本台帳からの無作為抽出

(5) 回収結果

| 調査対象者数 | 有効回答数 | 有効回答率 |
|---------|-------|--------|
| 2,000 人 | 707 人 | 35.35% |

(6) 調査項目

| |
|---------------------|
| 1. 回答者の属性 |
| 2. 結婚や家庭生活について |
| 3. 教育・子育てについて |
| 4. 働くことについて |
| 5. 夫婦や恋人同士などの暴力について |
| 6. 男女共同参画社会について |
| 7. 自由意見 |

3. 報告書利用上の注意

端数処理の関係上、構成比(%)の計が100%とならないことがあります。

図表の構成比(%)は小数第2位以下を四捨五入したものです。

複数回答の設問は、すべての構成比(%)を合計すると100%を超える場合があります。

図表の「H17」は平成17年度、「H22」は平成22年度、「H27」は平成27年度を表しています。

図表の「小城市 H27」は、「男女共同参画に関する意識調査(H28.2 実施)」、「佐賀県 H26」は、「男女共同参画社会づくりのための佐賀県民意識調査(H26.10～11 実施)」、「全国 H24」は、「男女共同参画社会に関する世論調査(H24.10 実施)」の調査結果を用いています。

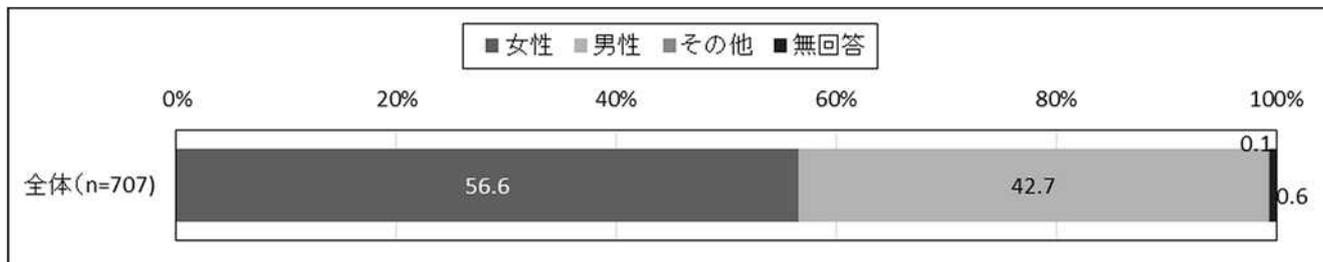
調查結果

調査結果

1. 回答者の属性

(1) 性別

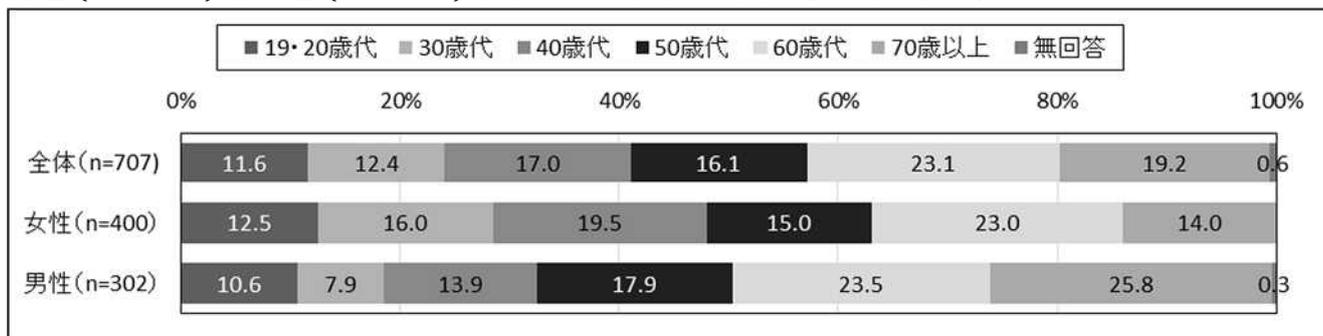
「女性」が 56.6%、「男性」が 42.7%となっています。



(2) 年代

「60歳代」が 23.1%で最も高く、次いで「70歳以上」19.2%、「40歳代」17.0%の順となっています。

性別で見ると、「50歳代以下」では、女性が男性より回答した割合が高く、「70歳以上」では、男性（25.8%）が女性（14.0%）より 11.8 ポイント高くなっています。

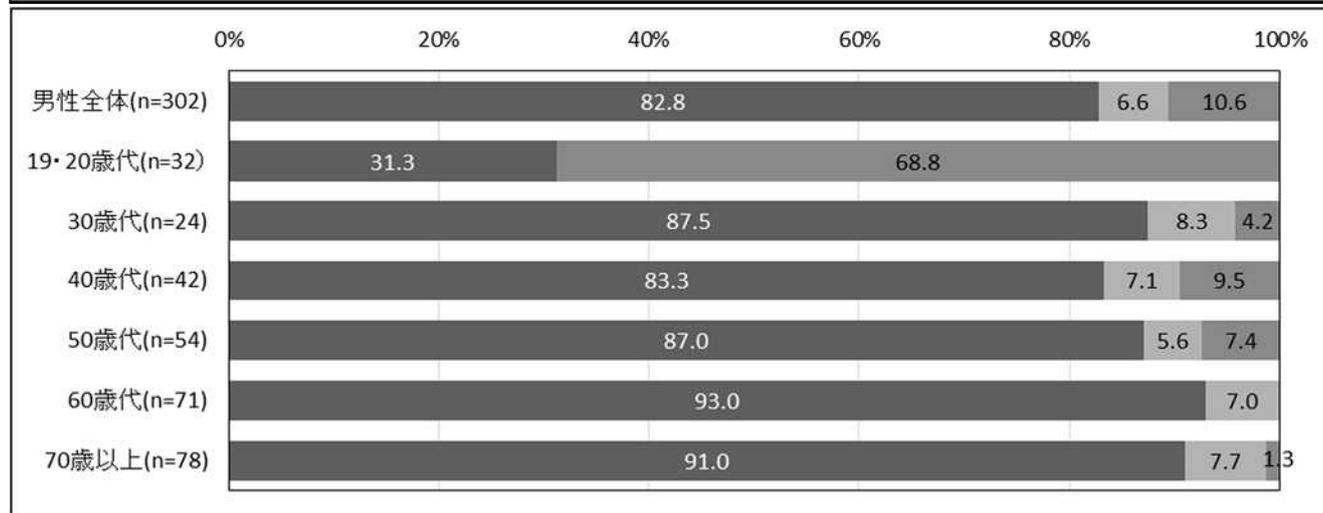
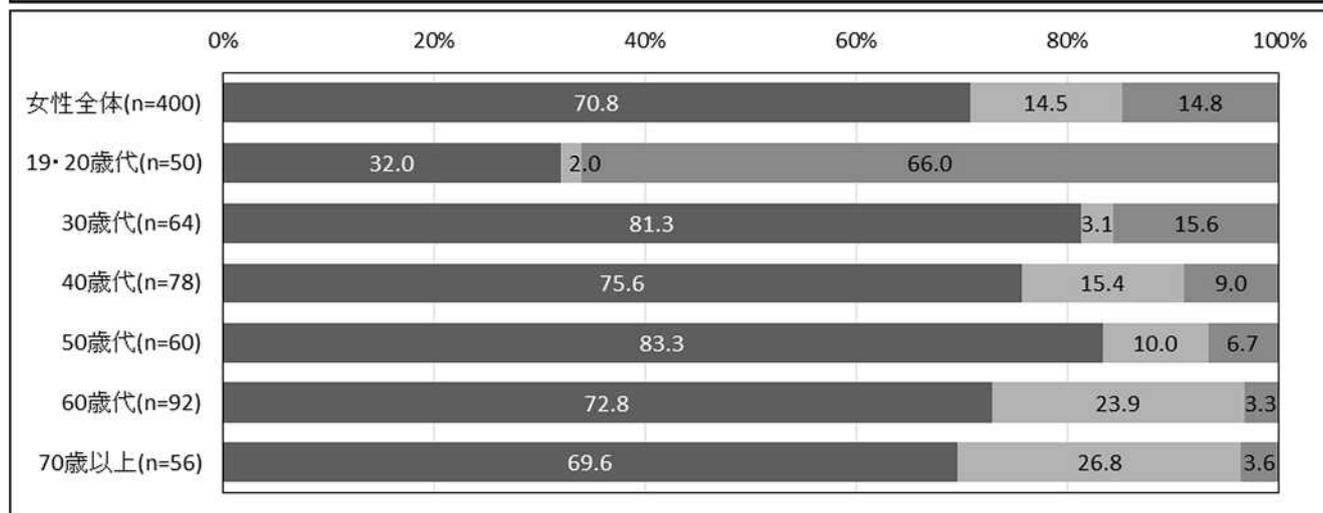
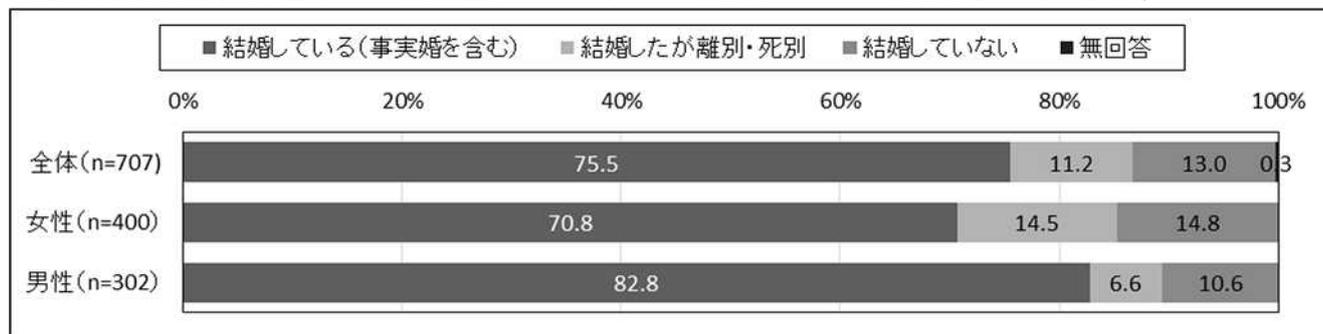


(3) 結婚の状況

「結婚している（事実婚を含む）」が 75.5%で最も高く、次いで「結婚していない」13.0%、「結婚したが離別・死別」11.2%の順となっています。

性別で見ると、「結婚したが離別・死別」と回答した割合は、女性（14.5%）が男性（6.6%）より 7.9 ポイント高く、「結婚している（事実婚を含む）」と回答した割合は、男性（82.8%）が女性（70.8%）より 12 ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「結婚している（事実婚を含む）」と回答した割合は、女性の「50 歳代」83.3%、男性の「60 歳代」93.0%が最も高くなっています。また、「結婚したが離別・死別」と回答した割合は、女性の「70 歳以上」26.8%、「60 歳代」23.9%で高くなっています。



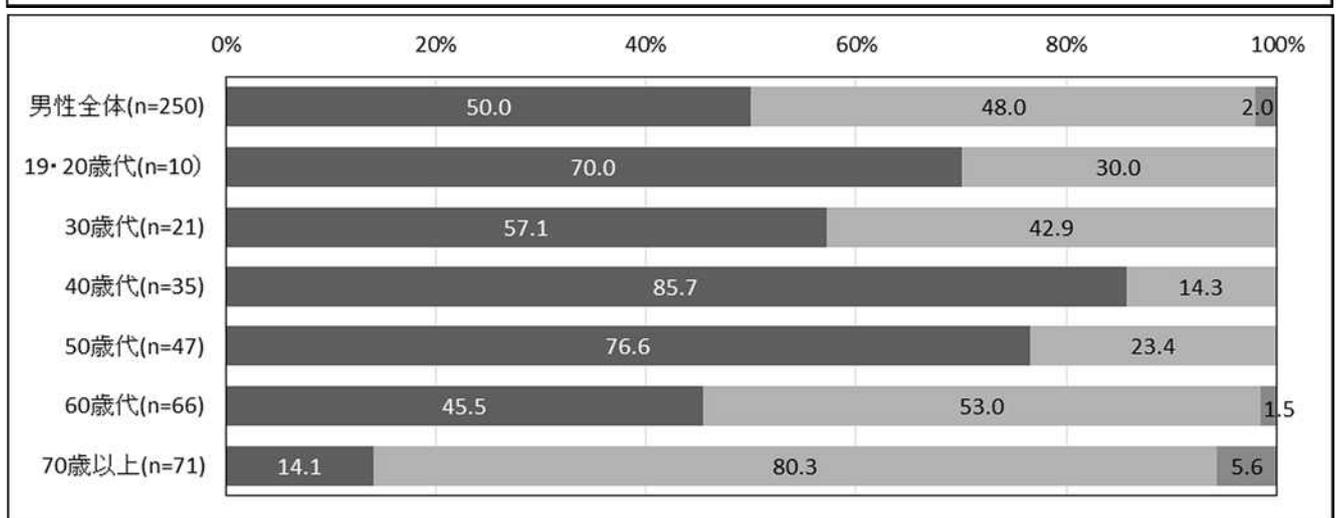
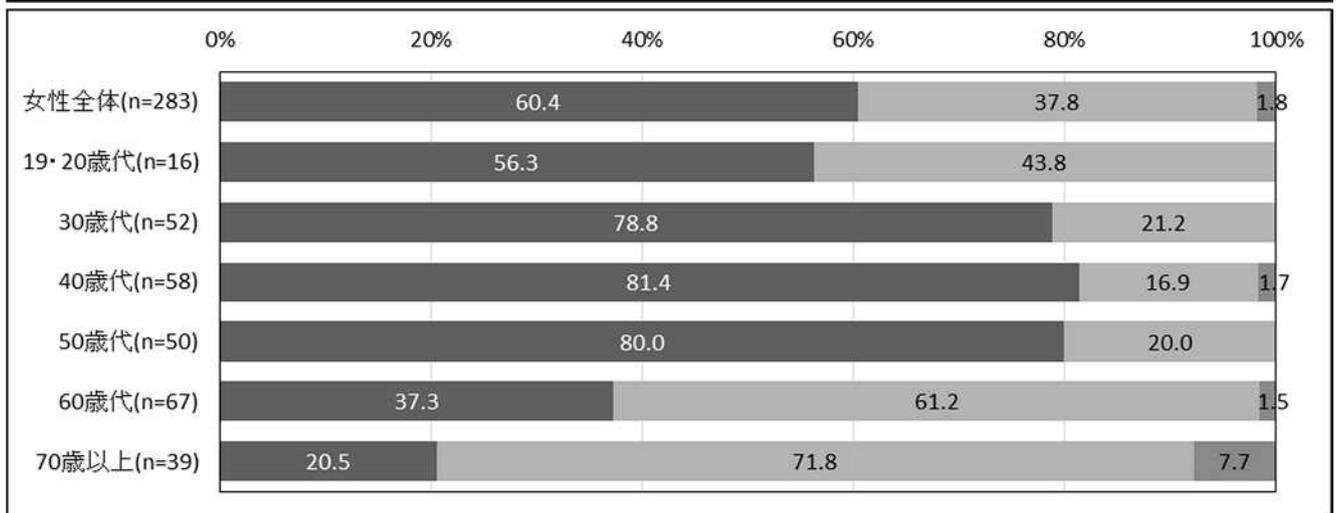
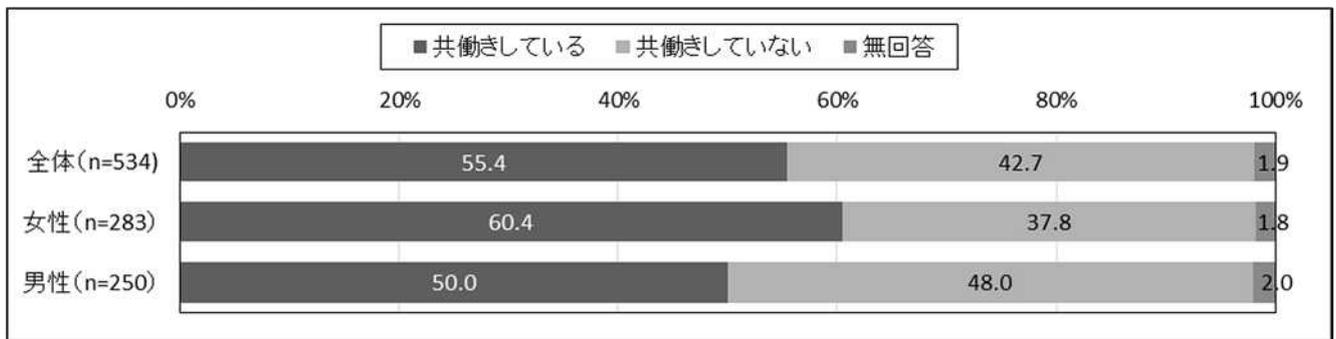
(3)で「結婚している(事実婚を含む)」と回答した方におうかがいします。

(4) 共働きの状況

「共働きしている」が55.4%、「共働きしていない」42.7%となっています。

性別で見ると、「共働きしている」と回答した割合は、女性(60.4%)が男性(50.0%)より10.4ポイント高く、「共働きしていない」と回答した割合は、男性(48.0%)が女性(37.8%)より10.2ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「共働きしている」と回答した割合は、女性・男性ともに「40歳代」が80%以上で最も高くなっています。

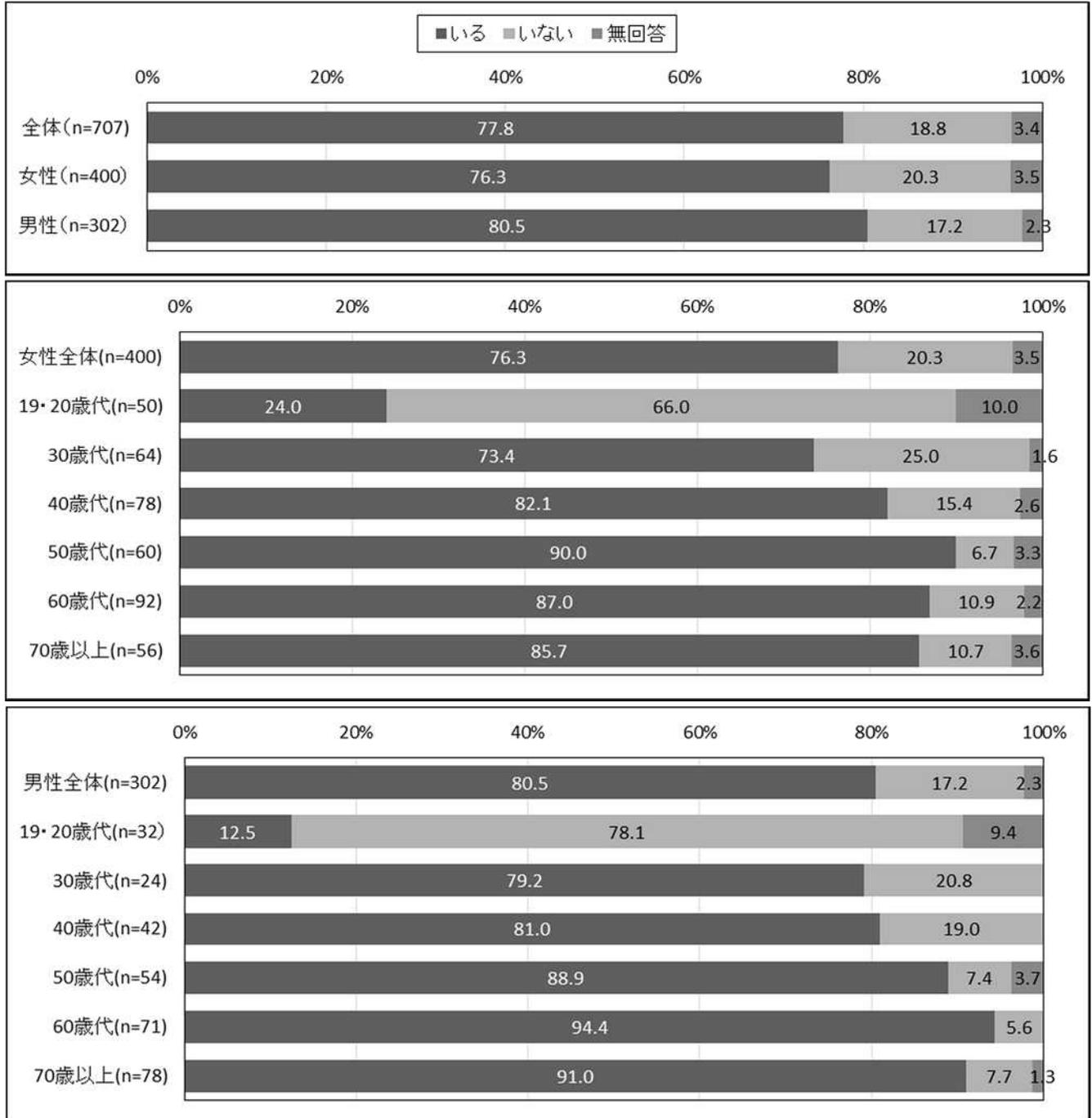


(5) 子どもの状況

「いる」が77.8%、「いない」18.8%となっています。

性別による大きな差異は見られません。

性別・年代別で見ると、「いる」と回答した割合は、女性・男性ともに「30歳以上」で70%以上となっています。

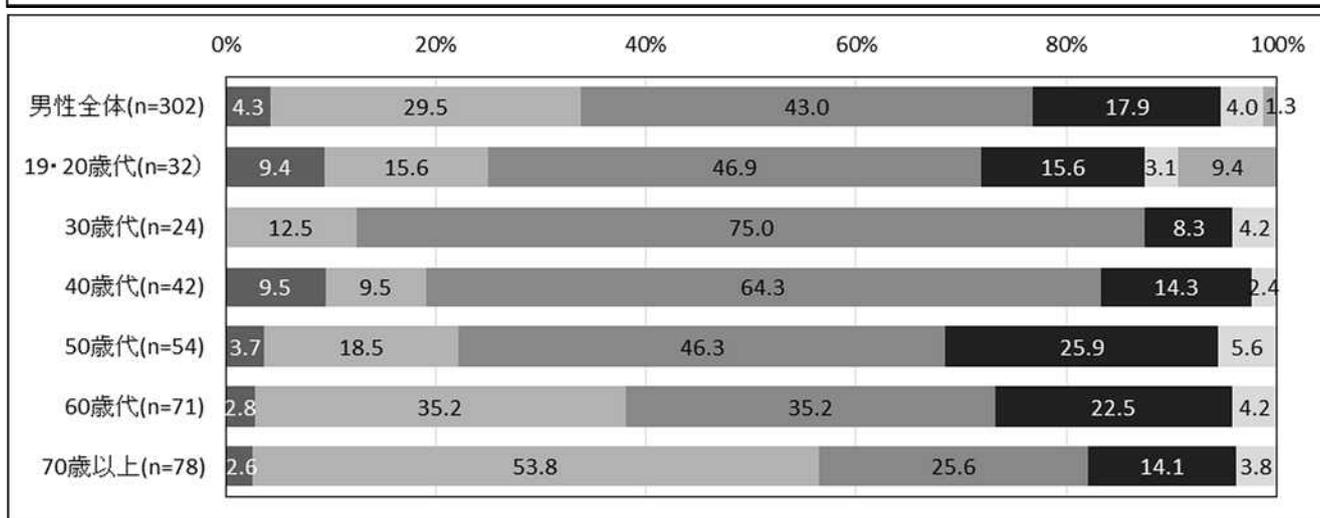
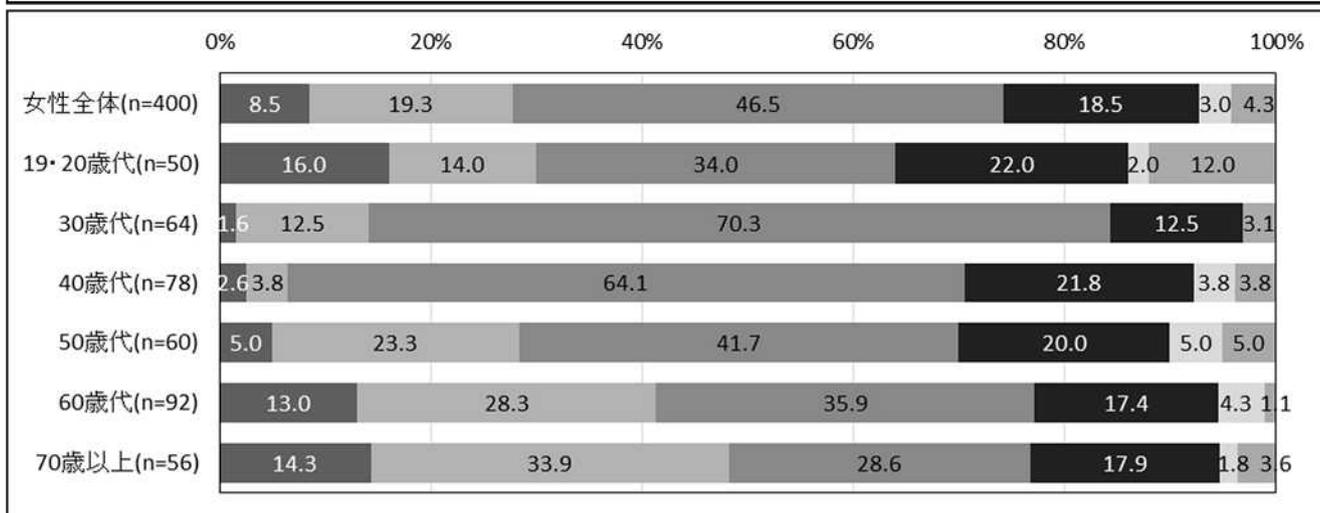
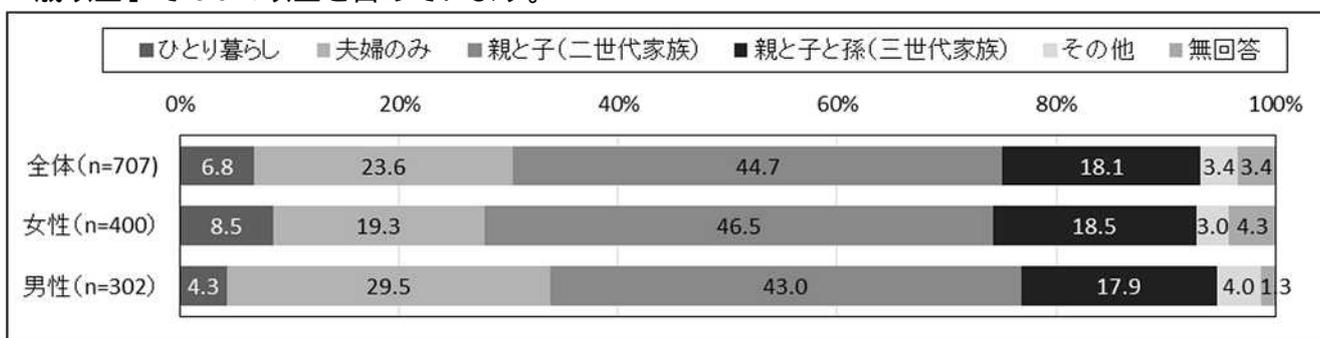


(6) 家族構成

「親と子(二世世代家族)」が44.7%で最も高く、次いで「夫婦のみ」23.6%、「親と子と孫(三世世代家族)」18.1%の順となっています。

性別で見ると、「夫婦のみ」と回答した割合は、男性(29.5%)が女性(19.3%)より10.2ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「親と子(二世世代家族)」と回答した割合は、女性・男性ともに「30歳代」が70%以上で最も高くなっています。また、「夫婦のみ」と回答した割合は、男性の「70歳以上」で50%以上を占めています。

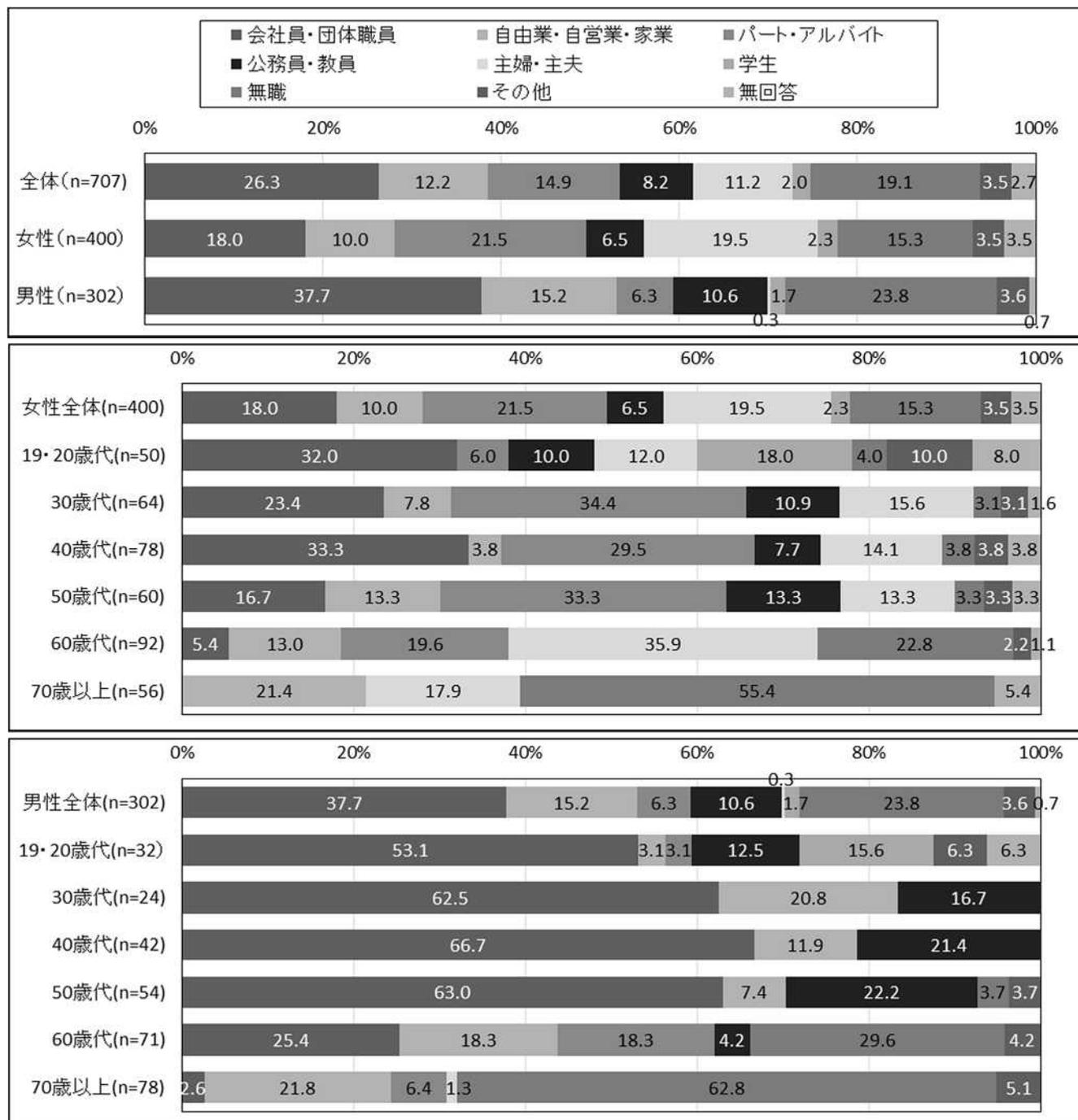


(7) 主な職業

「会社員・団体職員」が26.3%で最も高く、次いで「無職」19.1%、「パート・アルバイト」14.9%の順となっています。

性別で見ると、「会社員・団体職員」と回答した割合は、男性(37.7%)が女性(18.0%)より19.7ポイント高く、「主婦・主夫」と回答した割合は、女性(19.5%)が男性(0.3%)より19.2ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「パート・アルバイト」と回答した割合は、女性の「30歳～50歳代」で30%程度と高くなっており、「会社員・団体職員」と回答した割合は、男性の「30歳～50歳代」で60%以上と高くなっています。



2. 結婚や家庭生活について

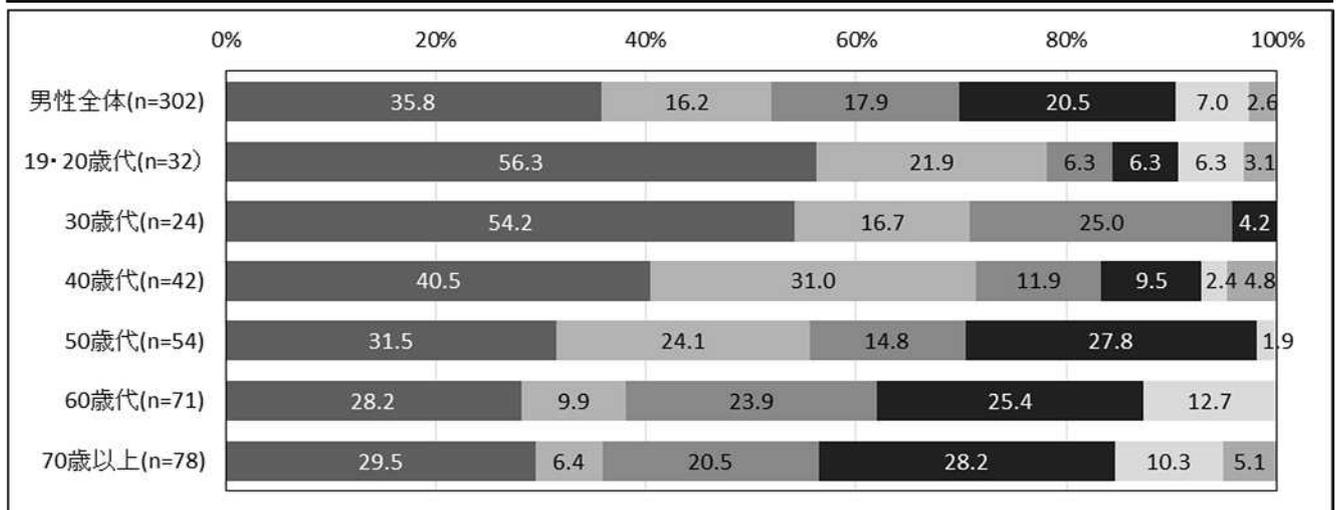
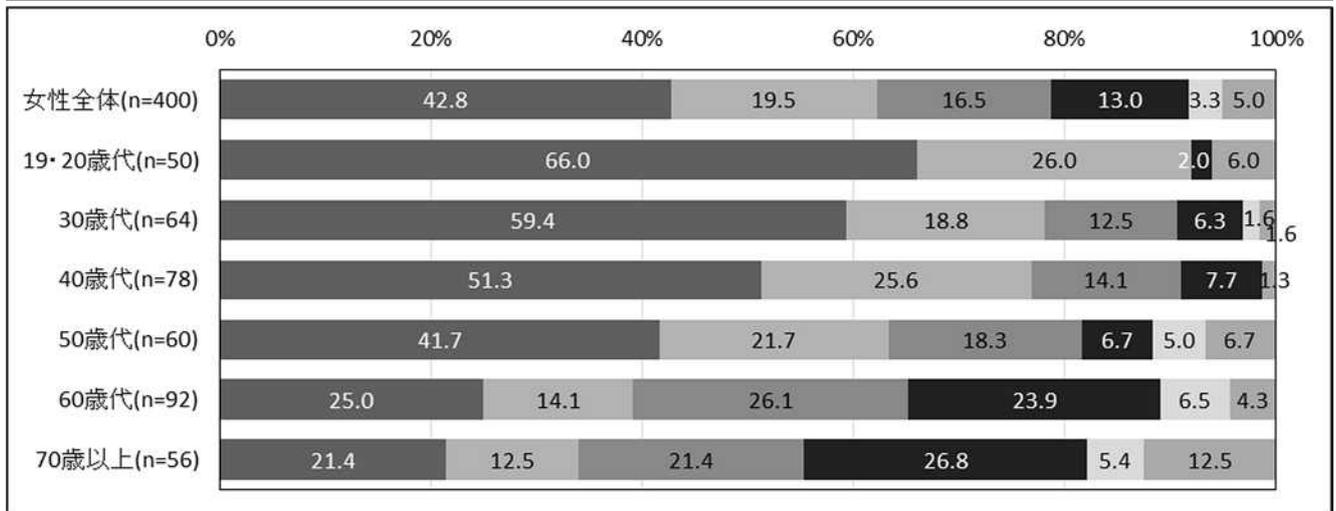
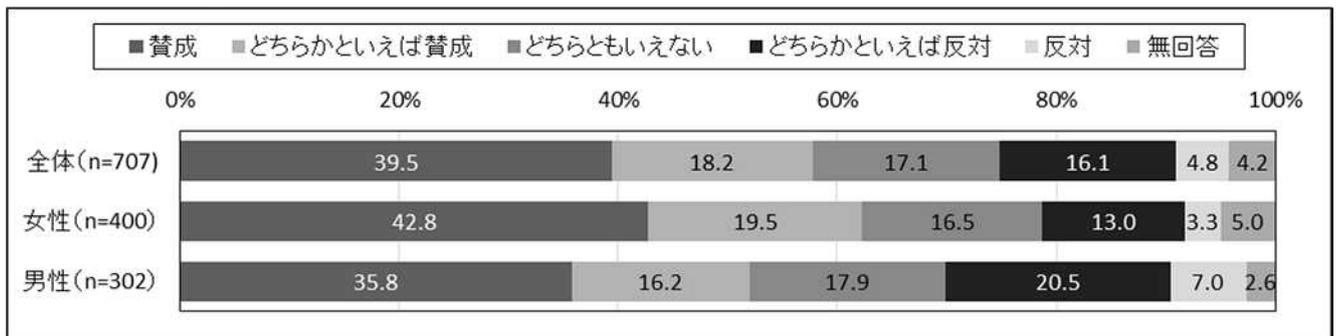
(8) あなたは、結婚・家庭・離婚についてどのように考えますか。

結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

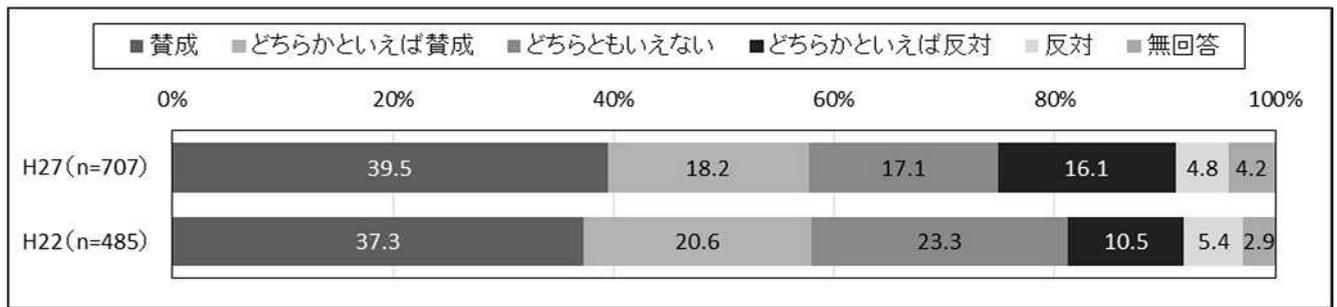
『賛成』(「賛成」+「どちらかといえば賛成」)が57.7%、『反対』(「反対」+「どちらかといえば反対」)20.9%、「どちらともいえない」17.1%となっています。

性別で見ると、「賛成」と回答した割合は、女性・男性ともに最も高くなっており、『賛成』と回答した割合も女性・男性ともに50%以上を占めています。

性別・年代別で見ると、女性・男性ともに年代が上がるにつれ、『賛成』と回答した割合が、低くなっています。



H22 と H27 の調査を比較すると、『賛成』と回答した割合は、H27(57.7%)と H22(57.9%)で大きな差異はありませんが、『反対』と回答した割合は、H27(20.9%)が H22(15.9%)より 5 ポイント高くなっています。

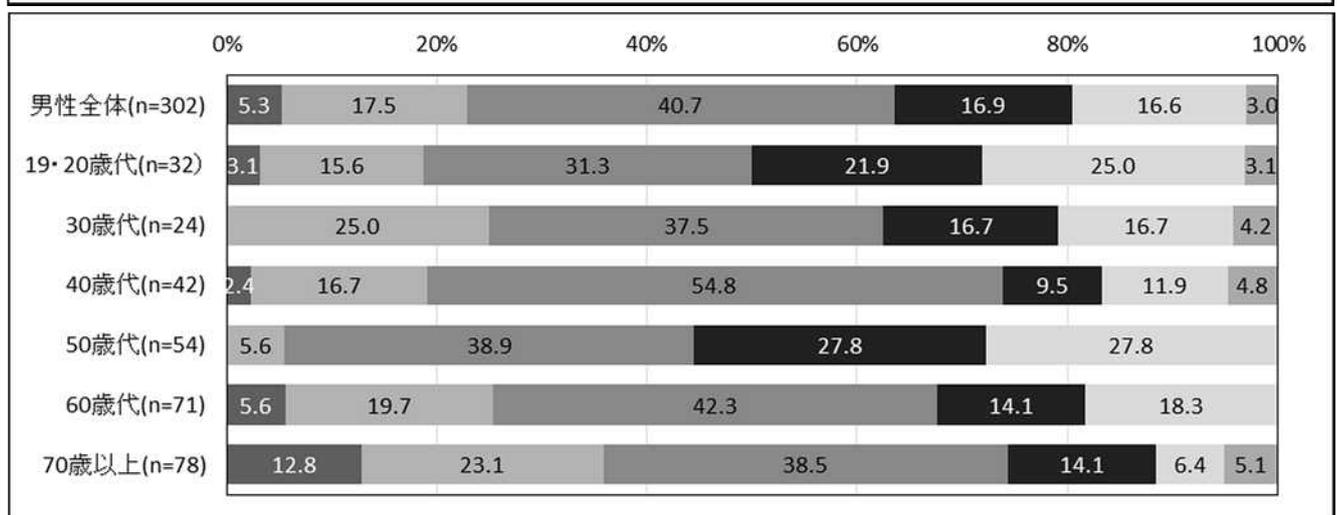
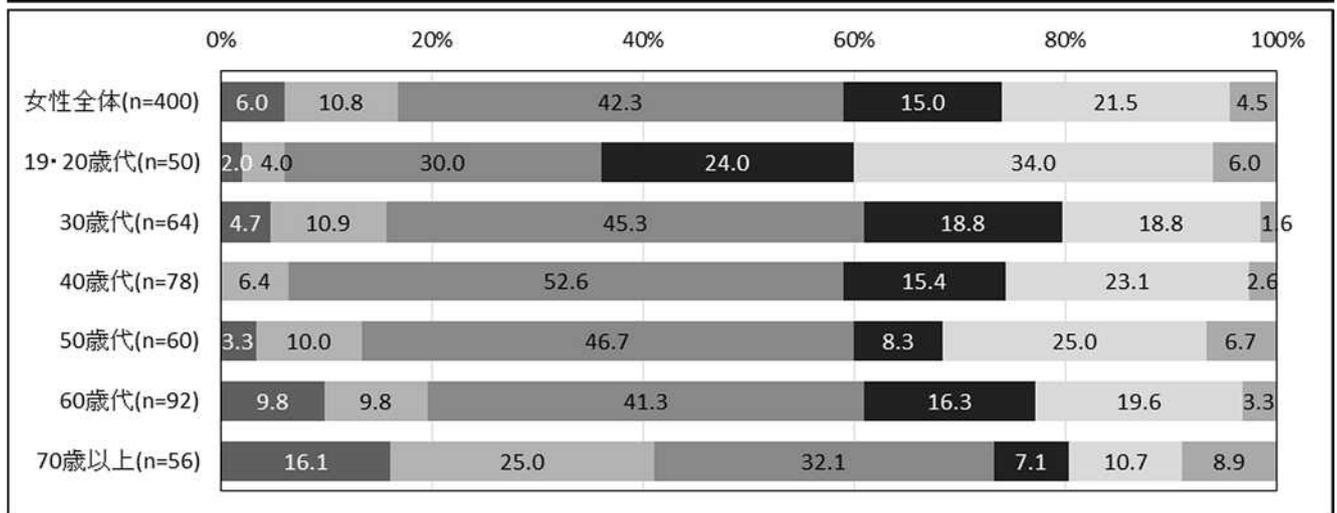
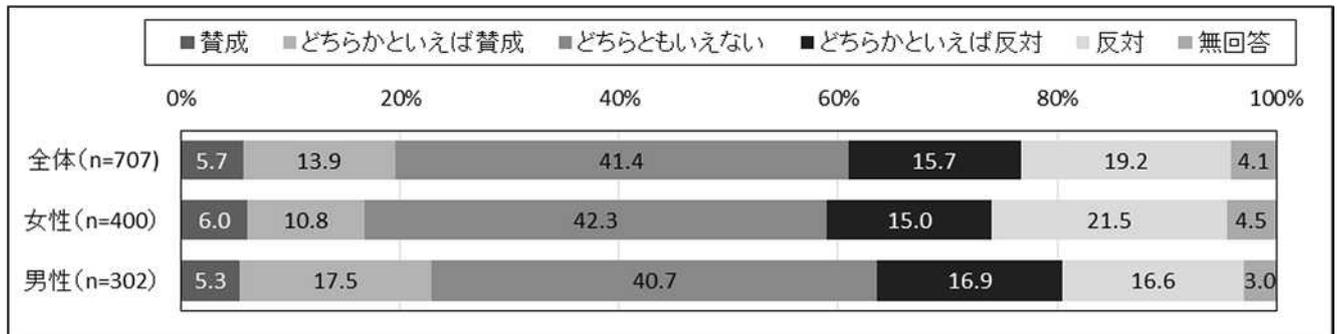


夫は外で働き、妻は家庭を守るべき

「どちらともいえない」が41.4%で、『反対』34.9%、『賛成』19.6%となっています。

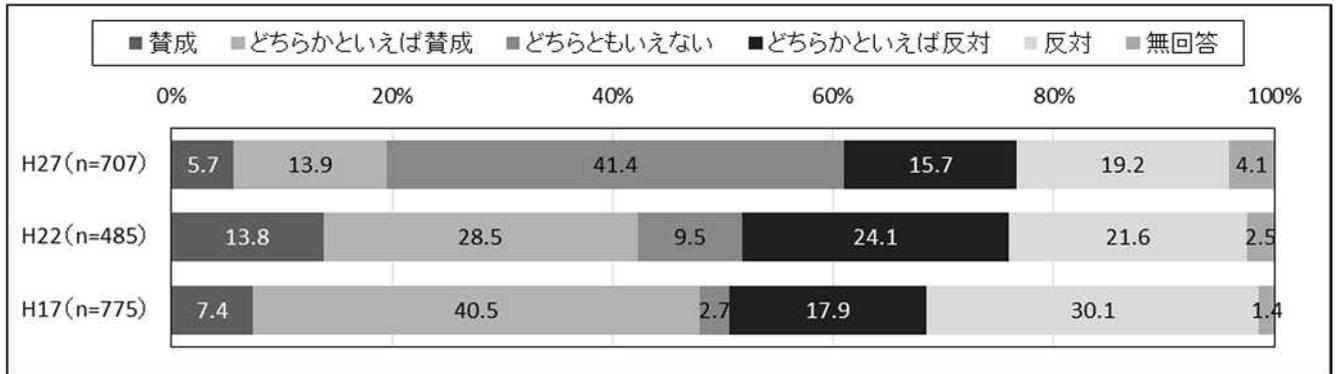
性別で見ると、『賛成』と回答した割合は、男性(22.8%)が女性(16.8%)より6ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、『反対』と回答した割合は、女性の「19・20歳代」58.0%、男性の「50歳代」55.6%で高くなっています。一方、『賛成』と回答した割合は、女性・男性ともに「70歳以上」で35%以上と高くなっています。



H22 と H27 の調査を比較すると、『反対』と回答した割合は、H27(34.9%)が H22(45.7%)より 10.8 ポイント低くなっています。

H17 と H27 の調査を比較すると、『反対』と回答した割合は、H27(34.9%)が H17(48.0%)より 13.1 ポイント低くなっています。



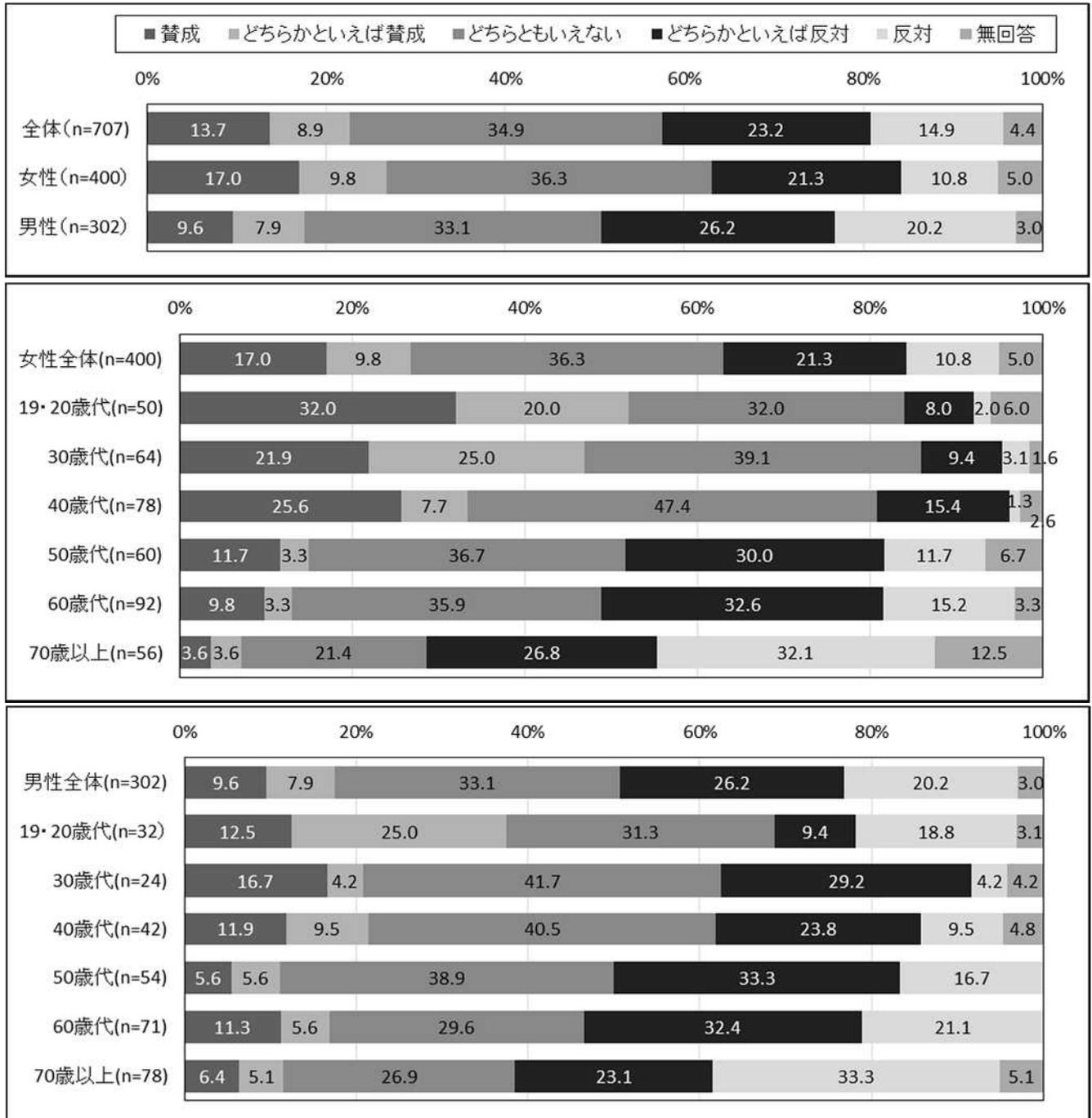
H17 と H22 の調査では、「どちらともいえない」ではなく「わからない」で集計しているため、グラフ中の「どちらともいえない」の割合は、「わからない」と回答した人の割合を使用しています。

結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

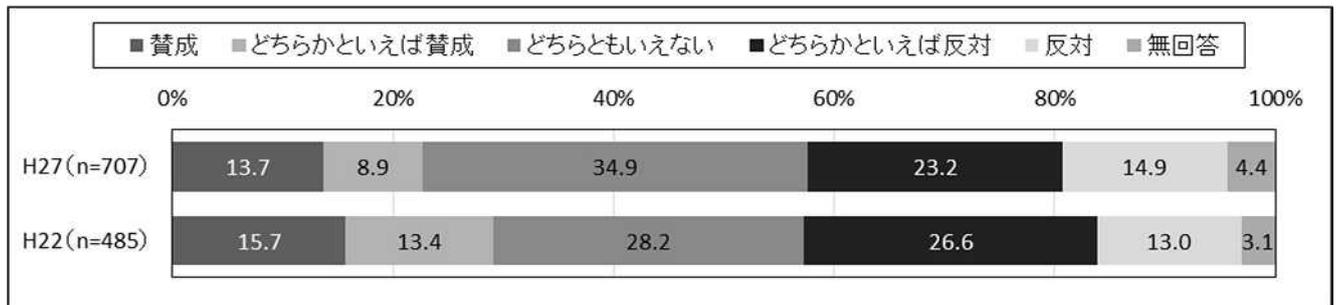
『反対』が38.1%、「どちらともいえない」34.9%、『賛成』22.6%となっています。

性別で見ると、『賛成』と回答した割合は、女性(26.8%)が男性(17.5%)より9.3ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、『反対』と回答した割合は、女性・男性ともに年代が上がるにつれ高くなり、女性では、「19・20歳代」(10.0%)から「70歳以上」(58.9%)と48.9ポイント高くなり、男性でも、「19・20歳代」(28.2%)から「70歳以上」(56.4%)と28.2ポイント高くなっています。



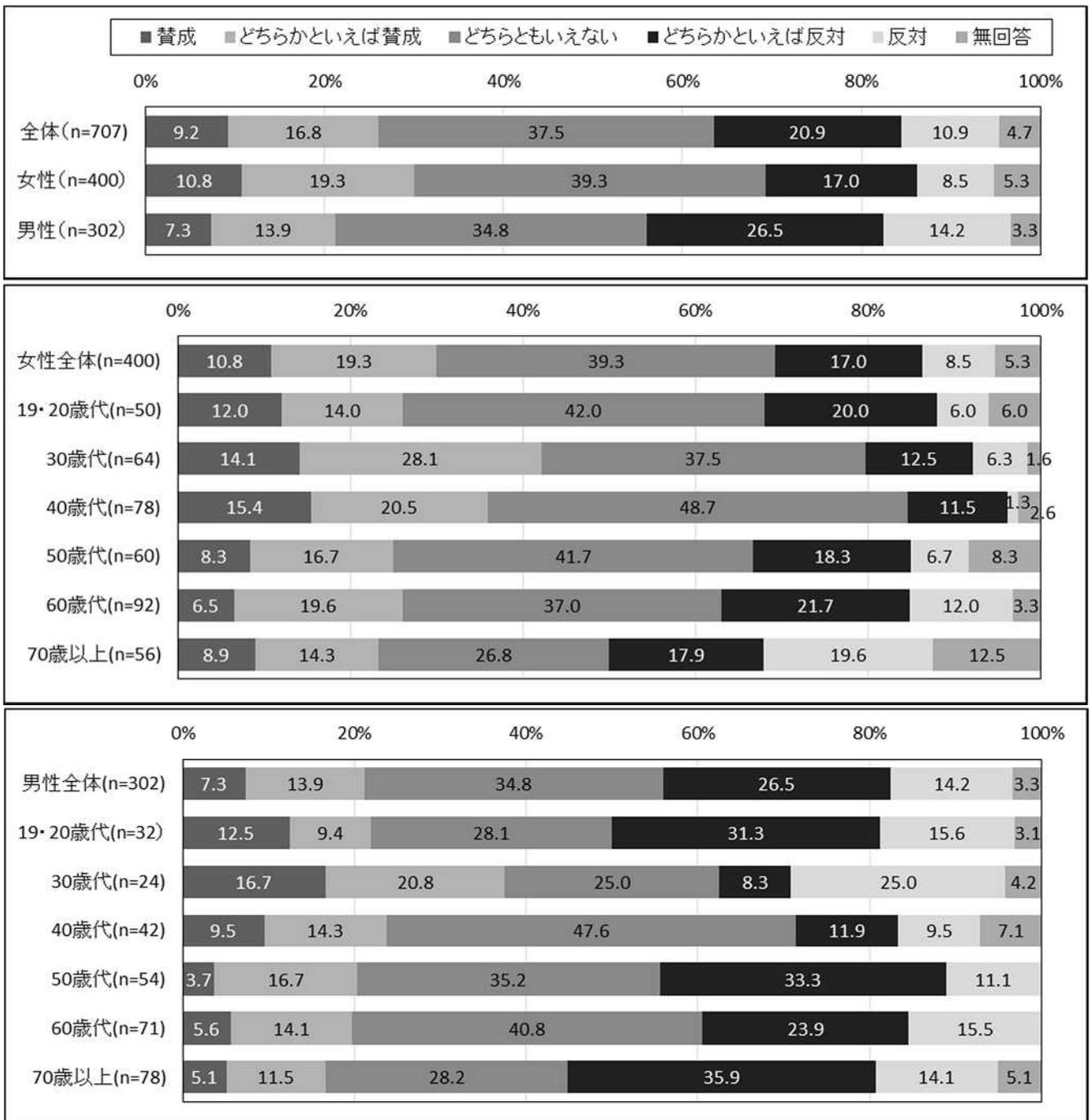
H22 と H27 の調査を比較すると、『賛成』と回答した割合は、H27(22.6%)が H22(29.1%)より 6.5 ポイント低くなっています。



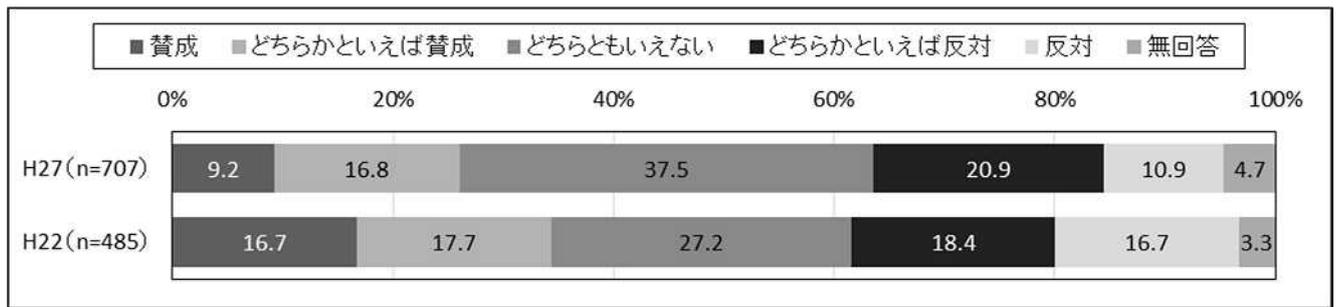
結婚して相手に満足できないときは離婚すればよい

「どちらともいえない」が37.5%、次いで『反対』31.8%、『賛成』26.0%となっています。性別で見ると、『反対』と回答した割合は、男性(40.7%)が女性(25.5%)より15.2ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、『賛成』と回答した割合は、女性・男性ともに「30歳代」が40%程度と最も高くなっています。



H22 と H27 の調査を比較すると、『賛成』と回答した割合は、H27(26.0%)が H22(34.4%)より 8.4 ポイント低くなっており、『反対』と回答した割合も、H27(31.8%)が H22(35.1%)より 3.3 ポイント低くなっています。

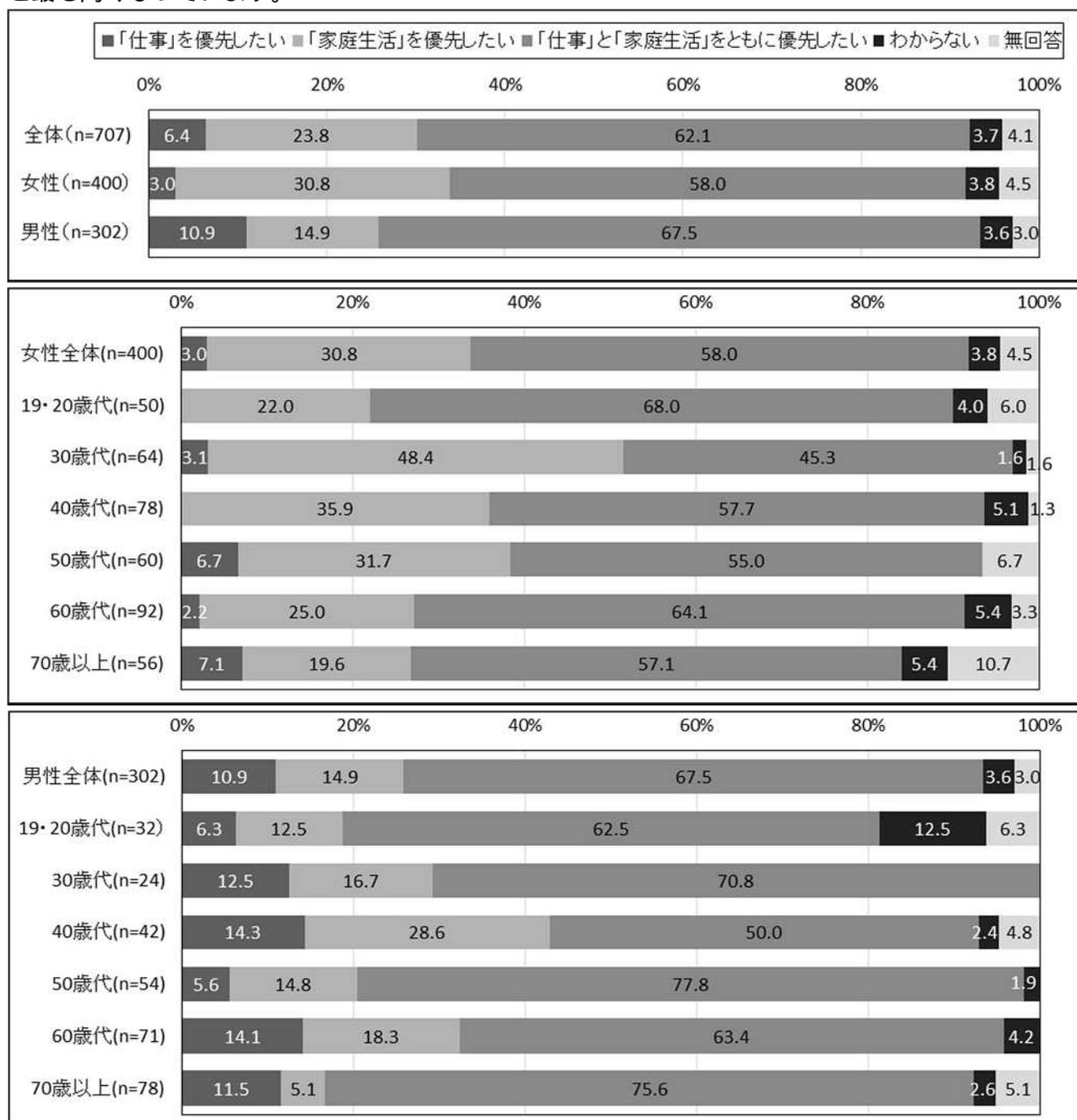


(9) 仕事と生活について、あなたの考えに近いものを1つ選んでください。

「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が62.1%で最も高く、次いで「『家庭生活』を優先したい」23.8%、「『仕事』を優先したい」6.4%の順となっています。

性別で見ると、「『家庭生活』を優先したい」と回答した割合は、女性(30.8%)が男性(14.9%)より15.9ポイント高く、「『仕事』と『家庭生活』を優先したい」と回答した割合は、男性(67.5%)が女性(58.0%)より9.5ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「『家庭生活』を優先したい」と回答した割合は、女性の「30歳代」48.4%と最も高くなっています。

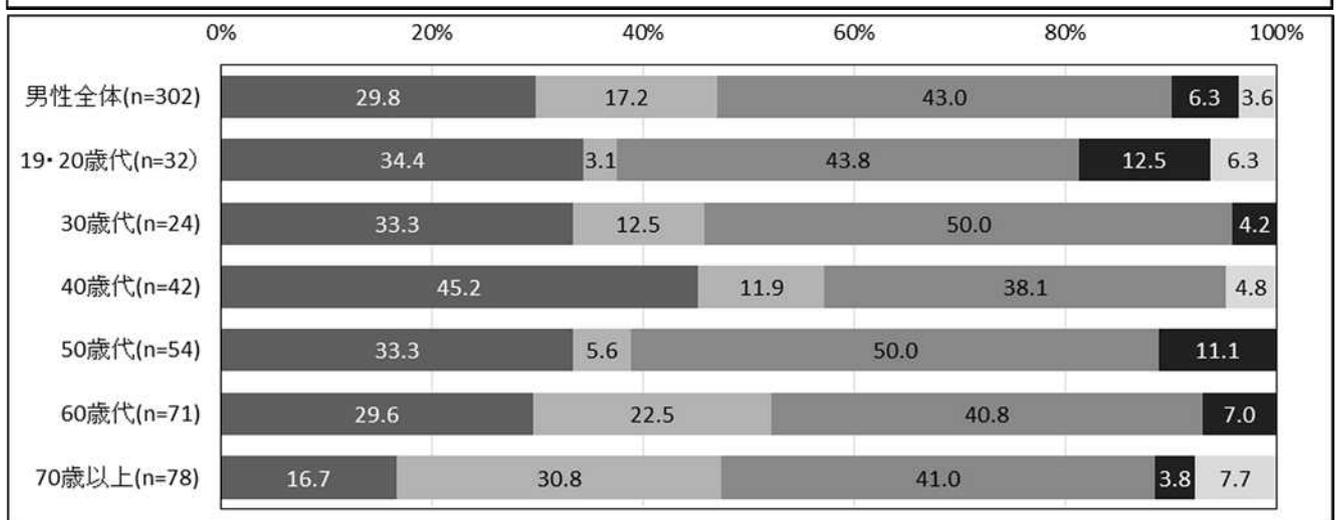
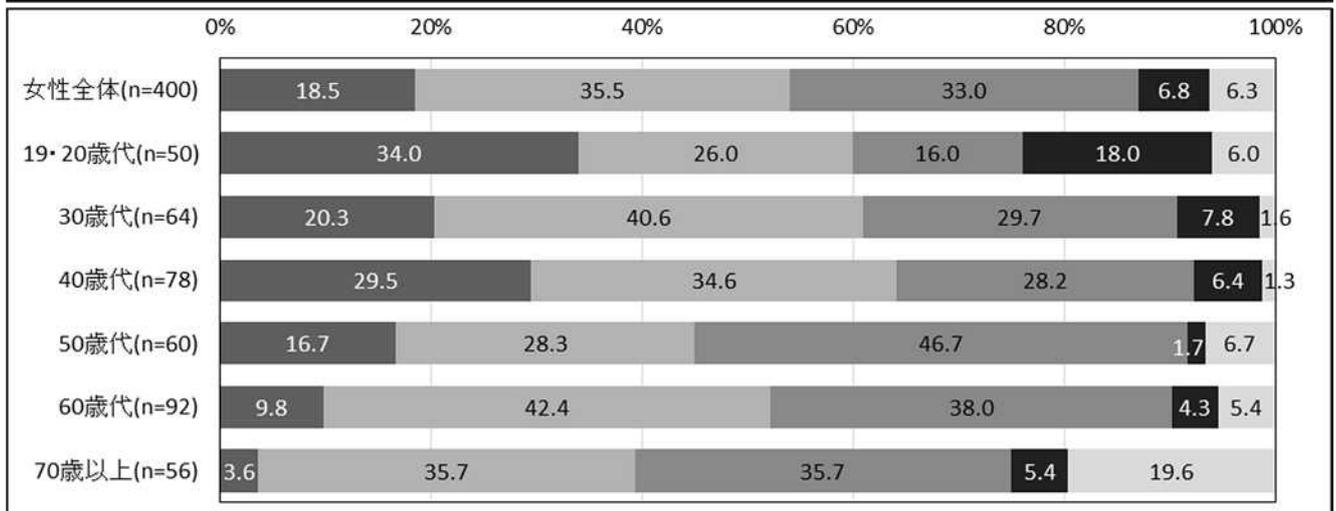
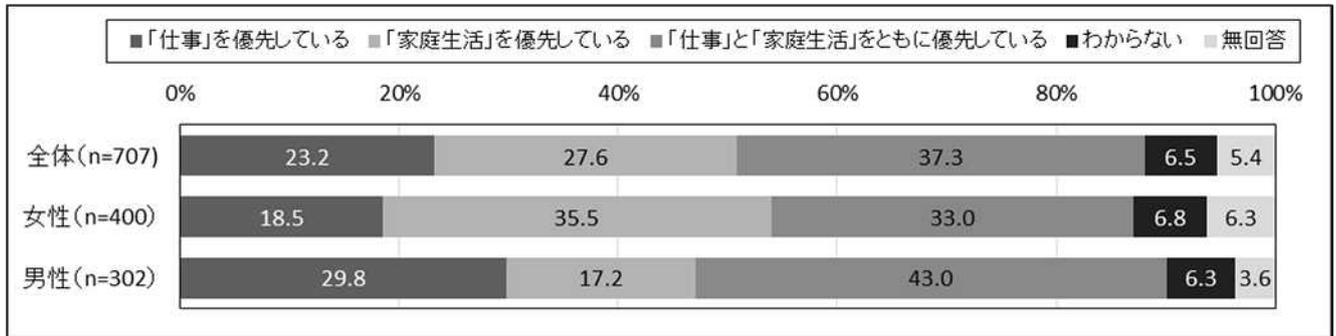


(10) 仕事と生活について、あなたの現実(現状)に近いものを1つ選んでください。

「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が37.3%で最も高く、次いで「『家庭生活』を優先している」27.6%、「『仕事』を優先している」23.2%の順となっています。

性別で見ると、「『家庭生活』を優先している」と回答した割合は、女性(35.5%)が男性(17.2%)より18.3ポイント高く、「『仕事』を優先している」と回答した割合は、男性(29.8%)が女性(18.5%)より11.3ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「『仕事』を優先している」と回答した割合は、女性の「19・20歳代」34.0%、「40歳代」29.5%、男性の「40歳代」45.2%と高くなっています。



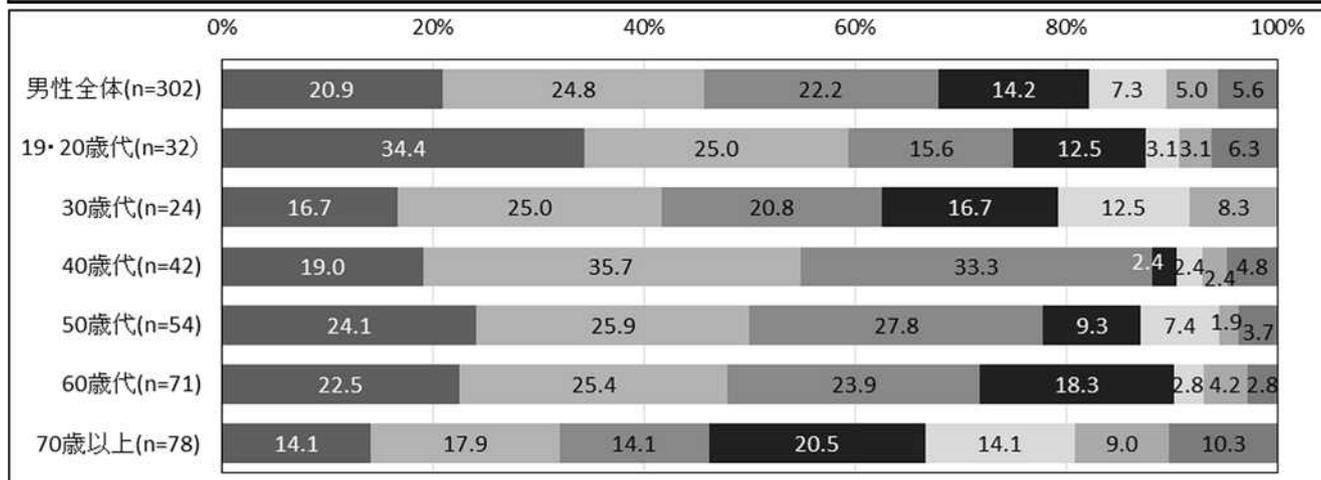
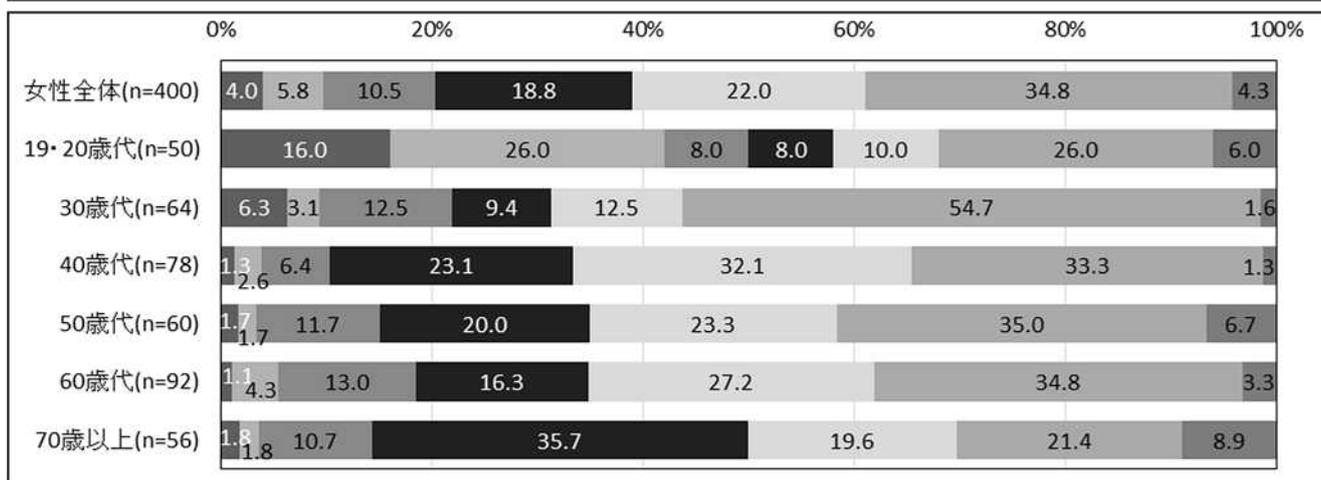
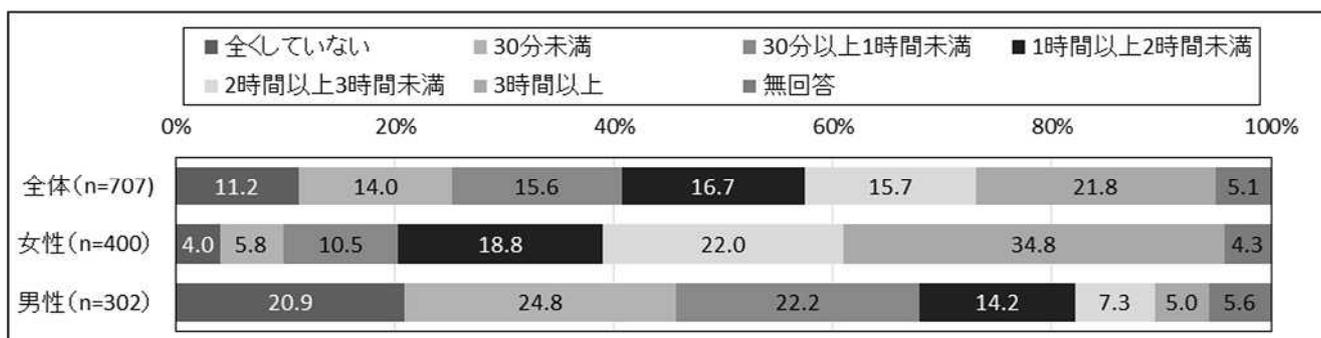
(11) あなたは、1日に平均してどれくらいの時間を家事(育児・介護を含む)にかけていますか。

平日

「3時間以上」が21.8%で最も高く、次いで「1時間以上2時間未満」16.7%、「2時間以上3時間未満」15.7%の順となっています。

性別で見ると、「3時間以上」と回答した割合は、女性(34.8%)が男性(5.0%)より29.8ポイント高く、「全くしていない」と回答した割合は、男性(20.9%)が女性(4.0%)より16.9ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「3時間以上」と回答した割合は、女性の「30歳代」54.7%が最も高くなっています。また、「1時間以上」と回答した割合は、男性の「70歳以上」43.6%と高くなっています。

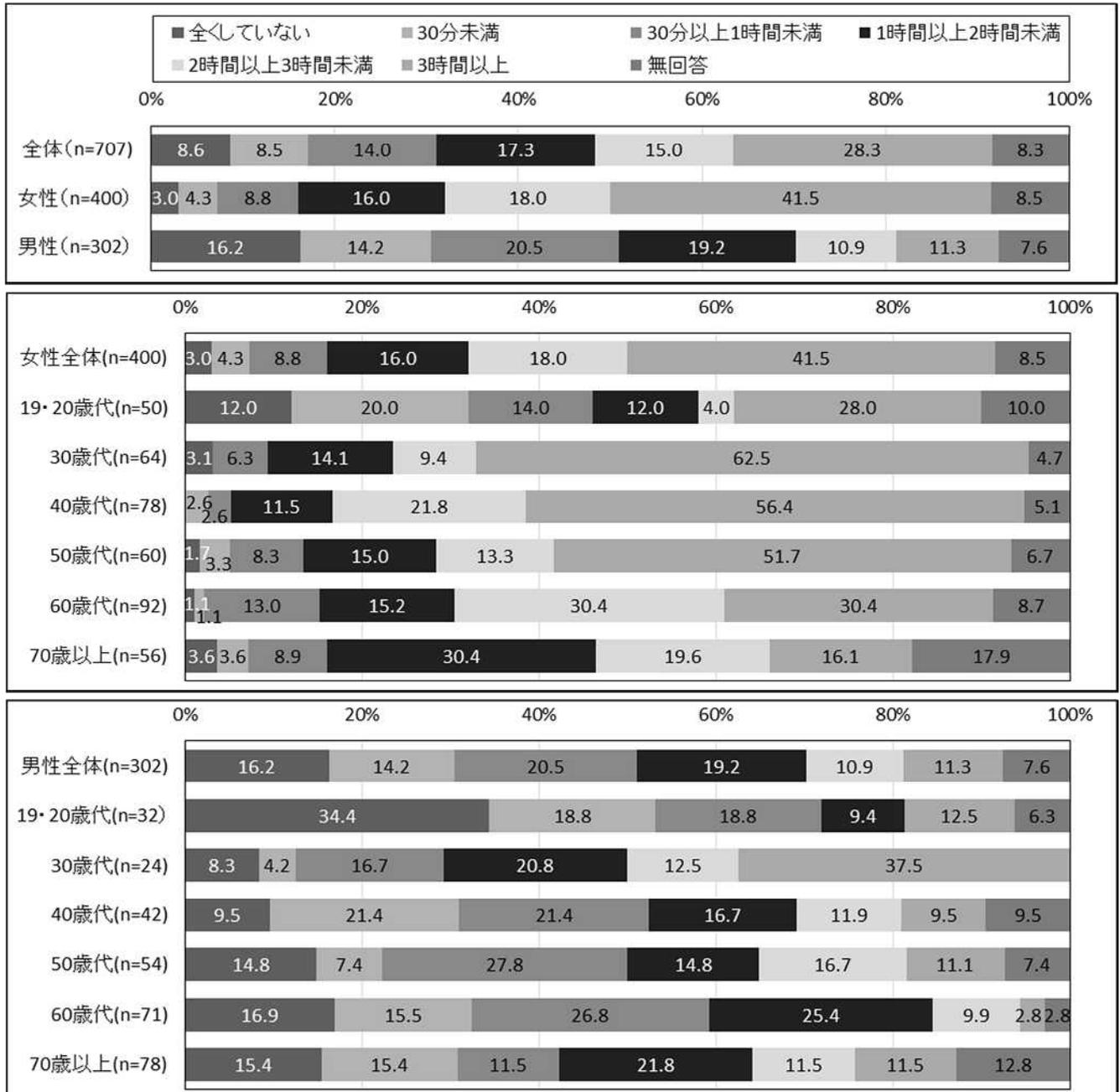


休日

「3時間以上」が28.3%で最も高く、次いで「1時間以上2時間未満」17.3%、「2時間以上3時間未満」15.0%の順となっています。

性別で見ると、「3時間以上」と回答した割合は、女性(41.5%)が男性(11.3%)より30.2ポイント高く、男性で「1時間未満」と回答した割合は、50.9%と高くなっています。

性別・年代別で見ると、「3時間以上」と回答した割合は、女性の「30~50歳代」で高く、いずれも半数以上を占めています。また、「3時間以上」と回答した割合は、男性の「30歳代」37.5%と高くなっています。



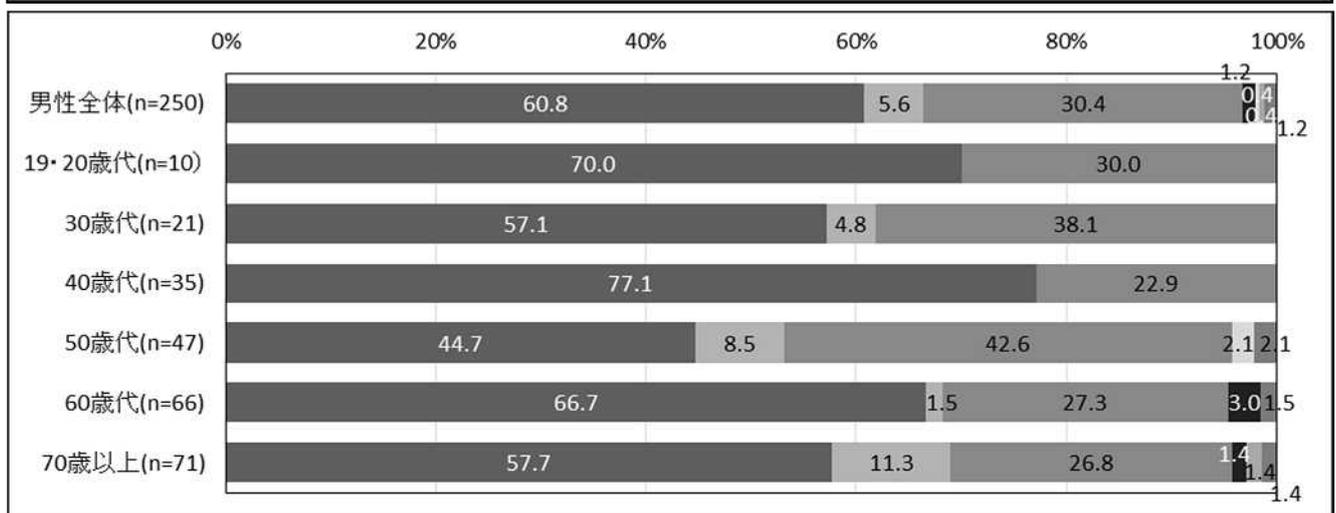
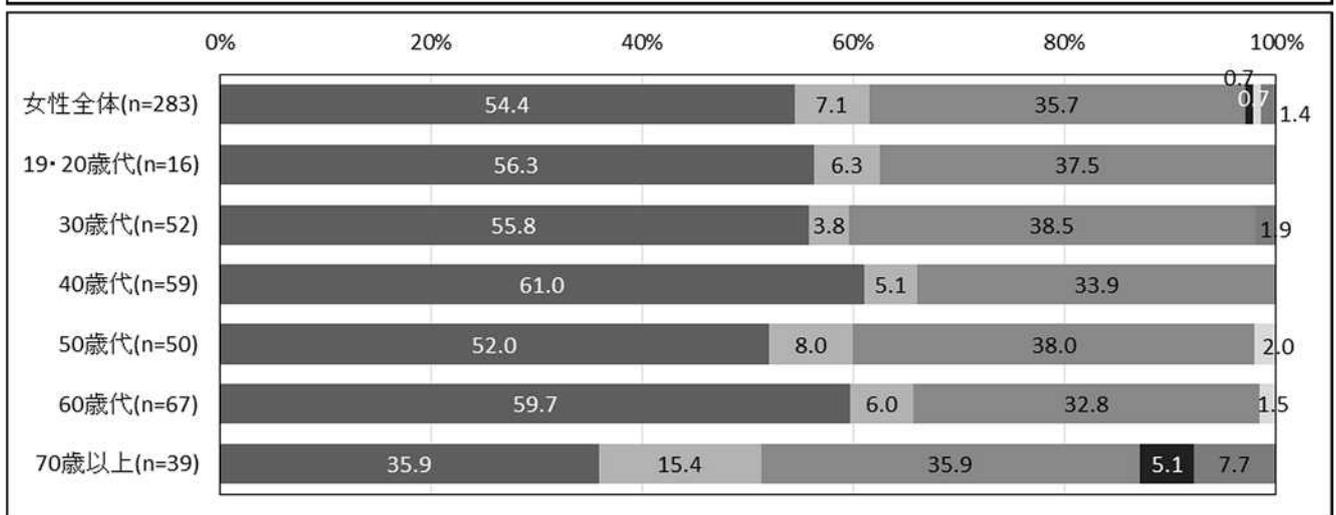
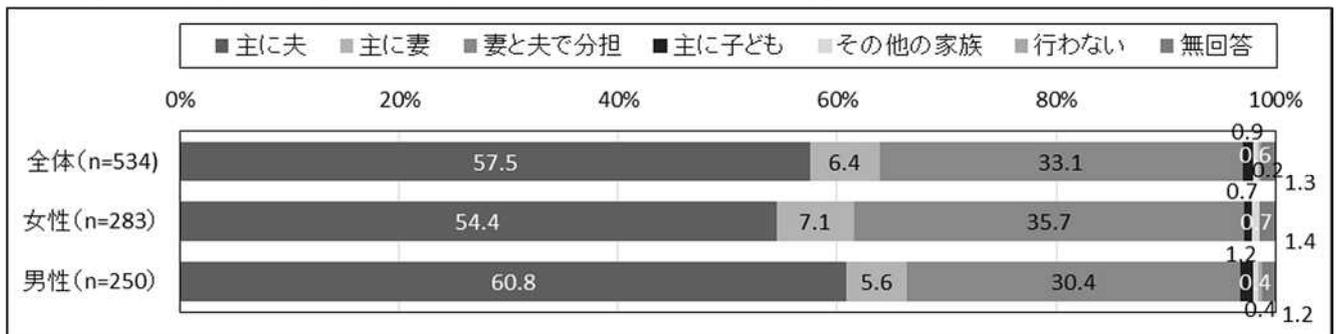
(3)で「結婚している(事実婚を含む)」と回答した方におうかがいします。
 (12)あなたの家庭では、次のことを主に誰が行っていますか。

家計を支える

「主に夫」が57.5%で最も高く、次いで「妻と夫で分担」33.1%、「主に妻」6.4%の順となっています。

性別で見ると、「妻と夫で分担」と回答した割合は、女性(35.7%)が男性(30.4%)より5.3ポイント高く、「主に夫」と回答した割合は、男性(60.8%)が女性(54.4%)より6.4ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「主に夫」と回答した割合は、女性の「40歳代」61.0%、「60歳代」59.7%、男性の「40歳代」77.1%、「19・20歳代」70.0%と高くなっています。また、「妻と夫で分担」と回答した割合は、男性の「50歳代」42.6%と高くなっています。

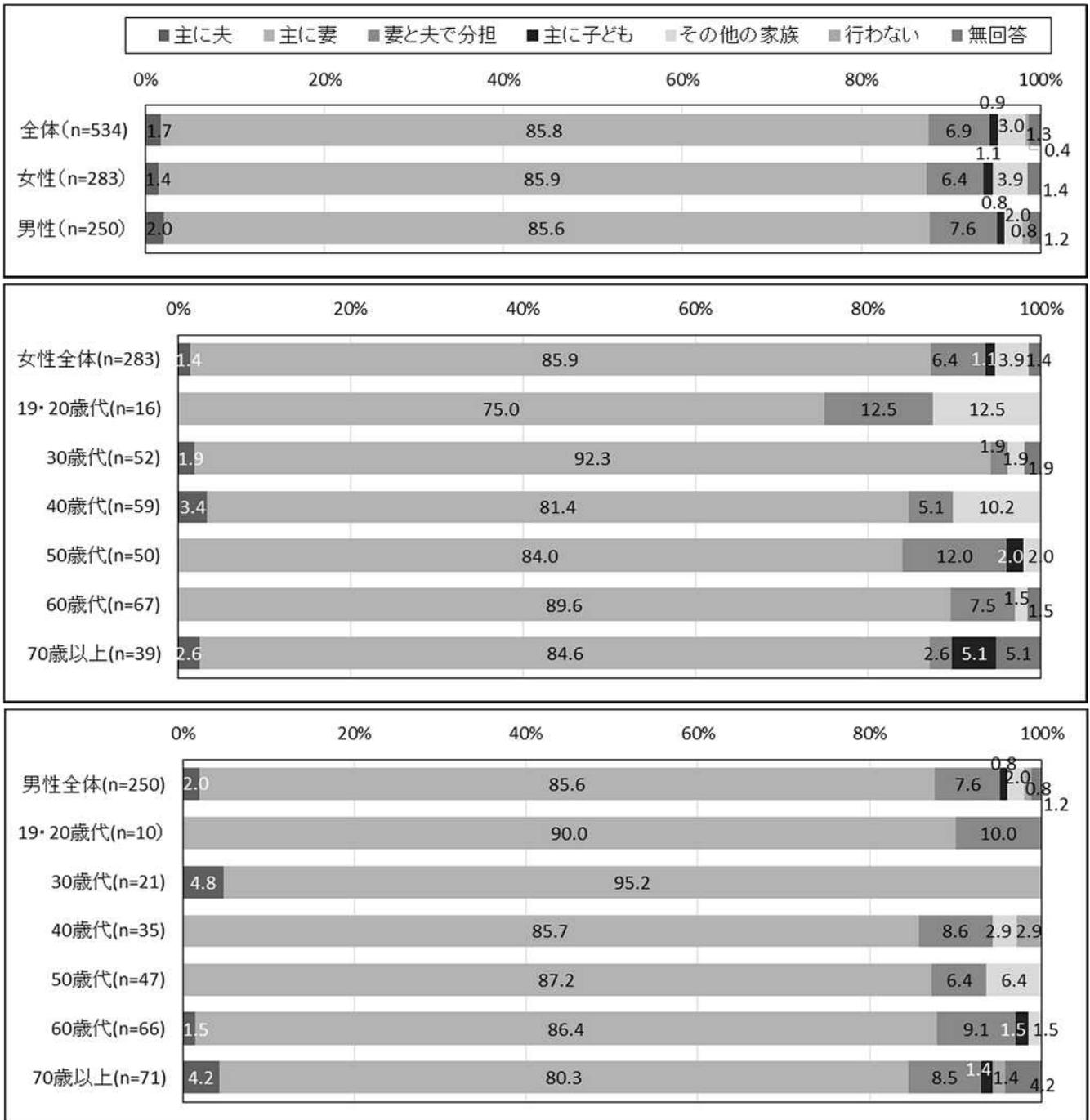


食事のしたく

「主に妻」が85.8%で最も高く、次いで「妻と夫で分担」6.9%、「その他の家族」3.0%の順となっています。

性別による大きな差異は見られません。

性別・年代別で見ると、「主に妻」と回答した割合は、女性・男性ともに「30歳代」で90%以上と高くなっています。

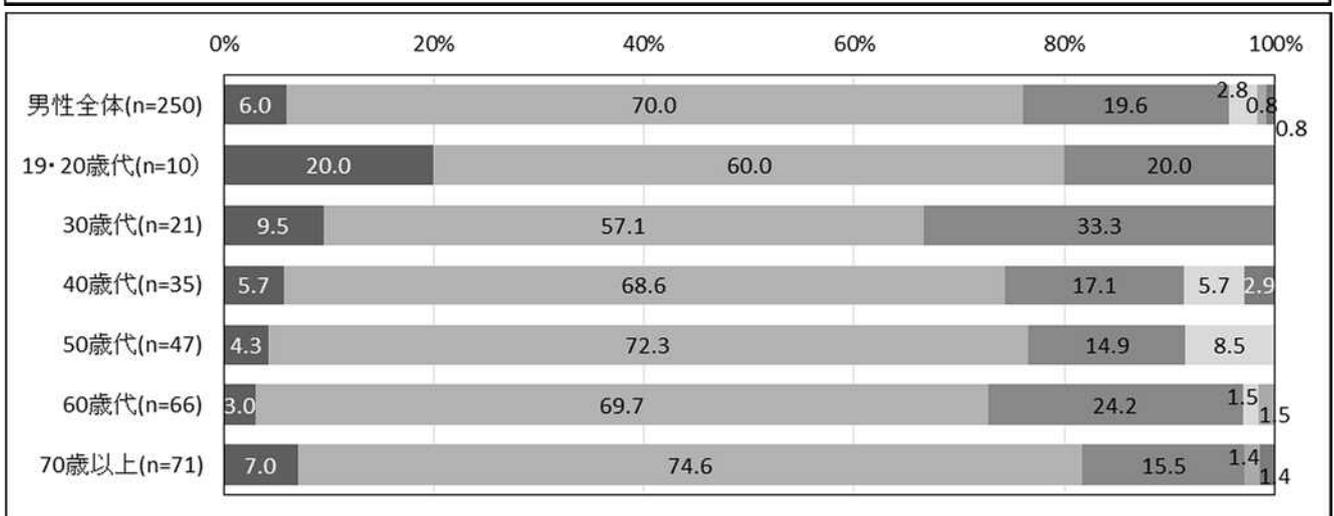
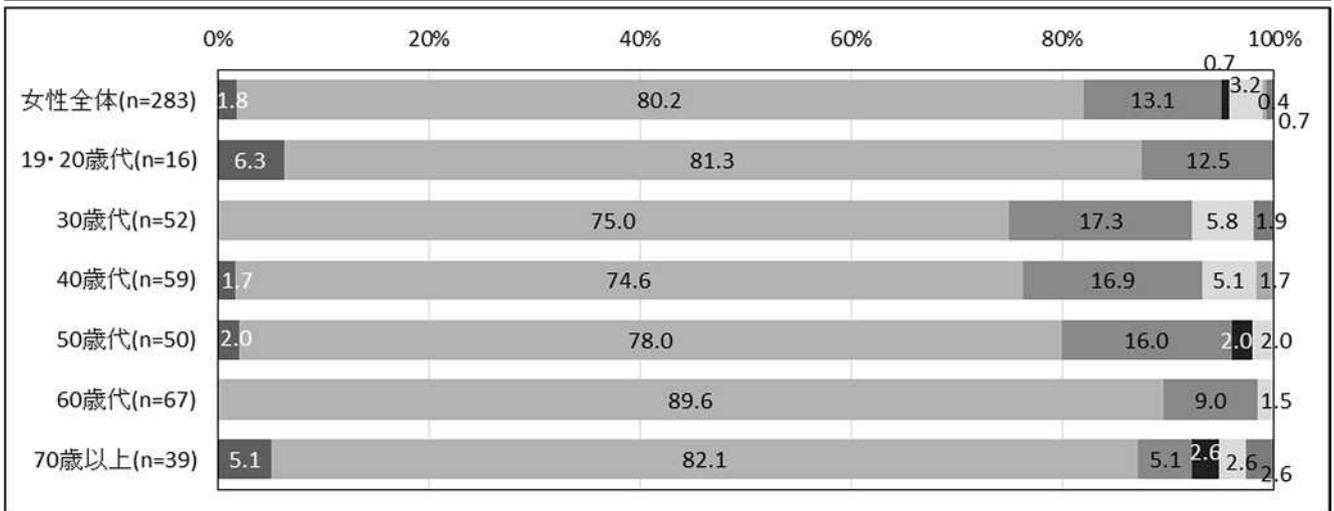
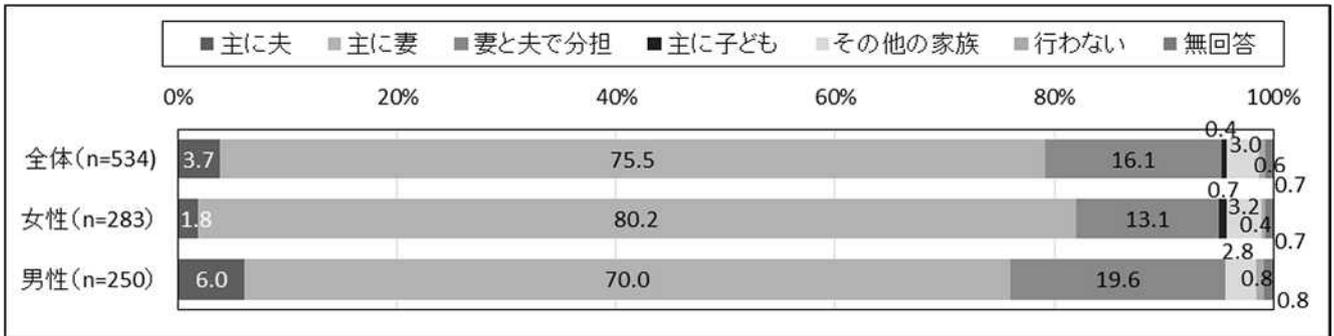


食事の後片付け、食器洗い

「主に妻」が75.5%で最も高く、次いで「妻と夫で分担」16.1%、「主に夫」3.7%の順となっています。

性別で見ると、「主に妻」と回答した割合は、女性(80.2%)が男性(70.0%)より10.2ポイント高く、「妻と夫で分担」と回答した割合は、男性(19.6%)が女性(13.1%)より6.5ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「妻と夫で分担」と回答した割合は、女性の「30～50歳代」16%以上、男性の「30歳代」30%以上と高くなっています。また、「主に夫」と回答した割合は、女性・男性ともに「19・20歳代」と高くなっています。

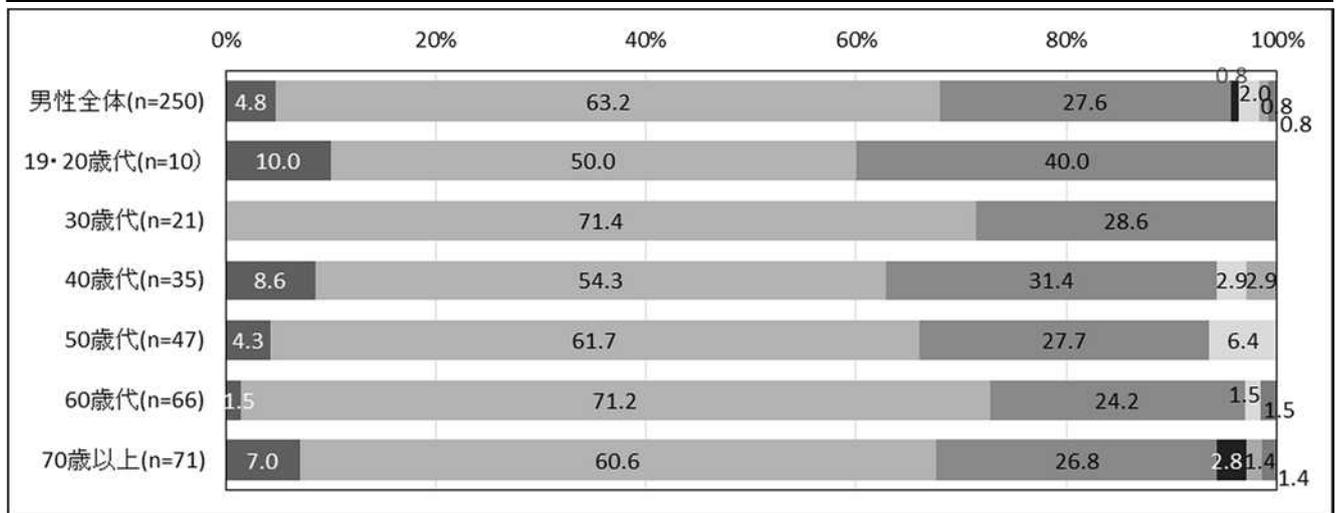
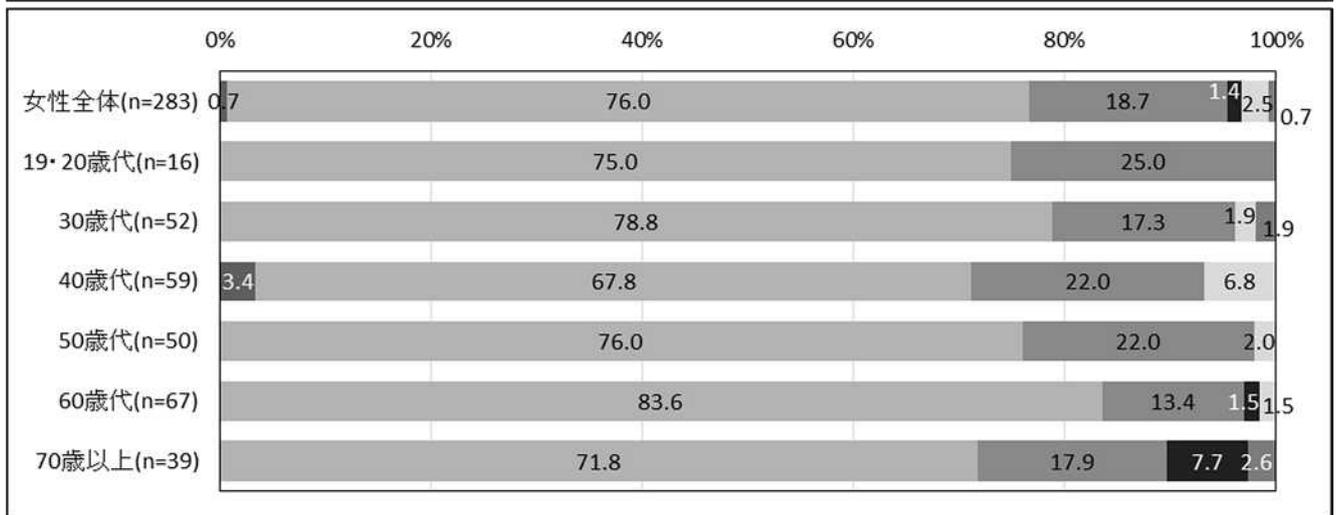
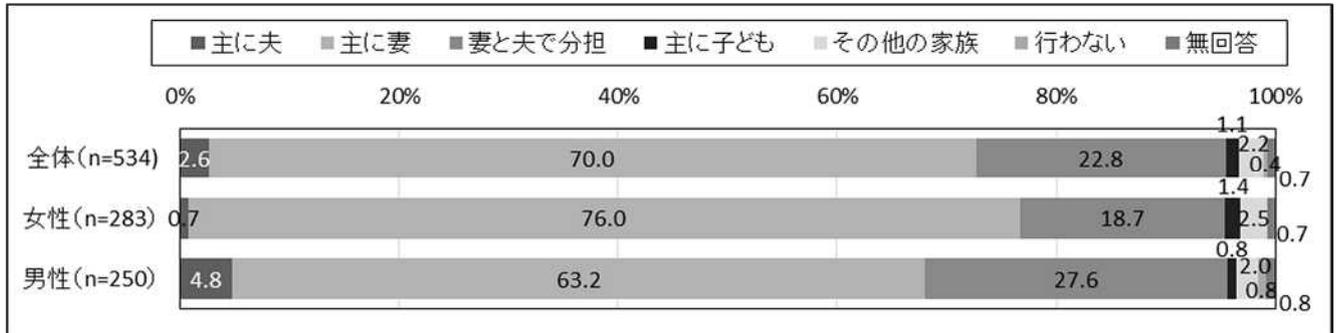


掃除

「主に妻」が70.0%で最も高く、次いで「妻と夫で分担」22.8%、「主に夫」2.6%の順となっています。

性別で見ると、「主に妻」と回答した割合は、女性(76.0%)が男性(63.2%)より12.8%高く、「妻と夫で分担」と回答した割合は、男性(27.6%)が女性(18.7%)より8.9ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「主に夫」と回答した割合は、女性の「40歳代」3.4%、男性の「19・20歳代」10.0%、「40歳代」8.6%、「70歳以上」7.0%と高くなっています。

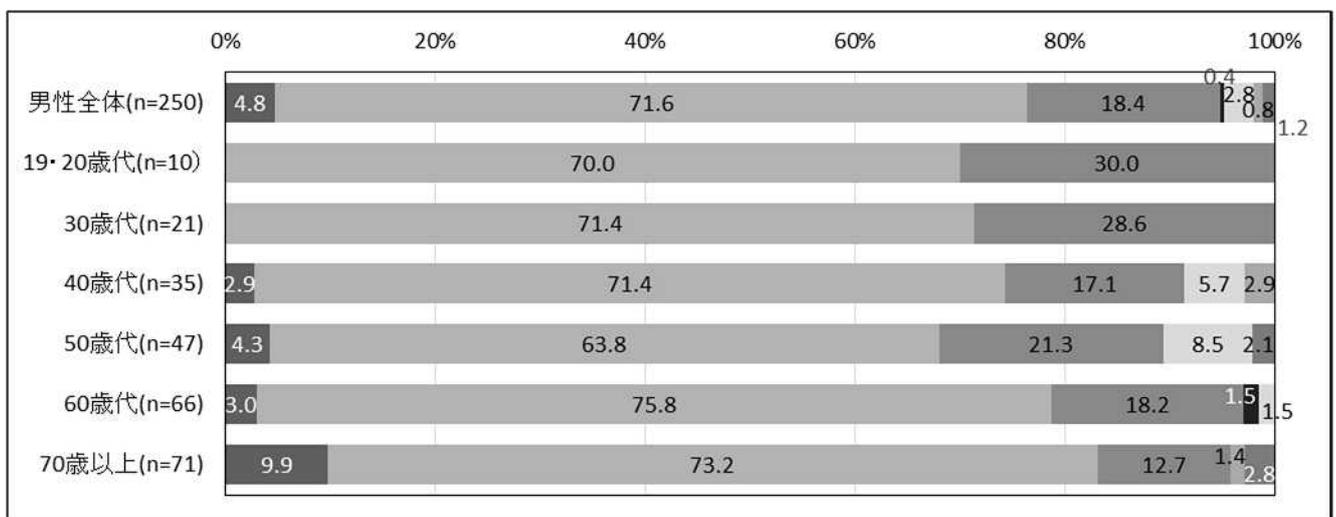
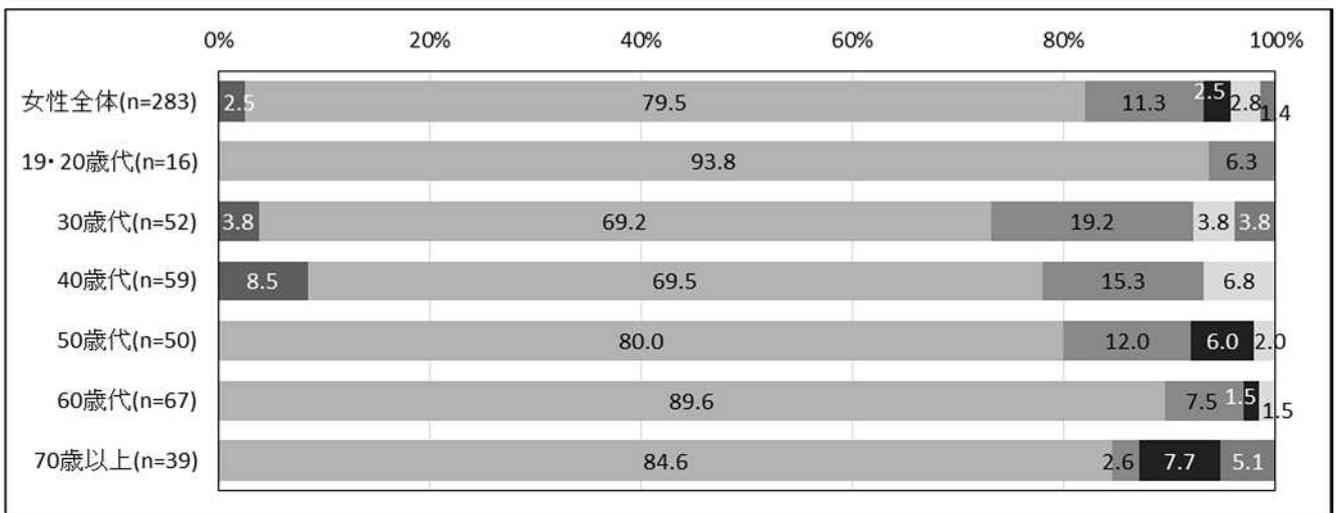
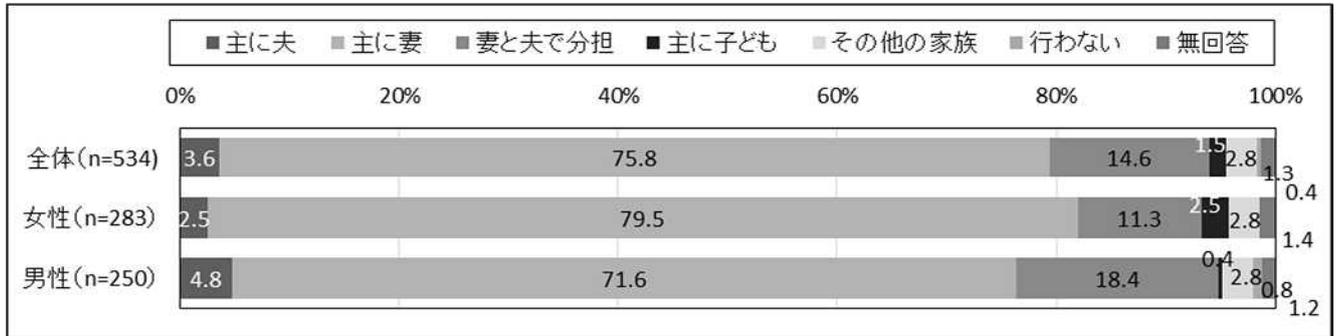


洗濯

「主に妻」が75.8%で最も高く、次いで「妻と夫で分担」14.6%、「主に夫」3.6%の順となっています。

性別で見ると、「主に妻」と回答した割合は、女性(79.5%)が男性(71.6%)より7.9ポイント高く、「妻と夫で分担」と回答した割合は、男性(18.4%)が女性(11.3%)より7.1ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「主に夫」と回答した割合は、女性の「40歳代」8.5%、男性の「70歳以上」9.9%と高くなっています。

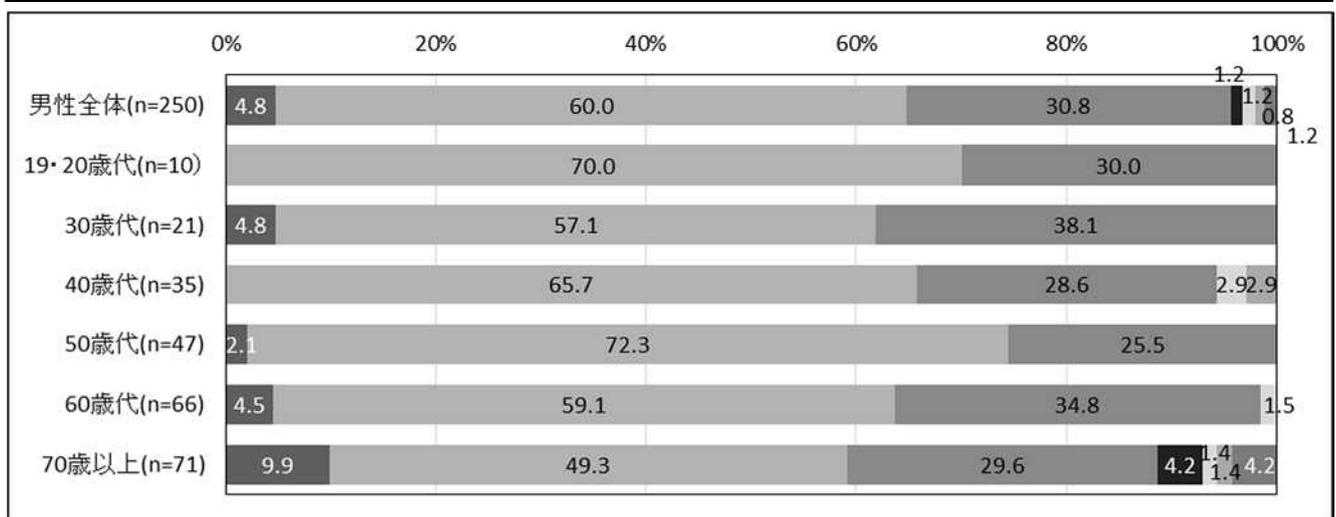
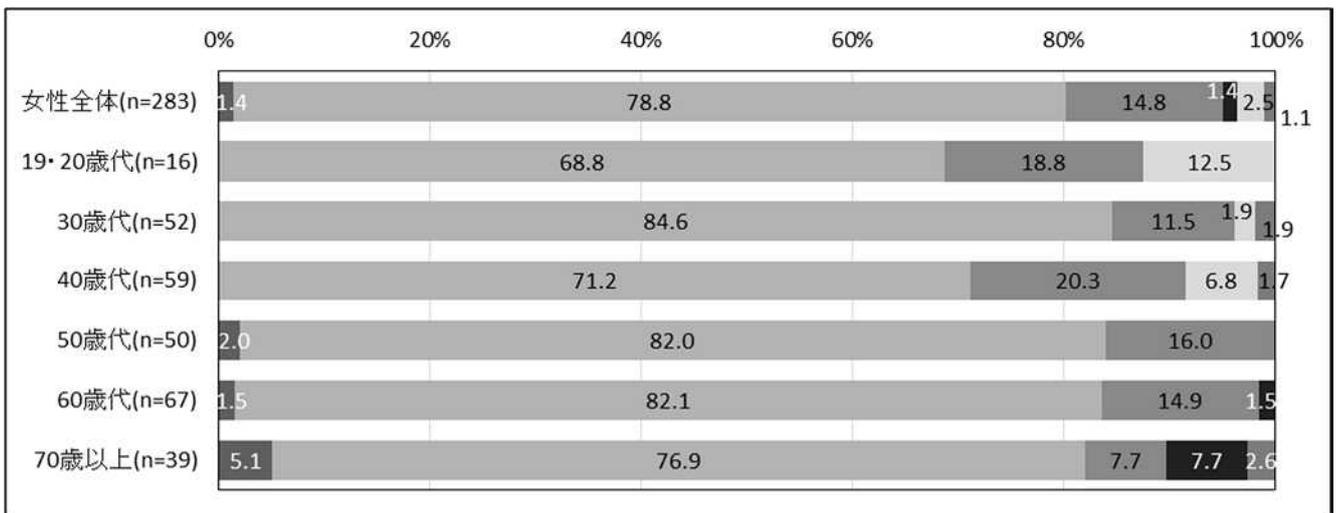
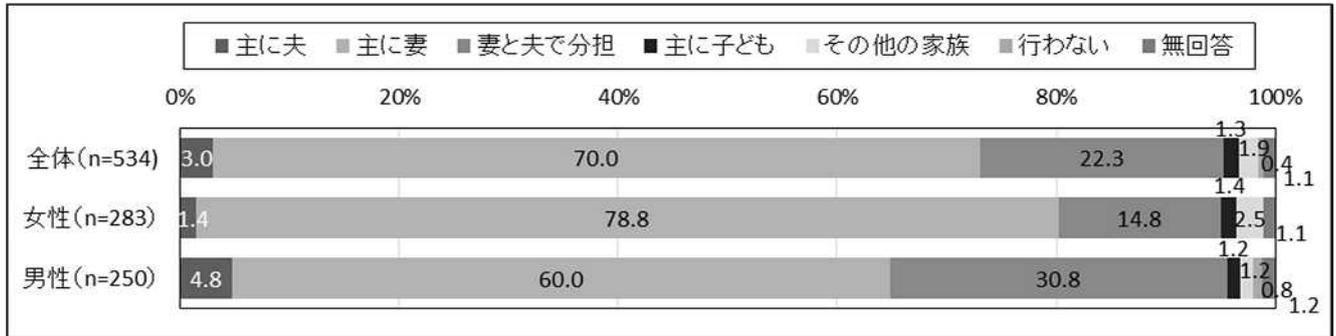


食料品、日用品の買い物

「主に妻」が70.0%で最も高く、次いで「妻と夫で分担」22.3%、「主に夫」3.0%の順となっています。

性別で見ると、「主に妻」と回答した割合は、女性(78.8%)が男性(60.0%)より18.8ポイント高く、「妻と夫で分担」と回答した割合は、男性(30.8%)が女性(14.8%)より16ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「妻と夫で分担」と回答した割合は、女性の「40歳代」20.3%、「19・20歳代」18.8%、男性の「30歳代」38.1%、「60歳代」34.8%と高くなっています。

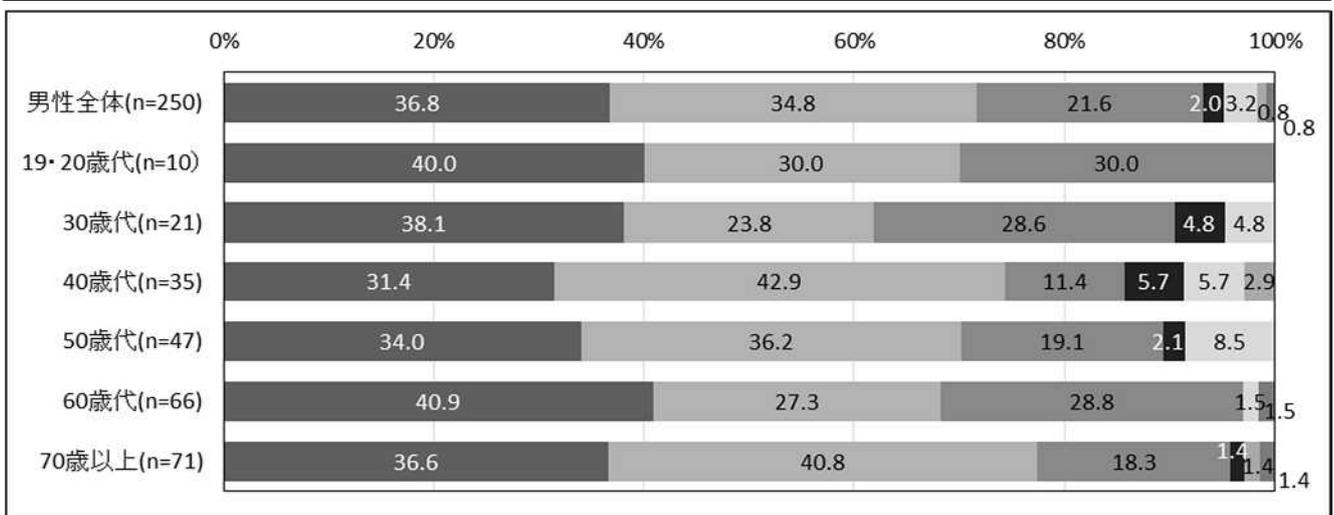
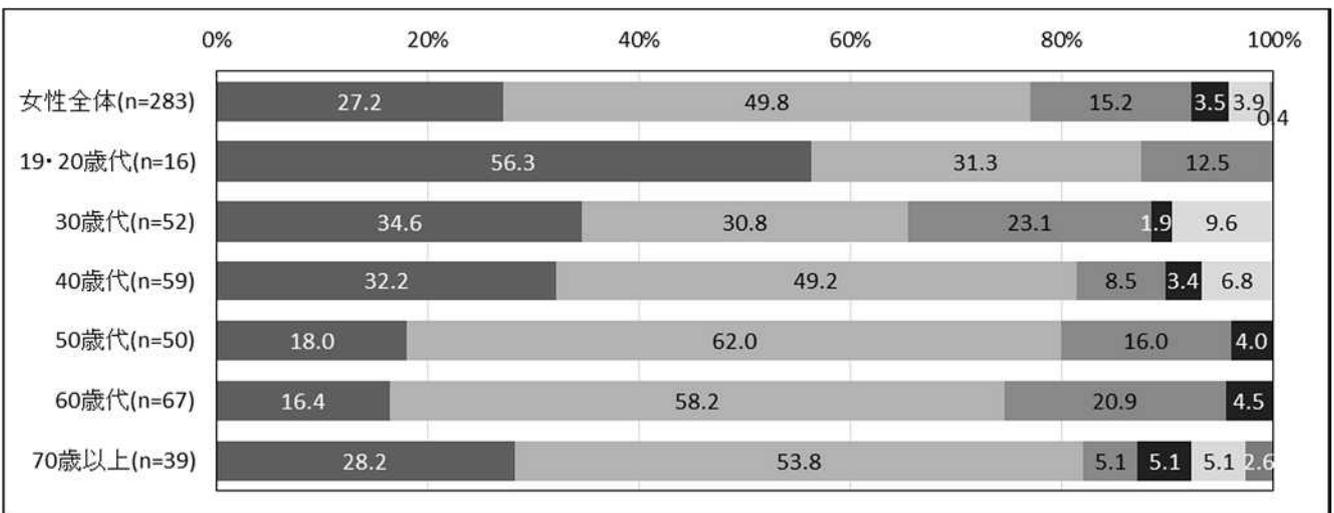
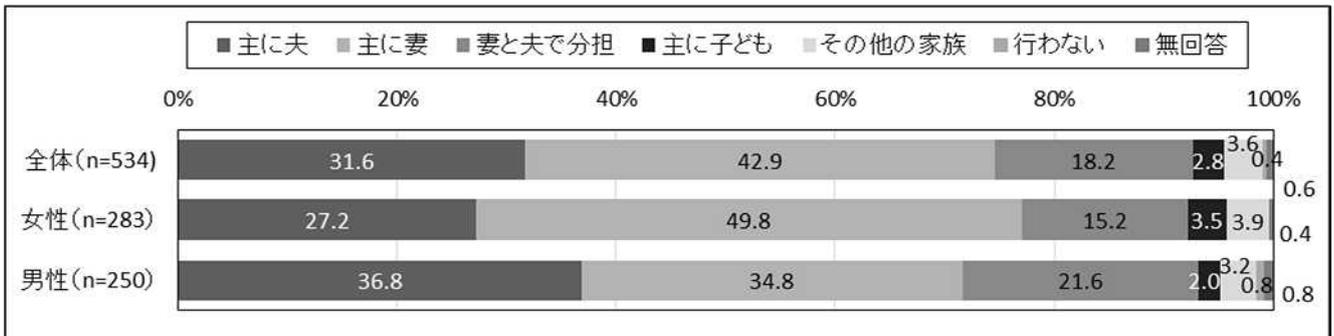


ごみだし

「主に妻」が42.9%で最も高く、次いで「主に夫」31.6%、「妻と夫で分担」18.2%の順となっています。

性別で見ると、「主に妻」と回答した割合は、女性(49.8%)が男性(34.8%)より15ポイント高く、「主に夫」と回答した割合は、男性(36.8%)が女性(27.2%)より9.6ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「主に夫」と回答した割合は、女性の「19・20歳代」56.3%、男性の「19・20歳代」40.0%、「60歳代」40.9%と高くなっています。また、「妻と夫で分担」と回答した割合は、女性の「30歳代」23.1%、「60歳代」20.9%、男性の「19・20歳代」30.0%、「60歳代」28.8%、「30歳代」28.6%と高くなっています。

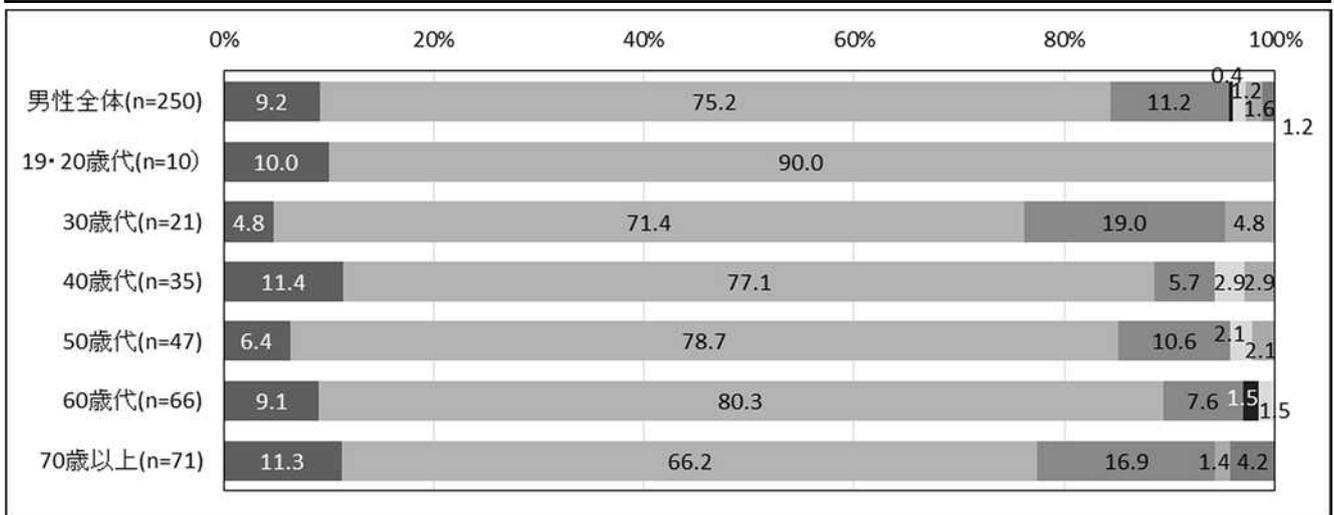
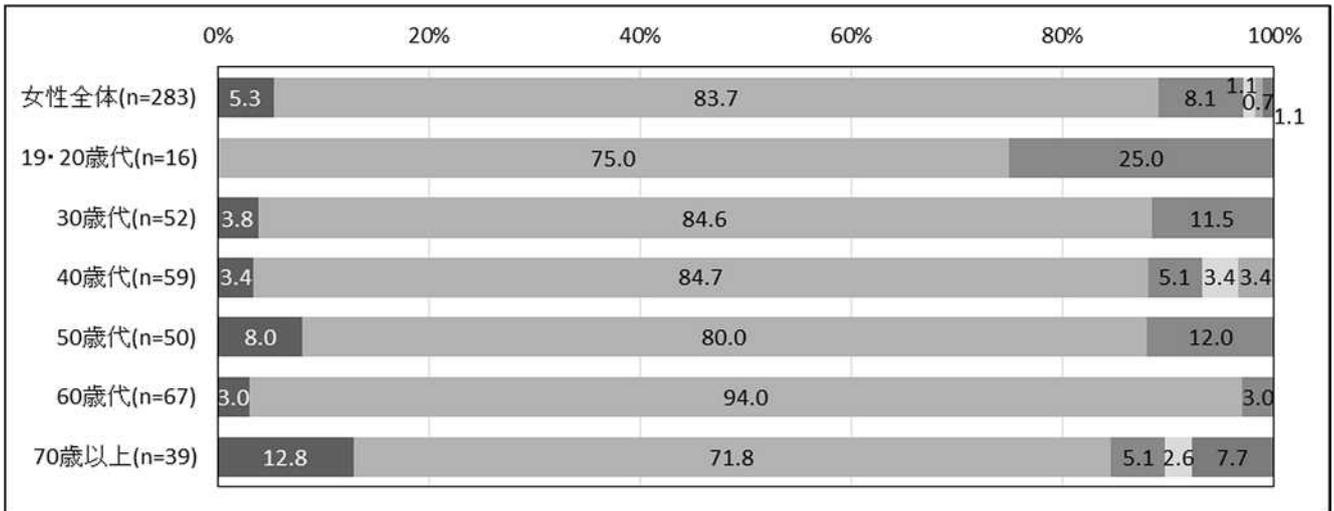
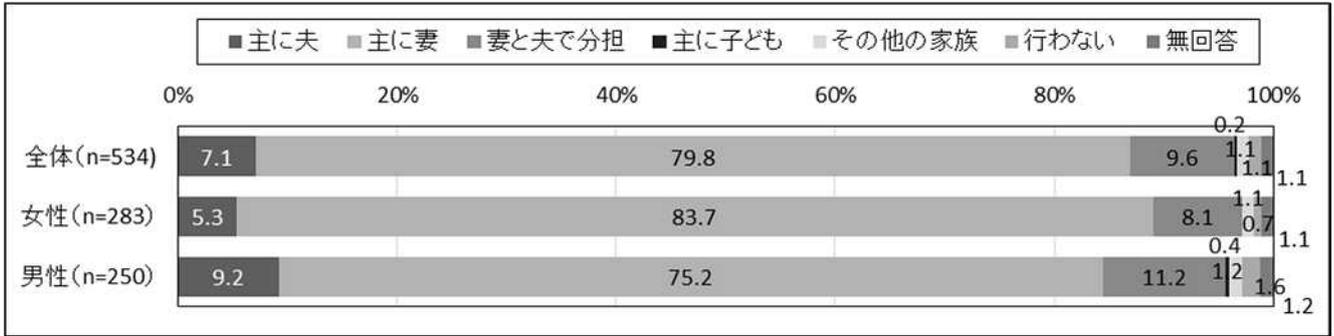


日々の家計管理

「主に妻」が79.8%で最も高く、次いで「妻と夫で分担」9.6%、「主に夫」7.1%の順となっています。

性別で見ると、「主に妻」と回答した割合は、女性(83.7%)が男性(75.2%)より8.5ポイント高く、「主に夫」と回答した割合は、男性(9.2%)が女性(5.3%)より3.9ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「主に夫」と回答した割合は、女性の「70歳以上」12.8%、男性の「40歳代」11.4%、「70歳以上」11.3%と高くなっています。また、「妻と夫で分担」と回答した割合は、女性の「19・20歳代」25.0%、男性の「30歳代」19.0%と高くなっています。

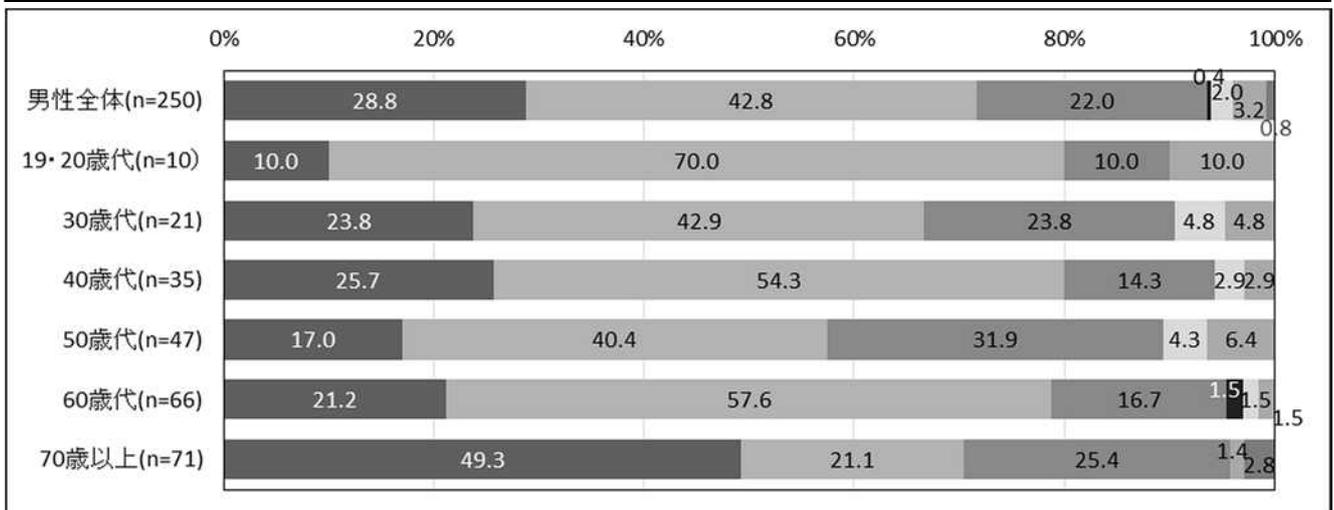
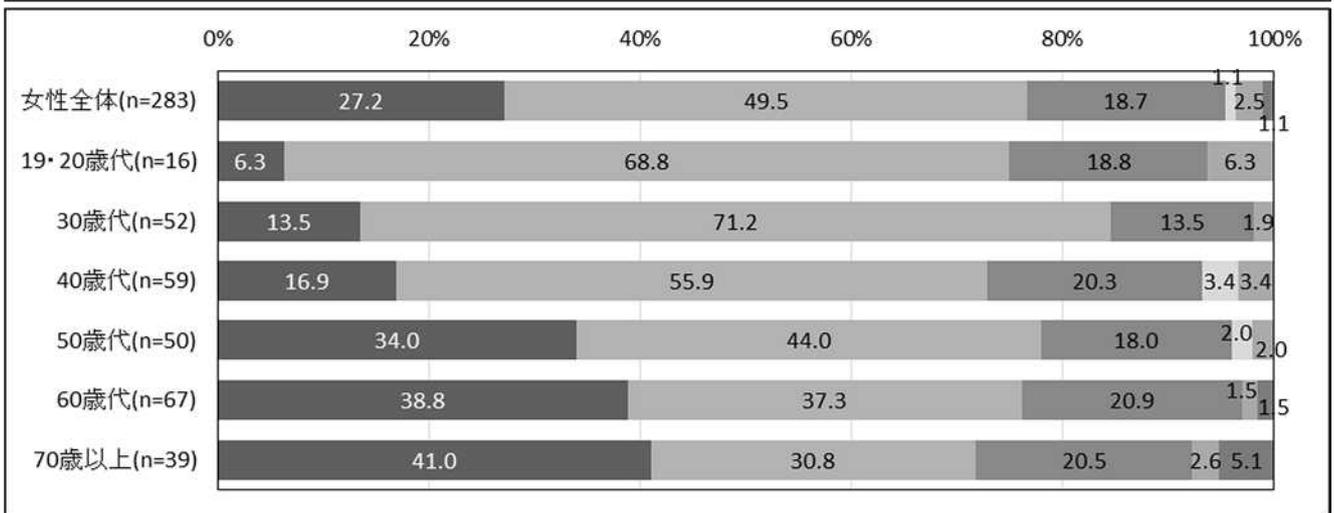
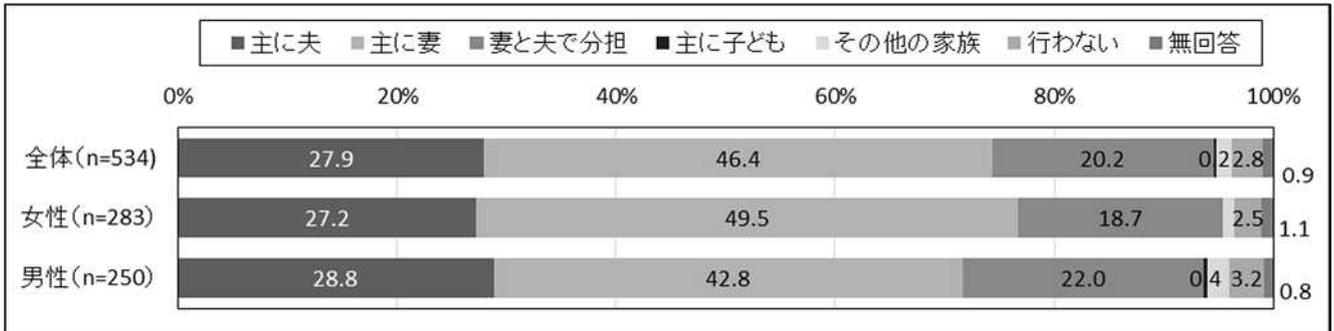


財産の管理、運用

「主に妻」が46.4%で最も高く、次いで「主に夫」27.9%、「妻と夫で分担」20.2%の順となっています。

性別で見ると、「主に妻」と回答した割合は、女性(49.5%)が男性(42.8%)より6.7ポイント高く、「妻と夫で分担」と回答した割合は、男性(22.0%)が女性(18.7%)より3.3ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「主に夫」と回答した割合は、女性の年代が上がるにつれ高くなっています。また、「妻と夫で分担」と回答した割合は、男性の「50歳代」31.9%と高くなっています。

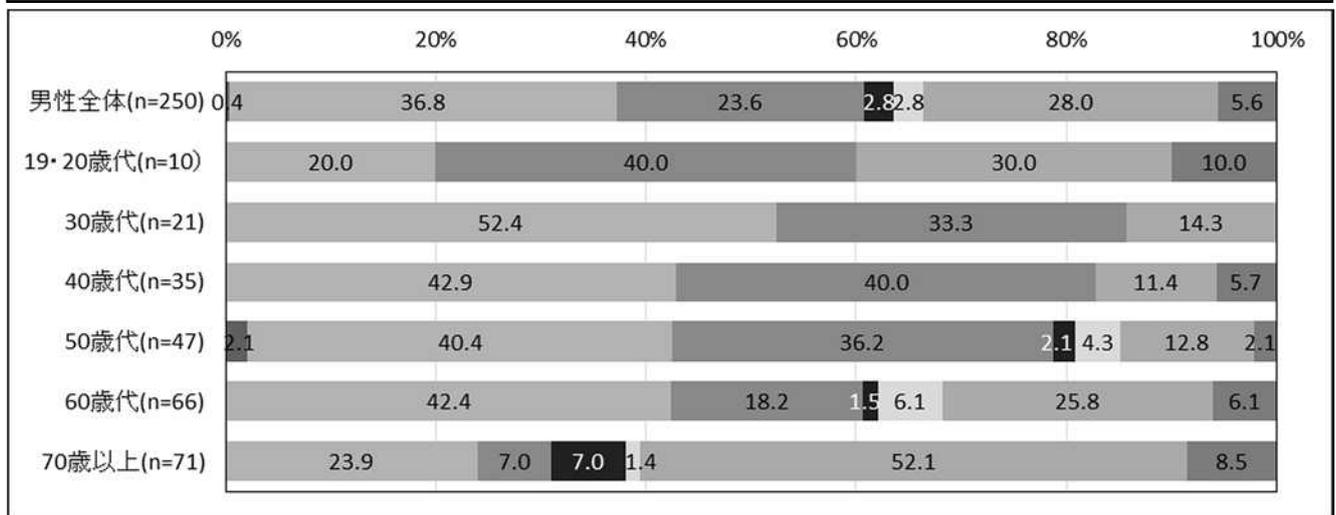
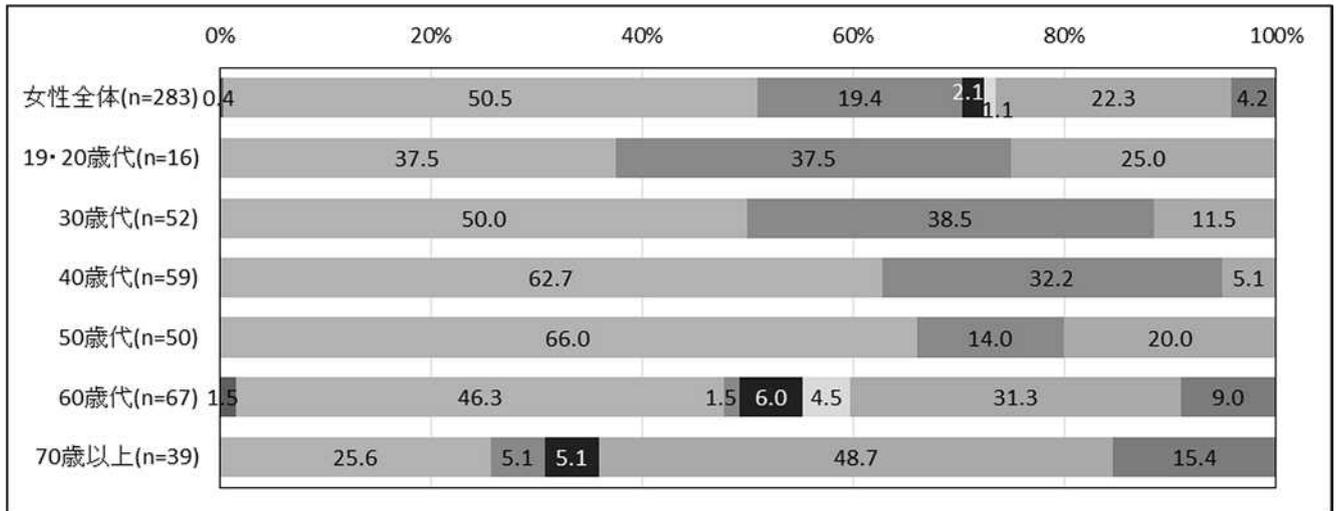
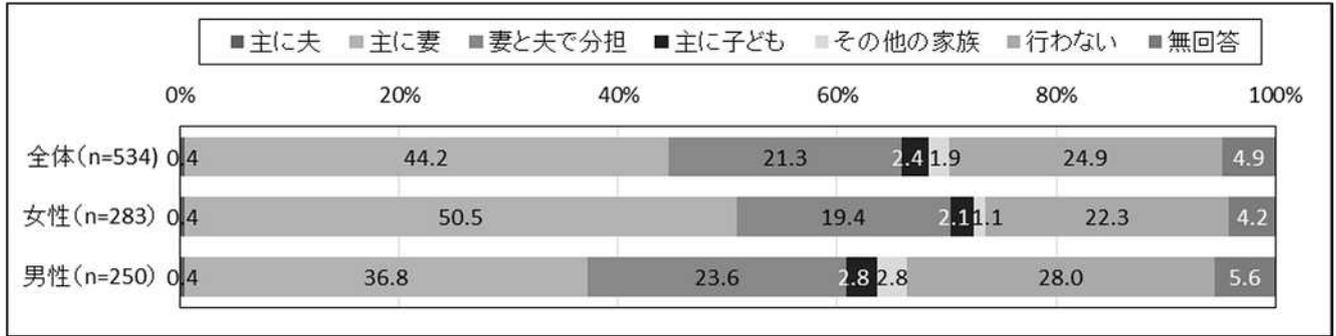


育児、子どもの世話

「主に妻」が44.2%で最も高く、次いで「行わない」24.9%、「妻と夫で分担」21.3%の順となっています。

性別で見ると、「主に妻」と回答した割合は、女性(50.5%)が男性(36.8%)より13.7ポイント高く、「妻と夫で分担」と回答した割合は、男性(23.6%)が女性(19.4%)より4.2ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「妻と夫で分担」と回答した割合は、女性の「19・20歳代」37.5%、「30歳代」38.5%、男性の「19・20歳代」「40歳代」がいずれも40%と高くなっています。また、「行わない」と回答した割合は、女性・男性ともに「60歳以上」で高くなっています。

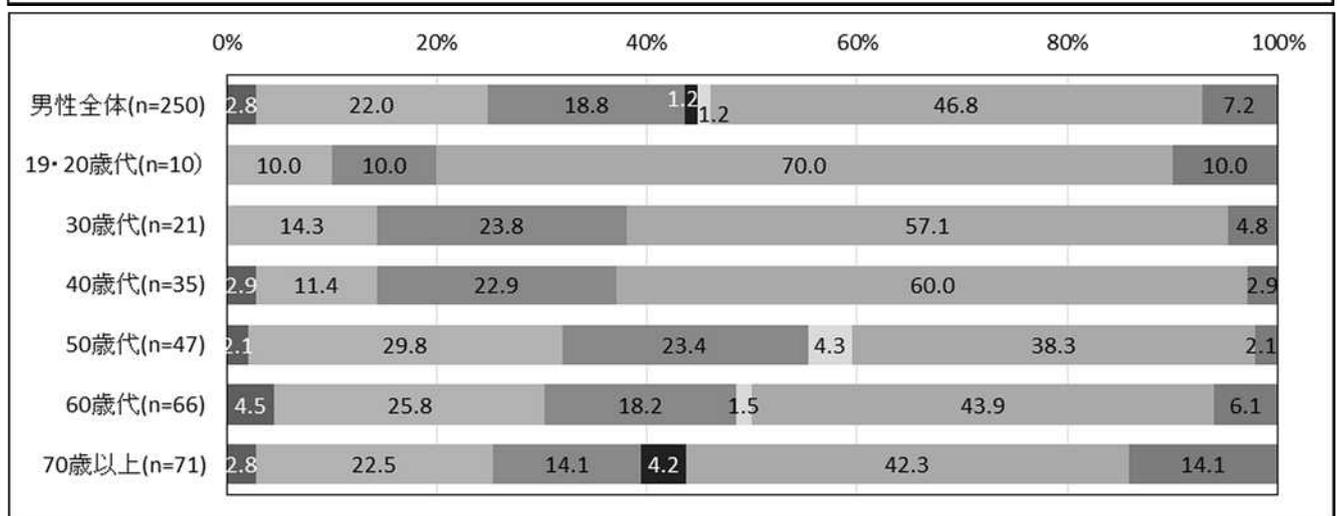
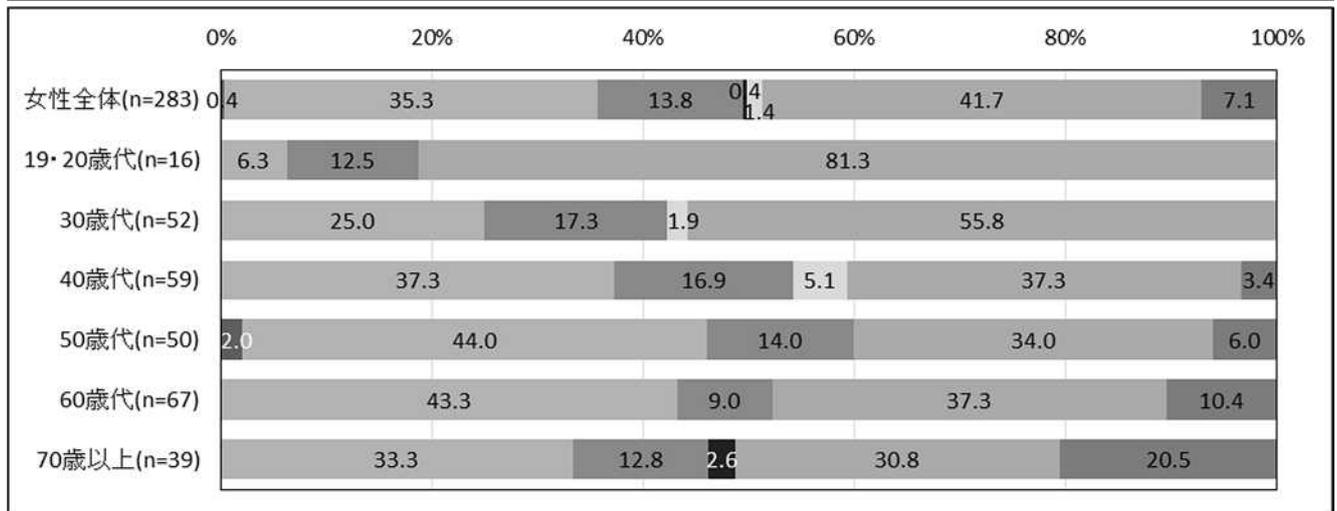
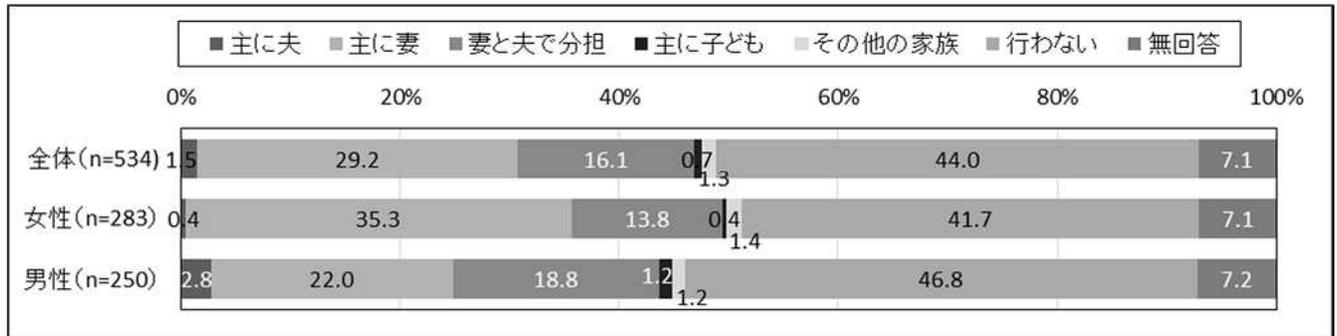


家族の世話（介護）

「行わない」が44.0%で最も高く、次いで「主に妻」29.2%、「妻と夫で分担」16.1%の順となっています。

性別で見ると、「主に妻」と回答した割合は、女性（35.3%）が男性（22.0%）より13.3ポイント高く、「妻と夫で分担」と回答した割合は、男性（18.8%）が女性（13.8%）より5.0ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「主に妻」と回答した割合は、女性・男性ともに「50歳代」から「60歳代」で高くなっています。また、「行わない」と回答した割合は、女性・男性ともに「19・20歳代」で70%以上と高くなっています。

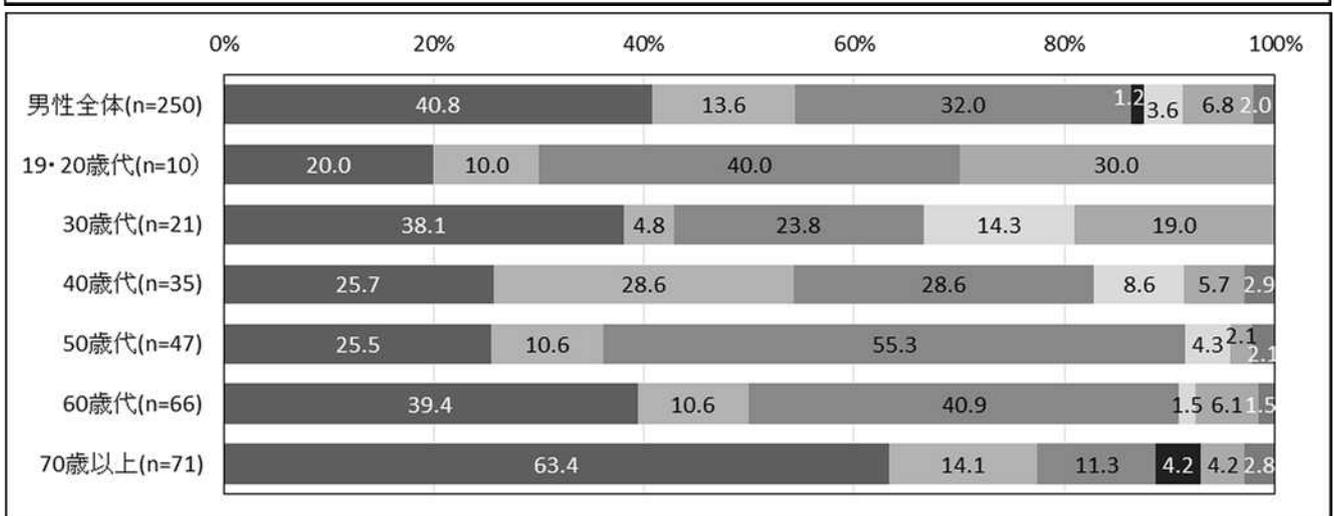
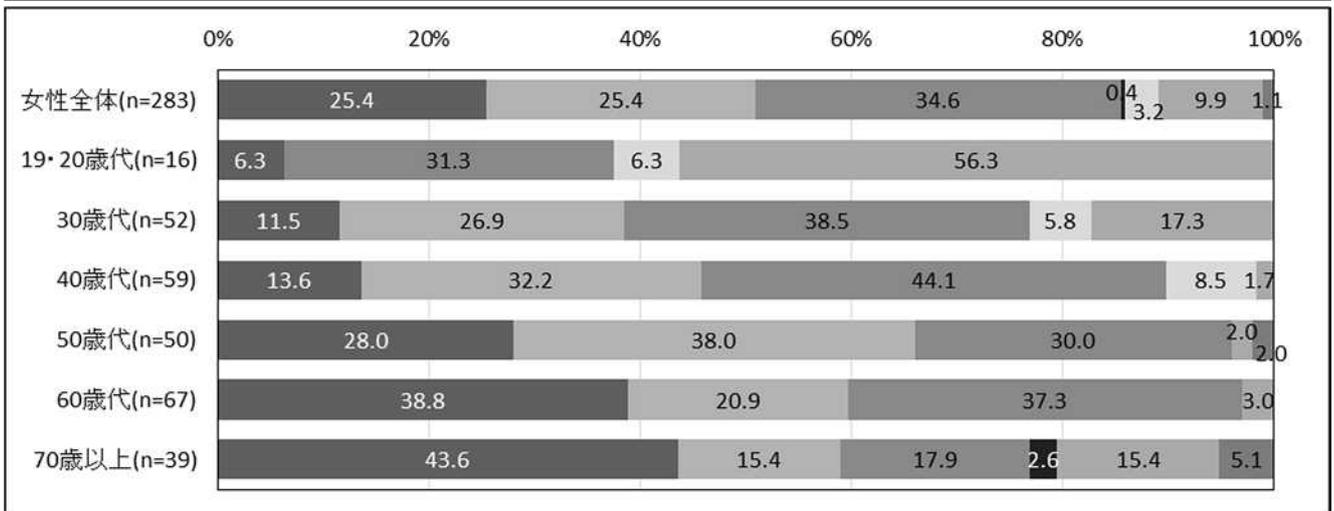
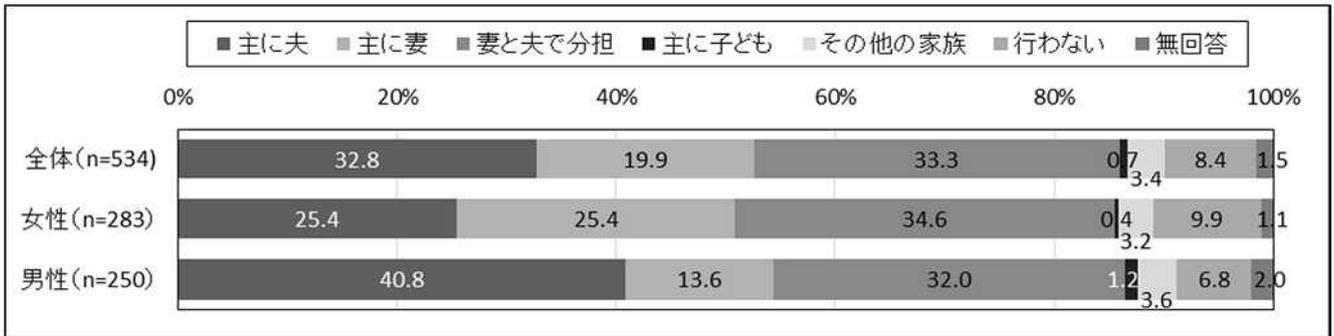


地域における活動（町内会、区役など）

「妻と夫で分担」が33.3%で最も高く、次いで「主に夫」32.8%、「主に妻」19.9%の順となっています。

性別で見ると、「主に妻」と回答した割合は、女性（25.4%）が男性（13.6%）より11.8ポイント高く、「主に夫」と回答した割合は、男性（40.8%）が女性（25.4%）より15.4ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「主に夫」と回答した割合は、女性の年代が上がるにつれ高くなっています。また、「妻と夫で分担」と回答した割合は、女性の「40歳代」44.1%、男性の「50歳代」55.3%と高くなっています。

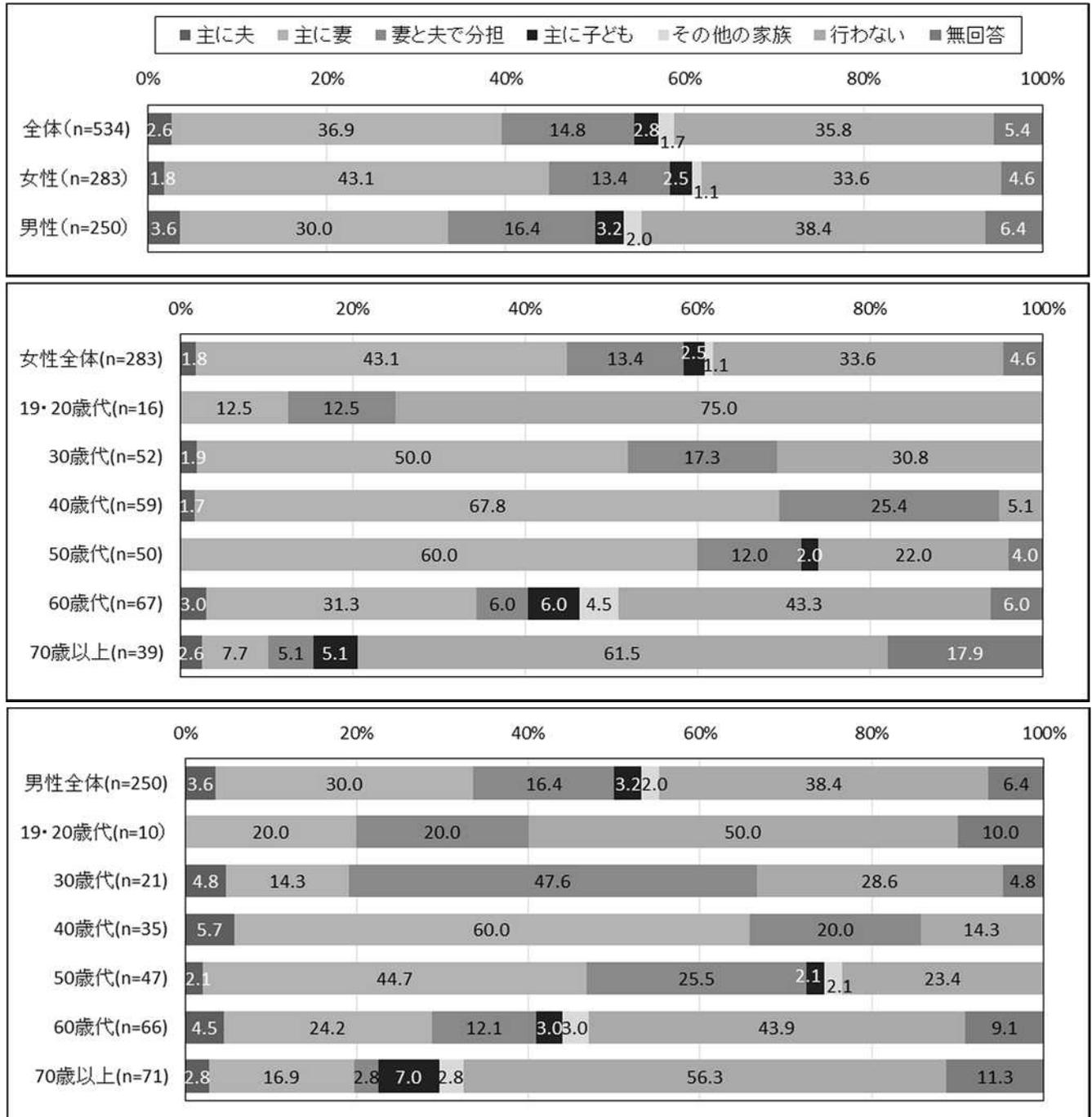


P T A など学校行事への参加

「主に妻」が 36.9% で最も高く、次いで「行わない」35.8%、「妻と夫で分担」14.8% の順となっています。

性別で見ると、「主に妻」と回答した割合は、女性(43.1%)が男性(30.0%)より 13.1 ポイント高く、「妻と夫で分担」と回答した割合は、男性(16.4%)が女性(13.4%)より 3.0 ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「妻と夫で分担」と回答した割合は、女性の「40 歳代」25.4%、男性の「30 歳代」47.6% と高くなっています。



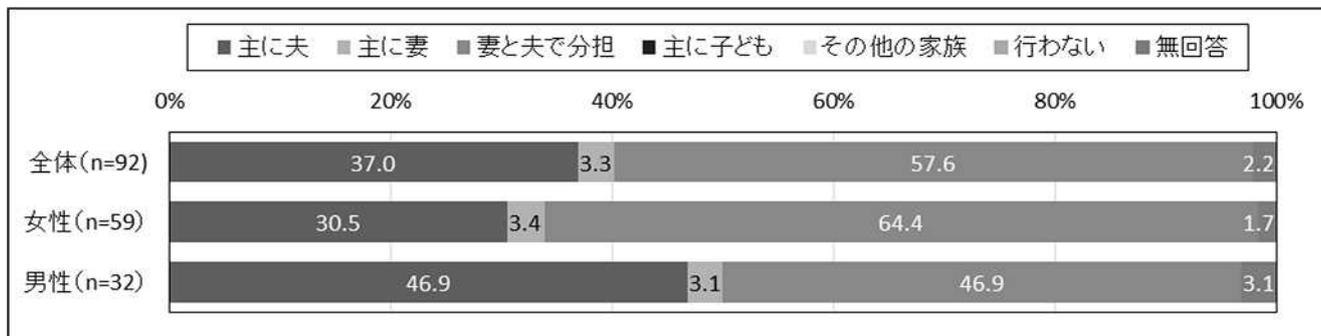
(3)で「結婚していない」と回答された方におうかがいします。

(13)あなたは、「もし、結婚したら」次のようなことを主に誰がした方がよいと思いますか。

家計を支える

「妻と夫で分担」が57.6%で最も高く、次いで「主に夫」37.0%、「主に妻」3.3%の順となっています。

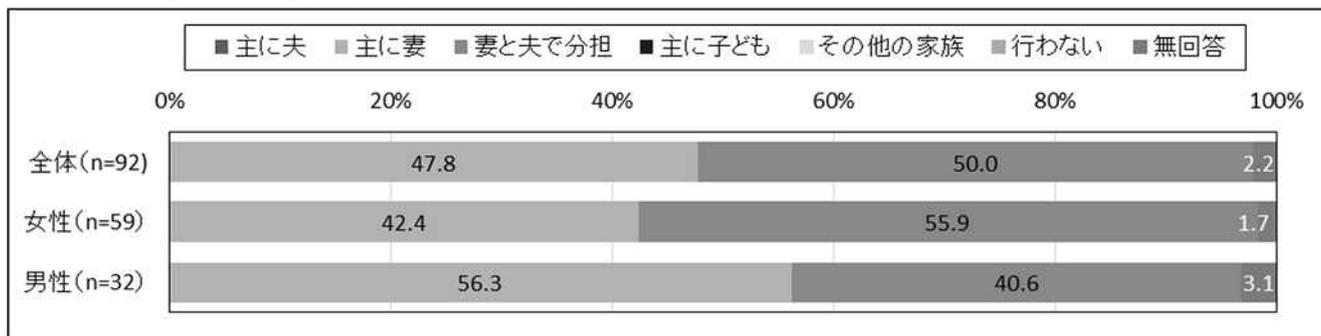
性別で見ると、「妻と夫で分担」と回答した割合は、男性より女性が高く、「主に夫」と回答した割合は、女性より男性が高くなっています。



食事のしたく

「妻と夫で分担」が50.0%、「主に妻」47.8%となっています。

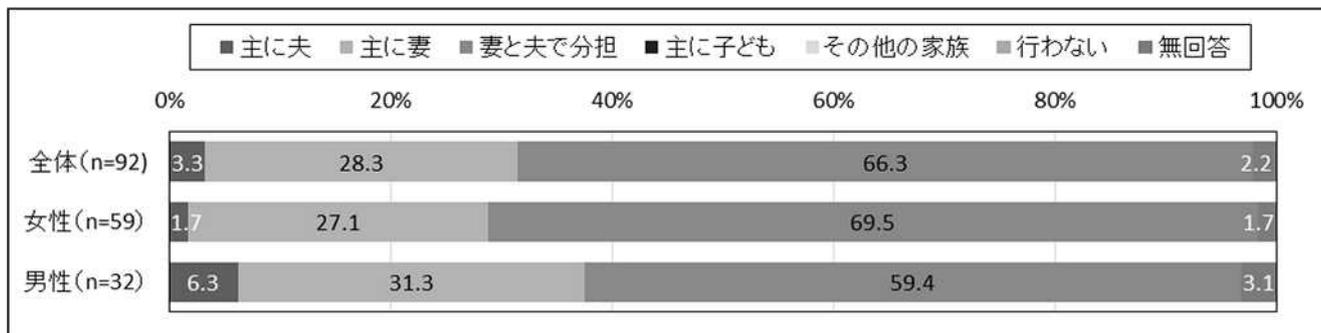
性別で見ると、「妻と夫で分担」と回答した割合は、男性より女性が高く、「主に妻」と回答した割合は、女性より男性が高くなっています。



食事の後片付け、食器洗い

「妻と夫で分担」が66.3%で最も高く、次いで「主に妻」28.3%、「主に夫」3.3%の順となっています。

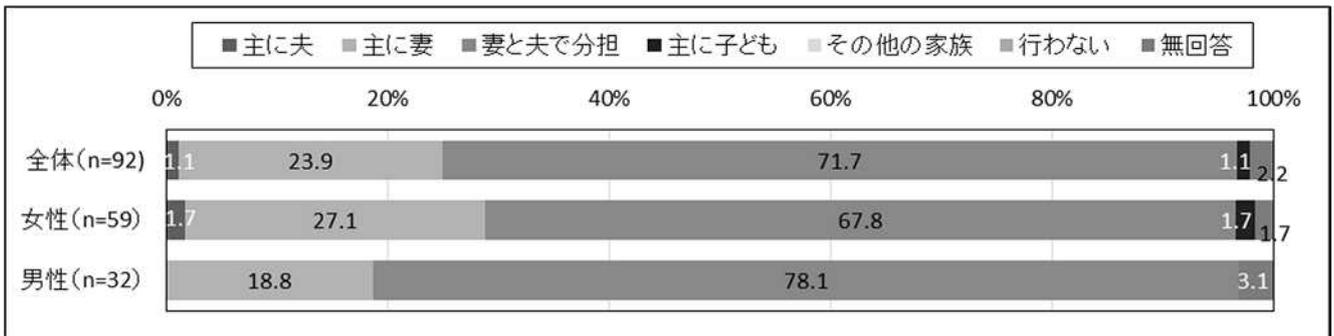
性別で見ると、「妻と夫で分担」と回答した割合は、男性より女性が高く、「主に夫」と回答した割合は、女性より男性が高くなっています。



掃除

「妻と夫で分担」が71.7%で最も高く、次いで「主に妻」23.9%、「主に夫」「主に子ども」1.1%の順となっています。

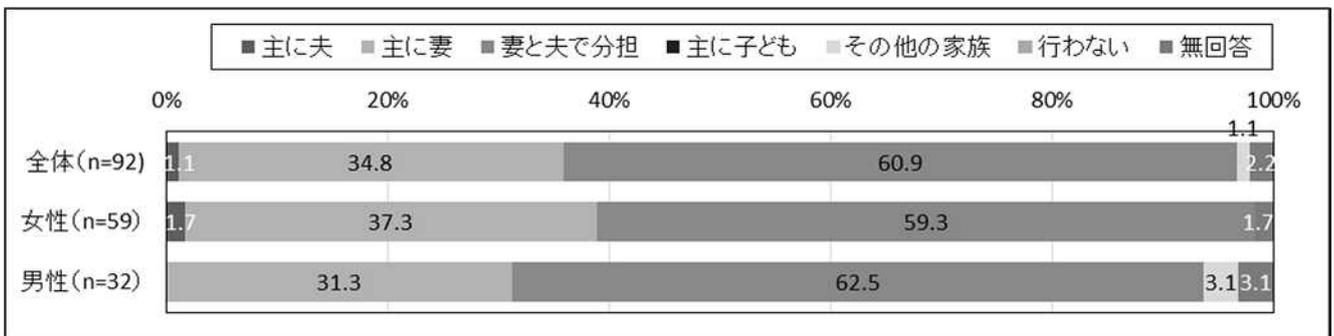
性別で見ると、「主に妻」と回答した割合は、男性より女性が高く、「妻と夫で分担」と回答した割合は、女性より男性が高くなっています。



洗濯

「妻と夫で分担」が60.9%で最も高く、次いで「主に妻」34.8%、「主に夫」「その他の家族」1.1%の順となっています。

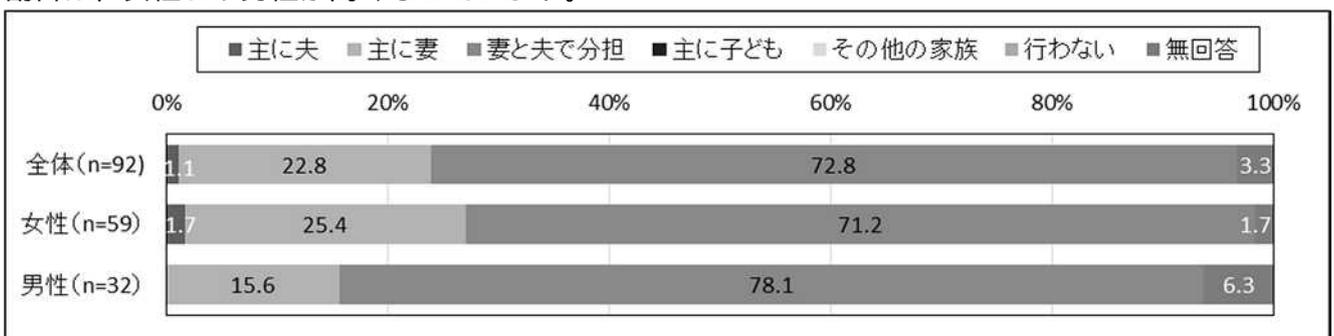
性別で見ると、「主に妻」と回答した割合は、男性より女性が高く、「妻と夫で分担」と回答した割合は、女性より男性が高くなっています。



食料品、日用品の買い物

「妻と夫で分担」が72.8%で最も高く、次いで「主に妻」22.8%、「主に夫」1.1%の順となっています。

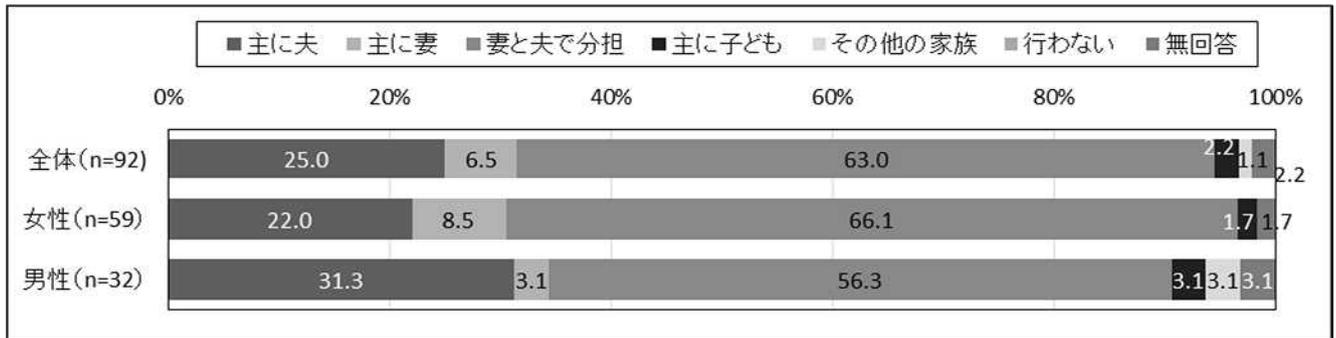
性別で見ると、「主に妻」と回答した割合は、男性より女性が高く、「妻と夫で分担」と回答した割合は、女性より男性が高くなっています。



ごみだし

「妻と夫で分担」が63.0%で最も高く、次いで「主に夫」25.0%、「主に妻」6.5%の順となっています。

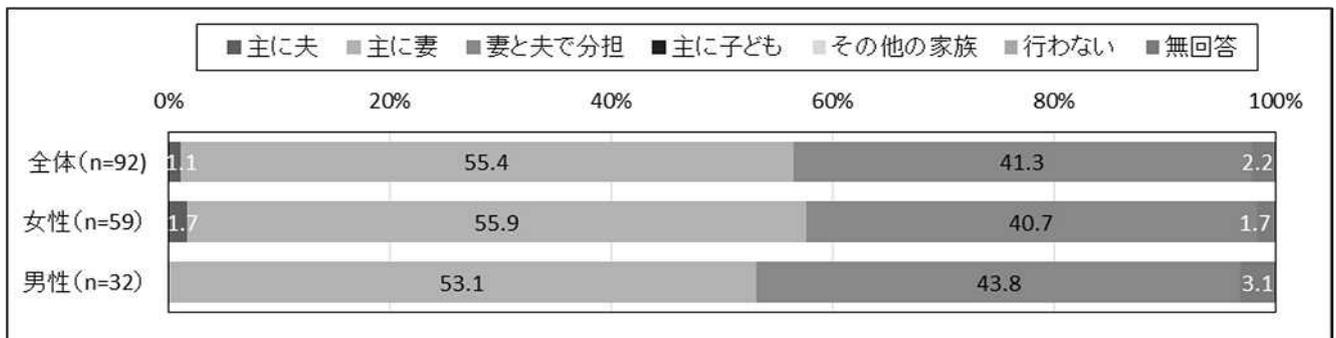
性別で見ると、「妻と夫で分担」と回答した割合は、男性より女性が高く、「主に夫」と回答した割合は、女性より男性が高くなっています。



日々の家計管理

「主に妻」が55.4%で最も高く、次いで「妻と夫で分担」41.3%、「主に夫」1.1%の順となっています。

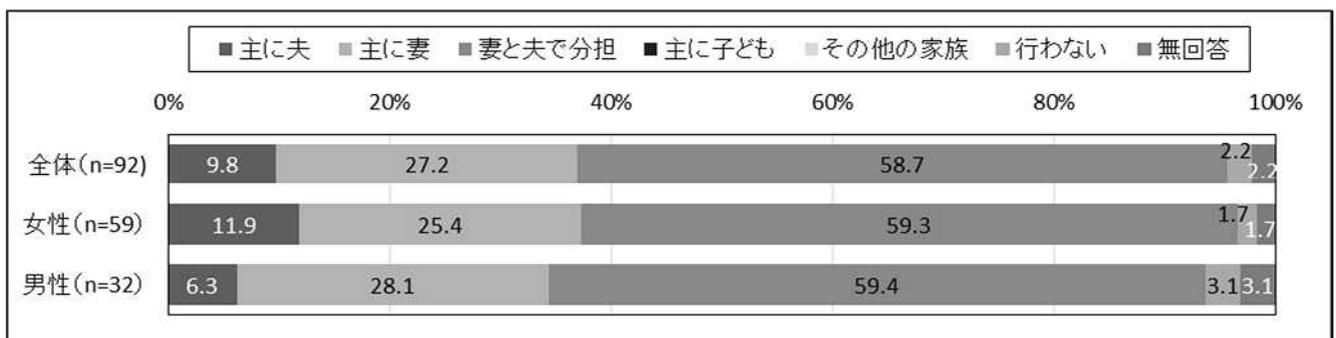
性別による大きな差異は見られません。



財産の管理、運用

「妻と夫で分担」が58.7%で最も高く、次いで「主に妻」27.2%、「主に夫」9.8%の順となっています。

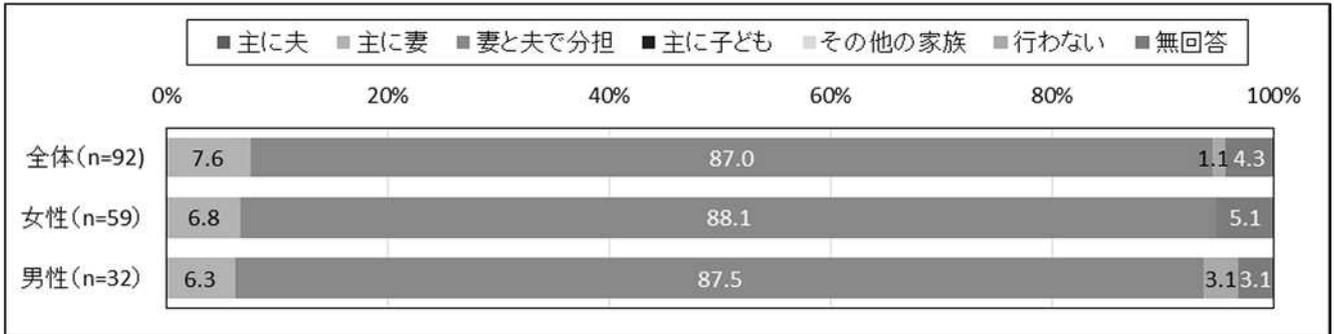
性別で見ると、「主に夫」と回答した割合は、男性より女性が高く、「主に妻」と回答した割合は、女性より男性が高くなっています。



育児、子どもの世話

「妻と夫で分担」が87.0%で最も高く、次いで「主に妻」7.6%、「行わない」1.1%の順となっています。

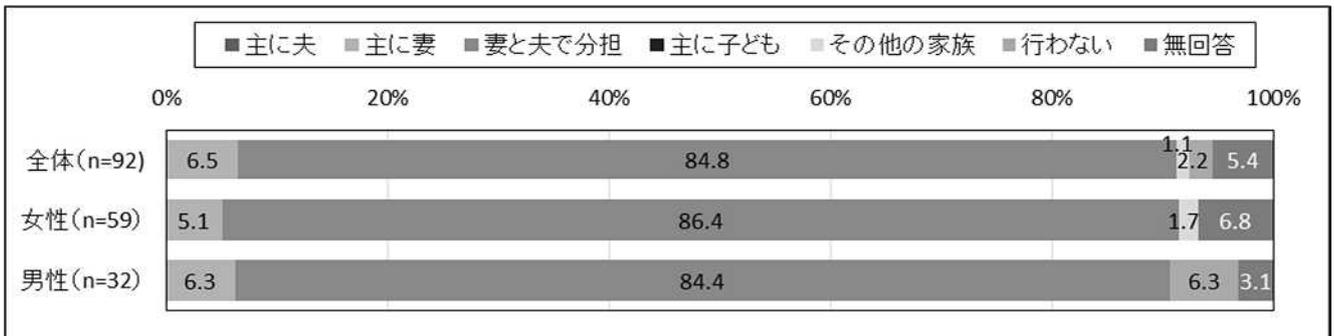
性別による大きな差異は見られません。



家族の世話（介護）

「妻と夫で分担」が84.8%で最も高く、次いで「主に妻」6.5%、「行わない」2.2%の順となっています。

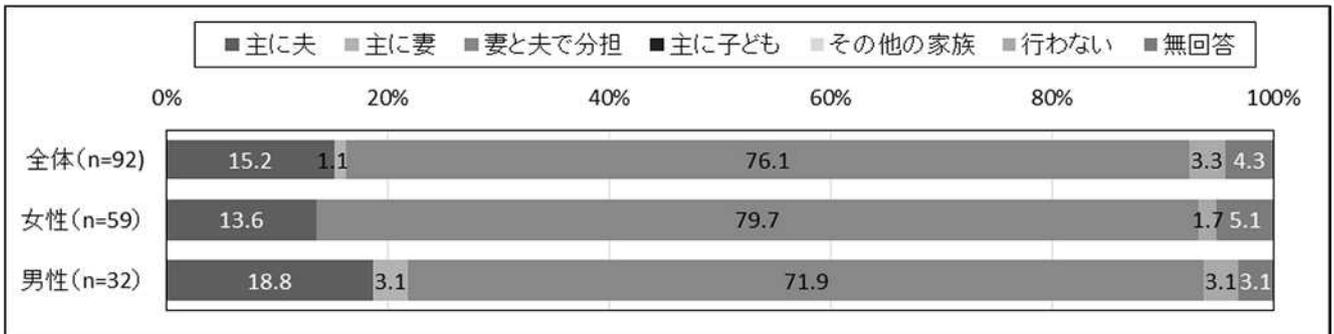
性別による大きな差異は見られません。



地域における活動（町内会、区役など）

「妻と夫で分担」が76.1%で最も高く、次いで「主に夫」15.2%、「行わない」3.3%の順となっています。

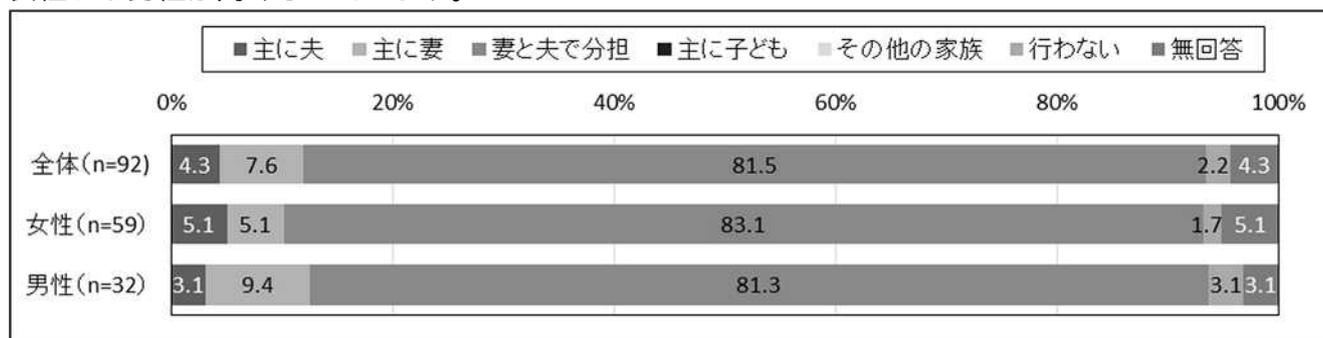
性別で見ると、「妻と夫で分担」と回答した割合は、男性より女性が高く、「主に夫」と回答した割合は、女性より男性が高くなっています。



PTAなど学校行事への参加

「妻と夫で分担」が81.5%で最も高く、次いで「主に妻」7.6%、「主に夫」4.3%の順となっています。

性別で見ると、「主に夫」と回答した割合は、男性より女性が高く、「主に妻」と回答した割合は、女性より男性が高くなっています。



3. 教育・子育てについて

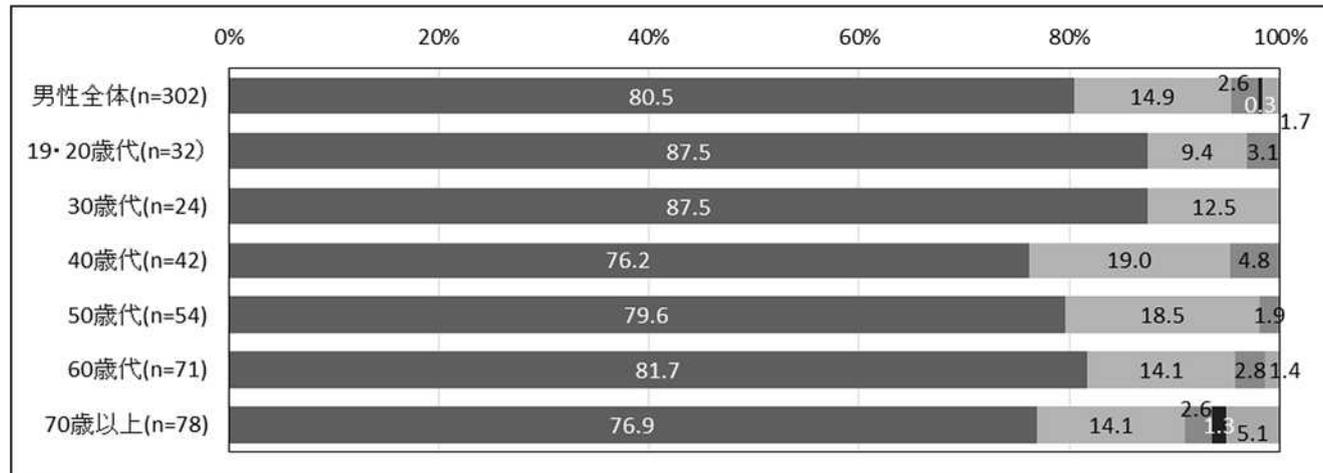
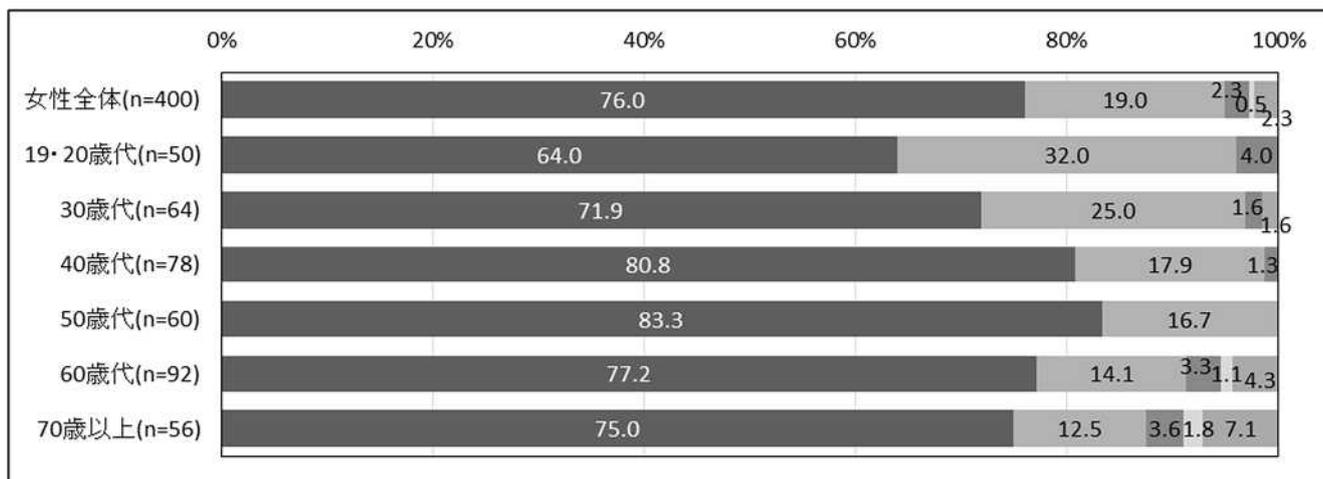
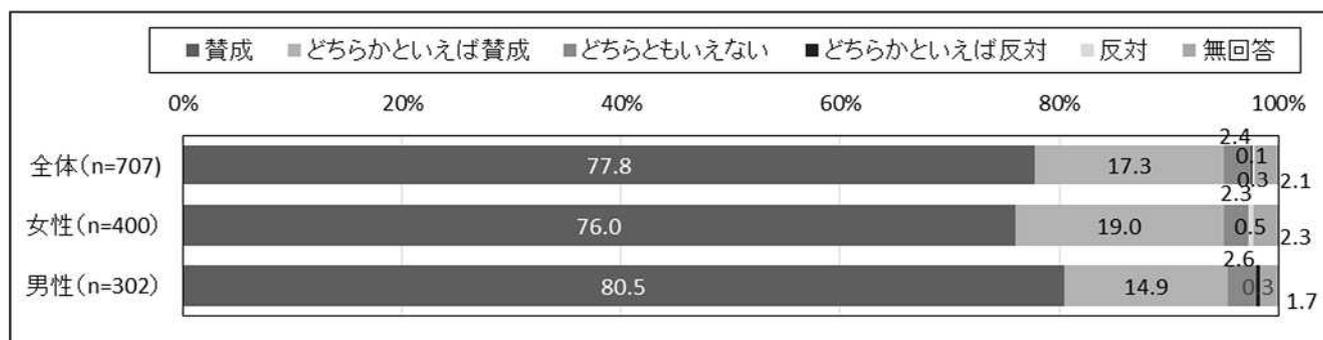
(14) あなたは、子どもの育て方について、どのように考えますか。

男女を問わず、経済的に自立できるように育てた方がよい

『賛成』(「賛成」+「どちらかといえば賛成」)が95.1%、「どちらともいえない」2.4%、『反対』(「反対」+「どちらかといえば反対」)0.4%となっています。

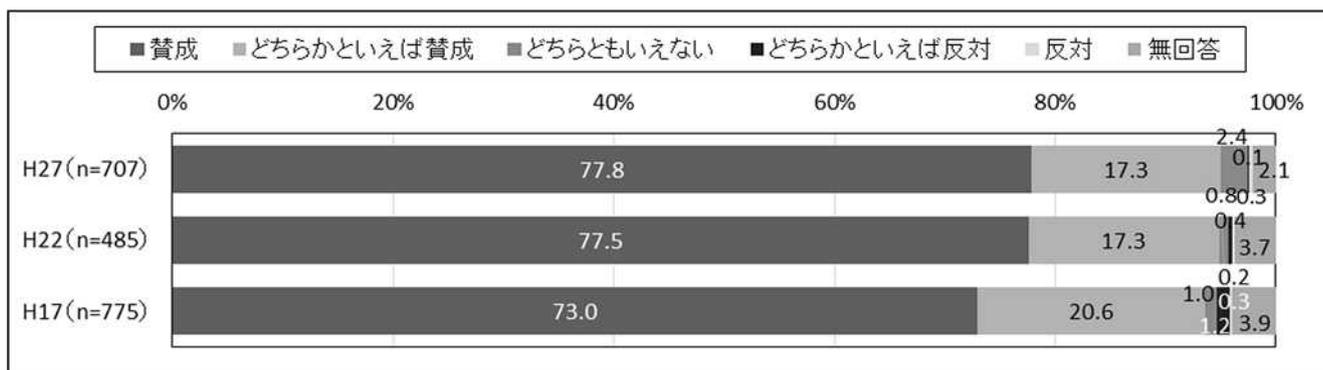
性別で見ると、『賛成』と回答した割合は、女性・男性ともに95%以上となり、性別による大きな差異は見られません。

性別・年代別で見ると、『賛成』と回答した割合は、女性・男性ともにほとんどの年代において95%以上と高くなっていますが、女性の「60歳以上」と男性の「70歳以上」で若干低くなっています。



H22 と H27 の調査の比較による大きな差異は見られません。

H17 と H27 を比較すると、『賛成』と回答した割合は、H27（95.1%）が H17（93.6%）より 1.5 ポイント高くなっています。

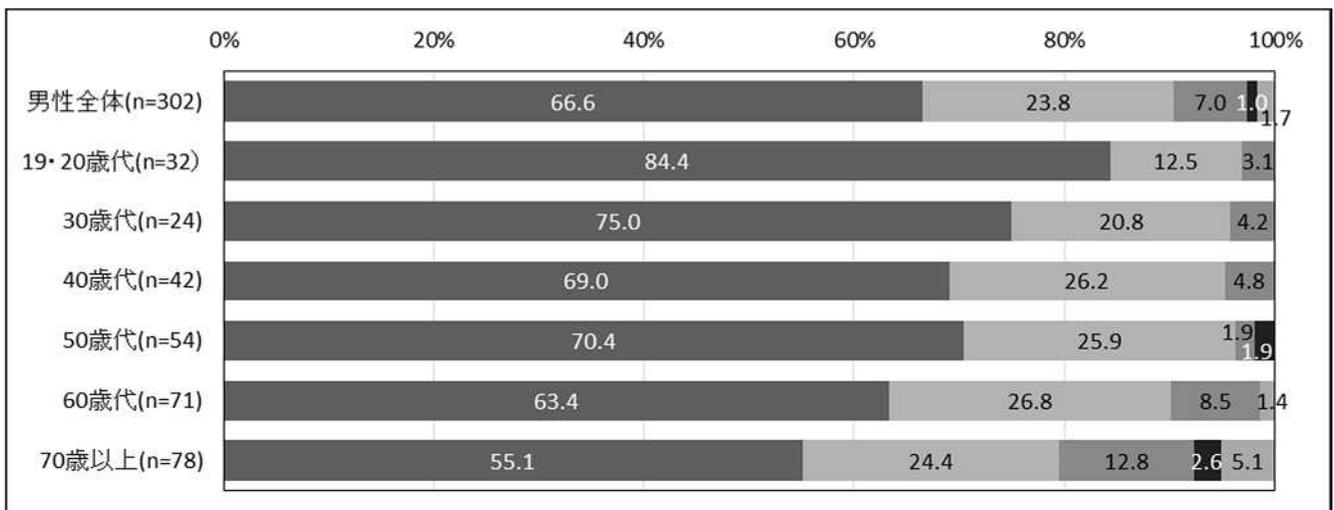
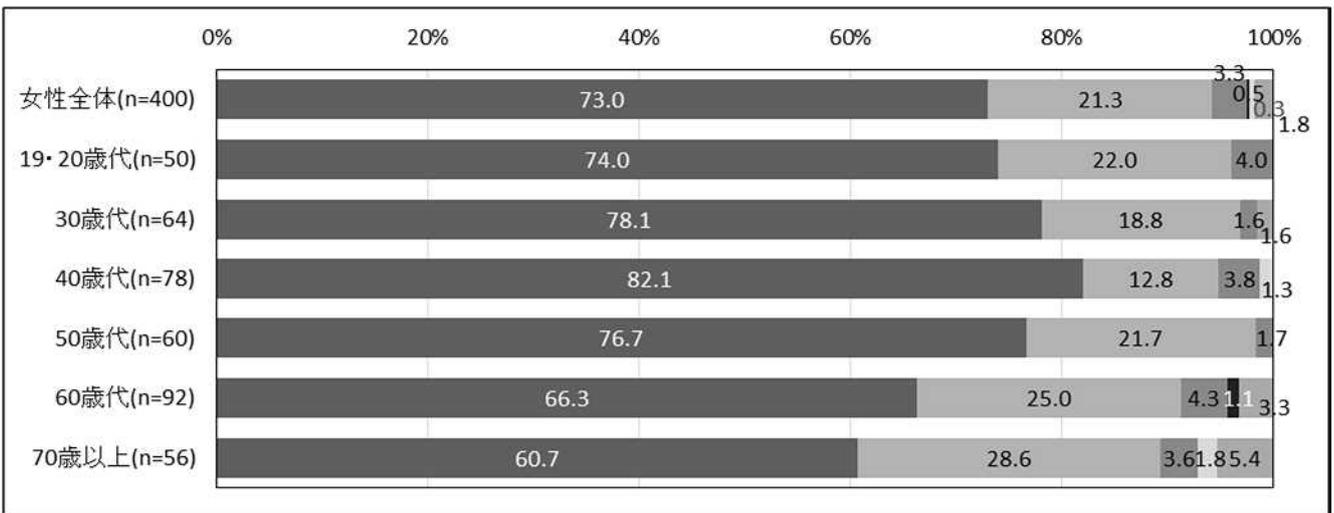
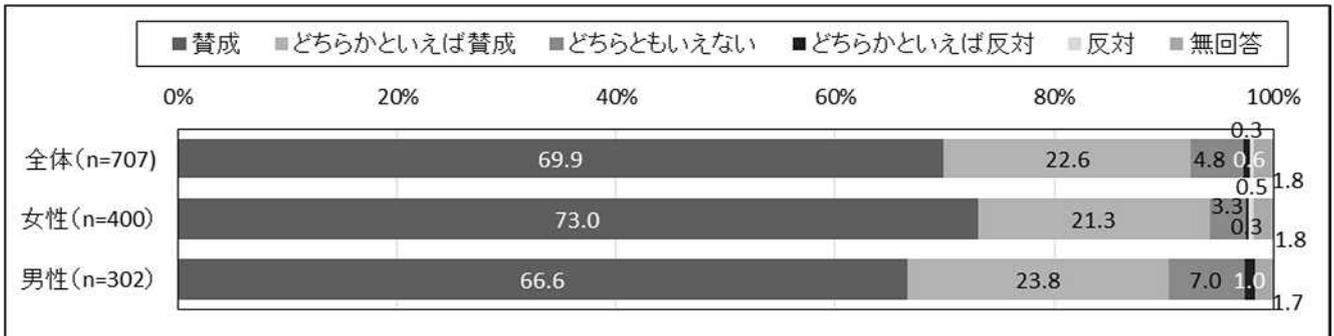


男女を問わず、炊事・掃除・洗濯など、生活していくために必要な技術を身につけるよう育てた方がよい

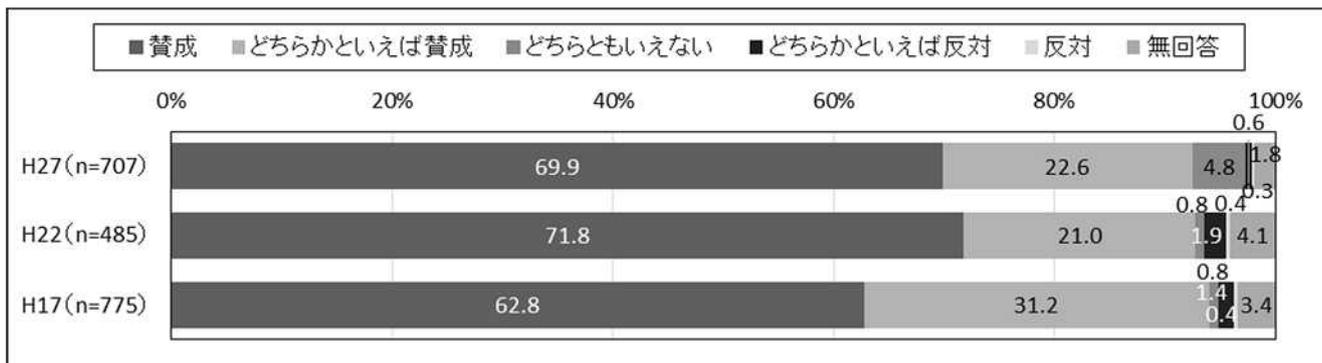
『賛成』が92.5%、「どちらともいえない」4.8%、『反対』0.9%となっています。

性別で見ると、『賛成』と回答した割合は、女性・男性ともに90%以上となり、女性(94.3%)が男性(90.4%)より3.9ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、『賛成』と回答した割合は、女性・男性ともにほとんどの年代において90%以上と高くなっていますが、女性・男性ともに「60歳以上」で若干低くなっています。



H17 と H22、H27 の調査を比較すると、『賛成』と回答した割合はあまり変わらないものの、H27 (92.5%) が H22 (92.8%) より 0.3 ポイント低く、H17 (94.0%) より 1.5 ポイント低くなっています。

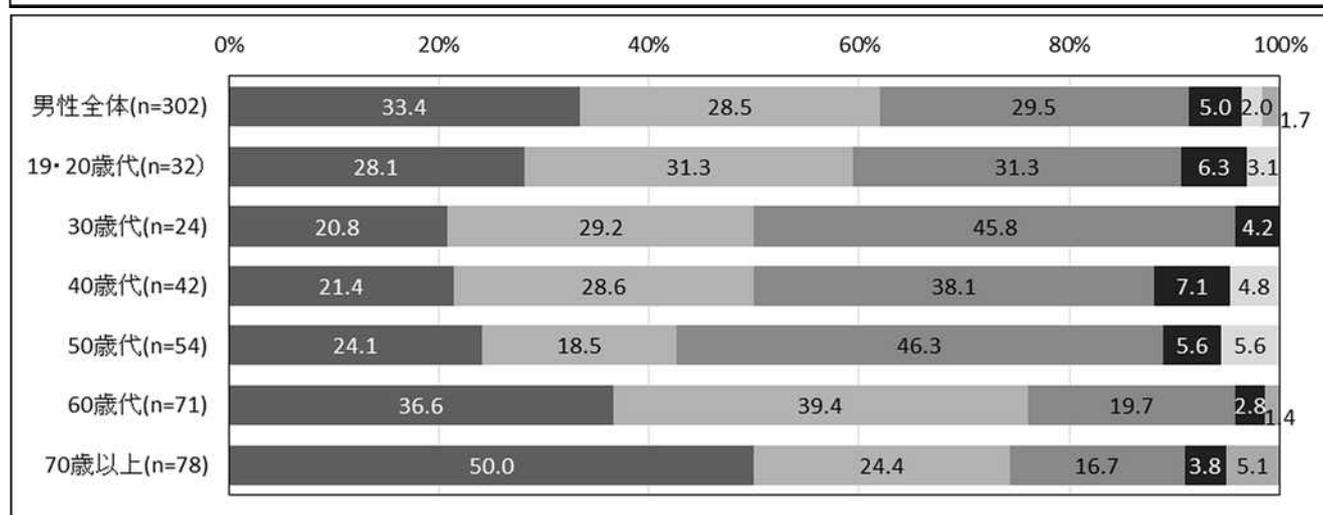
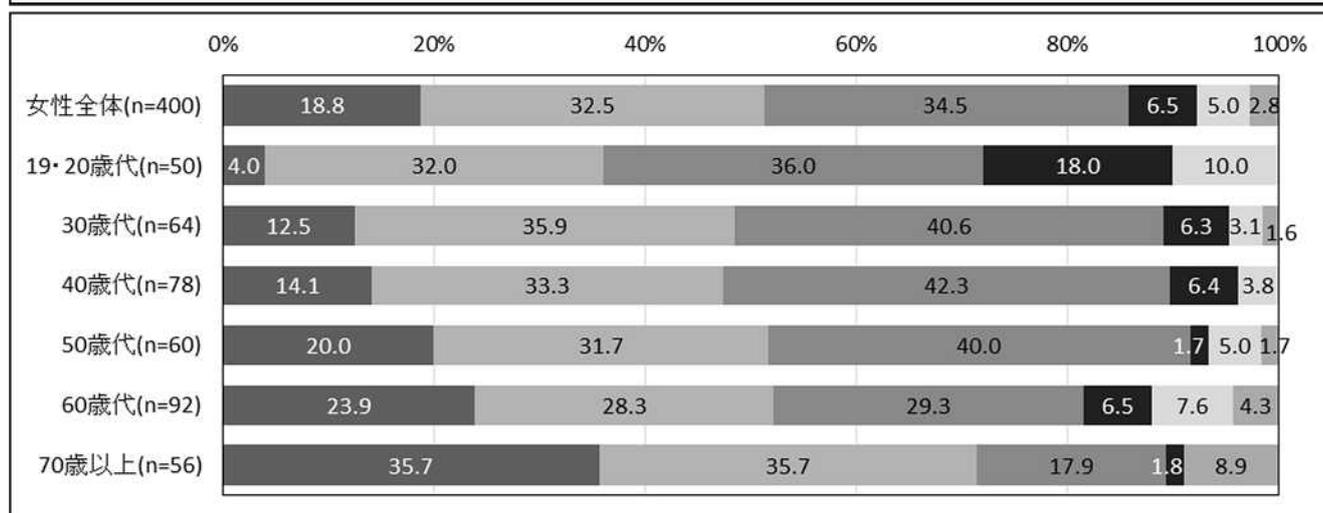
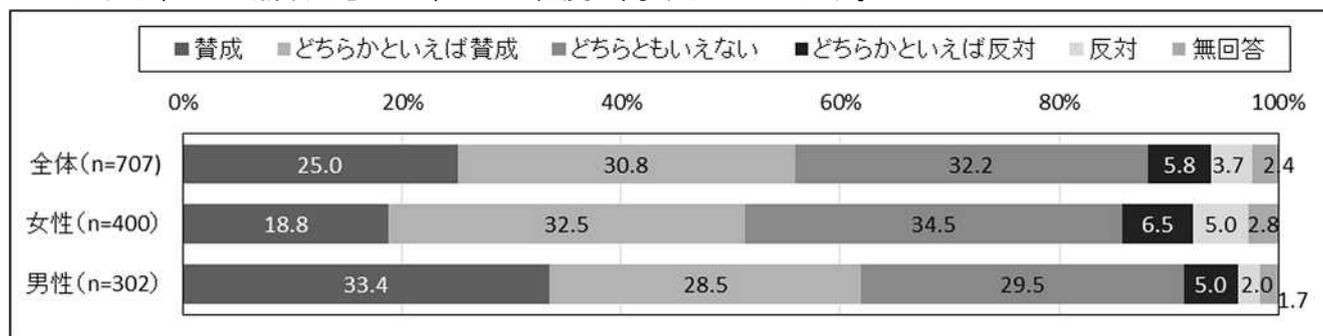


女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい

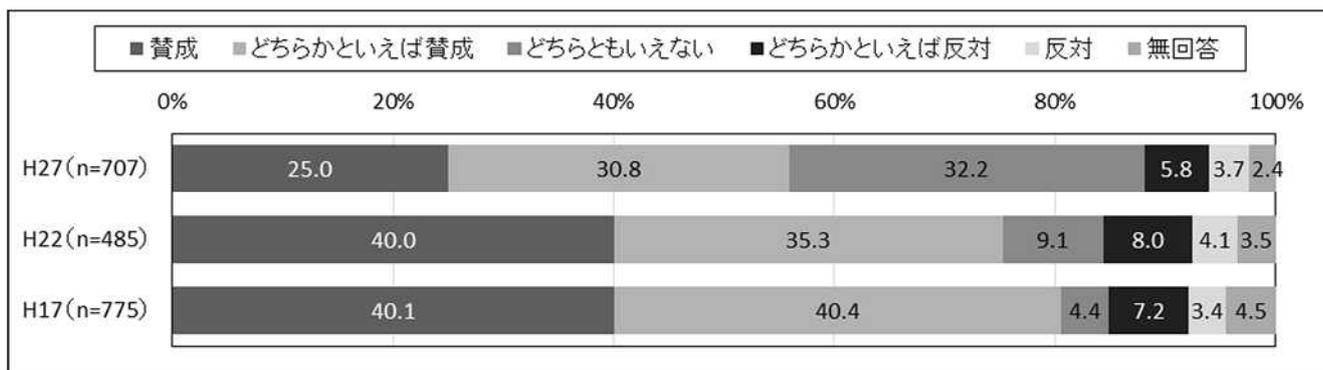
『賛成』が55.8%、「どちらともいえない」が32.2%、『反対』9.5%となっています。

性別で見ると、『賛成』と回答した割合は、男性(61.9%)が女性(51.3%)より10.6%高くなっています。

性別・年代別で見ると、『賛成』と回答した割合は、女性では年代が上がるにつれ高くなっています。一方、『賛成』と回答した割合は、男性の「50歳代」までは、年代が上がるにつれ低くなっていますが、「60歳以上」では、75%程度と高くなっています。



H17 と H22、H27 の調査を比較すると、『賛成』と回答した割合は、H27 (55.8%) が H22 (75.3%) より 19.5 ポイント低く、H17 (80.5%) より、24.7 ポイント低くなっています。

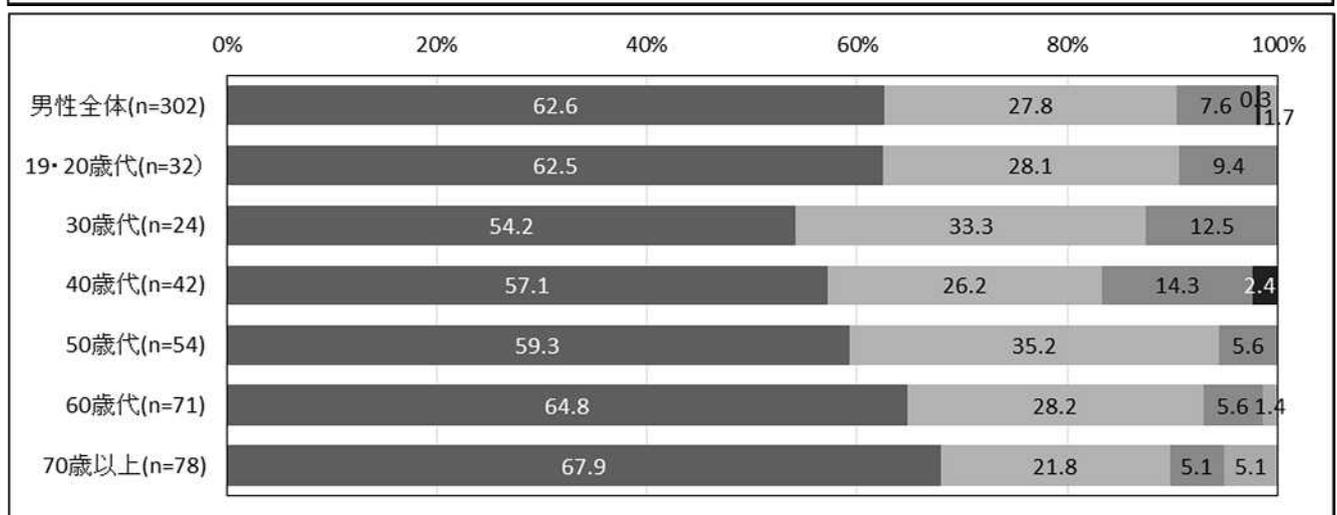
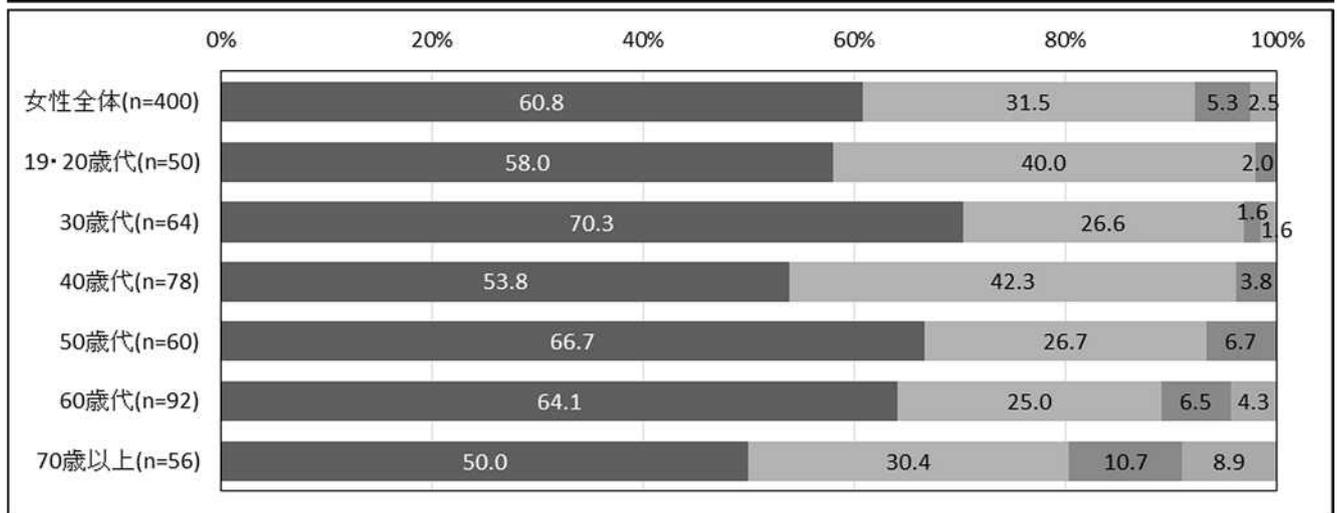
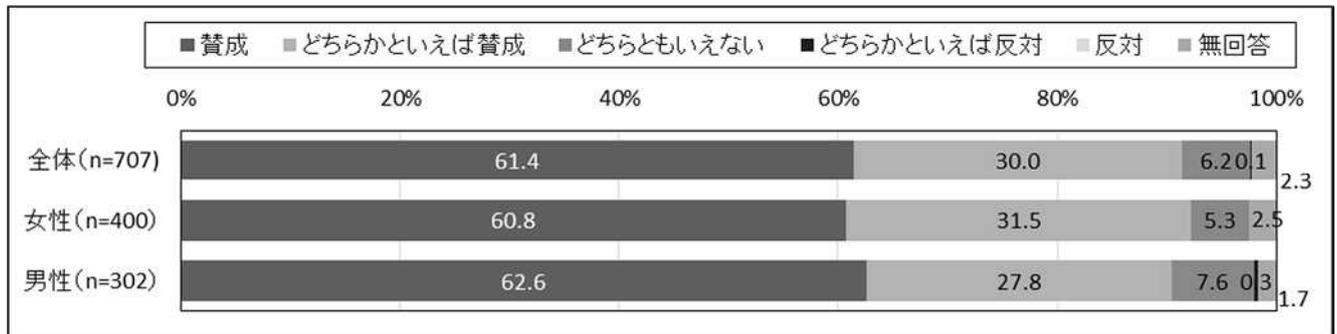


男女を問わず、生まれ持った個性・才能を可能な限り活かして育てた方がよい

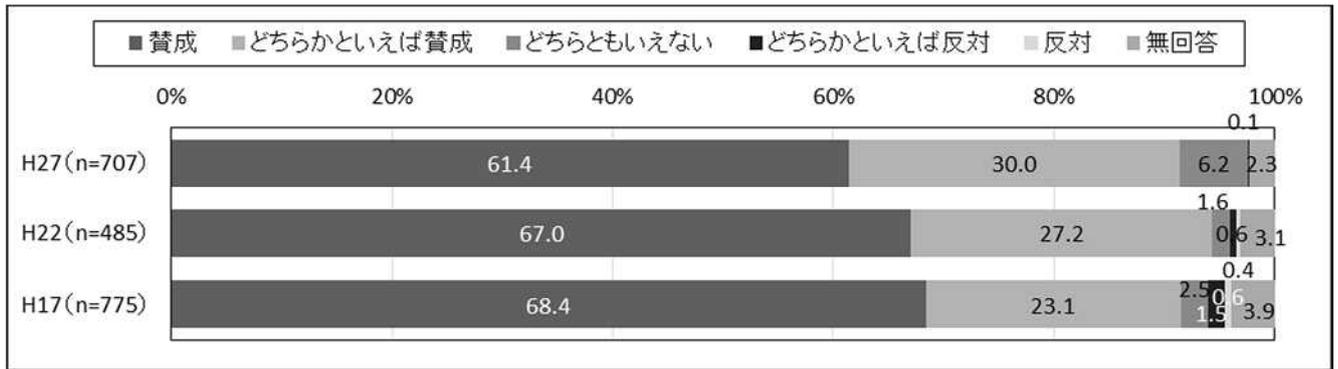
『賛成』が91.4%、「どちらともいえない」6.2%、『反対』0.1%となっています。

性別で見ると、『賛成』と回答した割合は、女性・男性ともに90%以上を占め、性別による大きな差異は見られません。

性別・年代別で見ると、『賛成』と回答した割合は、女性・男性ともにほとんどの年代において90%以上と高くなっていますが、女性の「70歳以上」80.4%、男性の「40歳代」83.3%、「30歳代」87.5%と若干低くなっています。



H17 と H22、H27 の調査を比較すると、『賛成』と回答した割合は、H27 (91.4%) が H22 (94.2%) より 2.8 ポイント低く、H17 (91.5%) より 0.1 ポイント低くなっています。

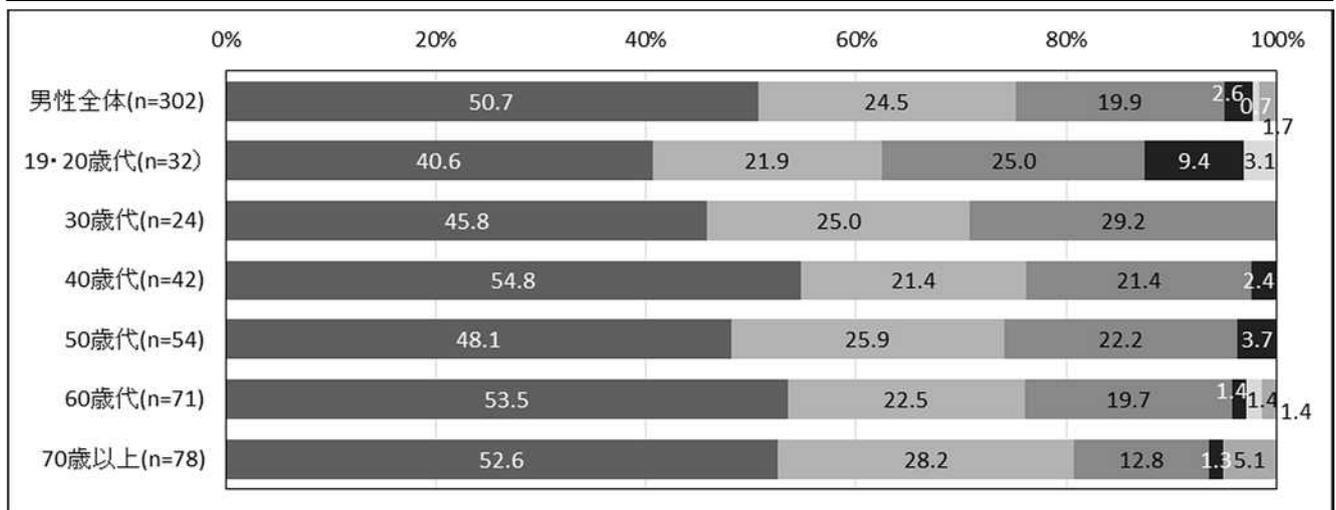
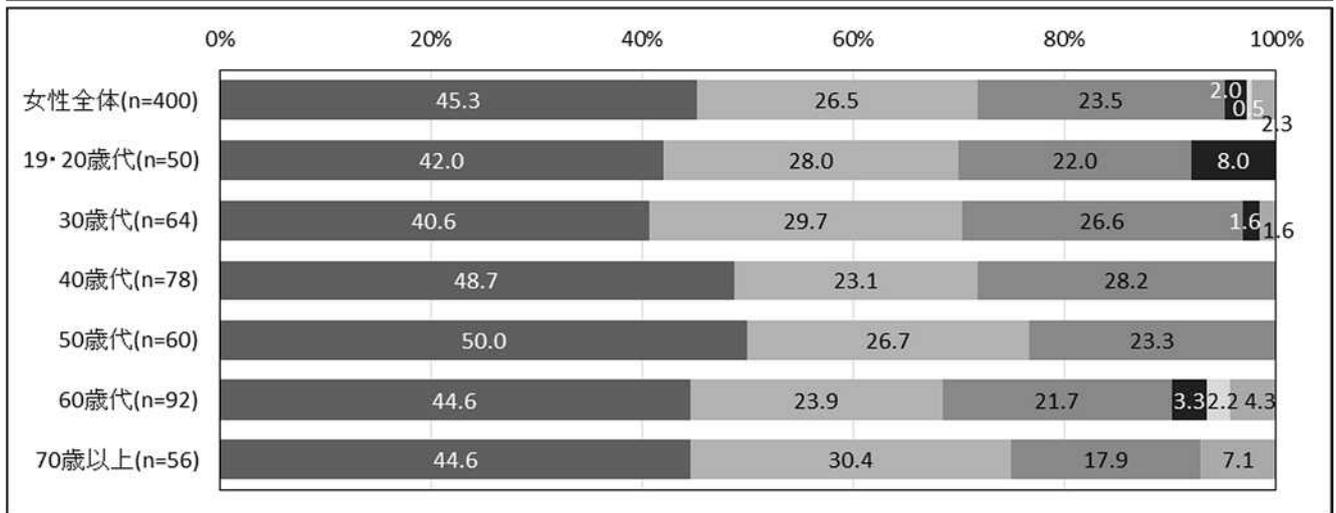
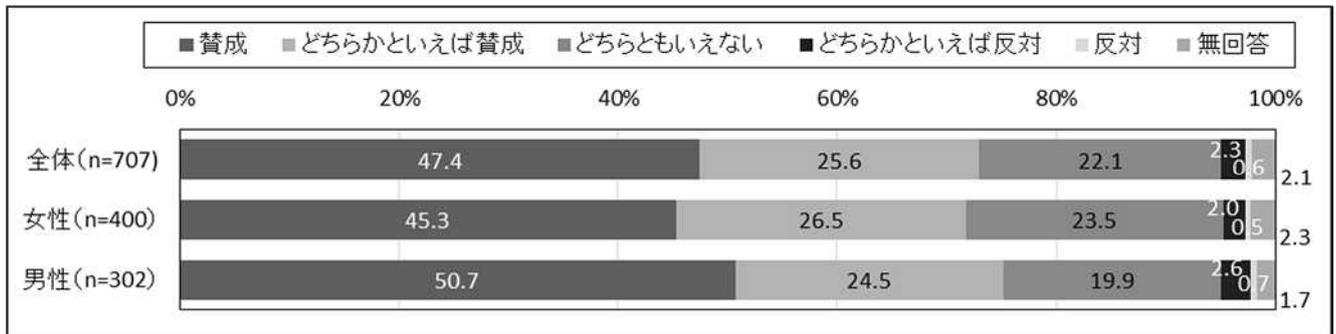


女の子も男の子も同じ程度の学歴を持たせた方がよい

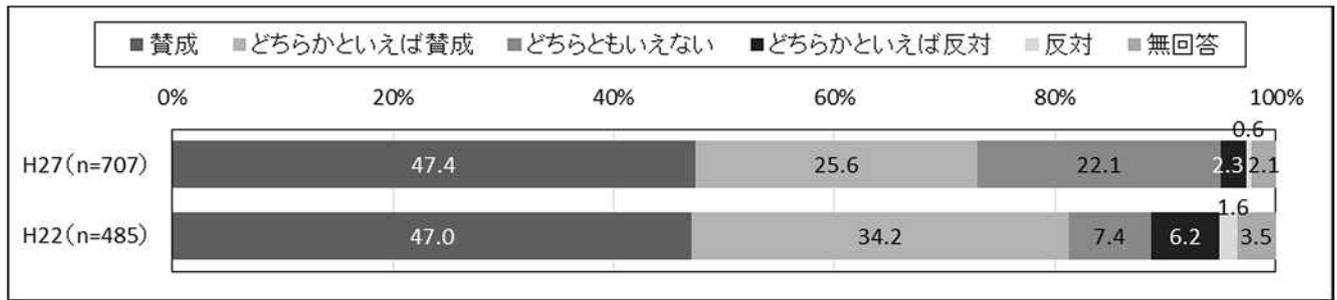
『賛成』が73.0%、「どちらともいえない」22.1%、『反対』2.9%となっています。

性別で見ると、『賛成』と回答した割合は、男性(75.2%)が女性(71.8%)より3.4ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、『賛成』と回答した割合は、女性・男性ともにほとんどの年代で70%以上となっていますが、女性の「60歳代」68.5%、男性の「19・20歳代」62.5%で若干低くなっています。



H22 と H27 の調査を比較すると、『賛成』と回答した割合は、H27(73.0%)が H22(81.2%)より 8.2 ポイント低くなっています。

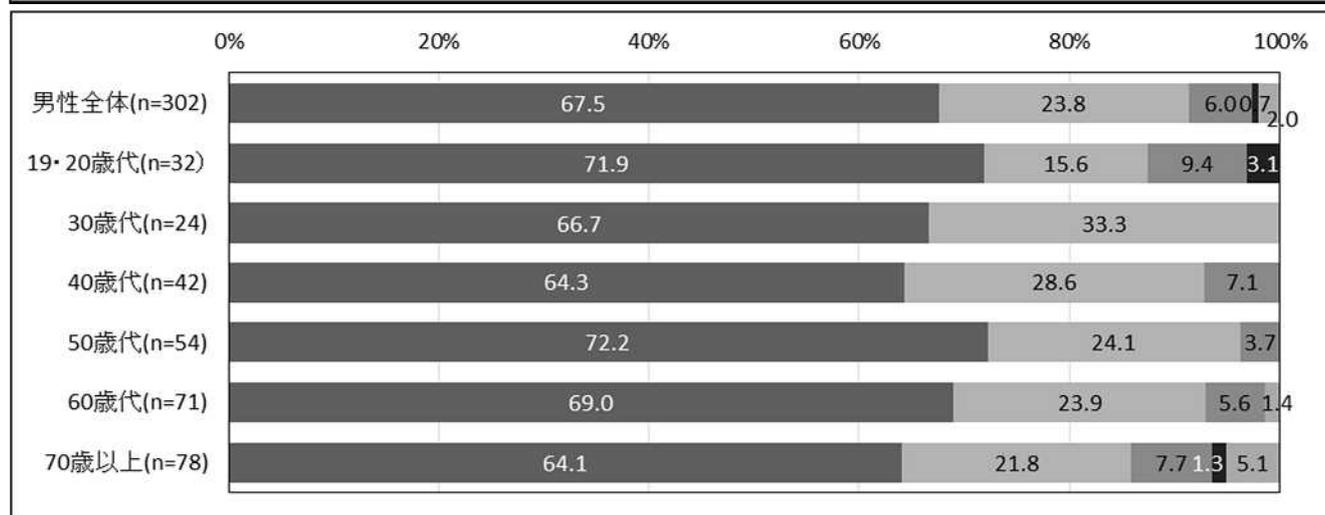
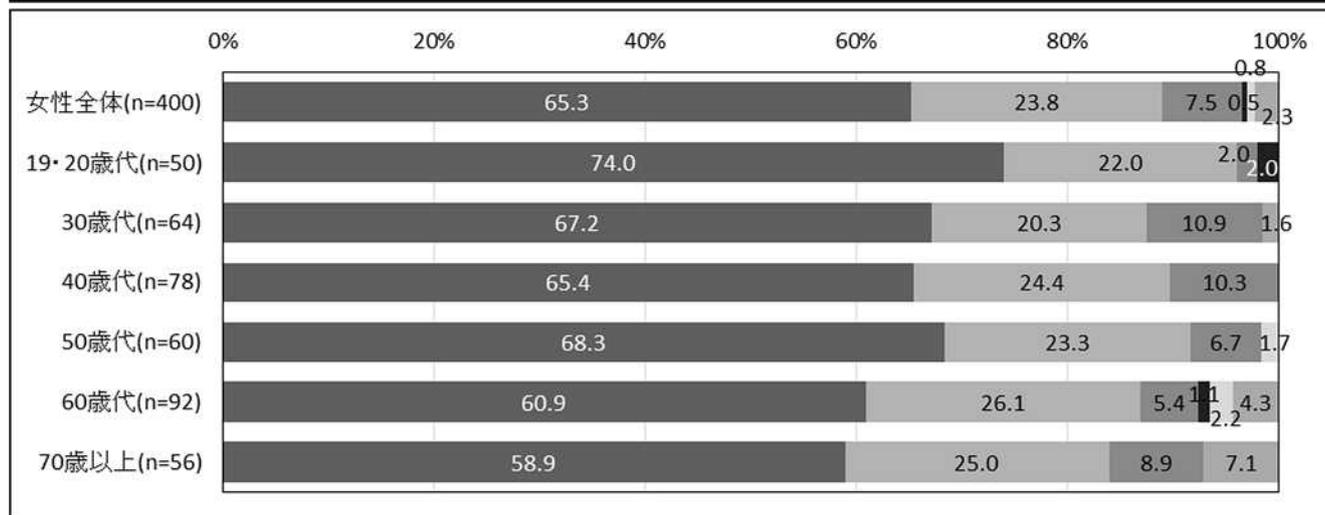
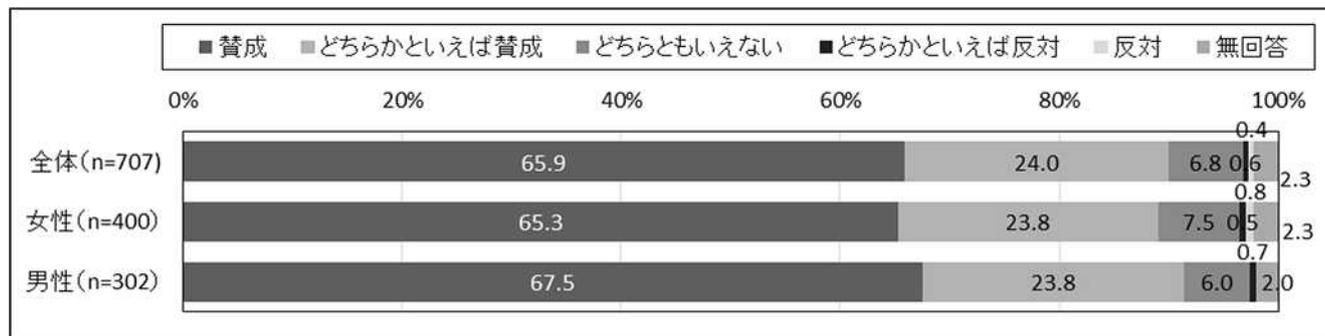


男女を問わず、好きな仕事を選ばせた方がよい

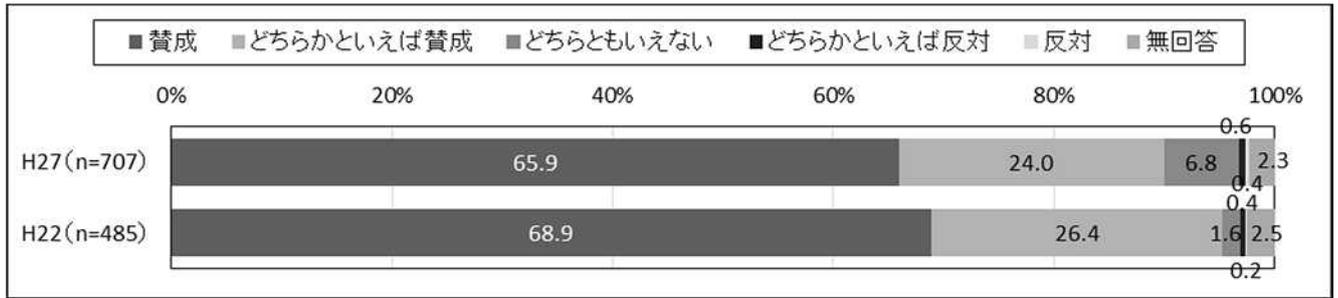
『賛成』が 89.9%、「どちらともいえない」6.8%、『反対』1.0%となっています。

性別で見ると、『賛成』と回答した割合は、女性・男性ともに 90%程度となり、男性(91.3%)が女性(89.1%)より 2.2 ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、『賛成』と回答した割合は、女性・男性ともにほとんどの年代において 90%程度と高くなっており、特に女性の「19・20 歳代」96.0%、男性の「30 歳代」100%、「50 歳代」96.3%と非常に高くなっています。



H22 と H27 の調査を比較すると、『賛成』と回答した割合は、H27(89.9%)が H22(95.3%)より 5.4 ポイント低くなっています。

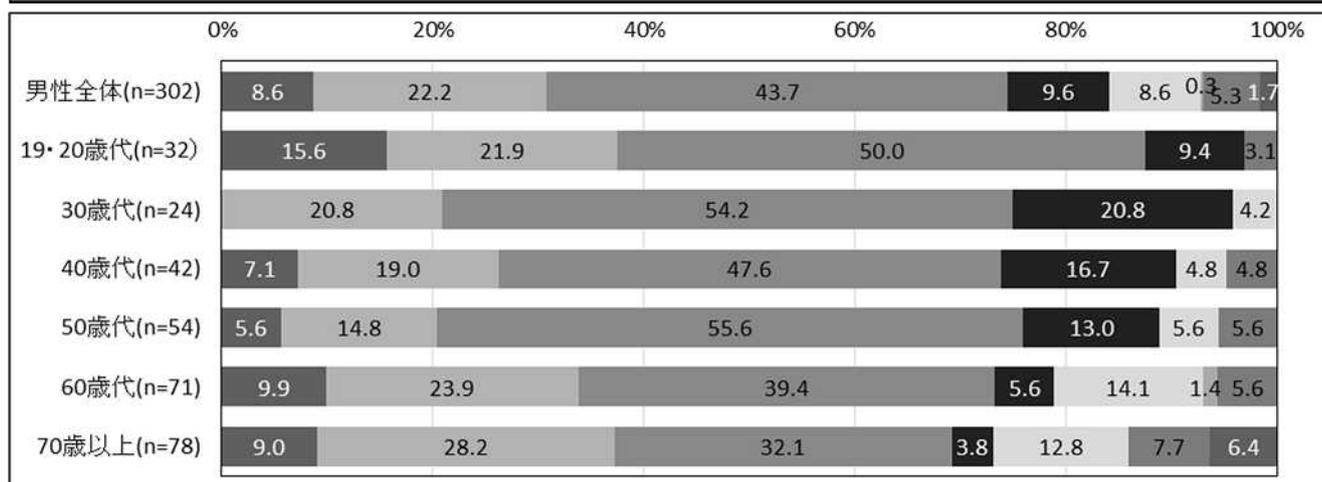
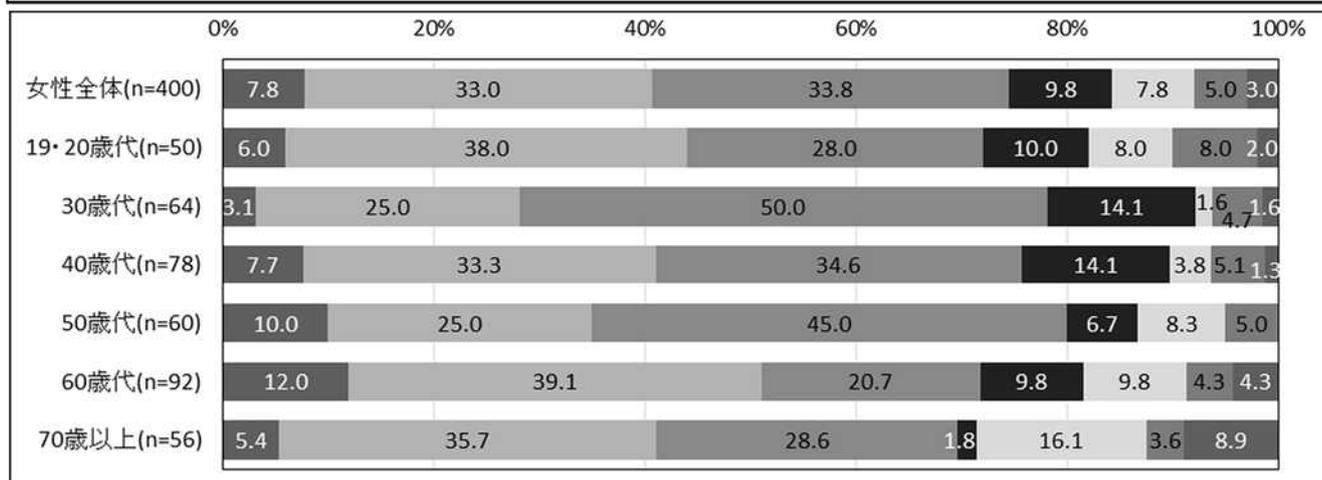
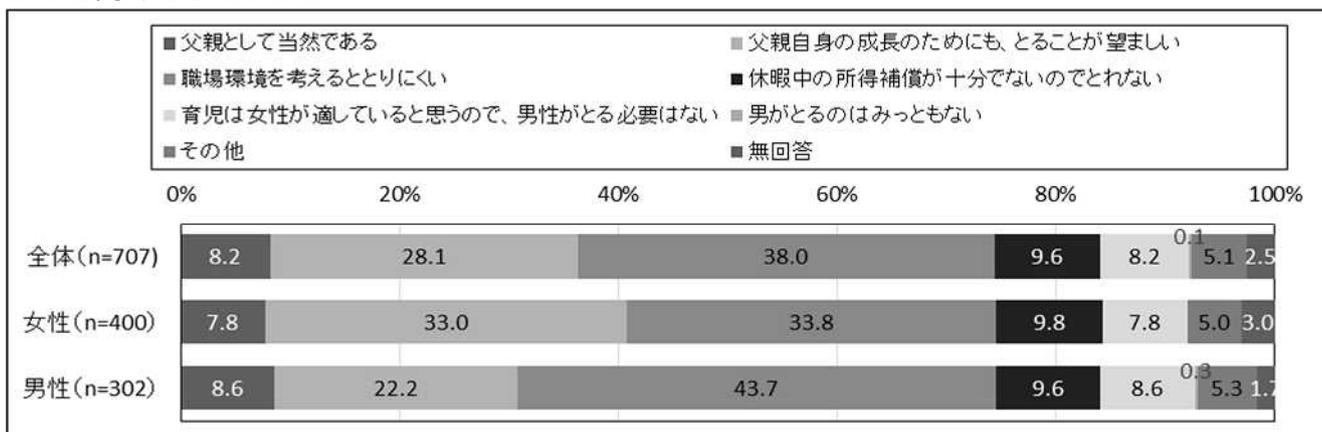


(15) あなたは、男性が「育児休暇」をとることについてどう思いますか。

「職場環境を考えるととりにくい」が38.0%で最も高く、次いで「父親自身の成長のためにも、とることが望ましい」28.1%、「休暇中の所得補償が十分でないのとれない」9.6%の順となっています。

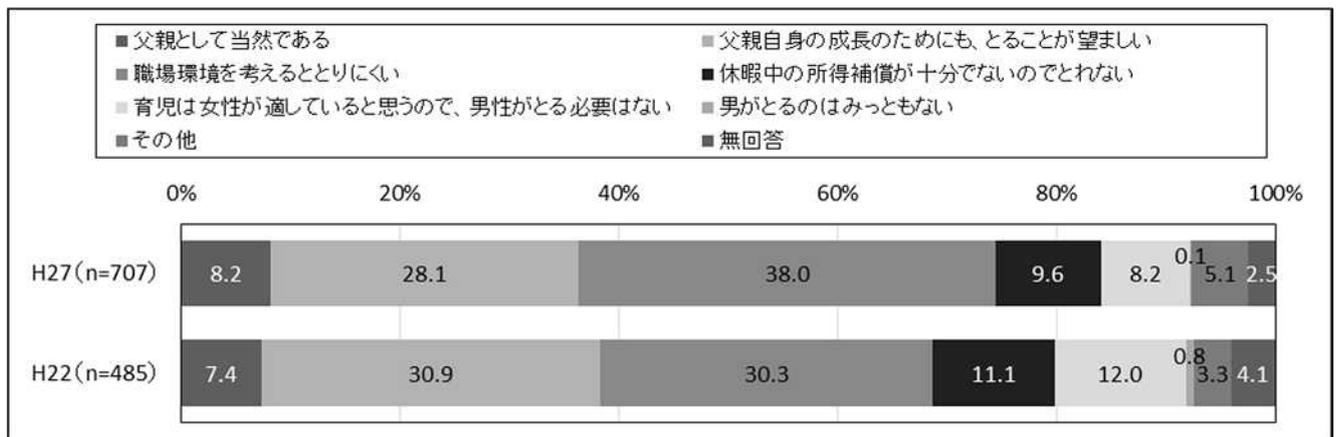
性別で見ると、女性で「父親自身の成長のためにも、とることが望ましい」と回答した割合は、女性(33.0%)が男性(22.2%)より10.8ポイント高く、「職場環境を考えるととりにくい」と回答した割合は、男性(43.7%)が女性(33.8%)より9.9ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「職場環境を考えるととりにくい」と回答した割合は、女性・男性ともに「30歳代」「50歳代」で50%程度と高くなっています。また、「休暇中の所得補償が十分でないのとれない」と回答した割合は、女性・男性ともに「30歳代」から「40歳代」が他の年代よりも高くなっています



| 性別 | 年代 | その他 |
|----|----------|--|
| 女性 | 19・20 歳代 | 男性・女性関係なく取れる人がとる方がよい |
| 女性 | 19・20 歳代 | とても良い事であると思うが、詳しくはその家庭の事情によると思う。 |
| 女性 | 30 歳代 | 休暇ではなく短時間勤務などによる育児参加 |
| 女性 | 30 歳代 | それぞれの家庭による。母親が育児休暇が十分にとれない時は、父親が育児のために休みをとることは当然であると思うが、同時にとる必要があるか疑問です。どちらが育児休暇をとるかは家族で話し合っ決めてほしいと思います。 |
| 女性 | 40 歳代 | 母親に育児能力が低ければ父親も育児休暇を取る必要がある |
| 女性 | 40 歳代 | 男性が家事なども出来るのであれば積極的にとってもらおうと女性も助かる |
| 女性 | 40 歳代 | 必要ならば取得した方がよいと思う |
| 女性 | 40 歳代 | 仕事に支障がなくとれるかどうかで、とればとても良いと思う。とる必要がある状況にある人はとても良いと思う。 |
| 女性 | 60 歳代 | 妻と夫の仕事次第 |
| 女性 | 60 歳代 | 環境に応じて |
| 女性 | 70 歳以上 | 2 人目の時は父親も必要と思う |
| 男性 | 40 歳代 | 取りたければとればよい |
| 男性 | 60 歳代 | 父・母の都合で考えてよい |
| 男性 | 60 歳代 | ケースバイケースで当事者同士の相談で決めるべき問題 |
| 男性 | 60 歳代 | 育児休暇がとれる職場ばかりではありません。とれない職場だってあるんですよ。 |
| 男性 | 70 歳以上 | とる必要性の判断 |
| 男性 | 70 歳以上 | 父親・母親ともに育児すべきである。 |
| 男性 | 70 歳以上 | 共働きをしなければ結婚生活が成立しない。社会・賃金制度を見直す社会にすべきだ。育児については、夫婦で話し合い出来る人がやれば良い。 |

H22 と H27 の調査を比較すると、「職場環境を考えるととりにくい」と回答した割合は、H27 (38.0%) が H22 (30.3%) より 7.7 ポイント高くなっており、「育児は女性が適していると思うので、男性がとる必要はない」と回答した割合は、H27 (8.2%) が H22 (12.0%) より 3.8 ポイント低くなっています。

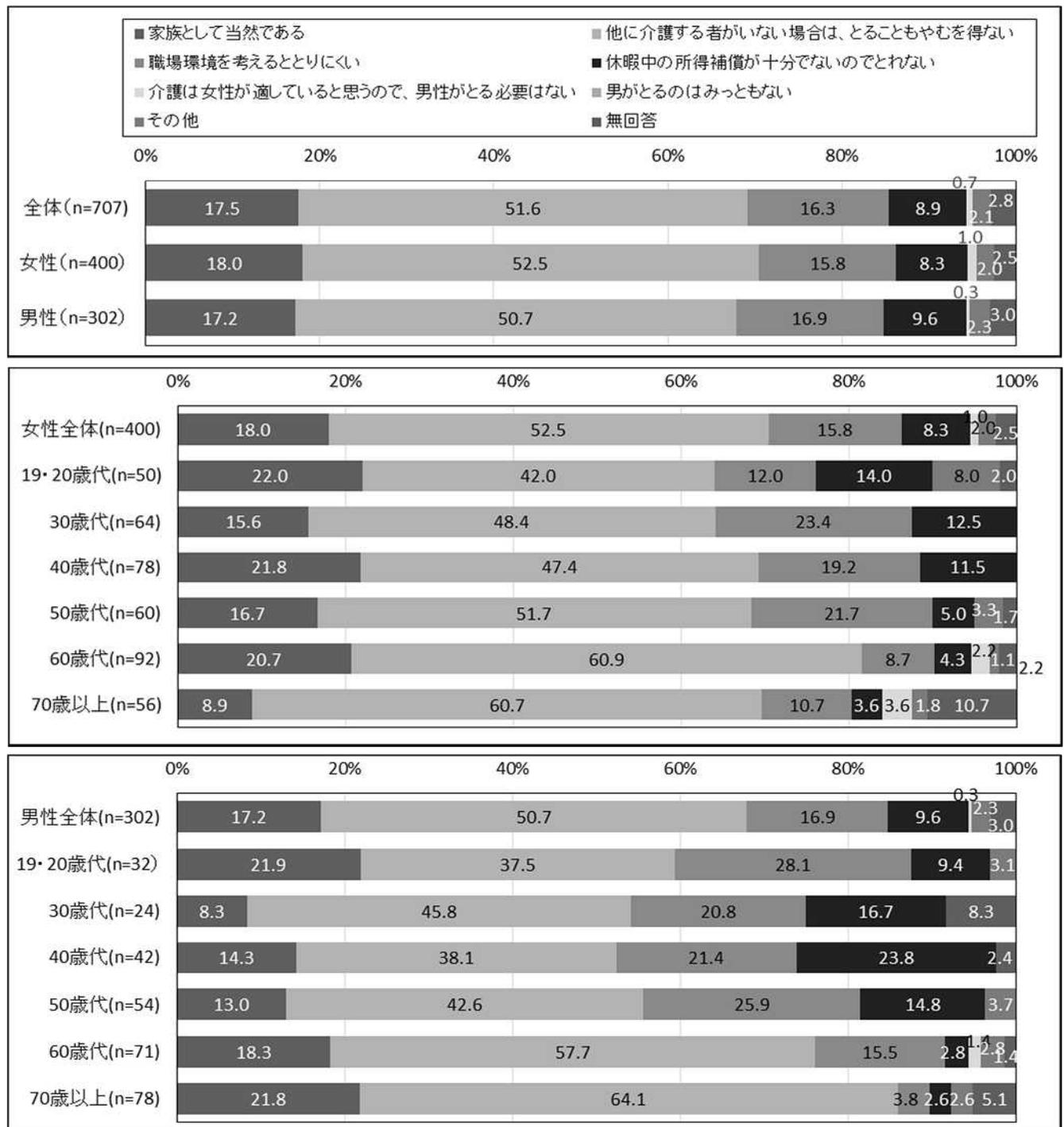


(16) あなたは、男性が「介護休暇」をとることについてどう思いますか。

「他に介護する者がいない場合は、とることもやむを得ない」が51.6%で最も高く、次いで「家族として当然である」17.5%、「職場環境を考えるととりにくい」16.3%の順となっています。

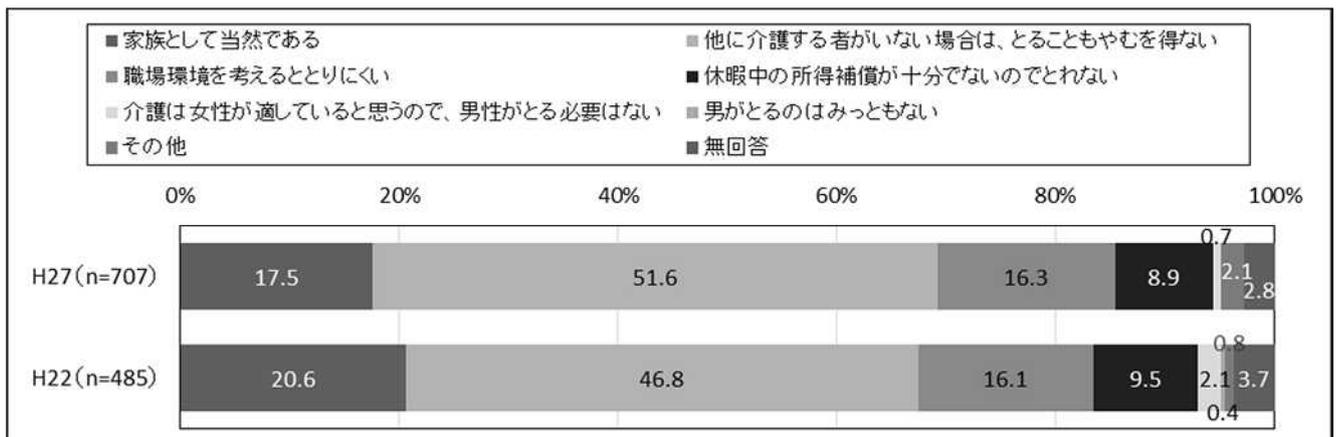
性別による大きな差異は見られません。

性別・年代別で見ると、「職場環境を考えるととりにくい」と回答した割合は、女性の「30歳代」23.4%、「50歳代」21.7%、男性の「19・20歳代」28.1%、「50歳代」25.9%で高くなっています。また、「休暇中の所得補償が十分でないのとれない」と回答した割合は、女性の「19・20歳代」14.0%、男性の「40歳代」23.8%、「30歳代」16.7%と高くなっています。



| 性別 | 年代 | その他 |
|----|----------|----------------------------------|
| 女性 | 19・20 歳代 | 男性・女性関係なくとれてしかるべき |
| 女性 | 19・20 歳代 | とても良い事であると思うが、詳しくはその家庭の事情によると思う。 |
| 女性 | 50 歳代 | 家族で協力する。休むまでもない。 |
| 女性 | 50 歳代 | その家庭状況で違うので答えにくい |
| 男性 | 60 歳代 | とれない職場なので考えられない |
| 男性 | 70 歳以上 | とる必要性の判断しだい |

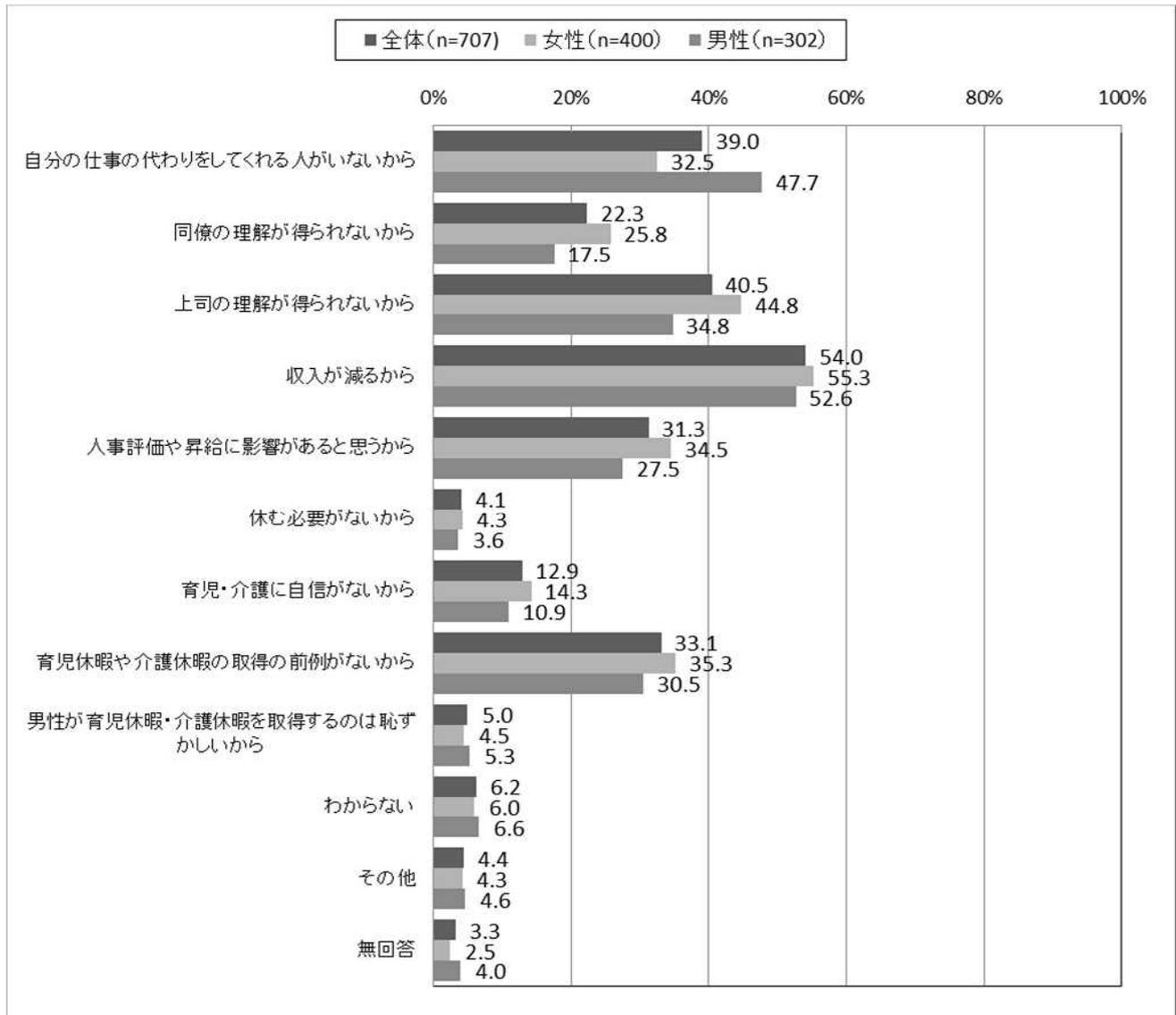
H22 と H27 の調査を比較すると、「他に介護する者がいない場合は、とることもやむを得ない」と回答した割合は、H27 (51.6%) が H22 (46.8%) より 4.8 ポイント高く、「家族として当然である」と回答した割合は、H27 (17.5%) が H22 (20.6%) より 3.1 ポイント低くなっています。また、H27 は、「男がとるのはみっともない」と回答した人はいません。



(17) あなたは、男性の「育児休暇」や「介護休暇」の取得が進まない理由は何だと思いますか。(は3つまで)

「収入が減るから」が54.0%で最も高く、次いで「上司の理解が得られないから」40.5%、「自分の仕事の代わりにしてくれる人がいないから」39.0%の順となっています。

性別で見ると、「上司の理解が得られないから」や「同僚の理解が得られないから」と回答した割合は、女性が男性より約10%高く、「自分の仕事の代わりにしてくれる人がいないから」と回答した割合は、男性(47.7%)が女性(32.5%)より15.2ポイント高くなっています。



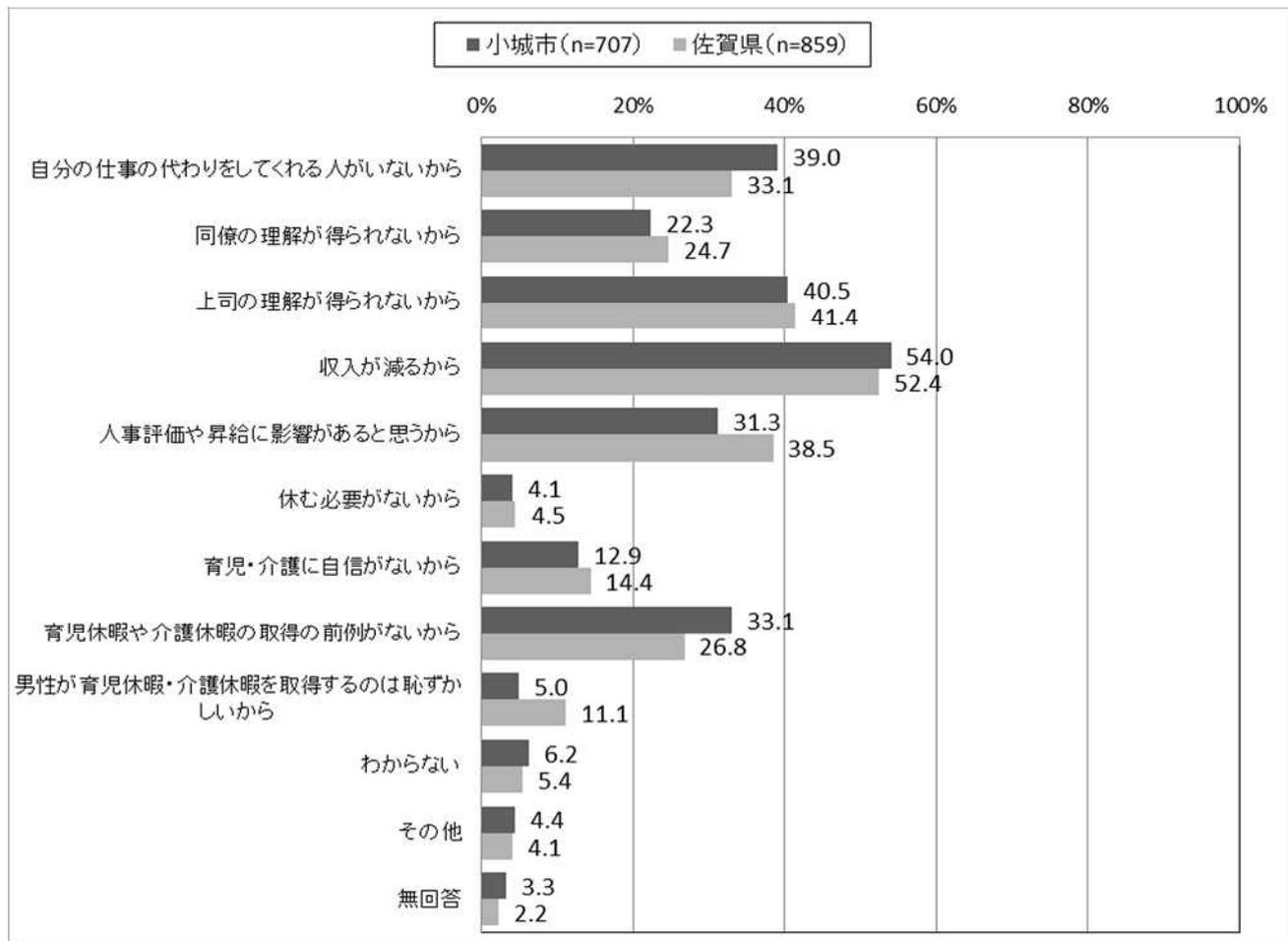
| 性別 | 年代 | その他 |
|----|----------|--|
| 女性 | 19・20 歳代 | すべてあてはまる |
| 女性 | 19・20 歳代 | 女性しか子どもを産めない |
| 女性 | 19・20 歳代 | そもそも育児・介護に対する興味が薄いから |
| 女性 | 30 歳代 | 環境がそれを許さないから |
| 女性 | 30 歳代 | 取得しにくい環境がある |
| 女性 | 40 歳代 | 社則等で義務化されていないから |
| 女性 | 40 歳代 | 必要にせまられてとる休暇とは違い同僚に負担をかけてまでは...という責任感があるのでは。 |
| 女性 | 40 歳代 | 男性自身に取得する意義が見い出せないのでは。極端に言えばとる必要がないと思っているからでは。 |
| 女性 | 50 歳代 | 職場環境 |
| 女性 | 50 歳代 | 育も介護もあたりまえ、 休暇とせんでもいい |
| 女性 | 50 歳代 | もっと社会や地域の助けが欲しい |
| 女性 | 70 歳以上 | 育児休暇は 2 人目の時は必要と思いますが、介護休暇は話合、助け合いのため取得かと思う |
| 男性 | 19・20 歳代 | 会社の育児休暇・介護休暇という理解がない |
| 男性 | 19・20 歳代 | 社会的にあまり認識されていないから |
| 男性 | 30 歳代 | 休暇制度はあっても取りやすいような配慮がない。 |
| 男性 | 30 歳代 | 保育園の空きがなく共働きすることができない。 |
| 男性 | 40 歳代 | 一般化するためには、企業はその分社員を増やさなければならず非現実的と思う。男性の育児休暇を言うのはたやすいが、経営者からすれば大変なことである。 |
| 男性 | 40 歳代 | ハラスメントが認識されるようになったように育児休暇・介護休暇を取ることが認識されるように行政・マスコミが社会に働きかけるべき。 |
| 男性 | 50 歳代 | 周りの理解が得られない |
| 男性 | 50 歳代 | 会社の理解がない |
| 男性 | 60 歳代 | 現状会社にあてはまる休暇規定がないから |
| 男性 | 60 歳代 | 職場にそのような制度がない |
| 男性 | 70 歳以上 | とる必要性の判断 |
| 男性 | 70 歳以上 | 病気休暇と同等に |

性別・年代別で見ると、「収入が減るから」と回答した割合は、女性・男性ともにほとんどの年代で高くなっていますが、女性の「60歳代以上」や男性の「70歳以上」で他の年代より15%程度低くなっています。また、「育児休暇や介護休暇の取得の前例がないから」と回答した割合は、女性の「30歳代」46.9%、男性の「19・20歳代」46.9%で高くなっています。

| 選択項目 | 女性全体 (n=400) | 19・20歳代 (n=50) | 30歳代 (n=64) | 40歳代 (n=78) | 50歳代 (n=60) | 60歳代 (n=92) | 70歳以上 (n=56) |
|----------------------------|-----------------|-------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|-----------------|
| 自分の仕事の代わりにしてくれる人がいないから | 32.5 | 32.0 | 32.8 | 34.6 | 38.3 | 34.8 | 19.6 |
| 同僚の理解が得られないから | 25.8 | 20.0 | 26.6 | 23.1 | 23.3 | 27.2 | 33.9 |
| 上司の理解が得られないから | 44.8 | 42.0 | 46.9 | 52.6 | 45.0 | 50.0 | 25.0 |
| 収入が減るから | 55.3 | 62.0 | 65.6 | 59.0 | 70.0 | 45.7 | 32.1 |
| 人事評価や昇給に影響があると思うから | 34.5 | 36.0 | 37.5 | 41.0 | 26.7 | 32.6 | 32.1 |
| 休む必要がないから | 4.3 | 4.0 | 6.3 | 6.4 | 1.7 | 2.2 | 5.4 |
| 育児・介護に自信がないから | 14.3 | 22.0 | 9.4 | 15.4 | 16.7 | 10.9 | 14.3 |
| 育児休暇や介護休暇の取得の前例がないから | 35.3 | 28.0 | 46.9 | 38.5 | 40.0 | 31.5 | 25.0 |
| 男性が育児休暇・介護休暇を取得するのは恥ずかしいから | 4.5 | 6.0 | 1.6 | 3.8 | 3.3 | 6.5 | 5.4 |
| わからない | 6.0 | 6.0 | 1.6 | 0.0 | 3.3 | 9.8 | 16.1 |
| その他 | 4.3 | 8.0 | 3.1 | 3.8 | 6.7 | 1.1 | 5.4 |
| 無回答 | 2.5 | 0.0 | 0.0 | 1.3 | 0.0 | 3.3 | 10.7 |

| 選択項目 | 男性全体 (n=302) | 19・20歳代 (n=32) | 30歳代 (n=24) | 40歳代 (n=42) | 50歳代 (n=54) | 60歳代 (n=71) | 70歳以上 (n=78) |
|----------------------------|-----------------|-------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|-----------------|
| 自分の仕事の代わりにしてくれる人がいないから | 47.7 | 43.8 | 58.3 | 61.9 | 42.6 | 43.7 | 46.2 |
| 同僚の理解が得られないから | 17.5 | 21.9 | 16.7 | 4.8 | 18.5 | 21.1 | 19.2 |
| 上司の理解が得られないから | 34.8 | 40.6 | 25.0 | 23.8 | 33.3 | 38.0 | 39.7 |
| 収入が減るから | 52.6 | 53.1 | 58.3 | 69.0 | 59.3 | 53.5 | 37.2 |
| 人事評価や昇給に影響があると思うから | 27.5 | 21.9 | 29.2 | 38.1 | 20.4 | 28.2 | 28.2 |
| 休む必要がないから | 3.6 | 3.1 | 4.2 | 0.0 | 0.0 | 2.8 | 9.0 |
| 育児・介護に自信がないから | 10.9 | 6.3 | 4.2 | 7.1 | 11.1 | 11.3 | 16.7 |
| 育児休暇や介護休暇の取得の前例がないから | 30.5 | 46.9 | 29.2 | 38.1 | 38.9 | 25.4 | 19.2 |
| 男性が育児休暇・介護休暇を取得するのは恥ずかしいから | 5.3 | 6.3 | 0.0 | 0.0 | 7.4 | 5.6 | 7.7 |
| わからない | 6.6 | 3.1 | 8.3 | 2.4 | 9.3 | 7.0 | 7.7 |
| その他 | 4.6 | 6.3 | 8.3 | 4.8 | 5.6 | 4.2 | 2.6 |
| 無回答 | 4.0 | 3.1 | 4.2 | 2.4 | 1.9 | 2.8 | 6.4 |

H26 佐賀県の調査との比較では、「育児休暇や介護休暇の取得の前例がないから」や「自分の仕事の代わりにしてくれる人がいないから」と回答した割合は、小城市が佐賀県より6ポイント程度高く、「人事評価や昇給に影響があると思うから」や「男性が育児休暇・介護休暇を取得するのは恥ずかしいから」と回答した割合は、小城市が佐賀県より6ポイント以上低くなっています。



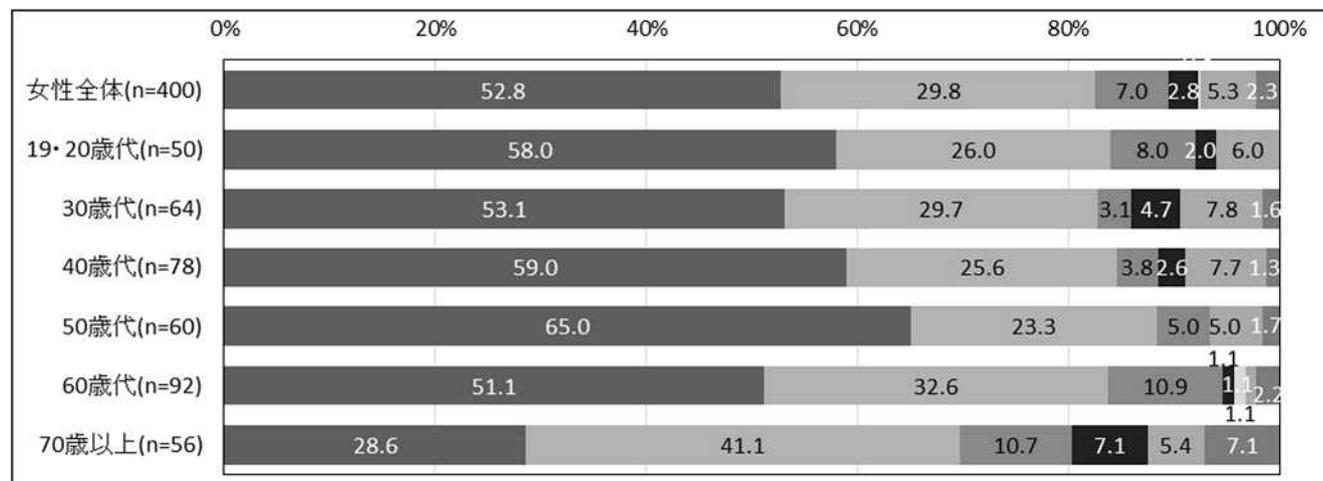
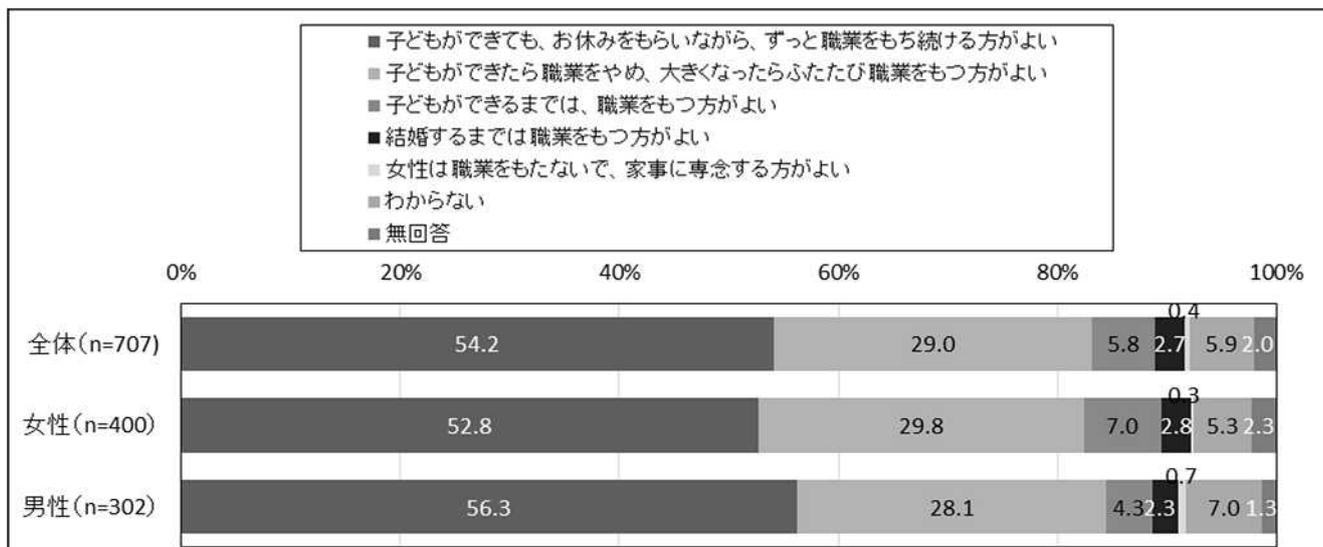
4. 働くことについて

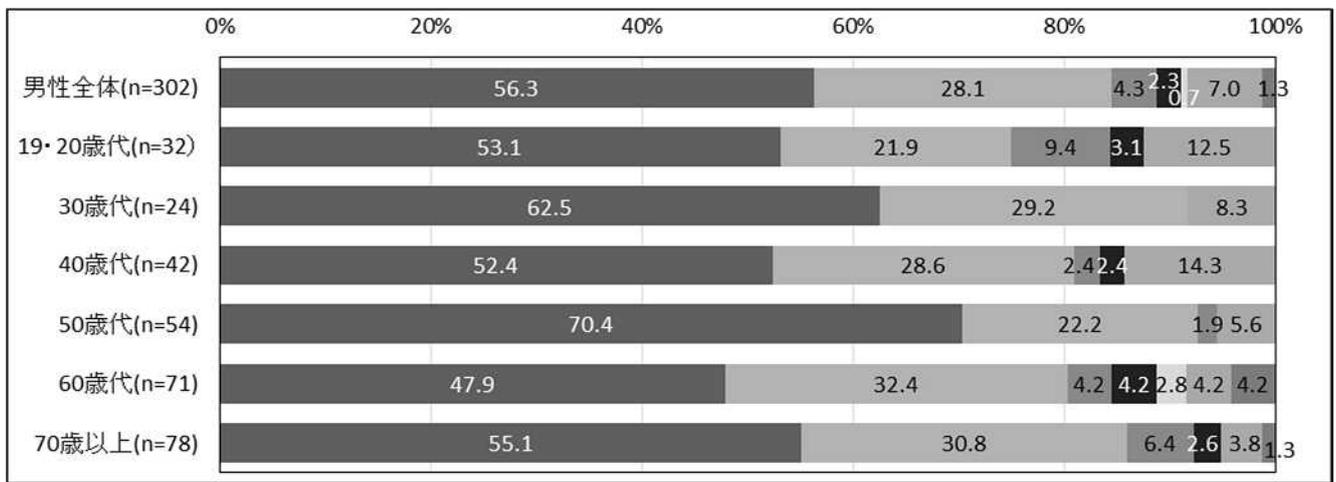
(18) あなたは、女性が職業を持つことについて、どのように考えますか。

「子どもができて、お休みをもらいながら、ずっと職業をもち続ける方がよい」が54.2%で最も高く、次いで「子どもができたら職業をやめ、大きくなったらふたたび職業をもつ方がよい」29.0%、「わからない」5.8%の順となっています。

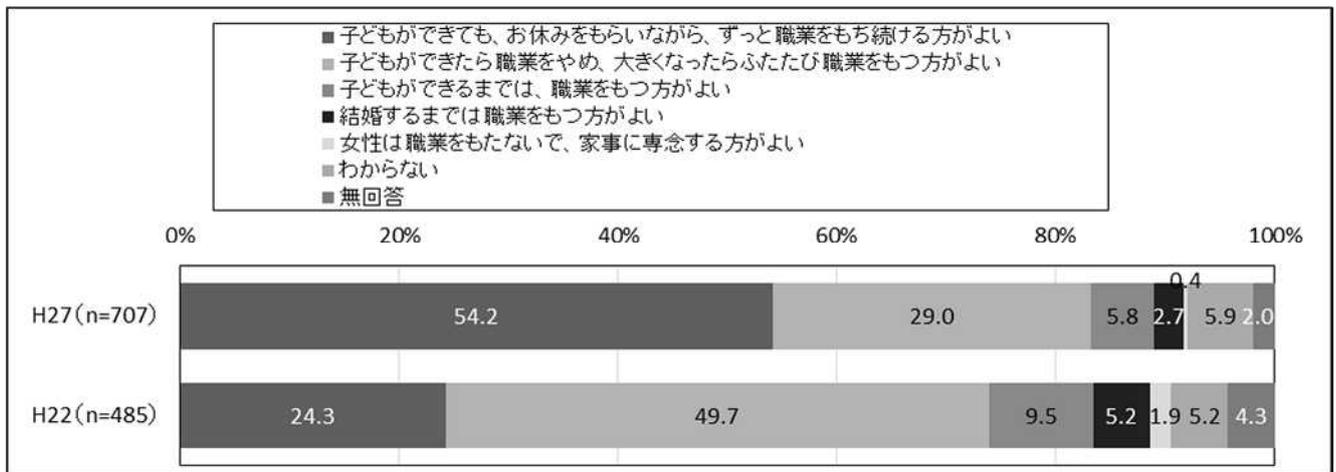
性別で見ると、「子どもができて、お休みをもらいながら、ずっと職業をもち続ける方がよい」と回答した割合は、男性(56.3%)が女性(52.8%)より3.5ポイント高く、「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」と回答した割合は、女性(7.0%)が男性(4.3%)より2.7ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「子どもができて、お休みをもらいながら、ずっと職業をもち続ける方がよい」と回答した割合は、女性・男性ともに「50歳代」で65%以上と最も高くなっています。また、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と回答した割合は、女性の「70歳以上」が他の性別・年代よりも高くなっています。





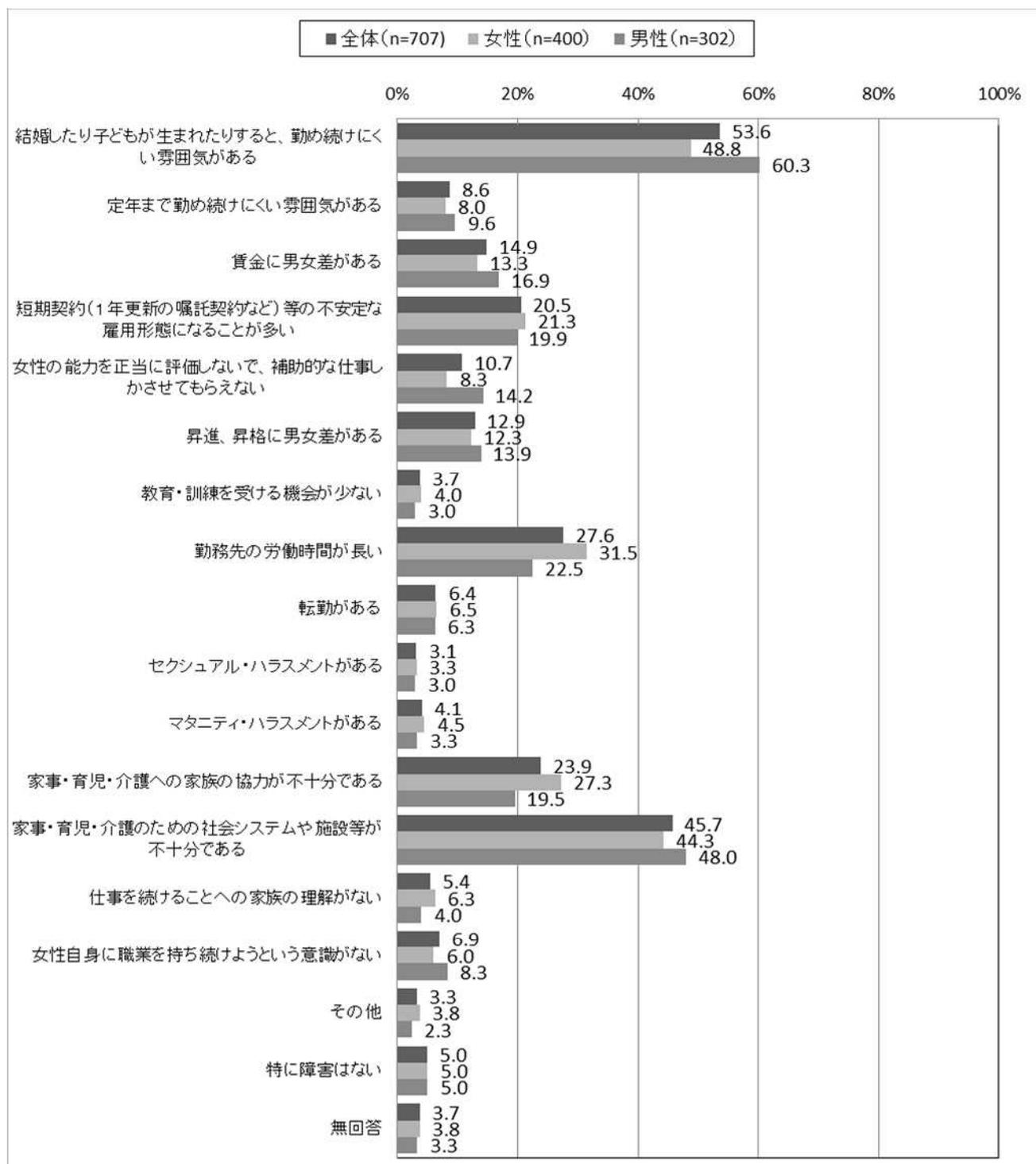
H22 と H27 の調査を比較すると、「子どもができて、お休みをもらいながら、ずっと職業をもち続ける方がよい」と回答した割合は、H27 (54.2%) が H22 (24.3%) より 29.9 ポイント高く、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったらふたたび職業をもつ方がよい」と回答した割合は、H27 (29.0%) が H22 (49.7%) より 20.7 ポイント低くなっています。



(19) あなたは、女性が仕事を続けていくうえで、特に障害になっていることは何だと思いま
すか。(は3つまで)

「結婚したり子どもが生まれたりすると、勤め続けにくい雰囲気がある」が53.6%で最も高く、
次いで「家事・育児・介護のための社会システムや施設等が不十分である」45.7%、「勤務先の労
働時間が長い」27.6%の順となっています。

性別で見ると、「勤務先の労働時間が長い」と回答した割合は、女性(31.5%)が男性(22.5%)
より9ポイント高く、「家事・育児・介護への家族の協力が不十分である」と回答した割合は、女
性(27.3%)が男性(19.5%)より7.8ポイント高くなっています。一方、「結婚したり子ども
が生まれたりすると、勤め続けにくい雰囲気がある」と回答した割合は、男性(60.3%)が女性
(48.8%)より11.5ポイント高くなっています。



| 性別 | 年代 | その他 |
|----|----------|--|
| 女性 | 19・20 歳代 | 子どもの病院などで休む回数が増えるのが休みにくい。 |
| 女性 | 30 歳代 | 子どもの病気・行事等お休みがとりづらい。また、急なお休み（台風等）になった時に預ける場所がない。 |
| 女性 | 30 歳代 | 保育料が高い |
| 女性 | 30 歳代 | 中小企業では子育てとの両立が難しく（産休などもないところもあり）子どもを持った人にしか分からない現実があり、仕事をあきらめるしかない |
| 女性 | 30 歳代 | 仕事と家庭の両立が難しい |
| 女性 | 30 歳代 | 保育料または託児料が高い |
| 女性 | 40 歳代 | 子どもが病気になった時、早退した時に仕事を休みづらい。 |
| 女性 | 50 歳代 | 育児・介護の施設が少なくまた入所出来ても病気・ケガ・入院に対処してくれない為、仕事を持っていても休みがとりづらく、また家族に小児・高齢者がいると就職・面接の際の妨げになることもある |
| 女性 | 50 歳代 | あまえ |
| 女性 | 50 歳代 | 家庭・子どもがいる状況等での会社の理解及び助けが欲しい |
| 女性 | 60 歳代 | 個々に障害になる理由は違うと思う |
| 女性 | 60 歳代 | 女性が男性と同等になるべきではない方が望ましいと思う一人です。 |
| 男性 | 19・20 歳代 | 家事の比重がどうしても女性の方が高い |
| 男性 | 50 歳代 | 民間企業には、行政にある産休等の温かい職務規定がない。 |
| 男性 | 60 歳代 | 法整備や会社経営者の意識の改革の遅れ |

性別・年代別で見ると、「結婚したり子どもが生まれたりすると、勤め続けにくい雰囲気がある」と回答した割合は、女性・男性ともにほとんどの年代で高く、特に、女性の「19・20 歳代」66.0%、男性の「40 歳代」66.7%と高くなっています。また、「短期契約（1年更新の嘱託契約など）等の不安定な雇用形態になることが多い」と回答した割合は、女性の「50 歳代」33.3%、男性の「60 歳代」28.2%で高くなっています。

| 選択項目 | 女性全体 (n=400) | 19・20歳代 (n=50) | 30歳代 (n=64) | 40歳代 (n=78) | 50歳代 (n=60) | 60歳代 (n=92) | 70歳以上 (n=56) |
|-------------------------------------|-----------------|-------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|-----------------|
| 結婚したり子どもが生まれたりすると、勤め続けにくい雰囲気がある | 48.8 | 66.0 | 54.7 | 47.4 | 50.0 | 45.7 | 32.1 |
| 定年まで勤め続けにくい雰囲気がある | 8.0 | 0.0 | 9.4 | 3.8 | 3.3 | 8.7 | 23.2 |
| 賃金に男女差がある | 13.3 | 20.0 | 12.5 | 15.4 | 10.0 | 13.0 | 8.9 |
| 短期契約（1年更新の嘱託契約など）等の不安定な雇用形態になることが多い | 21.3 | 14.0 | 23.4 | 21.8 | 33.3 | 19.6 | 14.3 |
| 女性の能力を正當に評価しないで、補助的な仕事しかさせてもらえない | 8.3 | 8.0 | 3.1 | 5.1 | 8.3 | 15.2 | 7.1 |
| 昇進、昇格に男女差がある | 12.3 | 16.0 | 4.7 | 16.7 | 10.0 | 13.0 | 12.5 |
| 教育・訓練を受ける機会が少ない | 4.0 | 4.0 | 3.1 | 0.0 | 1.7 | 7.6 | 7.1 |
| 勤務先の労働時間が長い | 31.5 | 30.0 | 29.7 | 30.8 | 41.7 | 32.6 | 23.2 |
| 転勤がある | 6.5 | 6.0 | 4.7 | 3.8 | 8.3 | 7.6 | 8.9 |
| セクシュアル・ハラスメントがある | 3.3 | 2.0 | 4.7 | 6.4 | 3.3 | 2.2 | 0.0 |
| マタニティ・ハラスメントがある | 4.5 | 2.0 | 7.8 | 7.7 | 3.3 | 4.3 | 0.0 |
| 家事・育児・介護への家族の協力が不十分である | 27.3 | 30.0 | 29.7 | 34.6 | 26.7 | 19.6 | 25.0 |
| 家事・育児・介護のための社会システムや施設等が不十分である | 44.3 | 40.0 | 50.0 | 47.4 | 48.3 | 42.4 | 35.7 |
| 仕事を続けることへの家族の理解がない | 6.3 | 2.0 | 6.3 | 9.0 | 6.7 | 4.3 | 8.9 |
| 女性自身に職業を持ち続けようという意識がない | 6.0 | 8.0 | 6.3 | 5.1 | 3.3 | 7.6 | 5.4 |
| その他 | 3.8 | 2.0 | 7.8 | 1.3 | 5.0 | 3.3 | 3.6 |
| 特に障害はない | 5.0 | 6.0 | 3.1 | 5.1 | 8.3 | 4.3 | 3.6 |
| 無回答 | 3.8 | 0.0 | 0.0 | 1.3 | 0.0 | 4.3 | 17.9 |

| 選択項目 | 男性全体 (n=302) | 19・20歳代 (n=32) | 30歳代 (n=24) | 40歳代 (n=42) | 50歳代 (n=54) | 60歳代 (n=71) | 70歳以上 (n=78) |
|---|-----------------|-------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|-----------------|
| 結婚したり子どもが生まれたりすると、 勤め続けにくい雰囲気がある | 60.3 | 53.1 | 62.5 | 66.7 | 55.6 | 59.2 | 62.8 |
| 定年まで勤め続けにくい雰囲気がある | 9.6 | 3.1 | 0.0 | 7.1 | 9.3 | 11.3 | 14.1 |
| 賃金に男女差がある | 16.9 | 18.8 | 12.5 | 19.0 | 22.2 | 15.5 | 14.1 |
| 短期契約(1年更新の嘱託契約など) 等の不安定な雇用形態になることが多い | 19.9 | 18.8 | 25.0 | 11.9 | 13.0 | 28.2 | 20.5 |
| 女性の能力を正當に評価しないで、補 助的な仕事しかさせてもらえない | 14.2 | 6.3 | 4.2 | 11.9 | 11.1 | 22.5 | 16.7 |
| 昇進、昇格に男女差がある | 13.9 | 15.6 | 4.2 | 11.9 | 22.2 | 9.9 | 14.1 |
| 教育・訓練を受ける機会が少ない | 3.0 | 6.3 | 0.0 | 0.0 | 1.9 | 2.8 | 5.1 |
| 勤務先の労働時間が長い | 22.5 | 28.1 | 25.0 | 16.7 | 29.6 | 25.4 | 15.4 |
| 転勤がある | 6.3 | 9.4 | 4.2 | 9.5 | 5.6 | 2.8 | 7.7 |
| セクシュアル・ハラスメントがある | 3.0 | 12.5 | 0.0 | 2.4 | 1.9 | 2.8 | 1.3 |
| マタニティ・ハラスメントがある | 3.3 | 6.3 | 4.2 | 0.0 | 3.7 | 2.8 | 2.6 |
| 家事・育児・介護への家族の協力が 不十分である | 19.5 | 18.8 | 37.5 | 21.4 | 22.2 | 12.7 | 17.9 |
| 家事・育児・介護のための社会システ ムや施設等が不十分である | 48.0 | 34.4 | 41.7 | 57.1 | 50.0 | 47.9 | 50.0 |
| 仕事を続けることへの家族の理解が ない | 4.0 | 0.0 | 0.0 | 4.8 | 3.7 | 8.5 | 2.6 |
| 女性自身に職業を持ち続けようという 意識がない | 8.3 | 15.6 | 12.5 | 7.1 | 9.3 | 5.6 | 6.4 |
| その他 | 2.3 | 6.3 | 0.0 | 0.0 | 1.9 | 4.2 | 1.3 |
| 特に障害はない | 5.0 | 3.1 | 8.3 | 0.0 | 5.6 | 2.8 | 9.0 |
| 無回答 | 3.3 | 0.0 | 0.0 | 2.4 | 1.9 | 4.2 | 6.4 |

5 . 夫婦や恋人同士などの暴力について

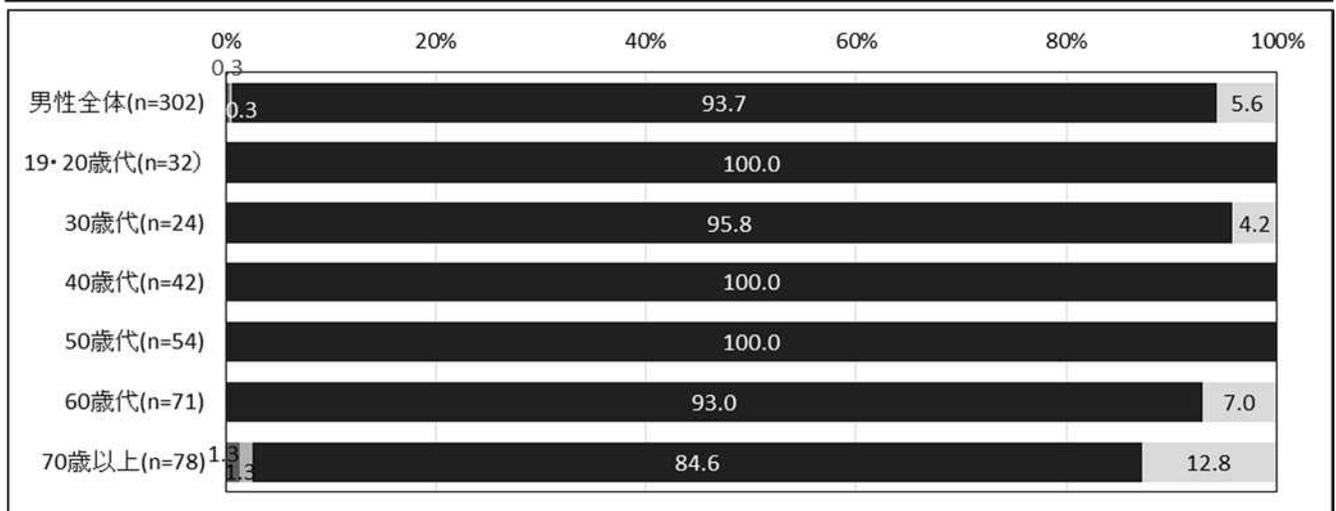
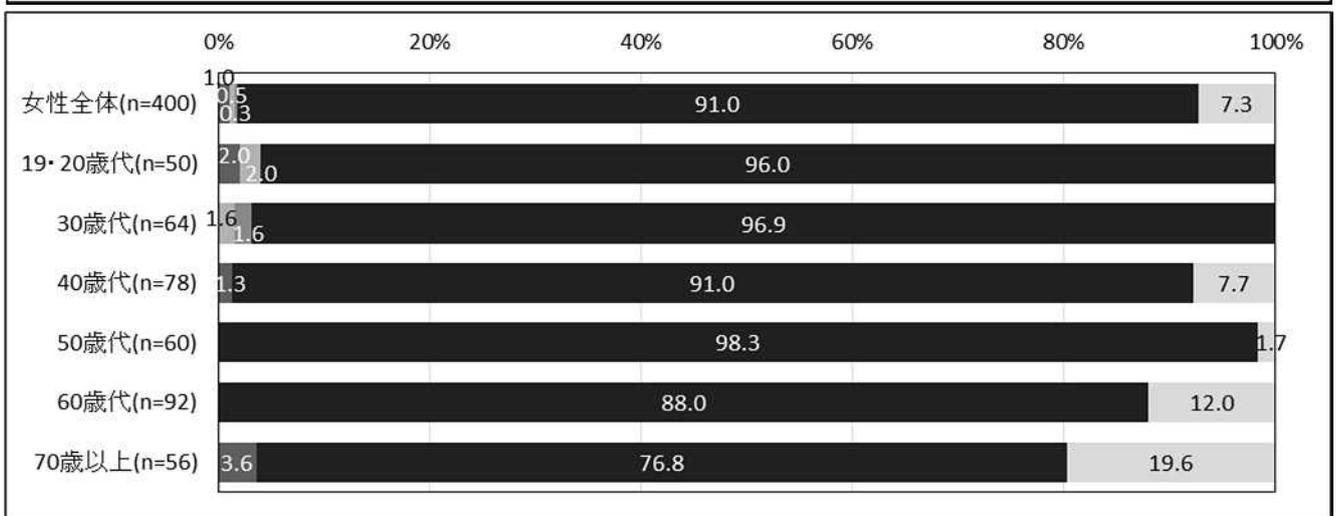
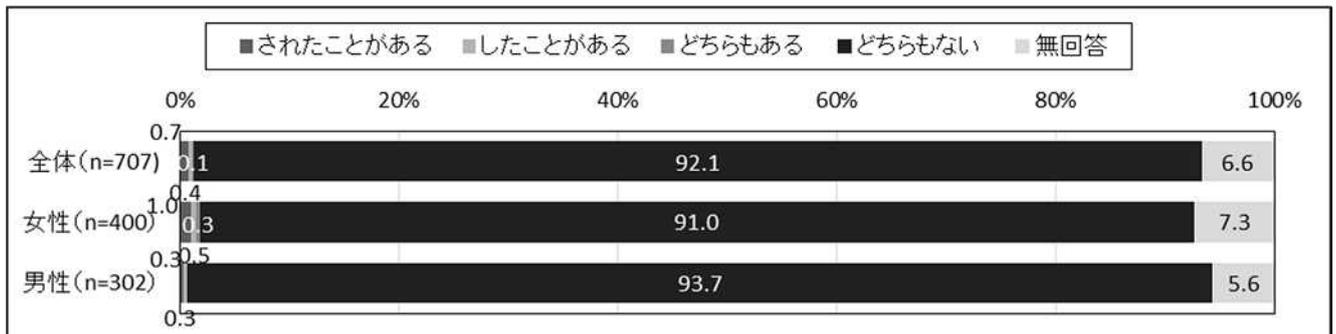
(2 0) あなたは、5年以内に次のようなことをしたりされたりしたことがありますか。

生命の危機を感じるほどの暴力

「どちらもない」が92.1%で最も高く、次いで「されたことがある」0.7%、「したことがある」0.4%の順となっています。

性別による大きな差異は見られません。

性別・年代別で見ると、「されたことがある」と回答した割合は、女性の「19・20歳代」「40歳代」「70歳以上」、男性の「70歳以上」で高く、「どちらもある」と回答した割合は、女性の「30歳代」で若干高くなっています。

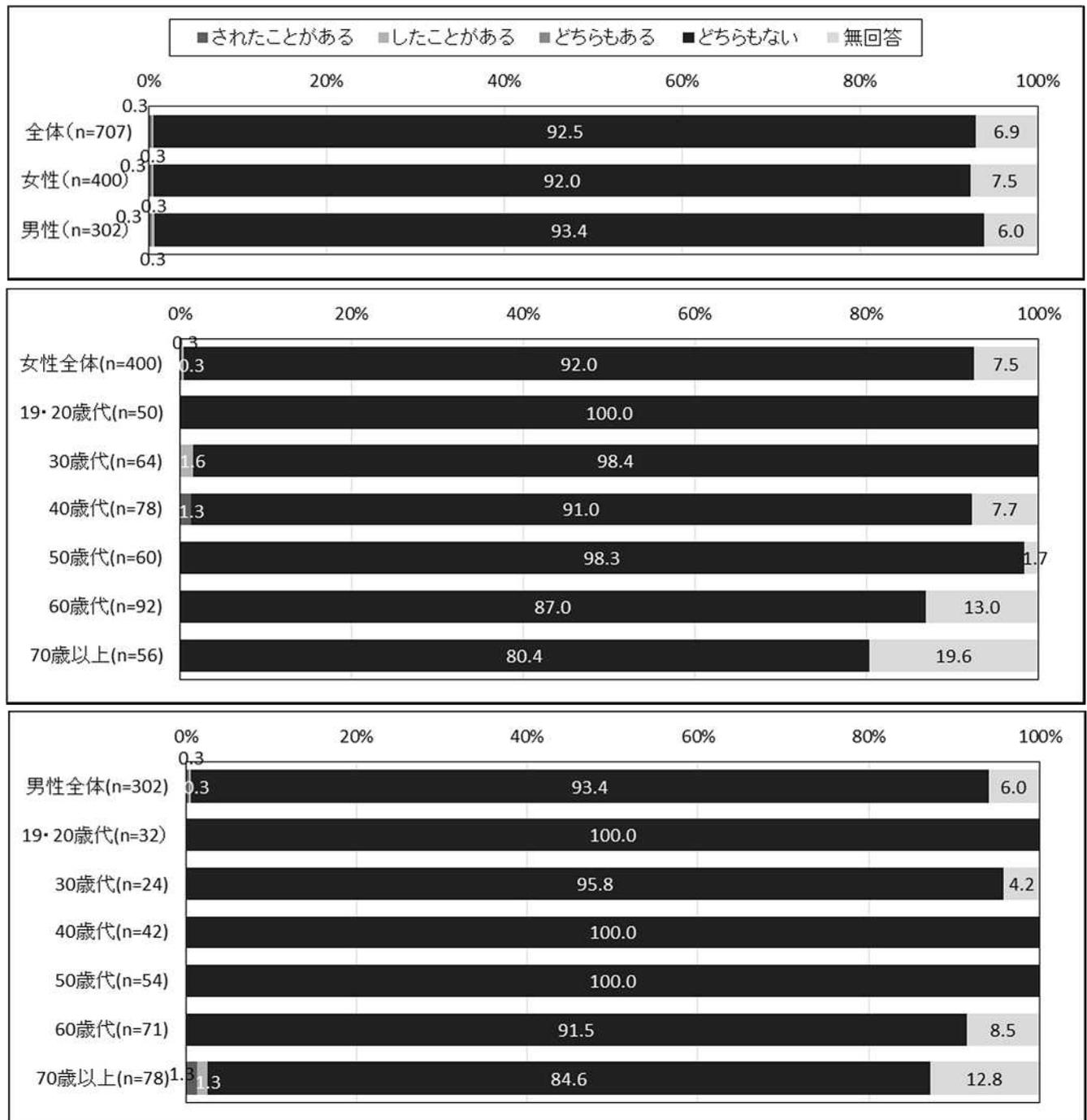


医師の治療が必要となるほどの暴力

「どちらもない」が92.5%で最も高く、次いで「されたことがある」「したことがある」0.3%の順となっています。

性別による大きな差異は見られません。

性別・年代別で見ると、「されたことがある」と回答した割合は、女性の「40歳代」、男性の「70歳以上」で若干高くなっています。

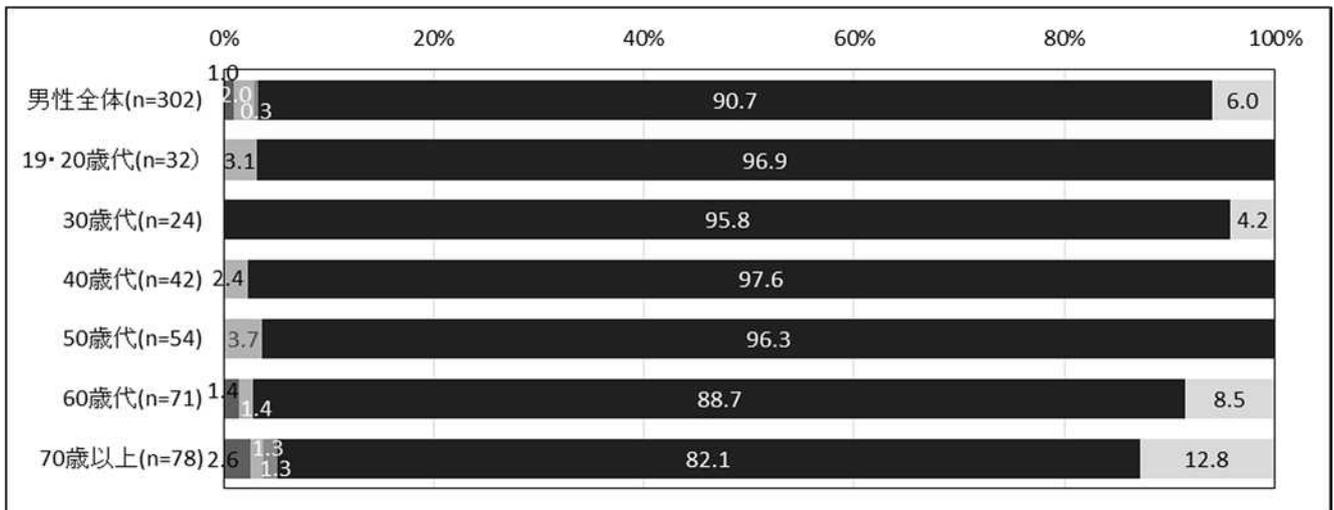
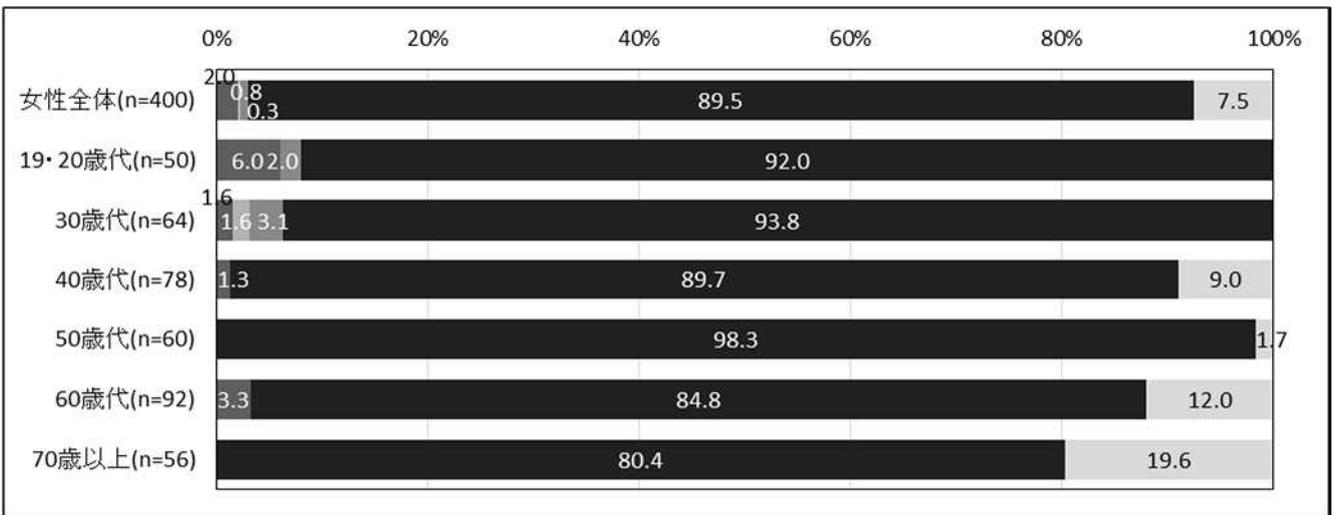
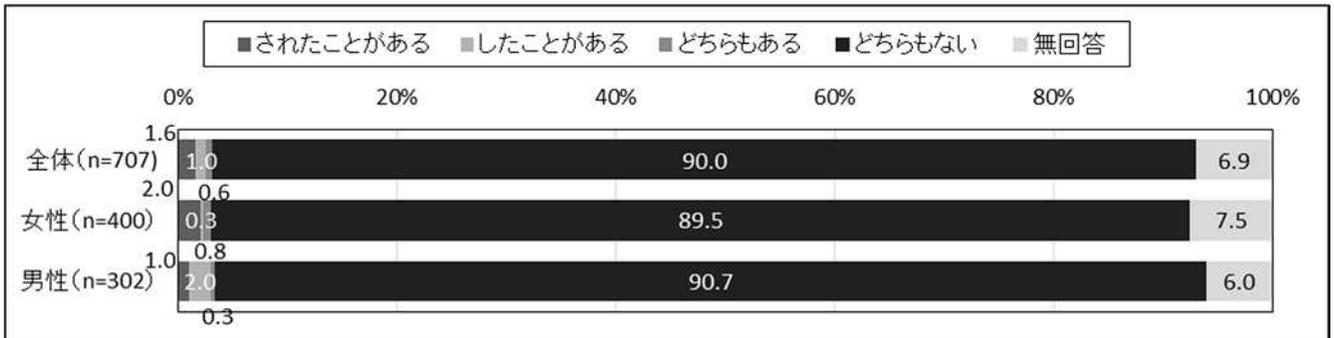


医師の治療までは必要がない程度の暴力

「どちらもない」が90.0%で最も高く、次いで「されたことがある」1.6%、「したことがある」1.0%の順となっています。

性別で見ると、「されたことがある」と回答した割合は、女性（2.0%）が男性（1.0%）より若干高く、「したことがある」と回答した割合は、男性（2.0%）が女性（0.3%）より若干高くなっています。

性別・年代別で見ると、「されたことがある」と回答した割合は、女性の「19・20歳代」6.0%、「60歳代」3.3%、男性の「70歳以上」2.6%と高くなっています。また、「したことがある」と回答した割合は、男性の「19・20歳代」3.1%、「50歳代」3.7%と高くなっています。

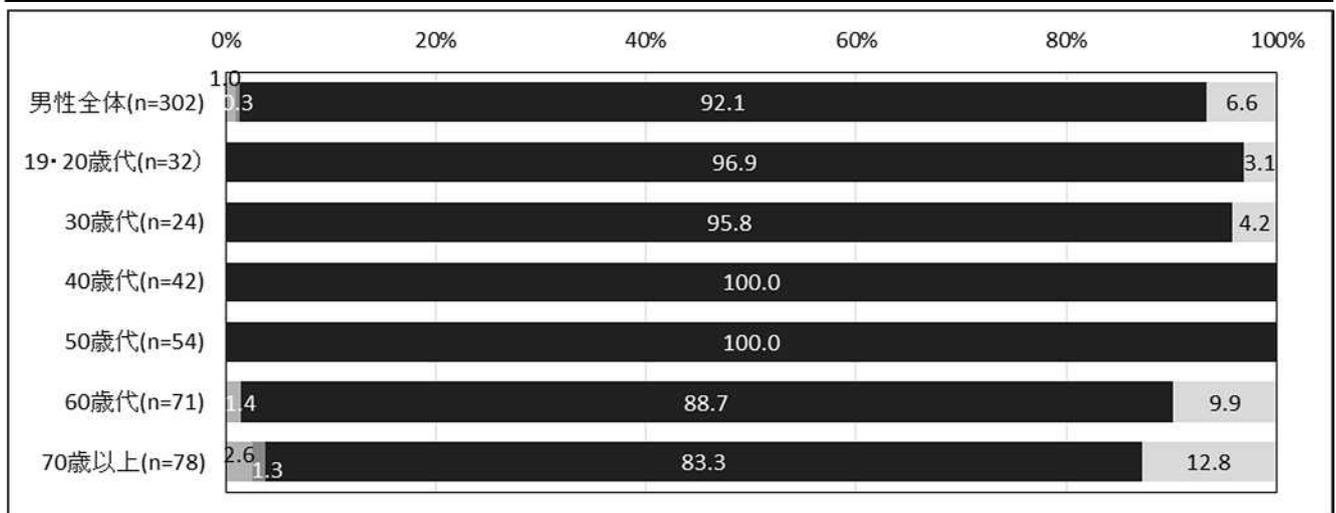
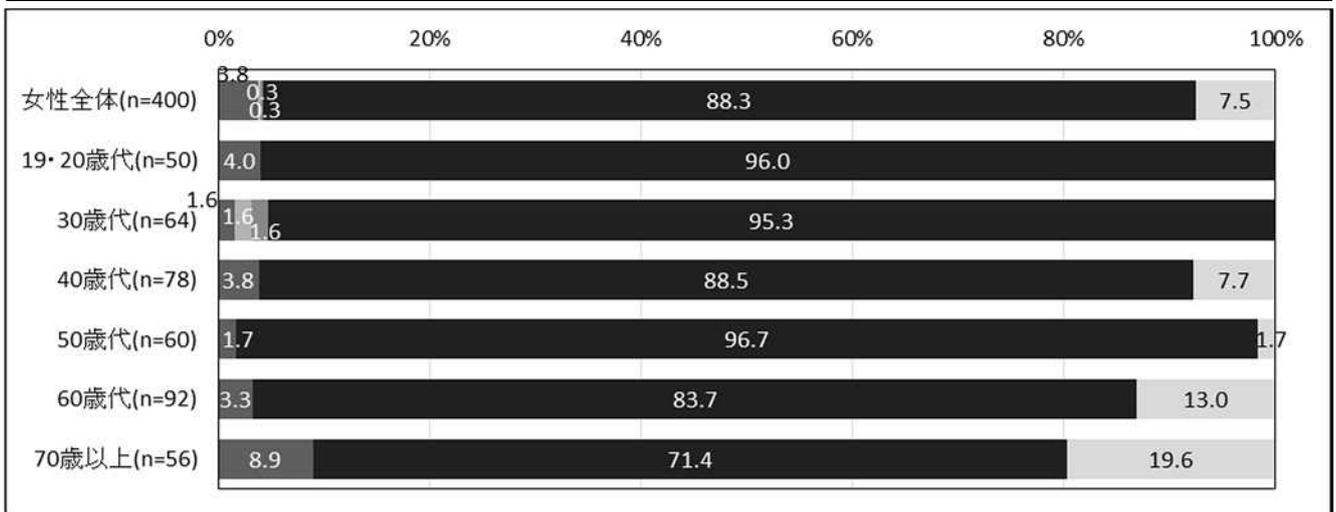
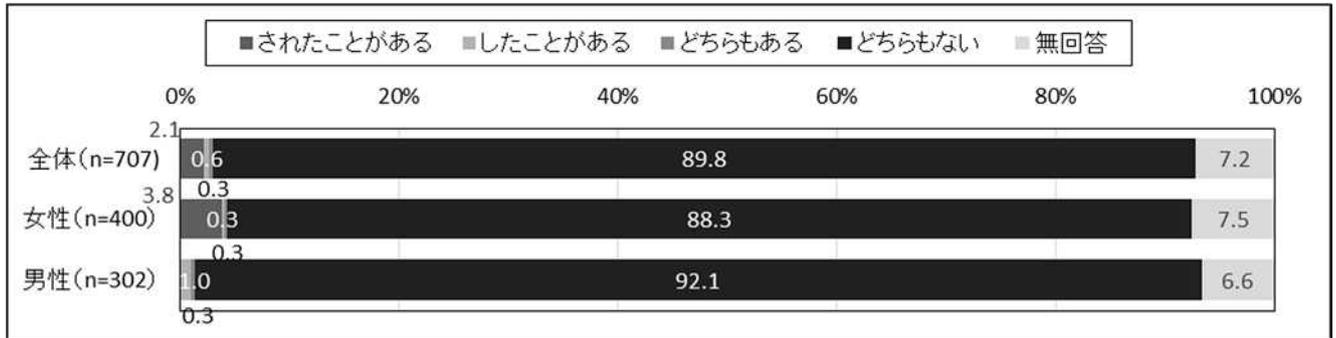


嫌がっているのに性的行為を強要

「どちらもない」が89.8%で最も高く、次いで「されたことがある」2.1%、「したことがある」0.6%の順となっています。

性別で見ると、「されたことがある」と回答した割合は、女性（3.8%）が男性（0.0%）より高くなっています。

性別・年代別で見ると、「されたことがある」と回答した割合は、女性の「70歳以上」8.9%と高くなっています。また、「したことがある」と回答した割合は、男性の「60歳以上」で若干高くなっています。

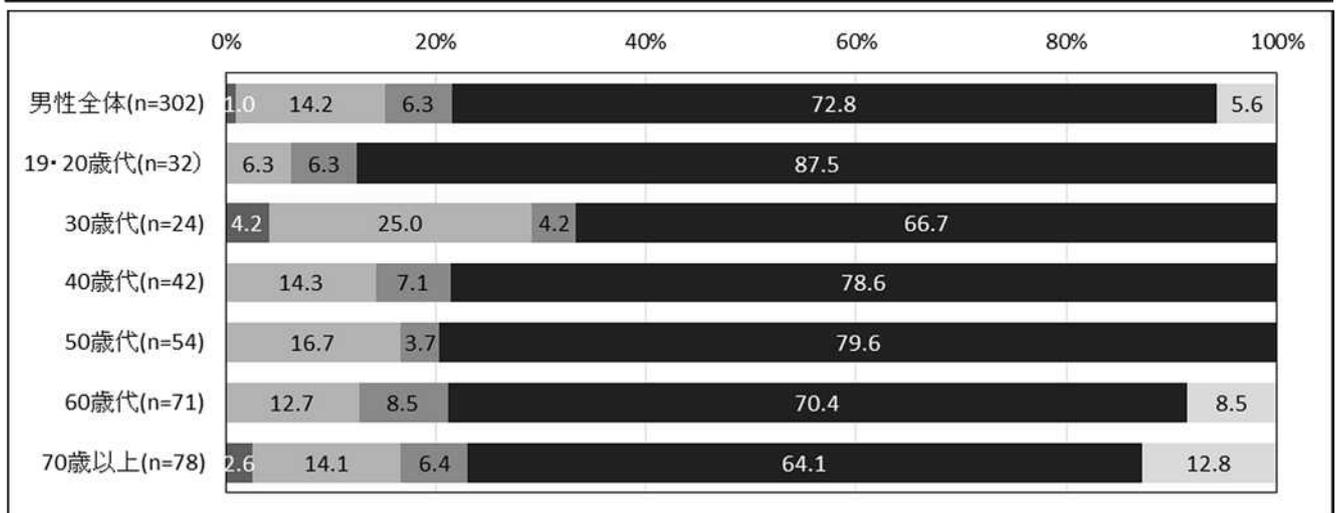
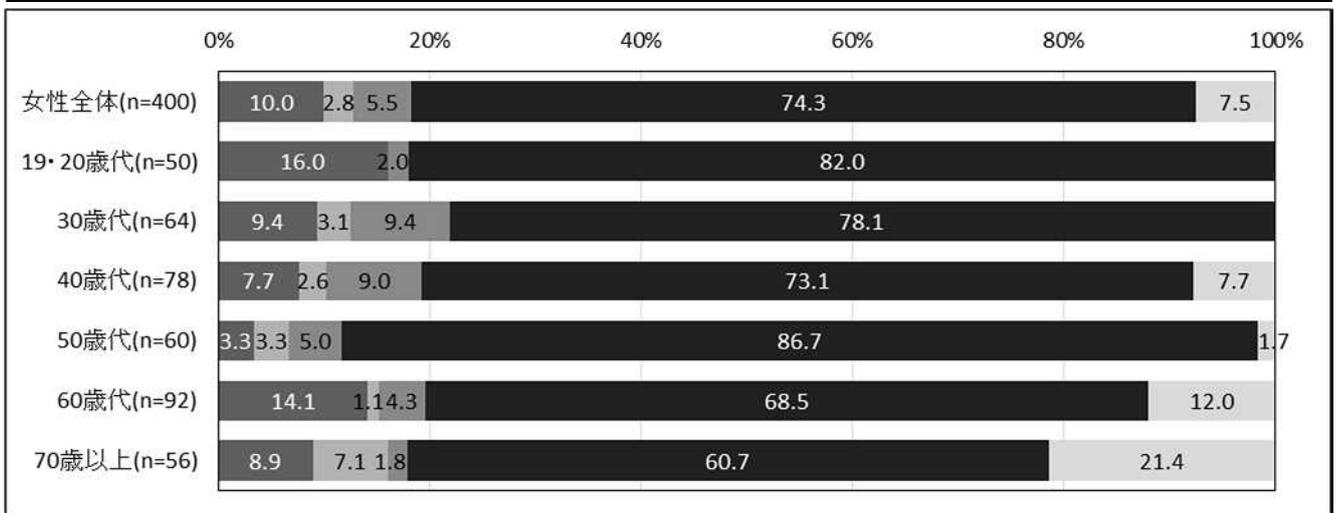
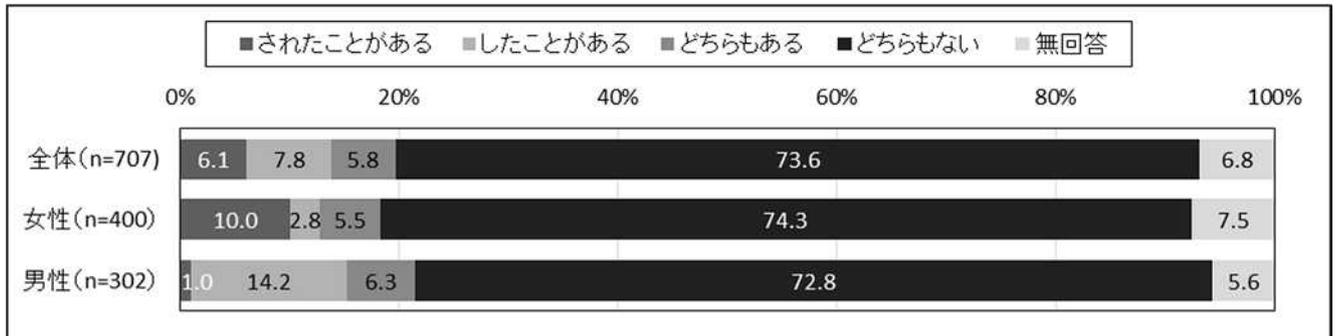


大声でどなったり、暴言を吐く

「どちらもない」が73.6%で最も高く、次いで「したことがある」7.8%、「されたことがある」6.1%の順となっています。

性別で見ると、「されたことがある」と回答した割合は、女性（10.0%）が男性（1.0%）より9.0ポイント高く、「したことがある」と回答した割合は、男性（14.2%）が女性（2.8%）より11.4ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「されたことがある」と回答した割合は、女性の「19・20歳以上」16.0%、「60歳代」14.1%と高くなっています。また、「したことがある」と回答した割合は、女性の「70歳以上」7.1%、男性の「30歳代」25.0%と高くなっています。

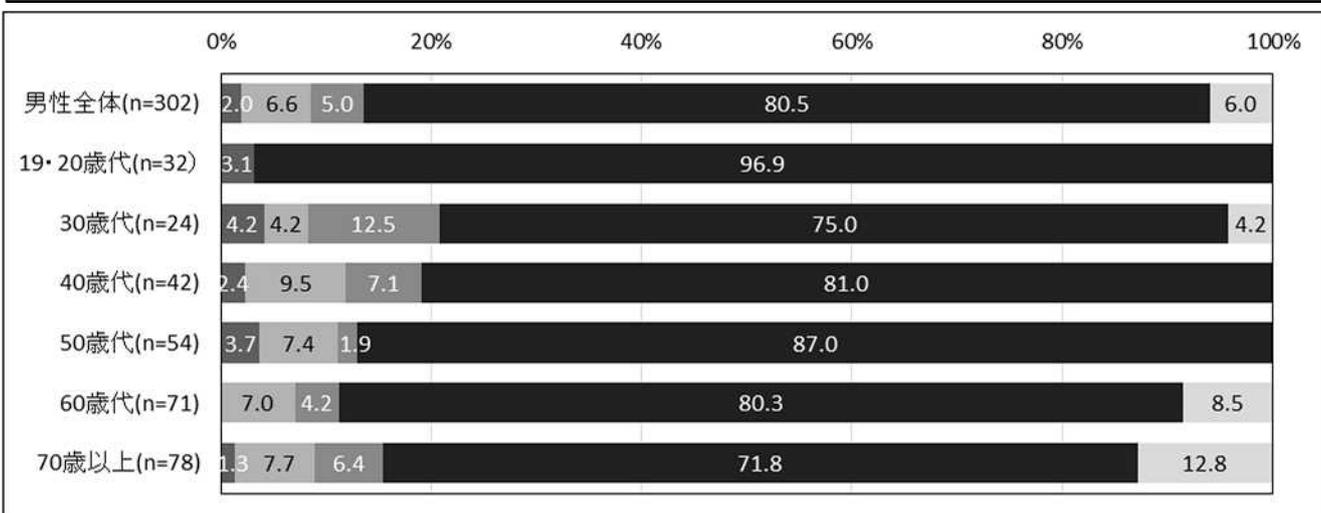
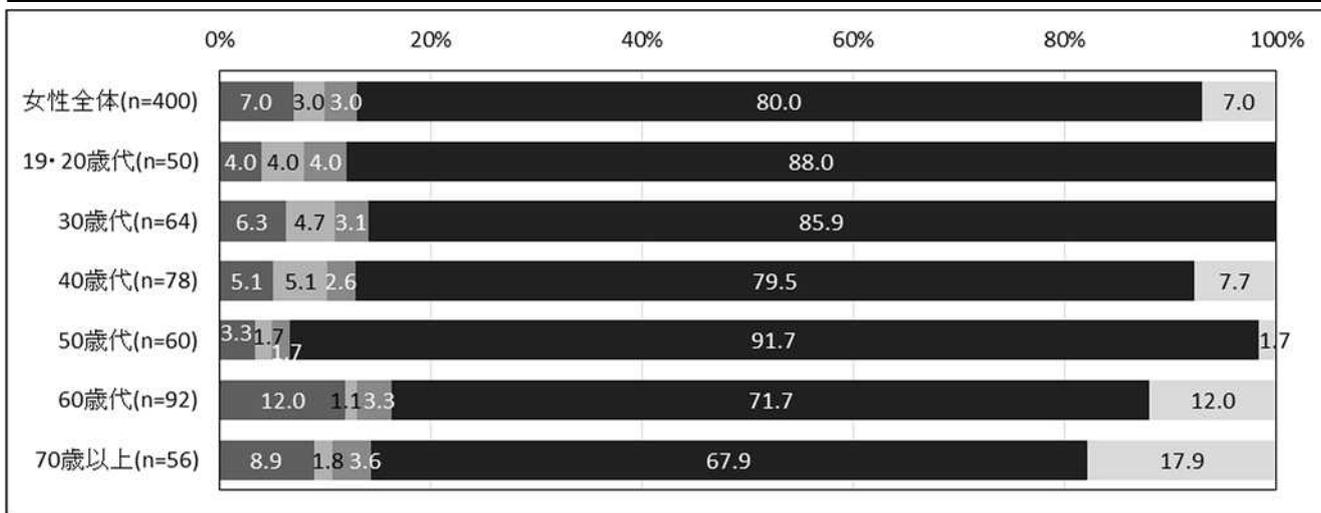
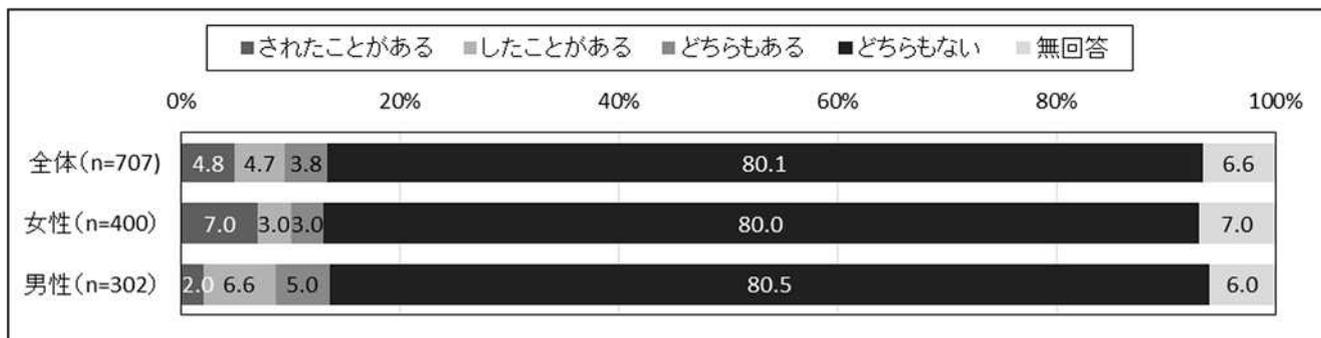


「女(男)のくせに・・・」、「女(男)だから・・・」と差別する

「どちらもない」が80.1%で最も高く、次いで「されたことがある」4.8%、「したことがある」4.7%の順となっています。

性別で見ると、「されたことがある」と回答した割合は、女性(7.0%)が男性(2.0%)より5.0ポイント高く、「したことがある」と回答した割合は、男性(6.6%)が女性(3.0%)より3.6ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「されたことがある」と回答した割合は、女性の「60歳代」12.0%と高くなっています。また、「どちらもある」と回答した割合は、男性の「30歳代」12.5%と高くなっています。

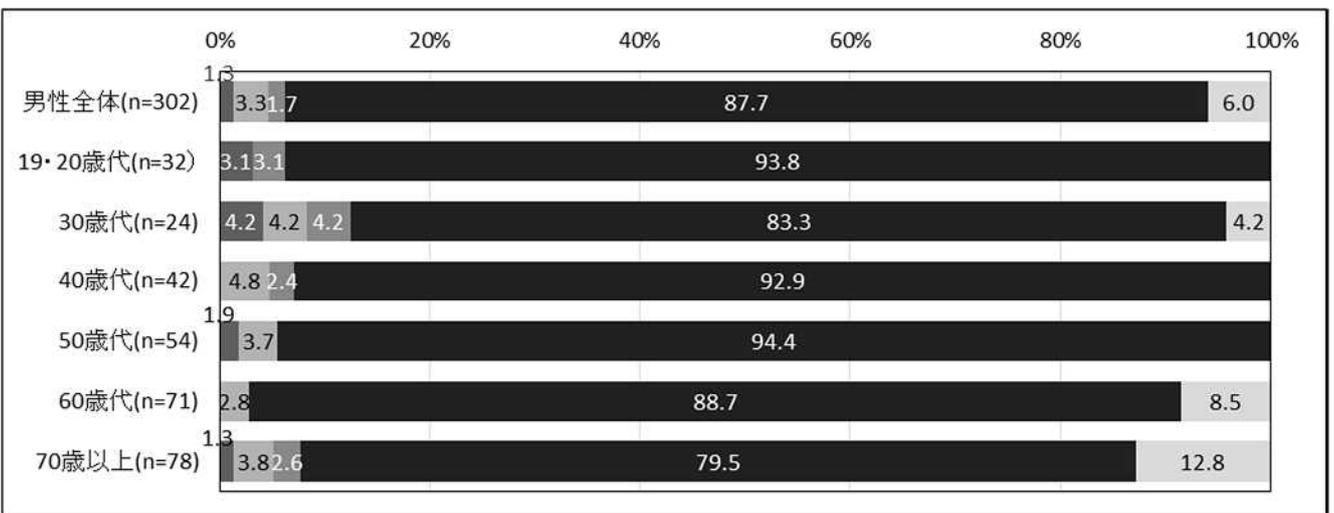
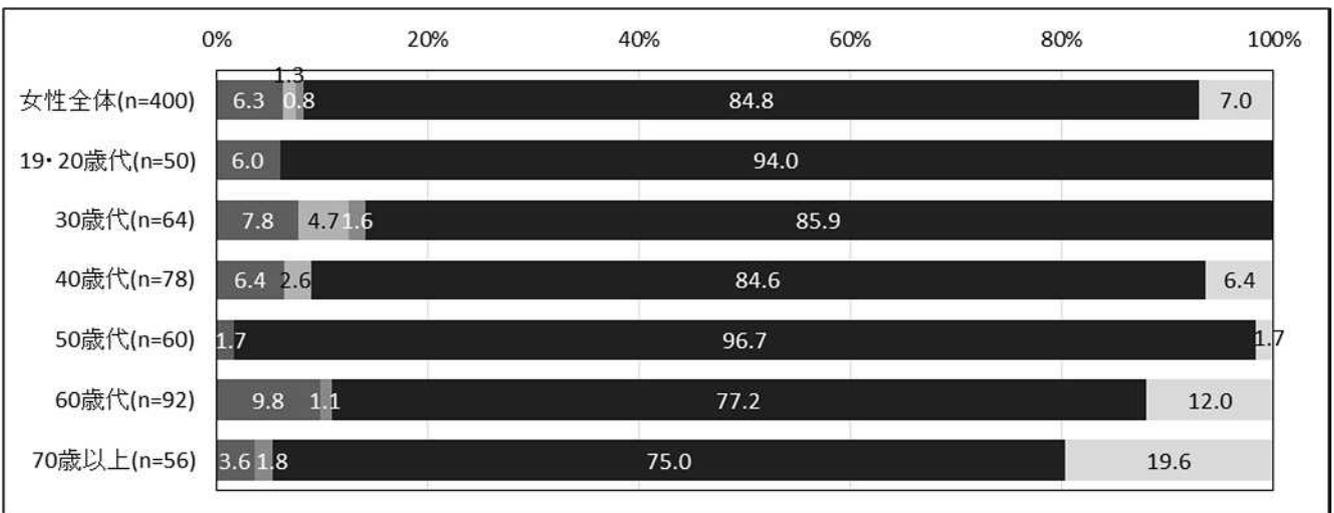
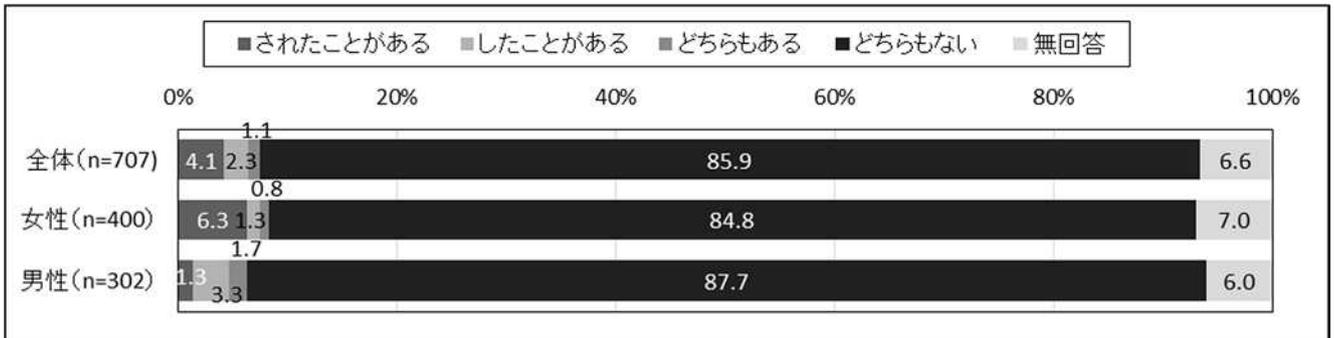


「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」とののしる

「どちらもない」が85.9%で最も高く、次いで「されたことがある」4.1%、「したことがある」2.3%の順となっています。

性別で見ると、「されたことがある」と回答した割合は、女性（6.3%）が男性（1.3%）より5.0ポイント高く、「したことがある」と回答した割合は、男性（3.3%）が女性（1.3%）より2.0ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「されたことがある」と回答した割合は、女性の「30歳代」7.8%、「60歳代」9.8%、男性は「30歳代」4.2%と高くなっています。また、「したことがある」と回答した割合は、女性・男性ともに「30歳代」から「40歳代」で高くなっています。

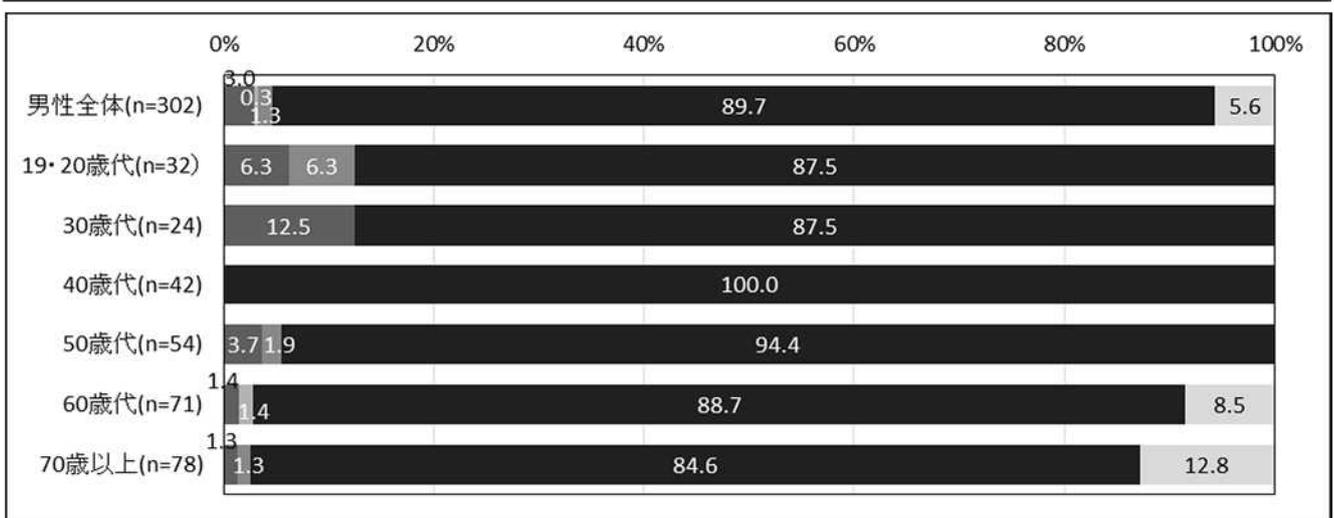
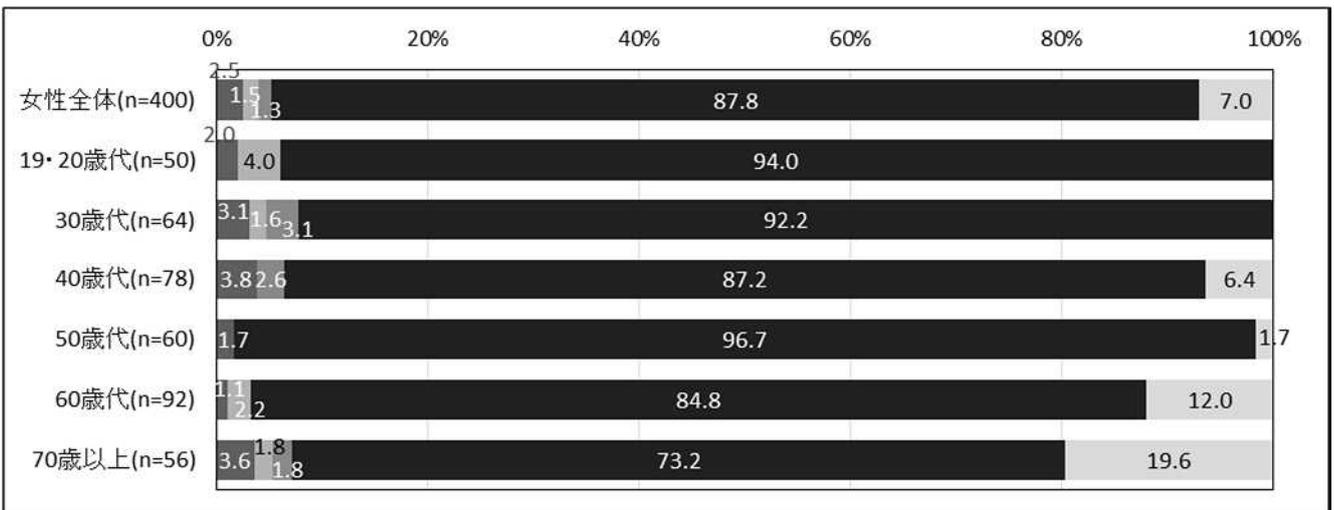
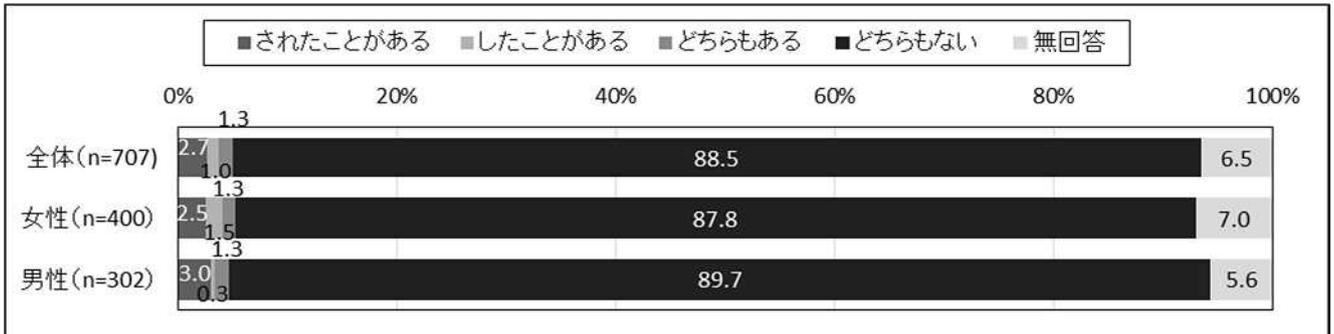


交友関係や電話、メール、お金の使い道などを細かく監視する

「どちらもない」が88.5%で最も高く、次いで「されたことがある」2.7%、「どちらもある」1.3%の順となっています。

性別による大きな差異は見られません。

性別・年代別で見ると、「したことがある」と回答した割合は、女性の「19・20歳代」4.0%で高く、「されたことがある」と回答した割合は、男性の「30歳代」12.5%と高くなっています。

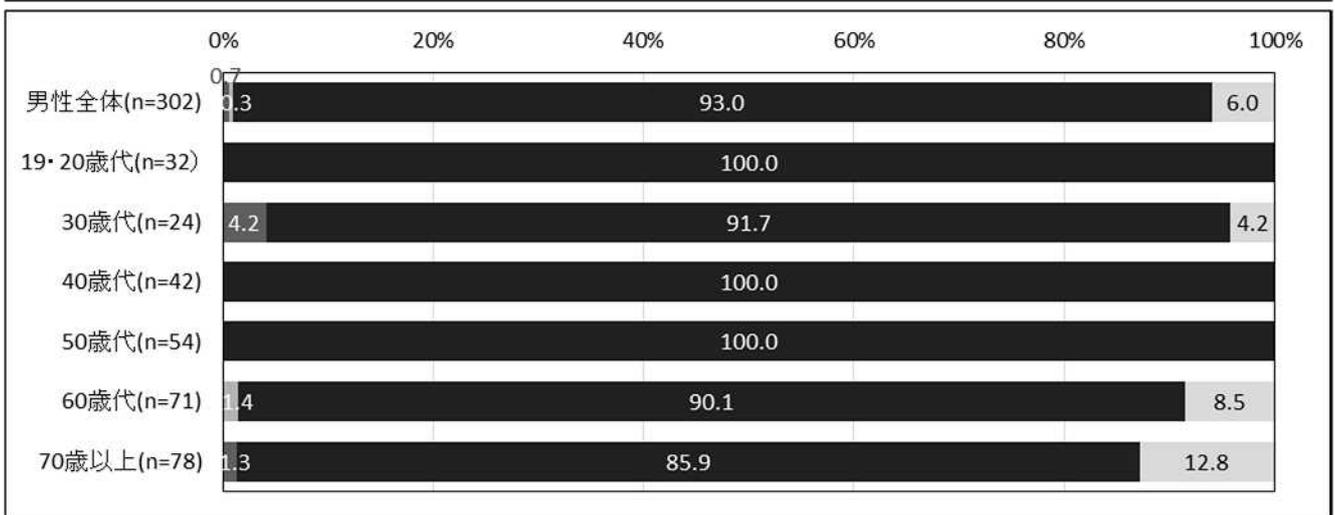
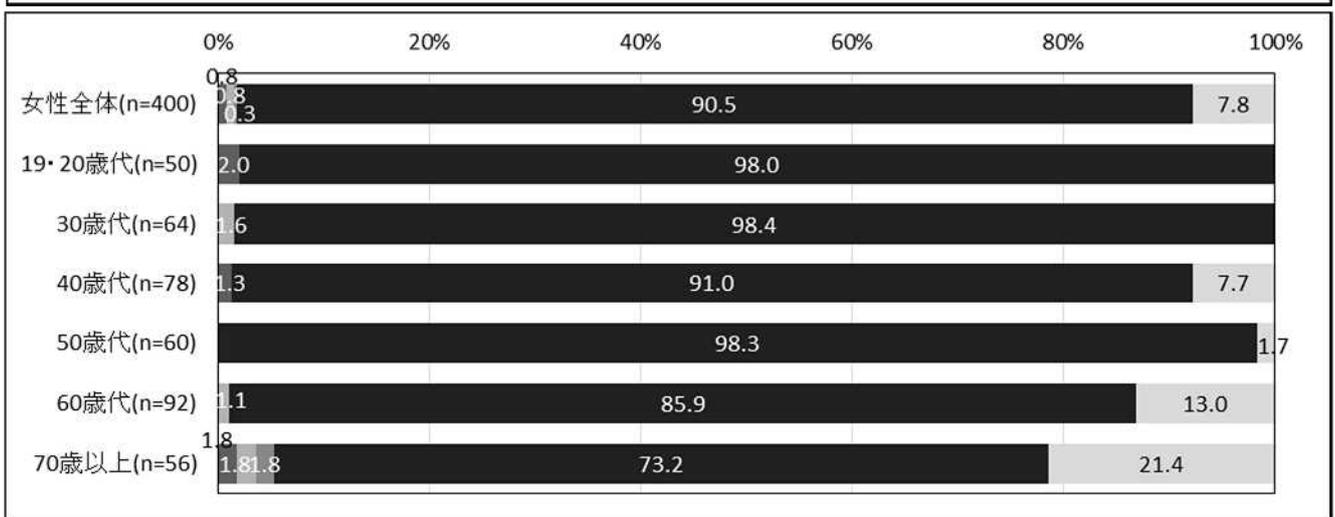
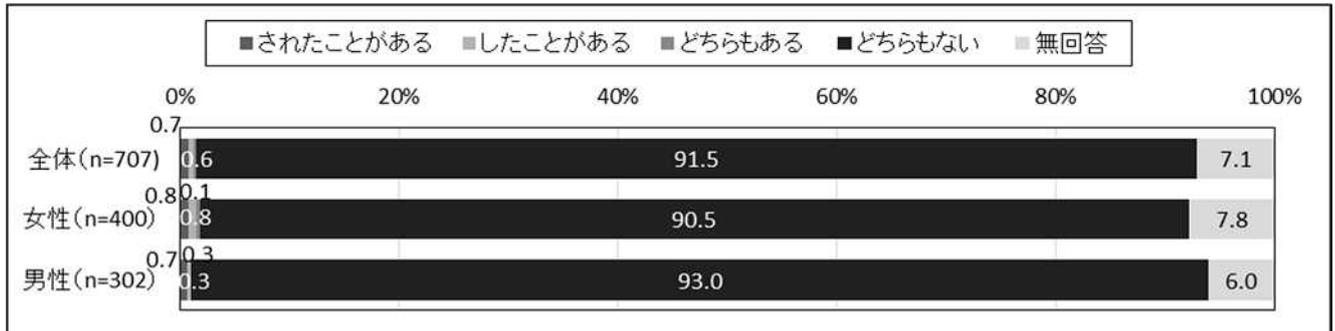


社会活動や就職を許さない

「どちらもない」が91.5%で最も高く、次いで「されたことがある」0.7%、「したことがある」0.6%の順となっています。

性別による大きな差異は見られません。

性別・年代別で見ると、「されたことがある」と回答した割合は、男性の「30歳代」4.2%と高くなっています。

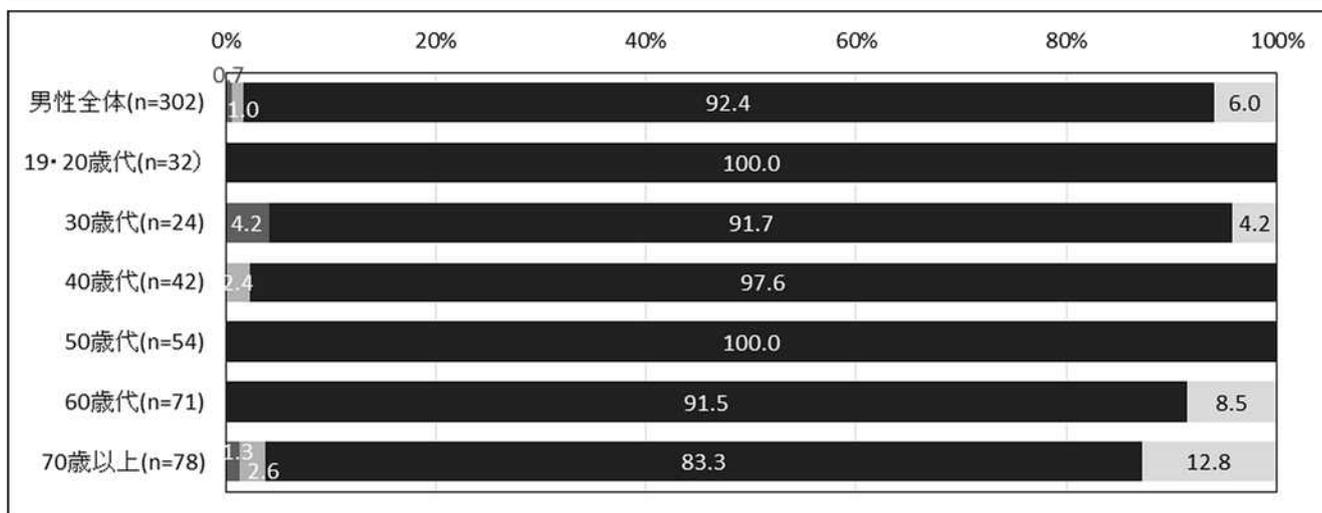
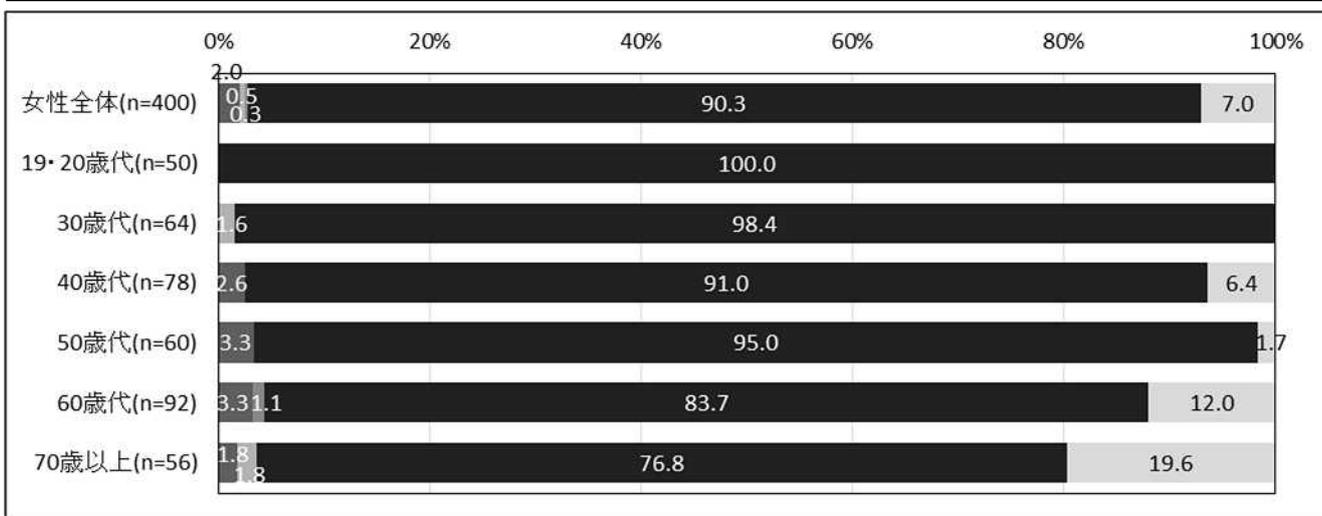
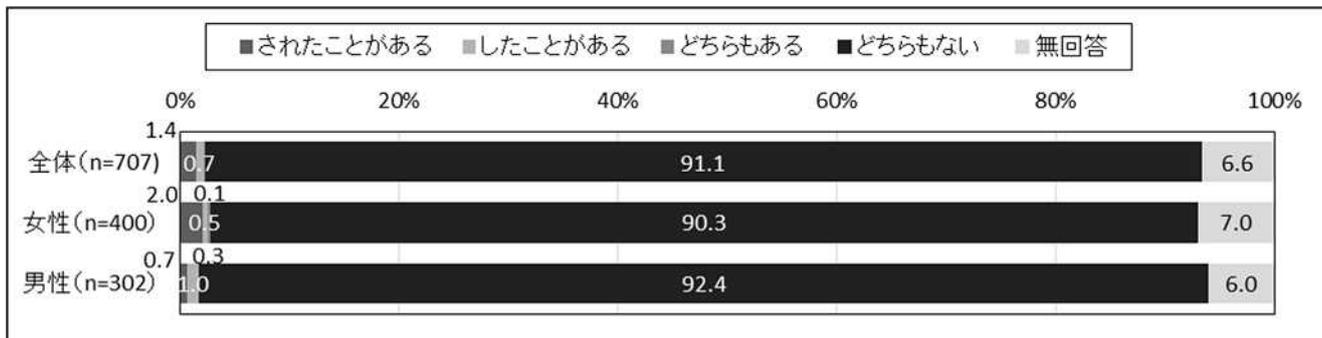


生活費を渡さないなど、経済的に押さえつける

「どちらもない」が91.1%で最も高く、次いで「されたことがある」1.4%、「したことがある」0.7%の順となっています。

性別による大きな差異は見られません。

性別・年代別で見ると、「どちらもない」と回答した割合は、女性の「19・20歳代」、男性の「19・20歳代」「50歳代」で100%になっています。「されたことがある」と回答した割合は、女性の「40歳代」から「60歳代」、男性の「30歳代」で若干高くなっています。

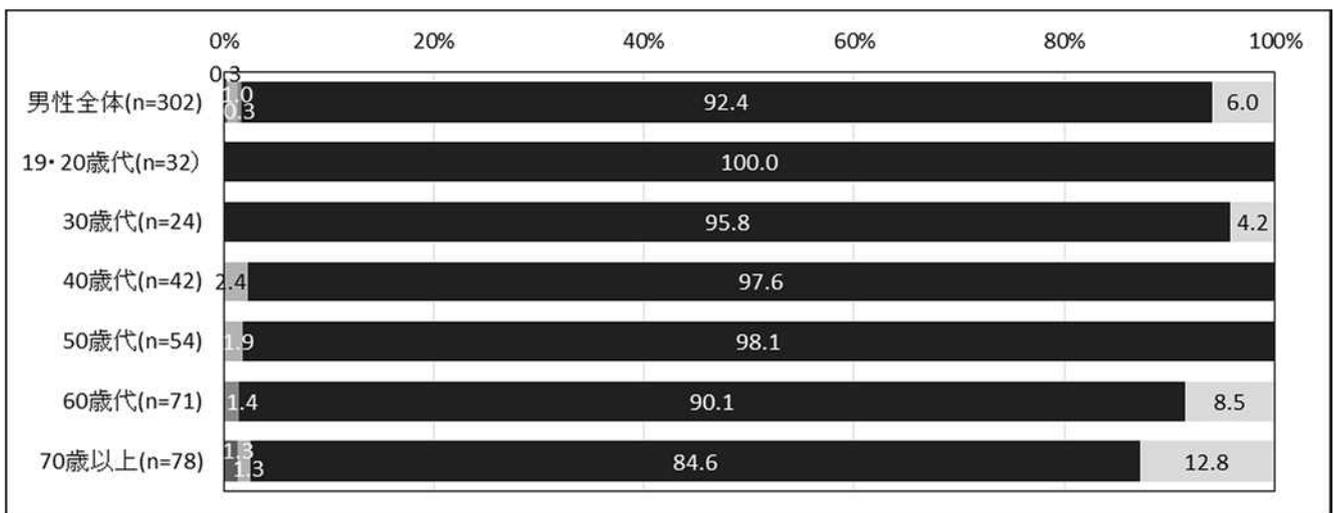
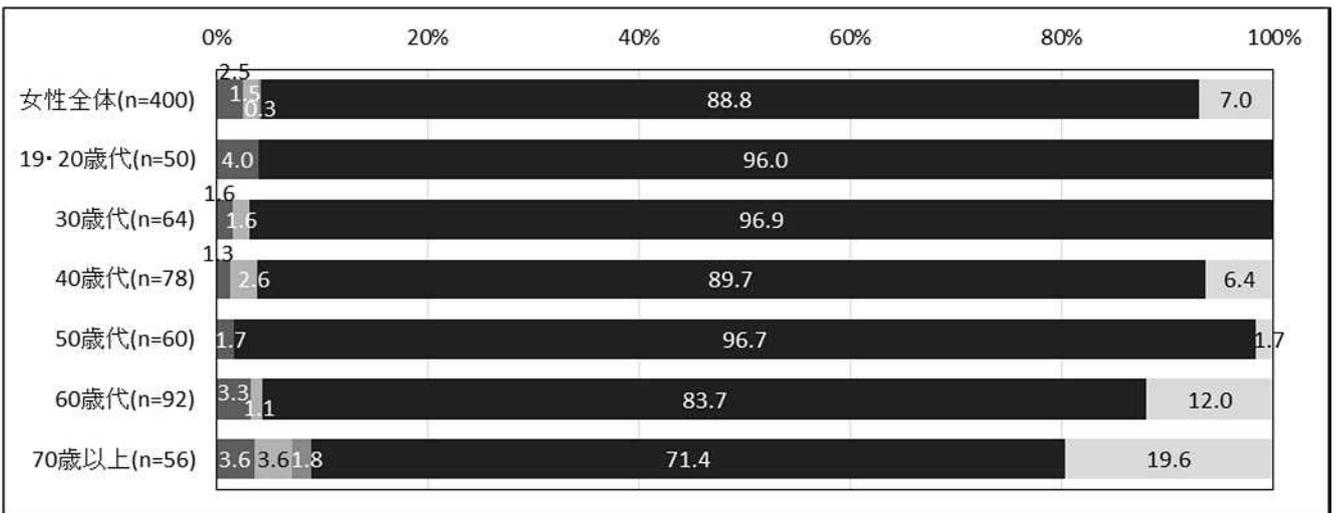
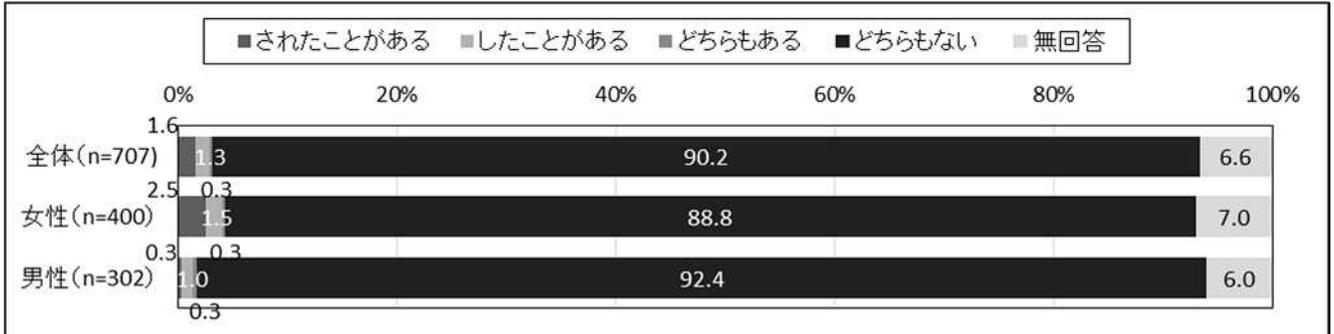


病気などで身体が動かせない時なども、食事のしたくをさせる

「どちらもない」が90.2%で最も高く、次いで「されたことがある」1.6%、「したことがある」1.3%の順となっています。

性別による大きな差異は見られません。

性別・年代別で見ると、「されたことがある」と回答した割合は、女性の「19・20歳代」「60歳以上」で高くなっています。

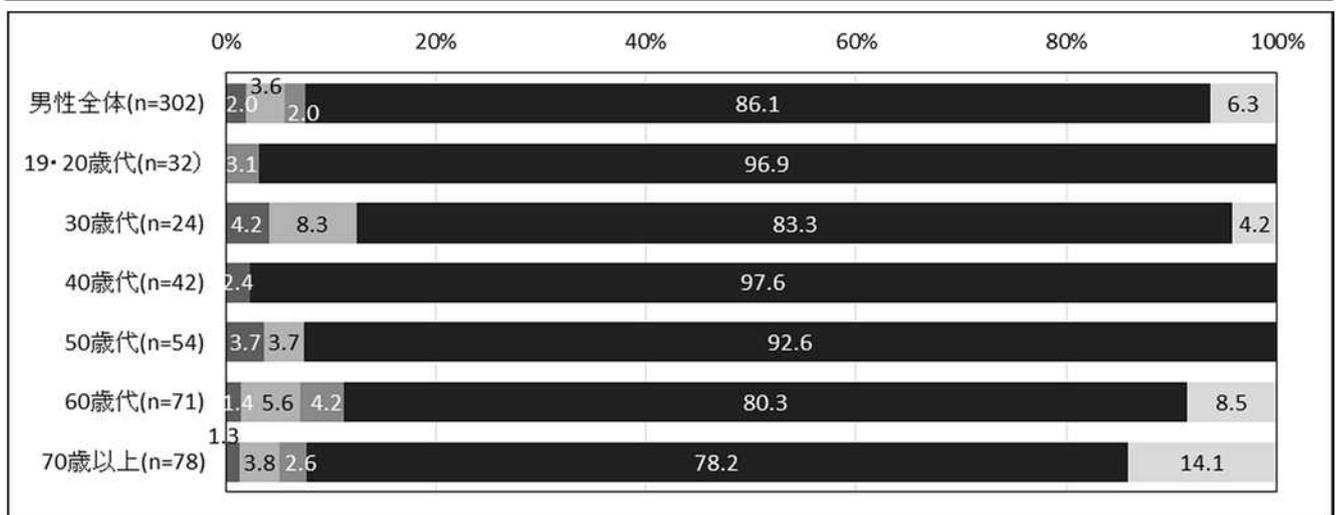
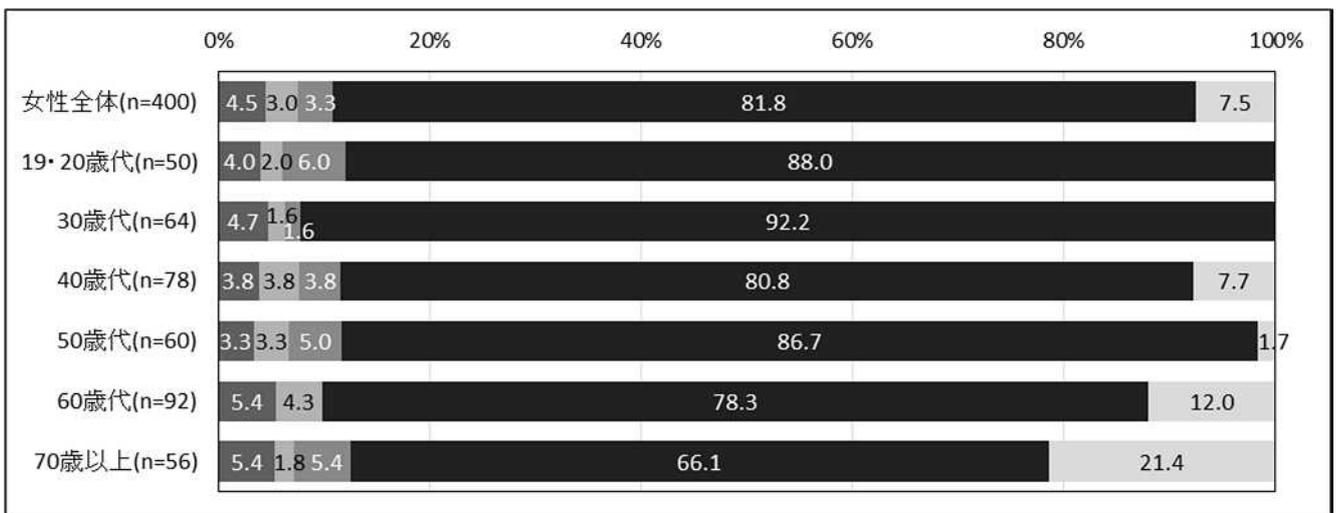
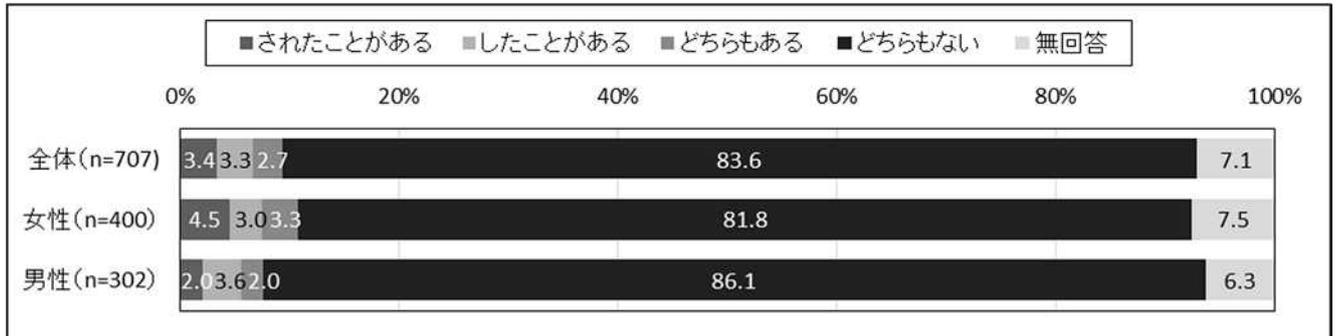


何を言っても、無視し続ける

「どちらもない」が83.6%で最も高く、次いで「されたことがある」3.4%、「したことがある」3.3%の順となっています。

性別で見ると、女性で「されたことがある」「どちらもある」と回答した割合が若干高くなっています。

性別・年代別で見ると、「どちらもある」と回答した割合は、女性の「19・20歳代」6.0%、「70歳以上」5.4%で若干高くなっています。また、「したことがある」と回答した割合は、男性の「30歳代」8.3%と高くなっています。

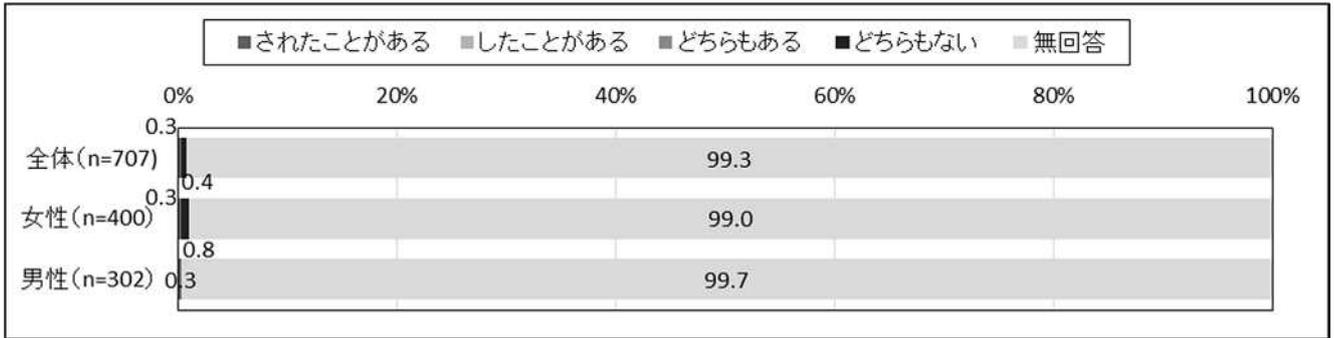


その他

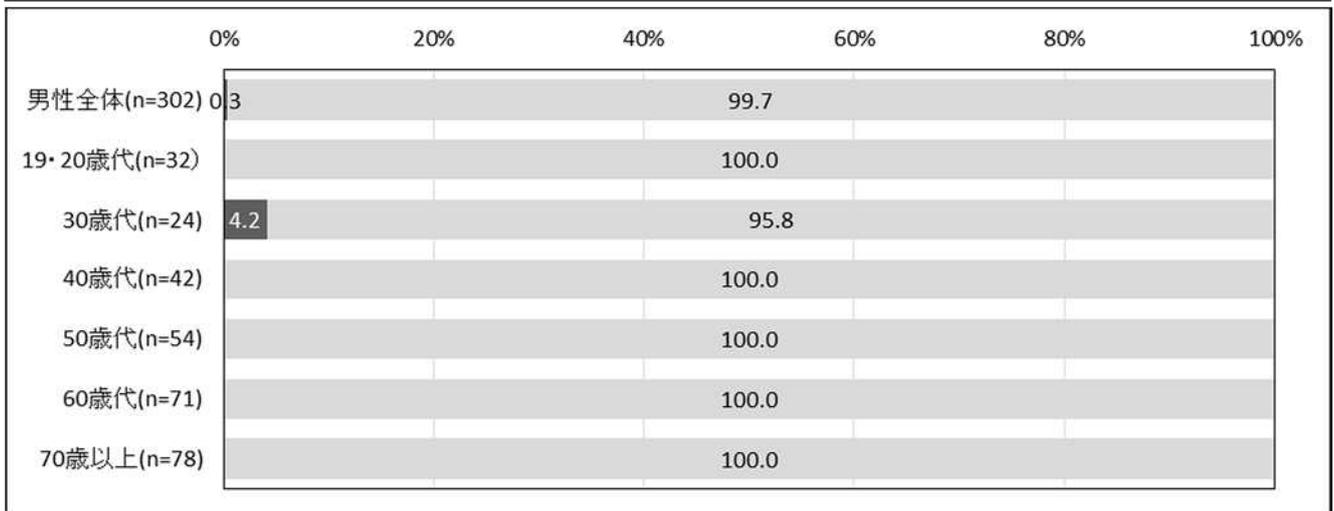
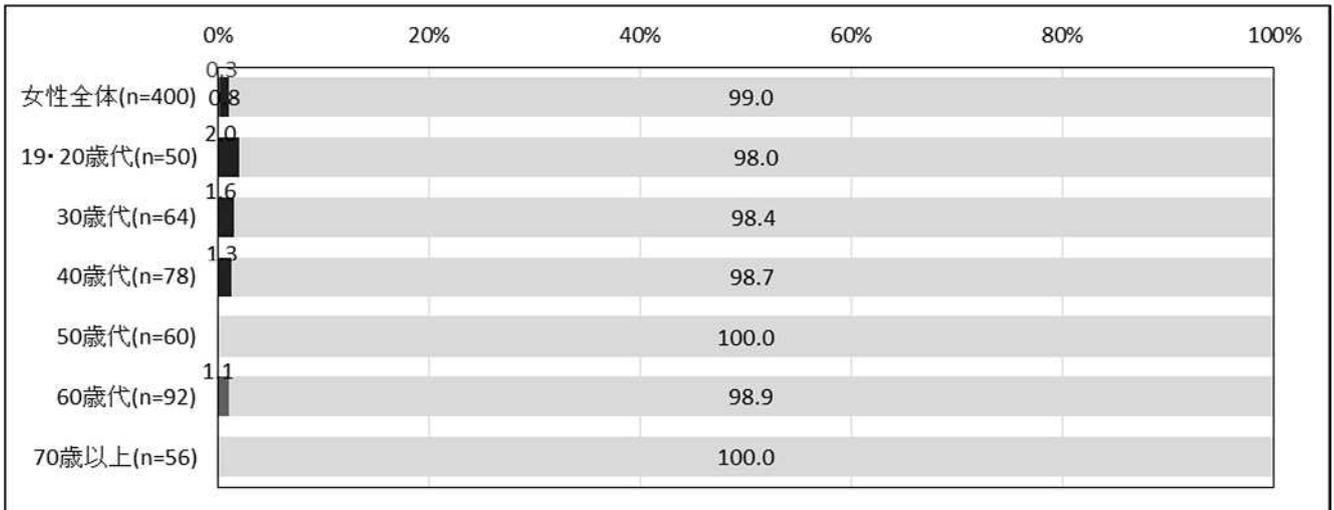
「されたことがある」が0.3%、「どちらもない」0.4%となっているものの、ほとんど回答がありません。

性別による大きな差異は見られません。

性別・年代別で見ても、ほとんど回答がないため、大きな差異は見られません。



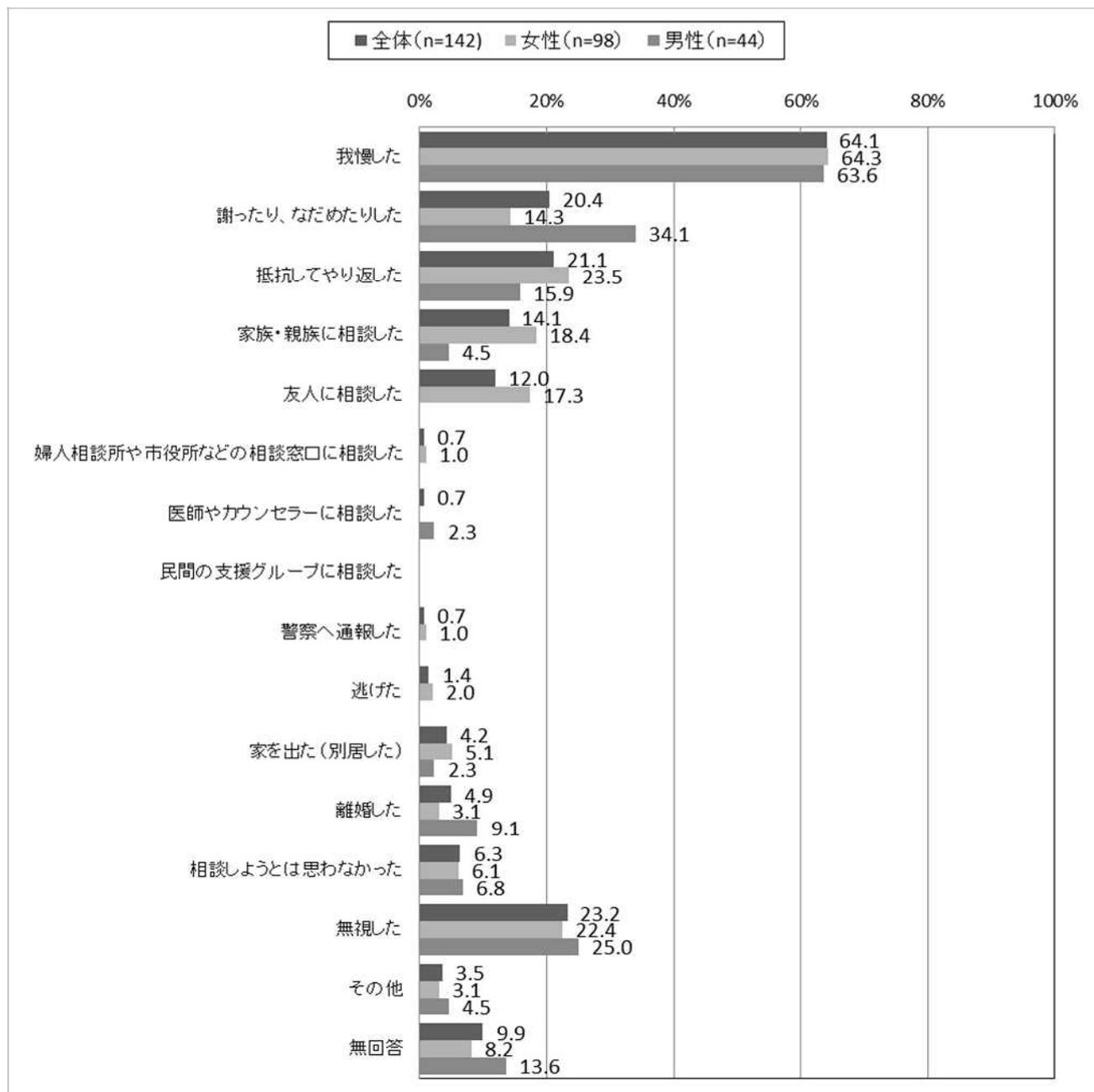
| 性別 | 年代 | その他 |
|----|------|--------------|
| 男性 | 30歳代 | 落ち着いた環境を崩される |



(20)で「されたことがある」「どちらもある」を1つでも回答された方におうかがいします。
 (21)あなたは、そのような行為を受けた時、どうしましたか。(複数回答)

「我慢した」が64.1%で最も高く、次いで「無視した」23.2%、「抵抗してやり返した」21.1%の順となっています。

性別で見ると、「友人に相談した」や「家族・親族に相談した」と回答した割合は、女性が男性より10ポイント以上高く、「謝ったり、なだめたりした」と回答した割合は、男性(34.1%)が女性(14.3%)より19.8ポイント高くなっています。



| 性別 | 年代 | その他 |
|----|------|---------------------------|
| 女性 | 30歳代 | 「それは私は嫌だ」とか「嫌な気分になった」と伝えた |
| 女性 | 40歳代 | 離婚の問題に何度もなった |
| 女性 | 40歳代 | 自分の考えを話した |
| 男性 | 30歳代 | 物にあたった |
| 男性 | 60歳代 | 他の話題へ転換、冷却期間をつくる |

性別・年代別で見ると、「我慢した」と回答した割合は、性別・年代を問わず一番高くなっています。「抵抗してやり返した」や「家族・親族に相談した」と回答した割合は、女性の「40歳代」から「50歳代」で高く、「友人に相談した」と回答した割合は、女性の「40歳代」で高くなっています。また、「謝ったり、なだめたりした」と回答した割合は、男性の「19・20歳代」「40歳代」で高くなっています。

| 選択項目 | 女性全体 (n=98) | 19・20歳代 (n=12) | 30歳代 (n=18) | 40歳代 (n=20) | 50歳代 (n=7) | 60歳代 (n=26) | 70歳以上 (n=15) |
|---------------------------|----------------|-------------------|----------------|----------------|---------------|----------------|-----------------|
| 我慢した | 64.3 | 75.0 | 66.7 | 55.0 | 57.1 | 76.9 | 46.7 |
| 謝ったり、なだめたりした | 14.3 | 25.0 | 27.8 | 5.0 | 0.0 | 11.5 | 13.3 |
| 抵抗してやり返した | 23.5 | 25.0 | 27.8 | 40.0 | 57.1 | 3.8 | 13.3 |
| 家族・親族に相談した | 18.4 | 16.7 | 16.7 | 30.0 | 28.6 | 15.4 | 6.7 |
| 友人に相談した | 17.3 | 25.0 | 11.1 | 35.0 | 28.6 | 7.7 | 6.7 |
| 婦人相談所や市役所などの相談窓口 に相談した | 1.0 | 0.0 | 0.0 | 5.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 医師やカウンセラーに相談した | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 民間の支援グループに相談した | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 警察へ通報した | 1.0 | 8.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 逃げた | 2.0 | 8.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 6.7 |
| 家を出た(別居した) | 5.1 | 8.3 | 0.0 | 10.0 | 0.0 | 3.8 | 6.7 |
| 離婚した | 3.1 | 0.0 | 0.0 | 5.0 | 14.3 | 0.0 | 6.7 |
| 相談しようとは思わなかった | 6.1 | 8.3 | 11.1 | 0.0 | 0.0 | 3.8 | 13.3 |
| 無視した | 22.4 | 33.3 | 11.1 | 15.0 | 42.9 | 30.8 | 13.3 |
| その他 | 3.1 | 0.0 | 5.6 | 10.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 無回答 | 8.2 | 0.0 | 5.6 | 10.0 | 0.0 | 3.8 | 26.7 |

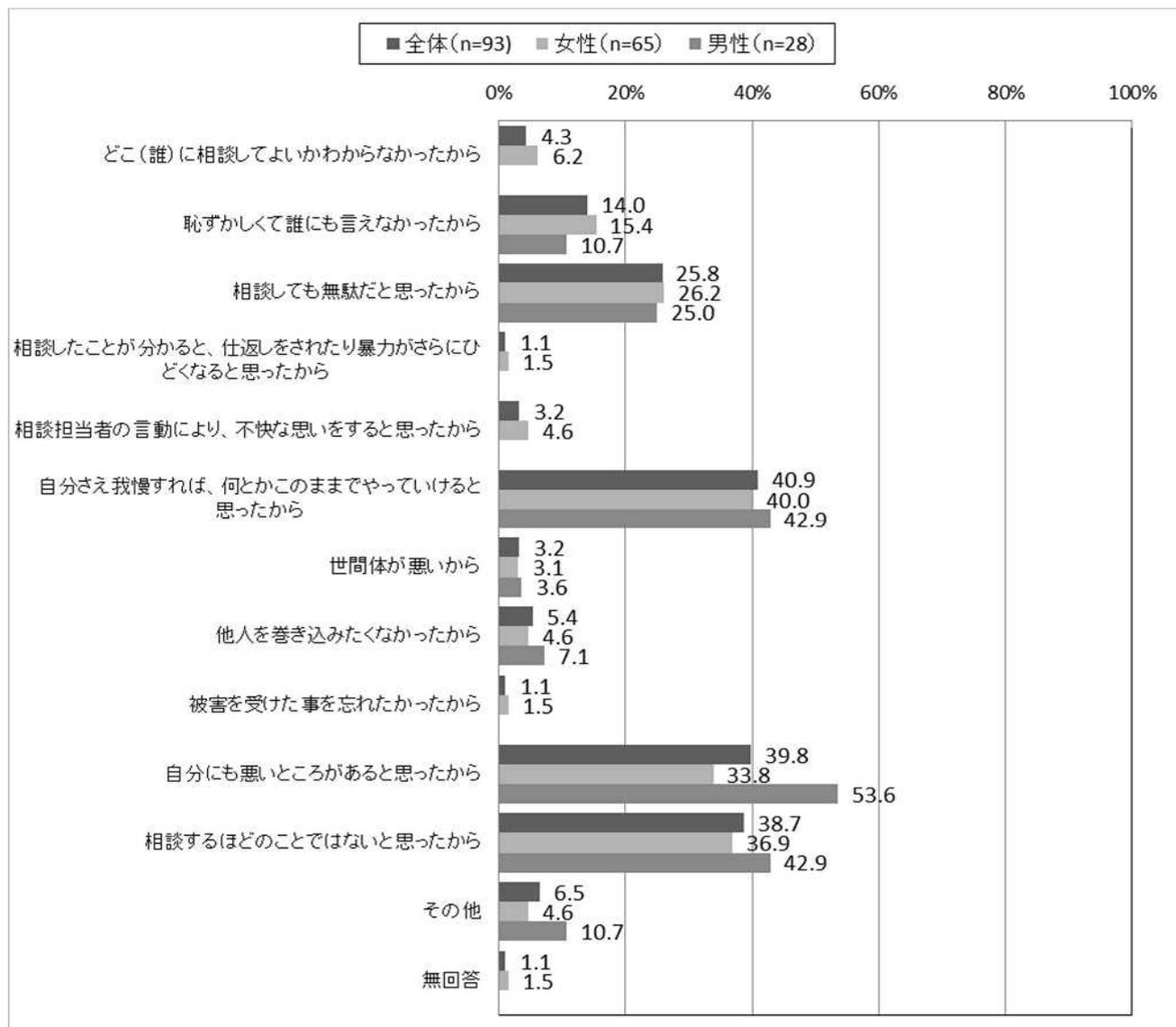
| 選択項目 | 男性全体 (n=44) | 19・20歳代 (n=6) | 30歳代 (n=7) | 40歳代 (n=4) | 50歳代 (n=6) | 60歳代 (n=9) | 70歳以上 (n=12) |
|---------------------------|----------------|------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-----------------|
| 我慢した | 63.6 | 50.0 | 71.4 | 50.0 | 83.3 | 66.7 | 58.3 |
| 謝ったり、なだめたりした | 34.1 | 50.0 | 42.9 | 50.0 | 0.0 | 33.3 | 33.3 |
| 抵抗してやり返した | 15.9 | 33.3 | 14.3 | 25.0 | 0.0 | 22.2 | 8.3 |
| 家族・親族に相談した | 4.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 22.2 | 0.0 |
| 友人に相談した | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 婦人相談所や市役所などの相談窓口 に相談した | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 医師やカウンセラーに相談した | 2.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 11.1 | 0.0 |
| 民間の支援グループに相談した | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 警察へ通報した | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 逃げた | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 家を出た(別居した) | 2.3 | 0.0 | 14.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 離婚した | 9.1 | 0.0 | 28.6 | 0.0 | 16.7 | 11.1 | 0.0 |
| 相談しようとは思わなかった | 6.8 | 0.0 | 0.0 | 50.0 | 16.7 | 0.0 | 0.0 |
| 無視した | 25.0 | 0.0 | 28.6 | 0.0 | 33.3 | 44.4 | 25.0 |
| その他 | 4.5 | 0.0 | 14.3 | 0.0 | 0.0 | 11.1 | 0.0 |
| 無回答 | 13.6 | 0.0 | 14.3 | 25.0 | 16.7 | 0.0 | 25.0 |

(21)で「1.我慢した」「13.相談しようとは思わなかった」と回答された方におうかがいします。

(22)それはなぜですか。(複数回答)

「自分さえ我慢すれば、何とかこのままでやっていけると思ったから」が40.9%で最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」39.8%、「相談するほどのことではないと思ったから」38.7%の順となっています。

性別で見ると、「自分にも悪いところがあると思ったから」と回答した割合は、男性(53.6%)が女性(33.8%)より19.8ポイント高く、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」と回答した割合は、女性(15.4%)が男性(10.7%)より4.7ポイント高くなっています。



| 性別 | 年代 | その他 |
|----|---------|---------------------------------------|
| 女性 | 30歳以上 | やりすぎた |
| 女性 | 50歳代 | 色々な事があり最初は我慢していたが、生活の事もあり親族に相談して離婚した。 |
| 女性 | 70歳以上 | 親に心配させたくないから |
| 男性 | 19・20歳代 | わたしにとっては小さな事なので |
| 男性 | 30歳代 | めんどくさかった |
| 男性 | 60歳代 | 夫婦間のたわごと・ガス抜き! |

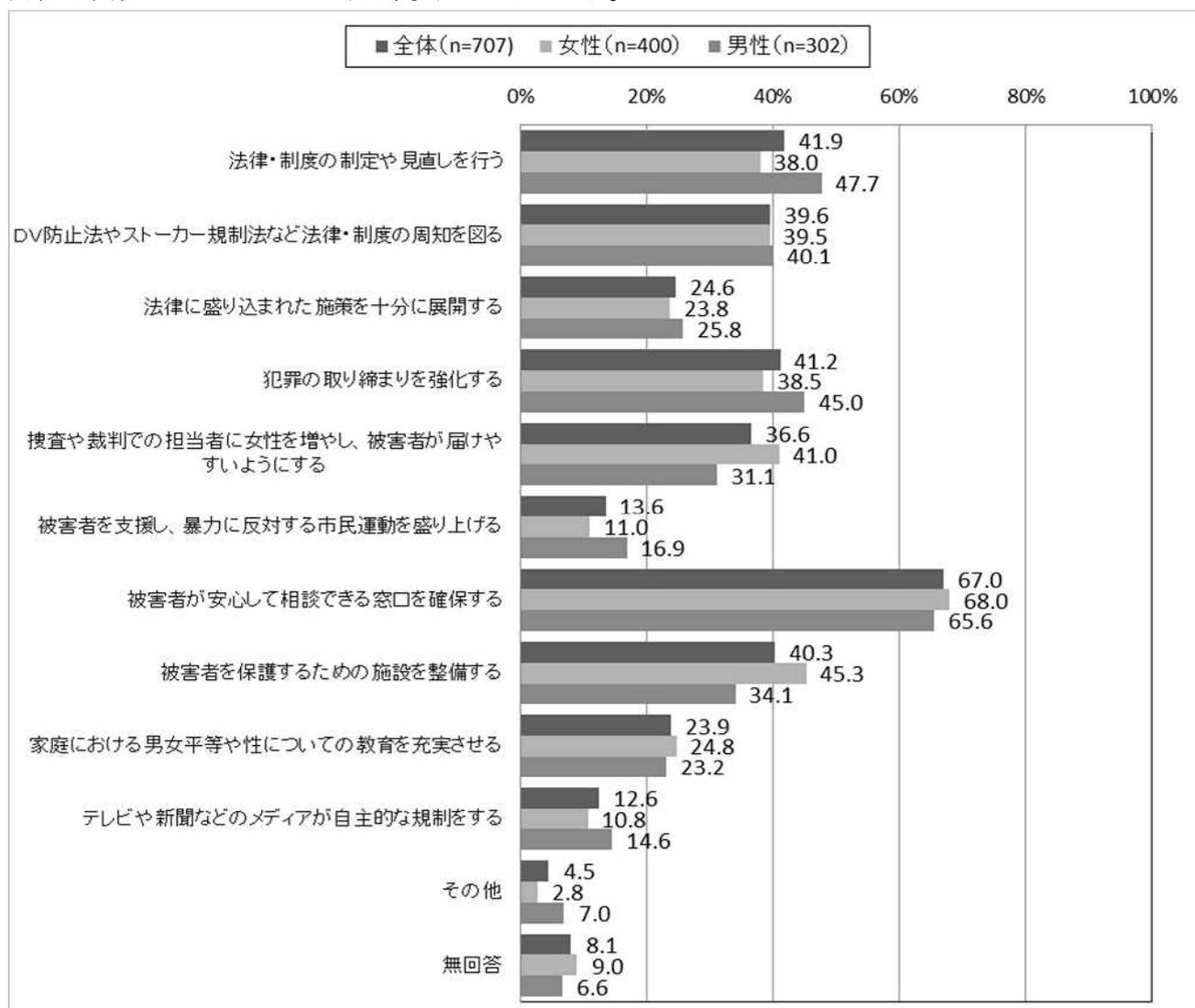
| 選択項目 | 女性全体 (n=65) | 19・20歳代 (n=9) | 30歳代 (n=12) | 40歳代 (n=11) | 50歳代 (n=4) | 60歳代 (n=21) | 70歳以上 (n=8) |
|---------------------------------------|----------------|------------------|----------------|----------------|---------------|----------------|----------------|
| どこ(誰)に相談してよいかわからなかったから | 6.2 | 0.0 | 16.7 | 18.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 恥ずかしくて誰にも言えなかったから | 15.4 | 22.2 | 8.3 | 0.0 | 0.0 | 33.3 | 0.0 |
| 相談しても無駄だと思ったから | 26.2 | 55.6 | 8.3 | 0.0 | 25.0 | 38.1 | 25.0 |
| 相談したことが分かって、仕返しをされたり暴力がさらにひどくなると思ったから | 1.5 | 0.0 | 0.0 | 9.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 相談担当者の言動により、不快な思いをすと思ったから | 4.6 | 11.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 4.8 | 12.5 |
| 自分さえ我慢すれば、何とかこのままでやっていけると思ったから | 40.0 | 55.6 | 25.0 | 36.4 | 25.0 | 52.4 | 25.0 |
| 世間体が悪いから | 3.1 | 0.0 | 8.3 | 0.0 | 0.0 | 4.8 | 0.0 |
| 他人を巻き込みたくなかったから | 4.6 | 11.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 4.8 | 12.5 |
| 被害を受けた事を忘れたかったから | 1.5 | 11.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 自分にも悪いところがあると思ったから | 33.8 | 44.4 | 41.7 | 45.5 | 50.0 | 28.6 | 0.0 |
| 相談するほどのことではないと思ったから | 36.9 | 11.1 | 33.3 | 72.7 | 25.0 | 23.8 | 62.5 |
| その他 | 4.6 | 0.0 | 8.3 | 0.0 | 25.0 | 0.0 | 12.5 |
| 無回答 | 1.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 4.8 | 0.0 |

| 選択項目 | 男性全体 (n=28) | 19・20歳代 (n=3) | 30歳代 (n=5) | 40歳代 (n=2) | 50歳代 (n=5) | 60歳代 (n=6) | 70歳以上 (n=7) |
|---------------------------------------|----------------|------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------|
| どこ(誰)に相談してよいかわからなかったから | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 恥ずかしくて誰にも言えなかったから | 10.7 | 0.0 | 20.0 | 0.0 | 0.0 | 33.3 | 0.0 |
| 相談しても無駄だと思ったから | 25.0 | 0.0 | 20.0 | 0.0 | 0.0 | 50.0 | 42.9 |
| 相談したことが分かって、仕返しをされたり暴力がさらにひどくなると思ったから | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 相談担当者の言動により、不快な思いをすと思ったから | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 自分さえ我慢すれば、何とかこのままでやっていけると思ったから | 42.9 | 33.3 | 40.0 | 0.0 | 20.0 | 100.0 | 28.6 |
| 世間体が悪いから | 3.6 | 0.0 | 20.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 他人を巻き込みたくなかったから | 7.1 | 0.0 | 20.0 | 0.0 | 20.0 | 0.0 | 0.0 |
| 被害を受けた事を忘れたかったから | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 自分にも悪いところがあると思ったから | 53.6 | 66.7 | 60.0 | 50.0 | 40.0 | 66.7 | 42.9 |
| 相談するほどのことではないと思ったから | 42.9 | 0.0 | 40.0 | 100.0 | 40.0 | 66.7 | 28.6 |
| その他 | 10.7 | 33.3 | 20.0 | 0.0 | 0.0 | 16.7 | 0.0 |
| 無回答 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |

(2 3) あなたは、DVや性犯罪などをなくすためには、どうしたらよいと思いますか。
(複数回答)

「被害者が安心して相談できる窓口を確保する」が67.0%で最も高く、次いで「法律・制度の制定や見直しを行う」41.9%、「犯罪の取り締まりを強化する」41.2%の順となっています。

性別で見ると、「被害者を保護するための施設を整備する」や「捜査や裁判での担当者に女性を増やし、被害者が届けやすいようにする」と回答した割合は、女性が男性より10ポイント程度高く、「法律・制度の制定や見直しを行う」や「犯罪の取り締まりを強化する」と回答した割合は、男性が女性より6ポイント以上高くなっています。



| 性別 | 年代 | その他 |
|----|----------|---|
| 女性 | 19・20 歳代 | 小学校高学年、中学生の教育の場などで正しい知識を身につけさせる |
| 女性 | 19・20 歳代 | 教育の中で取り扱う |
| 女性 | 19・20 歳代 | 学生の時までにもっとしっかり性について、法・制度などを学習させる |
| 女性 | 19・20 歳代 | 子どもの時から親が愛情をもって育てる。 |
| 女性 | 30 歳代 | 受ける側が勇気を出す |
| 女性 | 30 歳代 | DVを行っている人は、自分が加害者だとは気付いてないことが多いと思う。注意しているだけ、叱っているだけ、教育しているだけと思っている。DVとは何か...と、いうことか...など、今の子どもたちの方が学校などで教えてもらっていると思うが、20 歳以上の人は、なかなか知る機会がないと思う。 |
| 女性 | 30 歳代 | 子どもへの教育の充実を図る。 父母の暴力を目の当たりにしている子どもは対処方法が分からないと思うため |
| 女性 | 40 歳代 | 子どもの時からの教育 |
| 女性 | 50 歳代 | DVや性犯罪については相手から逃げられない(経済的・身体的・精神的など)場合が多く、またDV等家庭内で起こる事もある為他者の目に止まりにくいので大変難しいと思います。また、報復を考えて声を挙げにくかったりする為、第三者が介入し、一定の期間離すような制度があれば良いのではと思います。 |
| 女性 | 50 歳代 | 家庭・地域・社会・学校等小さい頃から安心して生活できる環境を整え、正しい性教育をする |
| 女性 | 60 歳代 | 犯罪の起こりやすい環境を変える 明るい灯火の街通り。ゴミなどの少ないキレイな通りや路地等。 |
| 女性 | 60 歳代 | ストレスに強い人間に育てる |
| 男性 | 19・20 歳代 | 警察がすぐ動いてくれれば悲しい事件は減らせると思います |
| 男性 | 19・20 歳代 | 女性の自衛意識を向上させる教育を行う |
| 男性 | 19・20 歳代 | DVや性犯罪をしている人、自身にひどいこと、悪いことをしていると気づかせることが必要だと思う。 |
| 男性 | 30 歳代 | DVは言葉もあることを理解する |
| 男性 | 30 歳代 | 周囲の人たちが気づいてあげて早めに専門機関に連絡・報告を行う。 |
| 男性 | 30 歳代 | お金に困らない。時間に困らない。裕福な家庭・社会になる事。 |
| 男性 | 30 歳代 | 個人の意識を高め相手を思いやれば良い結果が出せると思う。 |
| 男性 | 40 歳代 | 厳罰を受けることを学校で教育。社会にPRする |
| 男性 | 40 歳代 | 実感がないので分からない |
| 男性 | 40 歳代 | 金銭の援助 |
| 男性 | 40 歳代 | 性犯罪の厳罰化(死刑) |
| 男性 | 50 歳代 | 相談窓口の正確な対応が必要 |
| 男性 | 60 歳代 | 警察官の意識改革、教育が必要! |
| 男性 | 60 歳代 | 三従などの誤った考えをもたないよう教育の徹底。子どもに対し暴力などのTVなどからの影響を与えないようにすること。 |
| 男性 | 60 歳代 | 人間として基本的な事を小さい時から教育する。法律などは後追い。 |
| 男性 | 70 歳以上 | 家庭に限らず幼少期からの教育が必要 |
| 男性 | 70 歳以上 | わからない |
| 男性 | 70 歳以上 | 犯罪者の刑が軽すぎる重くすべき |
| 女性 | 19・20 歳代 | 小学校高学年、中学生の教育の場などで正しい知識を身につけさせる |
| 女性 | 19・20 歳代 | 教育の中で取り扱う |

性別・年代別で見ると、「被害者が安心して相談できる窓口を確保する」と回答した割合は、女性のすべての年代で最も高くなっています。また、「犯罪の取り締まりを強化する」と回答した割合は、男性の「30歳代」54.2%と高くなっています。

| 選択項目 | 女性全体 (n=400) | 19・20歳代 (n=50) | 30歳代 (n=64) | 40歳代 (n=78) | 50歳代 (n=60) | 60歳代 (n=92) | 70歳以上 (n=56) |
|----------------------------------|-----------------|-------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|-----------------|
| 法律・制度の制定や見直しを行う | 38.0 | 48.0 | 40.6 | 44.9 | 40.0 | 27.2 | 32.1 |
| DV防止法やストーカー規制法など法律・制度の周知を図る | 39.5 | 36.0 | 39.1 | 38.5 | 43.3 | 39.1 | 41.1 |
| 法律に盛り込まれた施策を十分に展開する | 23.8 | 22.0 | 23.4 | 26.9 | 30.0 | 17.4 | 25.0 |
| 犯罪の取り締まりを強化する | 38.5 | 56.0 | 45.3 | 34.6 | 31.7 | 33.7 | 35.7 |
| 捜査や裁判での担当者に女性を増やし、被害者が届けやすいようにする | 41.0 | 56.0 | 34.4 | 46.2 | 30.0 | 42.4 | 37.5 |
| 被害者を支援し、暴力に反対する市民運動を盛り上げる | 11.0 | 6.0 | 6.3 | 9.0 | 18.3 | 9.8 | 17.9 |
| 被害者が安心して相談できる窓口を確保する | 68.0 | 72.0 | 59.4 | 69.2 | 75.0 | 69.6 | 62.5 |
| 被害者を保護するための施設を整備する | 45.3 | 56.0 | 51.6 | 53.8 | 51.7 | 38.0 | 21.4 |
| 家庭における男女平等や性についての教育を充実させる | 24.8 | 24.0 | 25.0 | 26.9 | 26.7 | 25.0 | 19.6 |
| テレビや新聞などのメディアが自主的な規制をする | 10.8 | 6.0 | 9.4 | 6.4 | 13.3 | 17.4 | 8.9 |
| その他 | 2.8 | 8.0 | 4.7 | 1.3 | 1.7 | 2.2 | 0.0 |
| 無回答 | 9.0 | 0.0 | 3.1 | 5.1 | 15.0 | 10.9 | 19.6 |

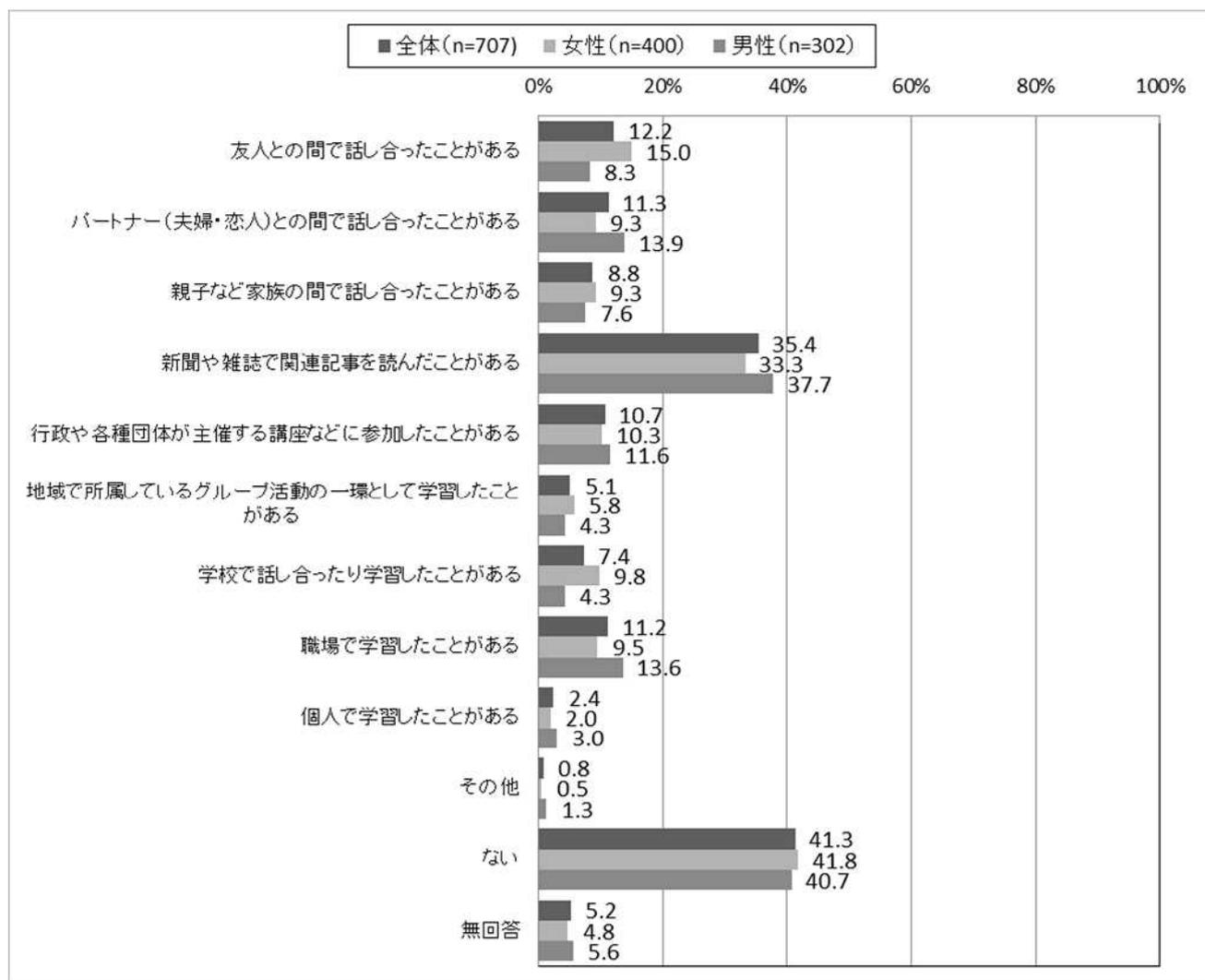
| 選択項目 | 男性全体 (n=302) | 19・20歳代 (n=32) | 30歳代 (n=24) | 40歳代 (n=42) | 50歳代 (n=54) | 60歳代 (n=71) | 70歳以上 (n=78) |
|----------------------------------|-----------------|-------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|-----------------|
| 法律・制度の制定や見直しを行う | 47.7 | 53.1 | 50.0 | 57.1 | 53.7 | 40.8 | 42.3 |
| DV防止法やストーカー規制法など法律・制度の周知を図る | 40.1 | 31.3 | 41.7 | 40.5 | 46.3 | 42.3 | 37.2 |
| 法律に盛り込まれた施策を十分に展開する | 25.8 | 21.9 | 20.8 | 26.2 | 31.5 | 31.0 | 20.5 |
| 犯罪の取り締まりを強化する | 45.0 | 43.8 | 54.2 | 47.6 | 44.4 | 47.9 | 39.7 |
| 捜査や裁判での担当者に女性を増やし、被害者が届けやすいようにする | 31.1 | 34.4 | 33.3 | 26.2 | 51.9 | 23.9 | 24.4 |
| 被害者を支援し、暴力に反対する市民運動を盛り上げる | 7.2 | 3.7 | 6.8 | 8.3 | 13.0 | 8.0 | 8.8 |
| 被害者が安心して相談できる窓口を確保する | 28.0 | 23.2 | 17.0 | 20.8 | 34.2 | 29.4 | 38.2 |
| 被害者を保護するための施設を整備する | 14.6 | 8.5 | 9.1 | 10.8 | 21.1 | 16.6 | 17.6 |
| 家庭における男女平等や性についての教育を充実させる | 9.9 | 6.1 | 9.1 | 8.3 | 13.2 | 8.6 | 13.2 |
| テレビや新聞などのメディアが自主的な規制をする | 6.2 | 2.4 | 4.5 | 3.3 | 9.6 | 9.2 | 5.9 |
| その他 | 3.0 | 4.9 | 4.5 | 3.3 | 1.8 | 1.8 | 2.9 |
| 無回答 | 2.8 | 0.0 | 1.1 | 1.7 | 1.8 | 1.8 | 8.1 |

6 . 男女共同参画社会について

(24) あなたは、これまでに男女共同参画について話し合ったり学習したりしたことがありますか。(複数回答)

「ない」が41.3%で最も高く、次いで「新聞や雑誌で関連記事を読んだことがある」35.4%、「友人との間で話し合ったことがある」12.2%の順となっています。

性別で見ると、「友人との間で話し合ったことがある」や「学校で話し合ったり学習したことがある」と回答した割合は、女性が男性より6ポイント程度高く、「パートナー(夫婦・恋人)との間で話し合ったことがある」や「新聞や雑誌で関連記事を読んだことがある」、「職場で学習したことがある」と回答した割合は、男性が女性より4ポイント以上高くなっています。



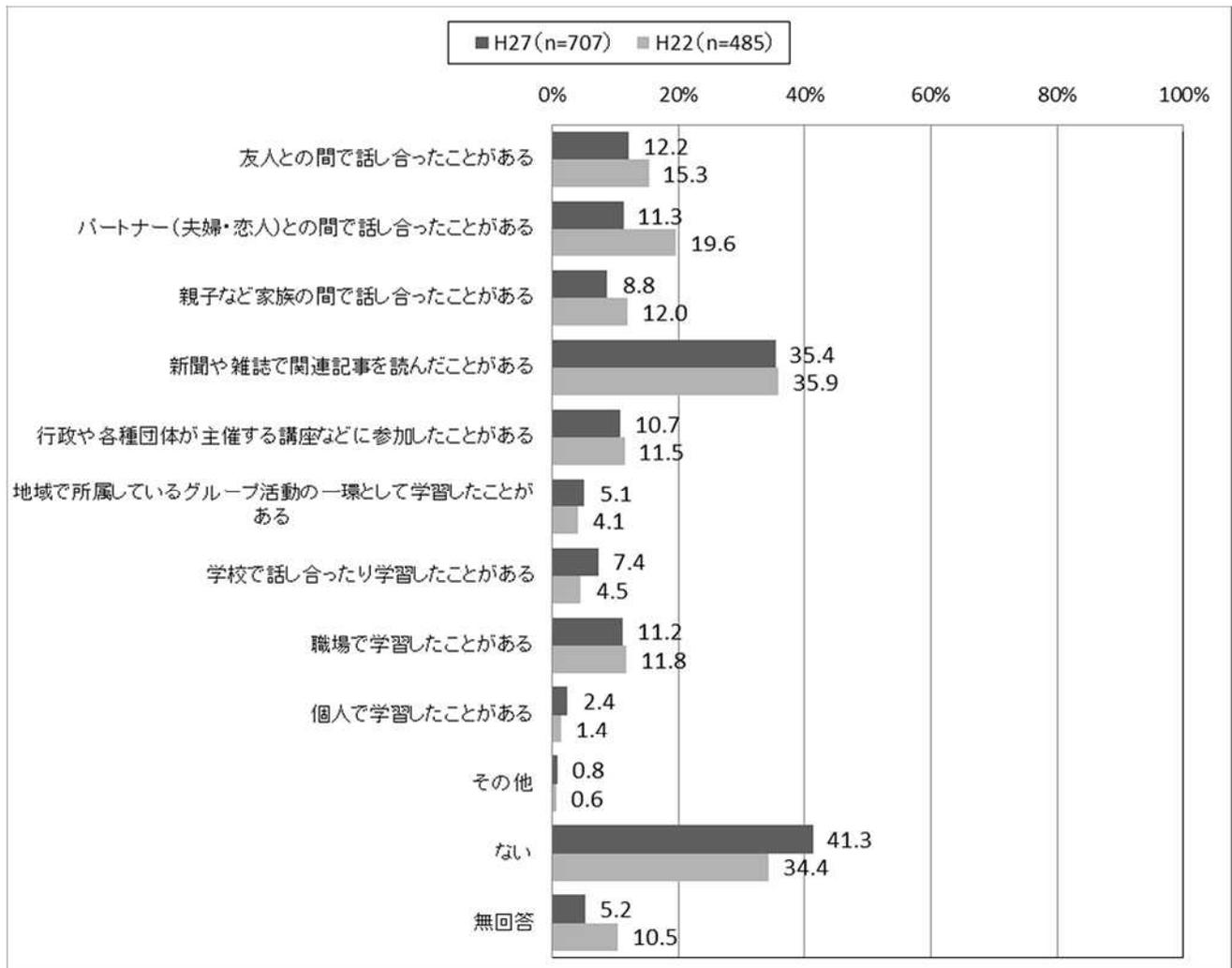
| 性別 | 年代 | その他 |
|----|-------|------------------|
| 女性 | 70歳以上 | 婦人会活動 |
| 男性 | 40歳代 | 委員会のメンバー |
| 男性 | 60歳代 | 会社が子育て応援宣言事業所である |

性別・年代別で見ると、「学校で話し合ったり学習したことがある」と回答した割合は、女性の「19・20歳代」(60.0%)が非常に高くなっています。また、「新聞や雑誌で関連記事を読んだことがある」と回答した割合は、女性・男性ともに「60歳以上」で最も高くなっています。

| 選択項目 | 女性全体 (n=400) | 19・20歳代 (n=50) | 30歳代 (n=64) | 40歳代 (n=78) | 50歳代 (n=60) | 60歳代 (n=92) | 70歳以上 (n=56) |
|--------------------------------|-----------------|-------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|-----------------|
| 友人との間で話し合ったことがある | 15.0 | 10.0 | 7.8 | 10.3 | 16.7 | 21.7 | 21.4 |
| パートナー(夫婦・恋人)との間で話し合ったことがある | 9.3 | 10.0 | 7.8 | 6.4 | 10.0 | 13.0 | 7.1 |
| 親子など家族の間で話し合ったことがある | 9.3 | 8.0 | 3.1 | 7.7 | 13.3 | 12.0 | 10.7 |
| 新聞や雑誌で関連記事を読んだことがある | 33.3 | 16.0 | 25.0 | 32.1 | 40.0 | 38.0 | 44.6 |
| 行政や各種団体が主催する講座などに参加したことがある | 10.3 | 4.0 | 3.1 | 9.0 | 13.3 | 14.1 | 16.1 |
| 地域で所属しているグループ活動の一環として学習したことがある | 5.8 | 2.0 | 1.6 | 2.6 | 3.3 | 9.8 | 14.3 |
| 学校で話し合ったり学習したことがある | 9.8 | 60.0 | 6.3 | 1.3 | 5.0 | 0.0 | 1.8 |
| 職場で学習したことがある | 9.5 | 4.0 | 15.6 | 12.8 | 10.0 | 9.8 | 1.8 |
| 個人で学習したことがある | 2.0 | 4.0 | 0.0 | 2.6 | 5.0 | 1.1 | 0.0 |
| その他 | 0.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.6 |
| ない | 41.8 | 26.0 | 57.8 | 50.0 | 45.0 | 33.7 | 35.7 |
| 無回答 | 4.8 | 0.0 | 1.6 | 2.6 | 5.0 | 8.7 | 8.9 |

| 選択項目 | 男性全体 (n=302) | 19・20歳代 (n=32) | 30歳代 (n=24) | 40歳代 (n=42) | 50歳代 (n=54) | 60歳代 (n=71) | 70歳以上 (n=78) |
|--------------------------------|-----------------|-------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|-----------------|
| 友人との間で話し合ったことがある | 8.3 | 6.3 | 8.3 | 2.4 | 5.6 | 9.9 | 12.8 |
| パートナー(夫婦・恋人)との間で話し合ったことがある | 13.9 | 6.3 | 12.5 | 9.5 | 9.3 | 22.5 | 15.4 |
| 親子など家族の間で話し合ったことがある | 7.6 | 3.1 | 4.2 | 2.4 | 1.9 | 8.5 | 16.7 |
| 新聞や雑誌で関連記事を読んだことがある | 37.7 | 9.4 | 29.2 | 19.0 | 35.2 | 53.5 | 48.7 |
| 行政や各種団体が主催する講座などに参加したことがある | 11.6 | 0.0 | 8.3 | 7.1 | 14.8 | 12.7 | 16.7 |
| 地域で所属しているグループ活動の一環として学習したことがある | 4.3 | 0.0 | 4.2 | 0.0 | 1.9 | 0.0 | 12.8 |
| 学校で話し合ったり学習したことがある | 4.3 | 25.0 | 0.0 | 2.4 | 0.0 | 1.4 | 3.8 |
| 職場で学習したことがある | 13.6 | 9.4 | 16.7 | 16.7 | 18.5 | 14.1 | 9.0 |
| 個人で学習したことがある | 3.0 | 0.0 | 4.2 | 0.0 | 1.9 | 4.2 | 5.1 |
| その他 | 1.3 | 0.0 | 0.0 | 2.4 | 0.0 | 1.4 | 2.6 |
| ない | 40.7 | 56.3 | 54.2 | 52.4 | 46.3 | 32.4 | 28.2 |
| 無回答 | 5.6 | 3.1 | 4.2 | 7.1 | 5.6 | 4.2 | 7.7 |

H22 と H27 の調査を比較すると、「パートナー（夫婦・恋人）との間で話し合ったことがある」「親子など家族の間で話し合ったことがある」「友人との間で話し合ったことがある」と回答した割合は、H27 が H22 より 3 ポイント以上低くなっています。また、「学校で話し合ったり学習したことがある」と回答した割合は、H27 が H22 より 2.9 ポイント高くなっていますが、「ない」と回答した割合も 6.9 ポイント高くなっています。



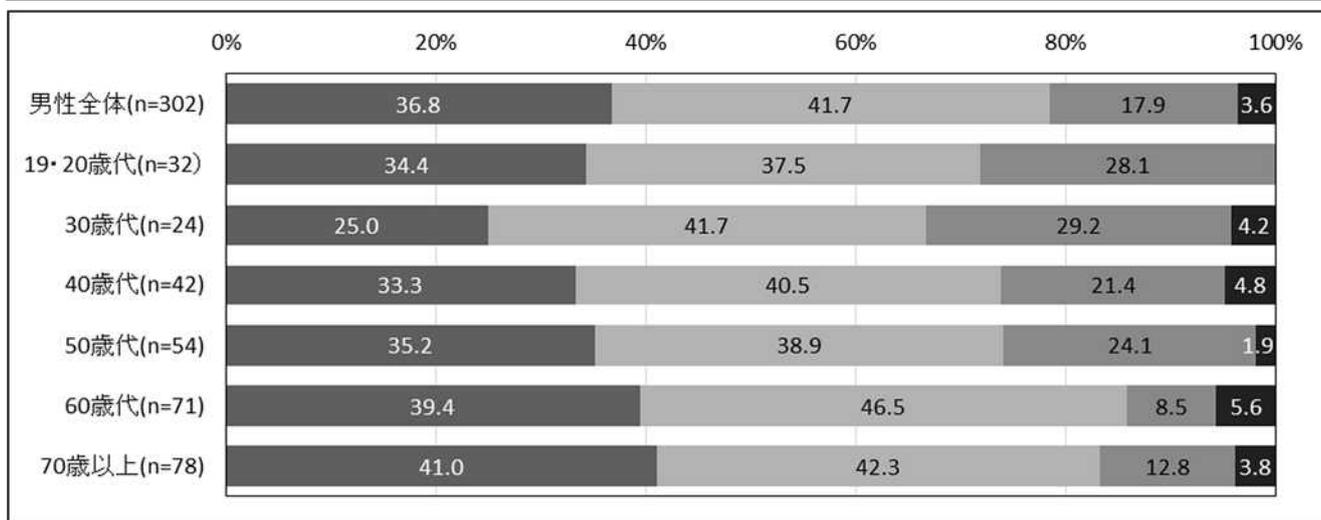
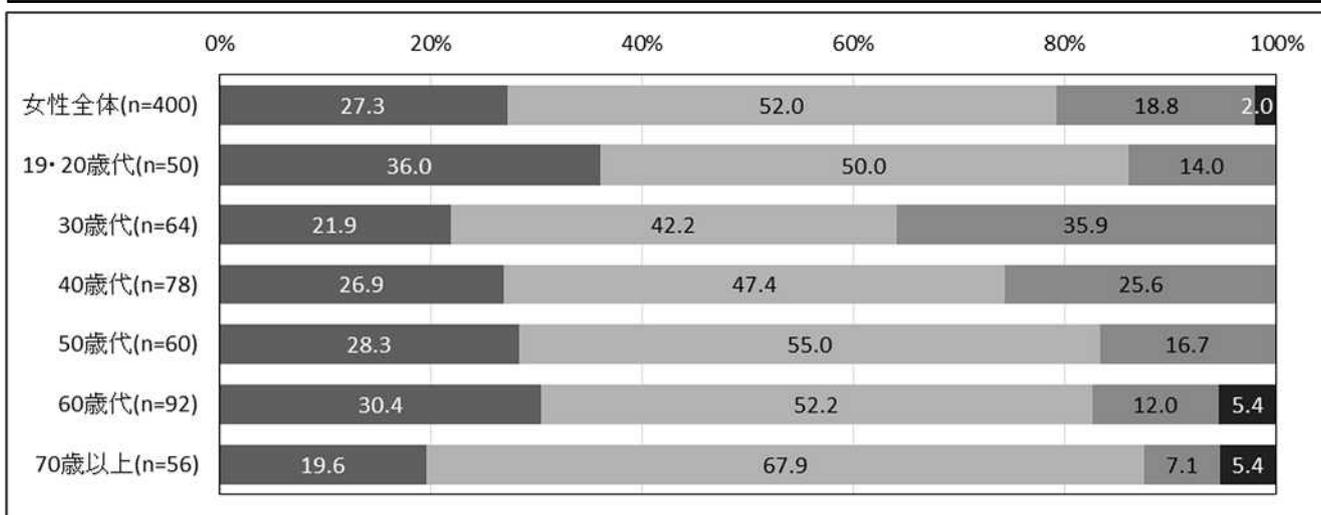
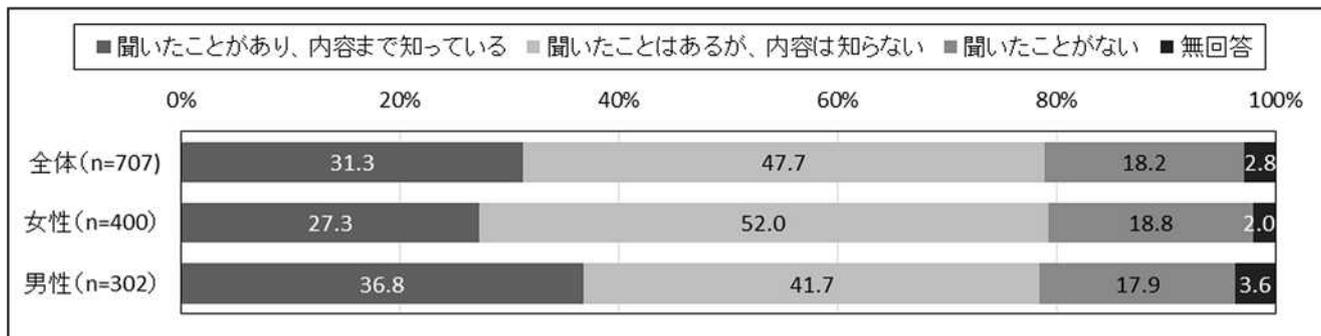
(25) これらの言葉や内容を知っていますか。

男女共同参画

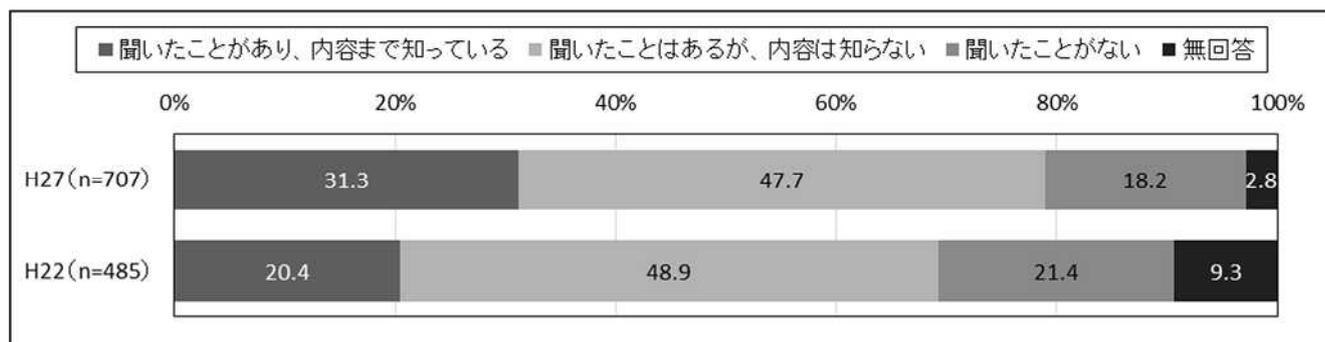
「聞いたことはあるが、内容は知らない」が47.7%で最も高く、次いで「聞いたことがあります、内容まで知っている」31.3%、「聞いたことがない」18.2%の順となっています。

性別で見ると、「聞いたことがあるが、内容は知らない」と回答した割合は、女性(52.0%)が男性(41.7%)より10.3ポイント高く、「聞いたことがあります、内容まで知っている」と回答した割合は、男性(36.8%)女性(27.3%)より9.5ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「聞いたことがない」と回答した割合は、女性の「30歳代」から「40歳代」、男性の「19・20歳代」から「30歳代」で30%程度と高くなっています。



H22 と H27 の調査を比較すると、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、H27 (31.3%) が H22 (20.4%) より 10.9 ポイント高くなっています。

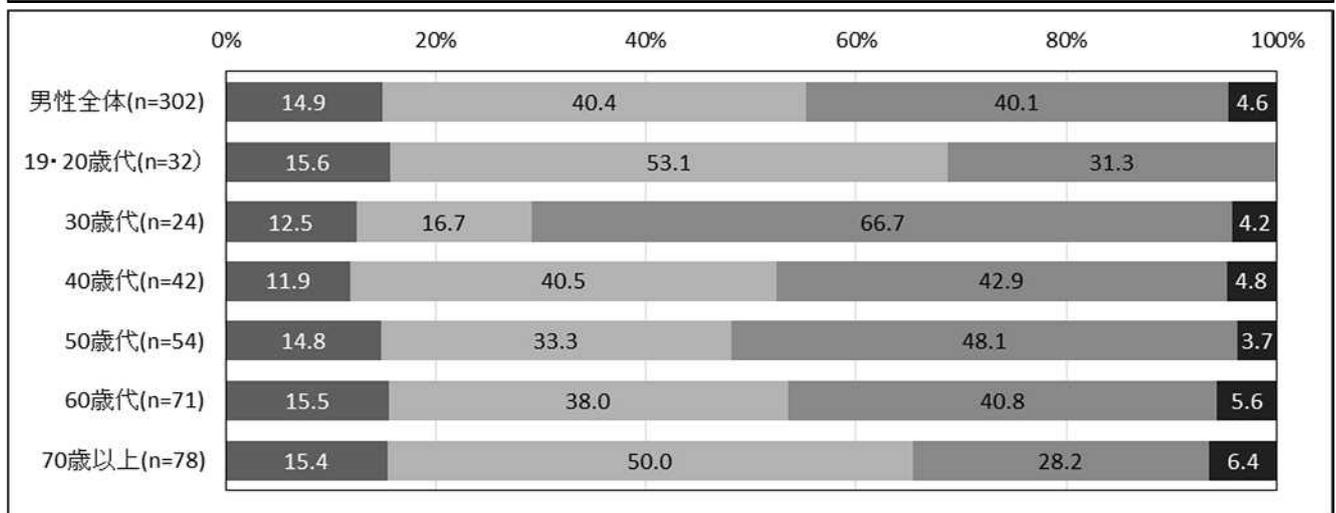
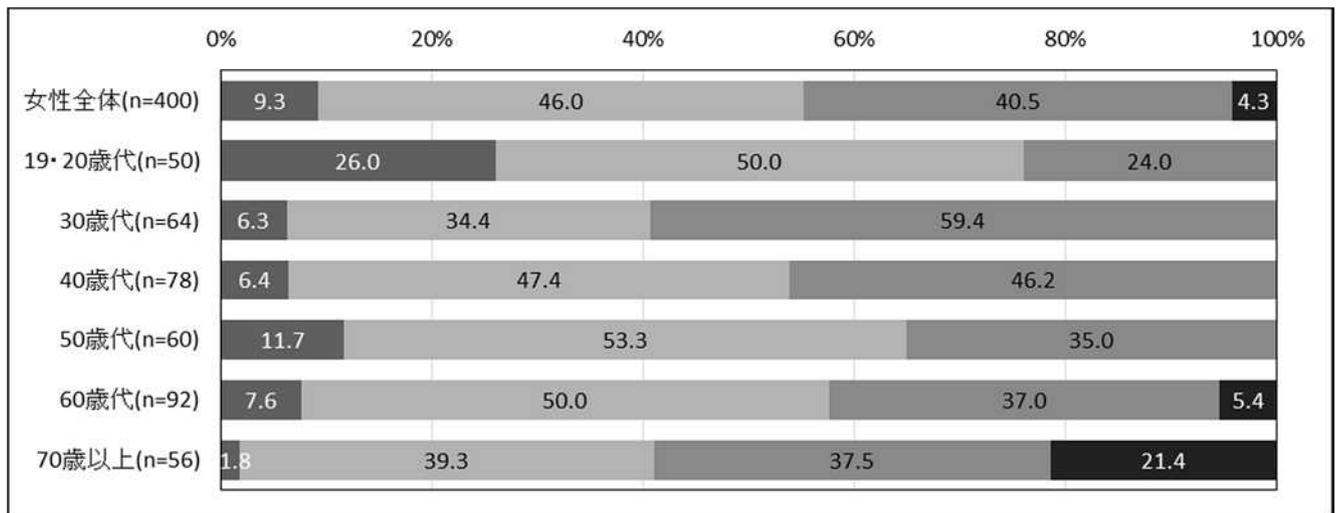
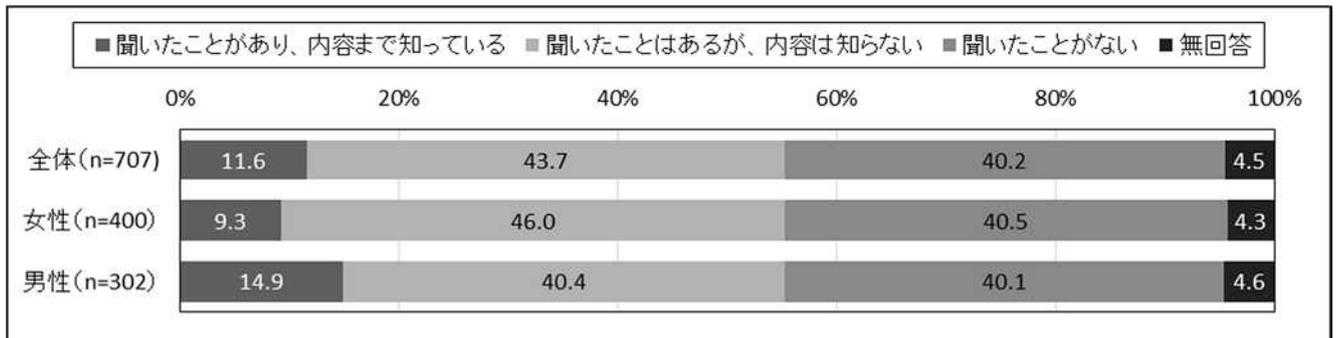


男女共同参画社会基本法

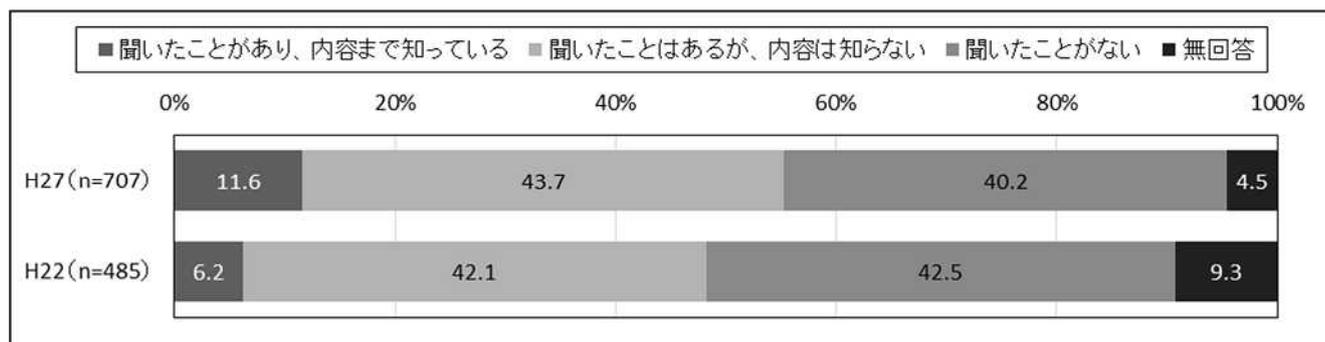
「聞いたことはあるが、内容は知らない」が43.7%で最も高く、次いで「聞いたことがない」40.2%、「聞いたことがあり、内容まで知っている」11.6%の順となっています。

性別で見ると、「聞いたことがあり、内容は知らない」と回答した割合は、女性(46.0%)が男性(40.4%)より5.6ポイント高く、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、男性(14.9%)が女性(9.3%)より5.6ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「聞いたことがない」と回答した割合は、女性、男性ともに「30歳代」で最も高くなっています。



H22 と H27 の調査を比較すると、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、H27（11.6%）が H22（6.2%）より 5.4 ポイント高くなっています。

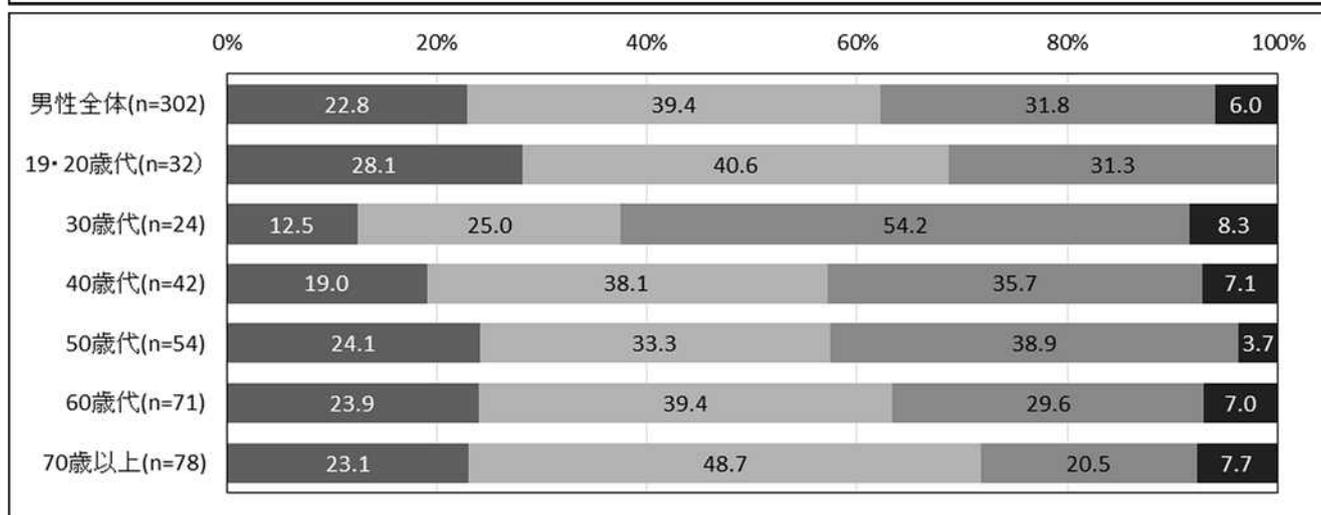
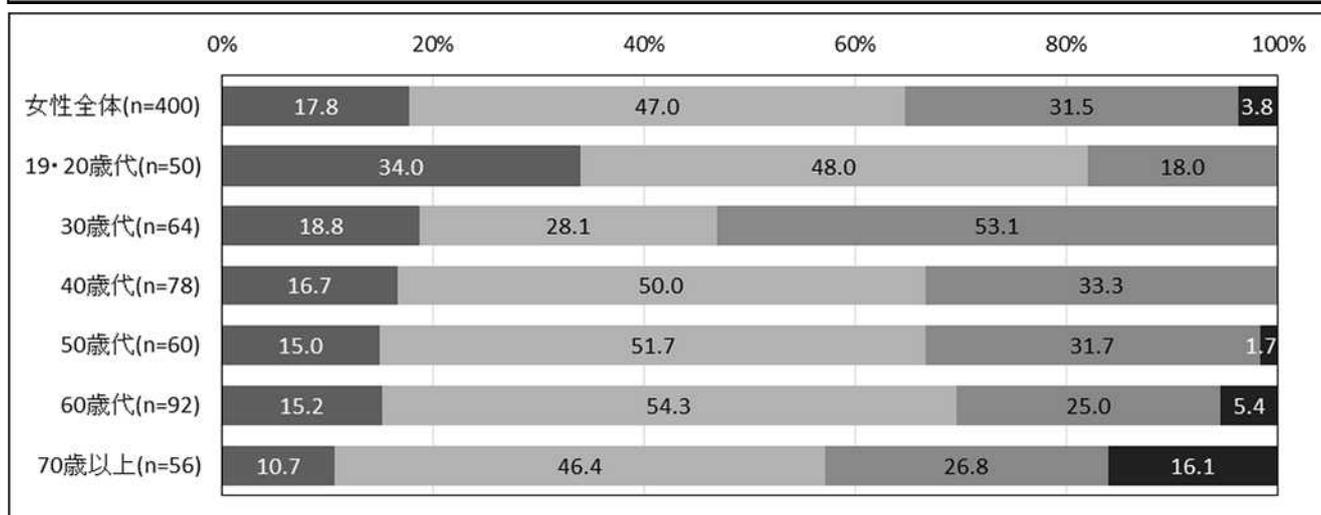
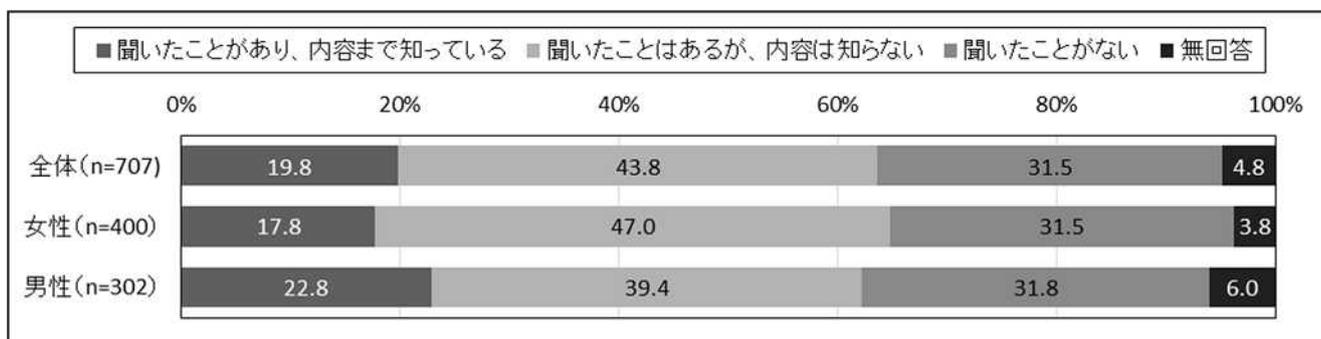


男女共同参画社会

「聞いたことはあるが、内容は知らない」が43.8%で最も高く、次いで「聞いたことがない」31.5%、「聞いたことがあり、内容まで知っている」19.8%の順となっています。

性別で見ると、「聞いたことがあり、内容は知らない」と回答した割合は、女性(47.0%)が男性(39.4%)より7.6ポイント高く、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、男性(22.8%)が女性(17.8%)より5.0ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「聞いたことがない」と回答した割合は、女性・男性ともに「30歳代」が50%以上と最も高くなっています。

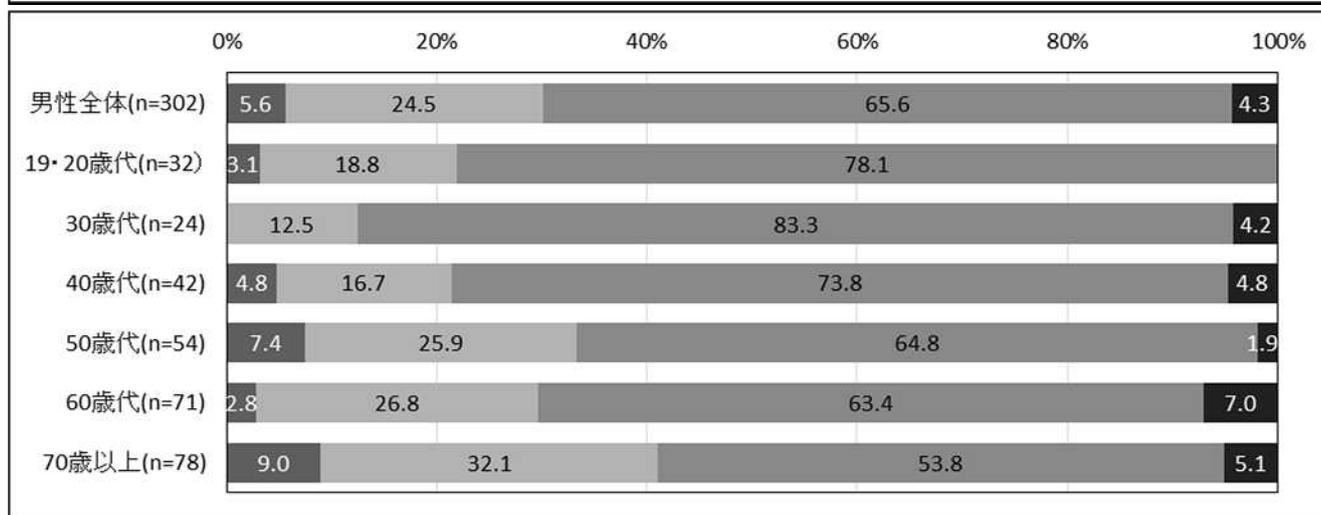
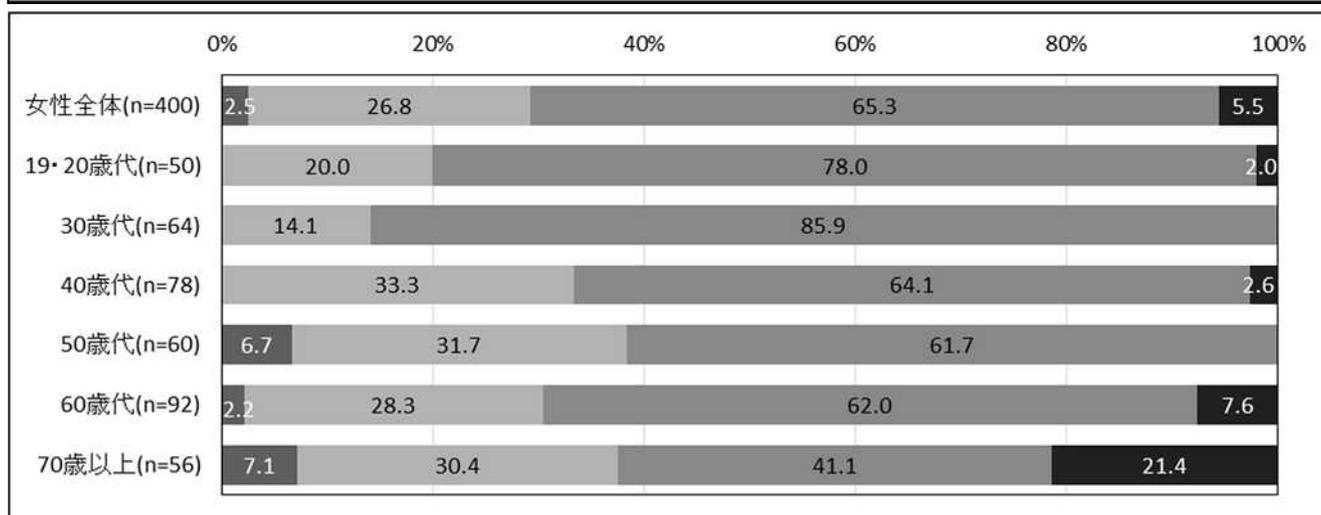
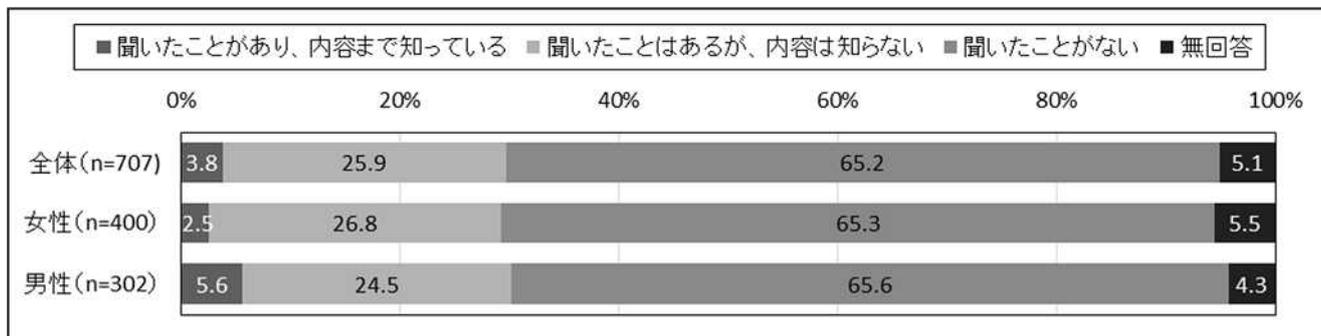


小城市男女共同参画プラン（さくらプラン）

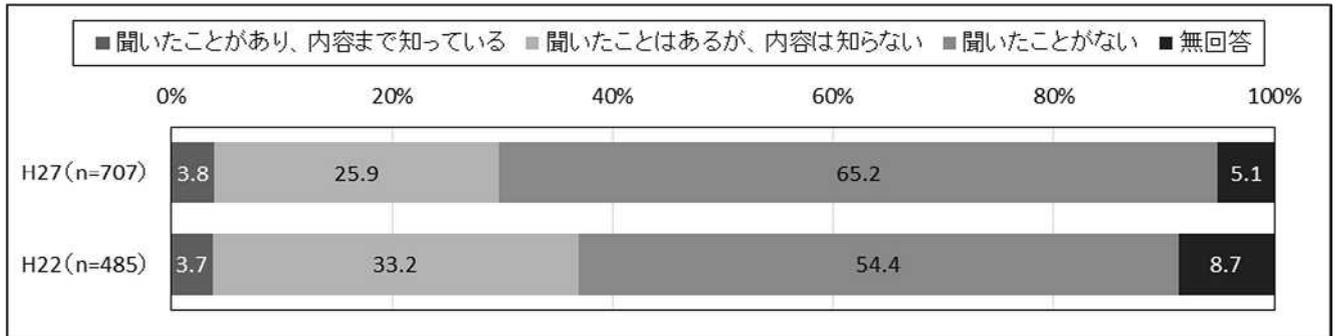
「聞いたことがない」が65.2%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」25.9%、「聞いたことがあり、内容まで知っている」3.8%の順となっています。

性別で見ると、「聞いたことはあるが、内容は知らない」と回答した割合は、女性（26.8%）が男性（24.5%）より2.3ポイント高く、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、男性（5.6%）が女性（2.5%）より3.1ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「聞いたことがない」と回答した割合は、女性・男性ともに「19・20歳代」から「30歳代」で80%程度と高くなっています。



H22 と H27 の調査を比較すると、「聞いたことはあるが、内容は知らない」と回答した割合は、H27 (25.9%) が H22 (33.2%) より 7.3 ポイント低くなり、「聞いたことがない」と回答した割合は、H27 (65.2%) が H22 (54.4%) より 10.8 ポイント高くなっています。

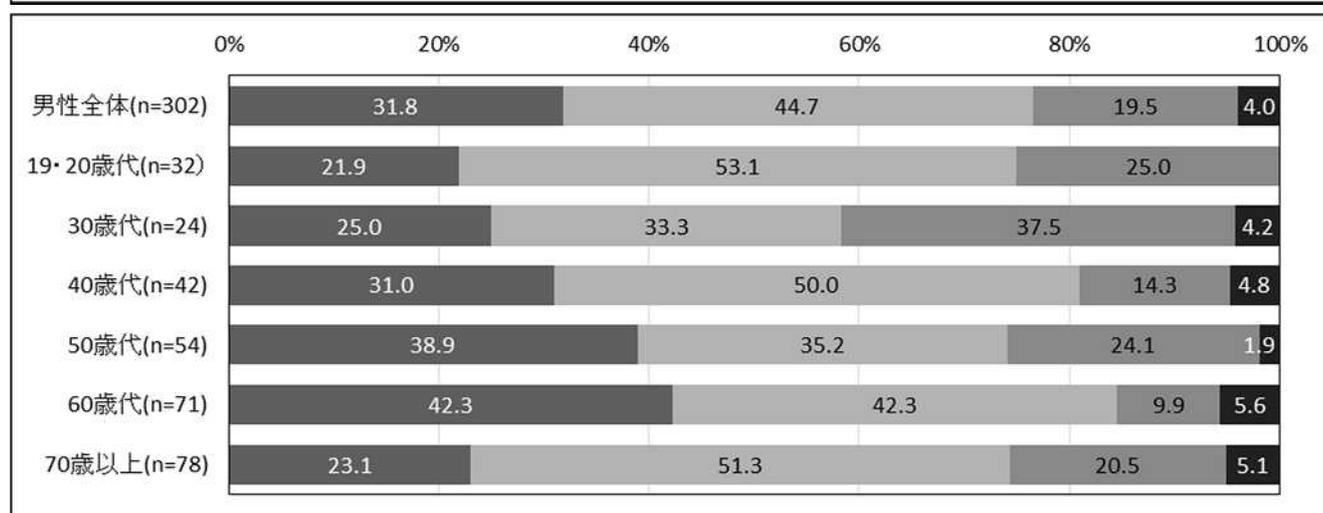
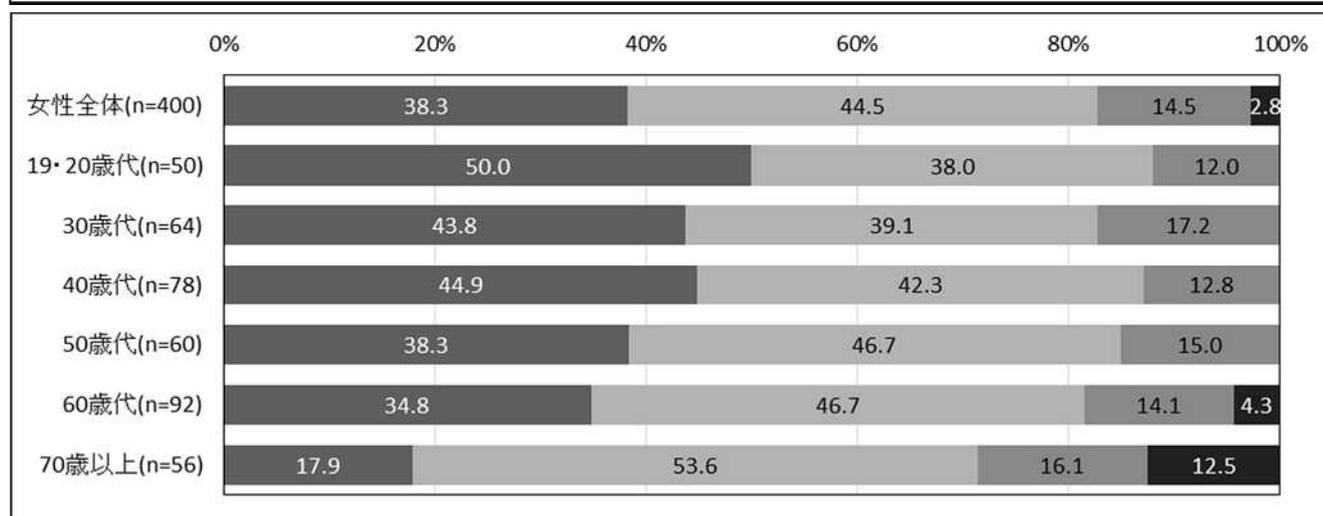
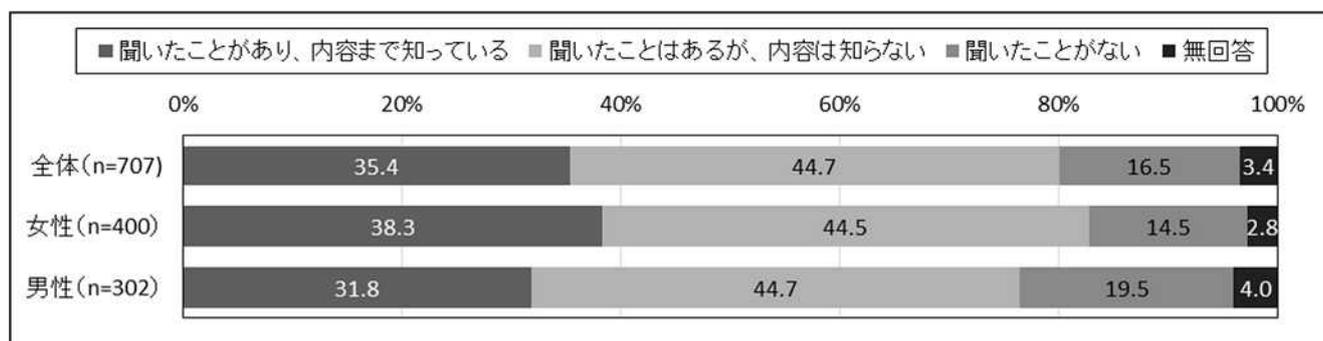


育児・介護休業法

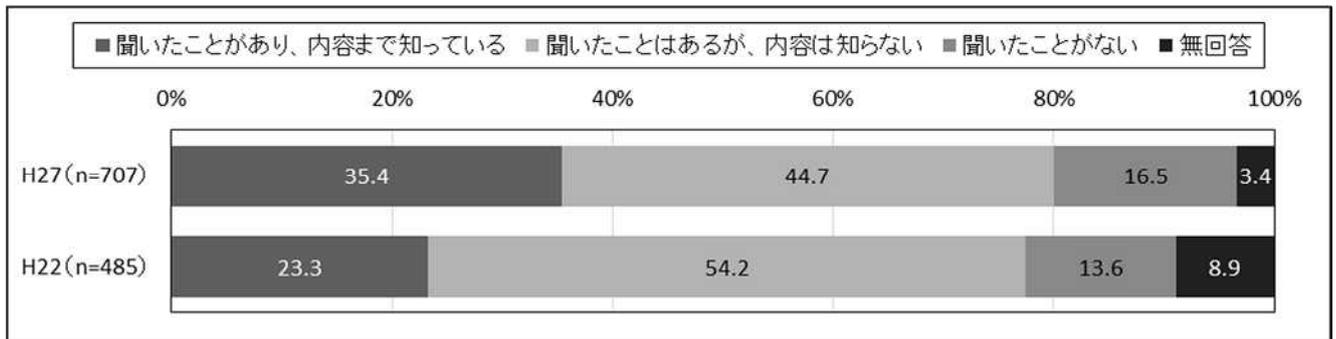
「聞いたことはあるが、内容は知らない」が44.7%で最も高く、次いで「聞いたことがあり、内容まで知っている」35.4%、「聞いたことがない」16.5%の順となっています。

性別で見ると、「聞いたことがない」と回答した割合は、男性(19.5%)が女性(14.5%)より5.0ポイント高く、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、女性(38.3%)が男性(31.8%)より6.5ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、女性の「19・20歳代」50.0%、男性の「60歳代」42.3%と高くなっています。また、「聞いたことがない」と回答した割合は、男性の「30歳代」37.5%と高くなっています。



H22 と H27 の調査を比較すると、「聞いたことはあるが、内容は知らない」と回答した割合は、H27 (44.7%) が H22 (54.2%) より 9.5 ポイント低くなり、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、H27 (35.4%) が H22 (23.3%) より 12.1 ポイント高くなっています。

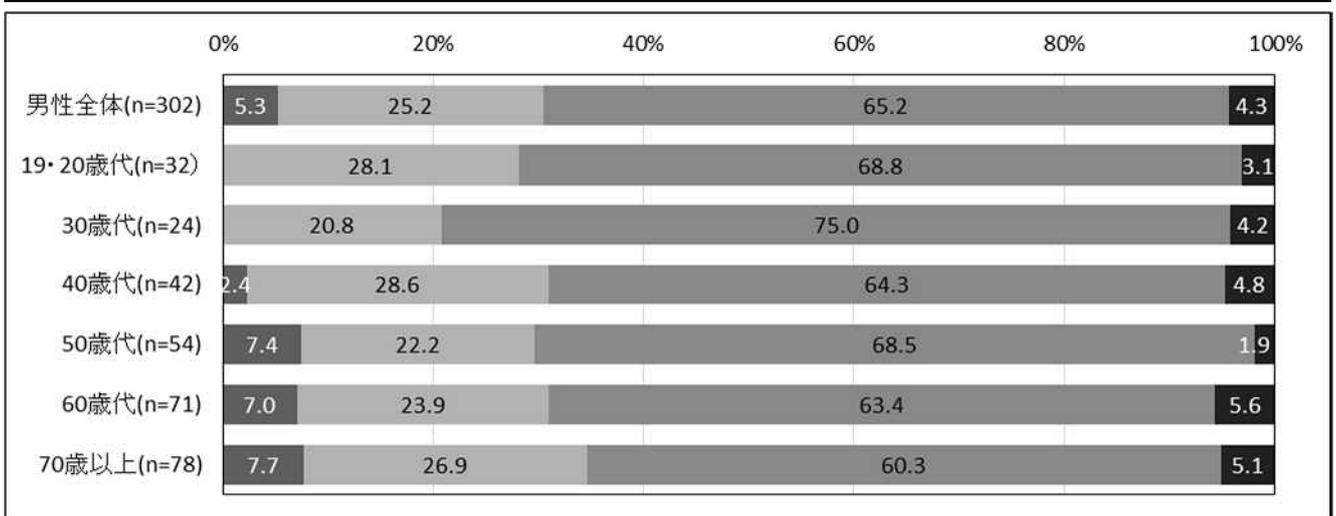
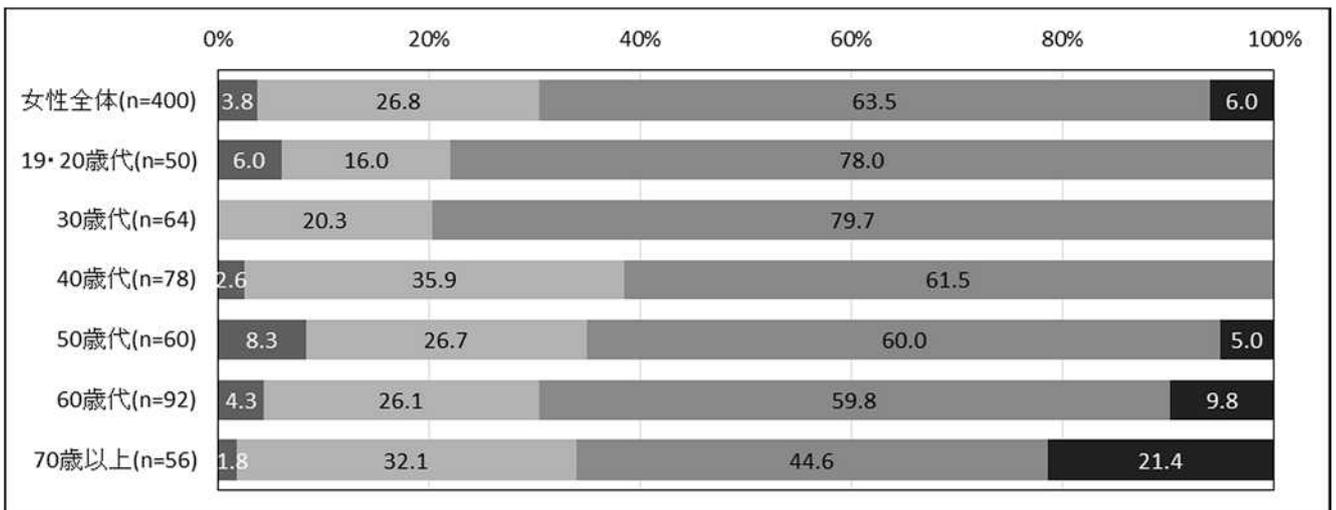
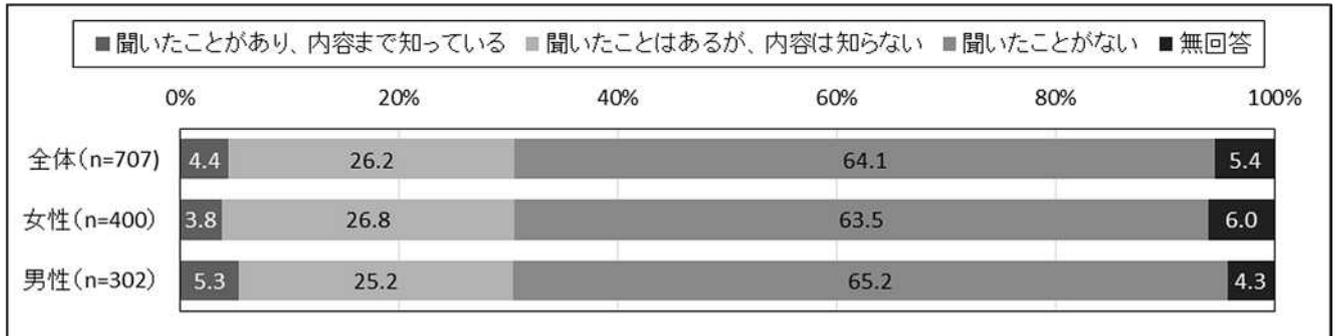


次世代育成支援対策推進法

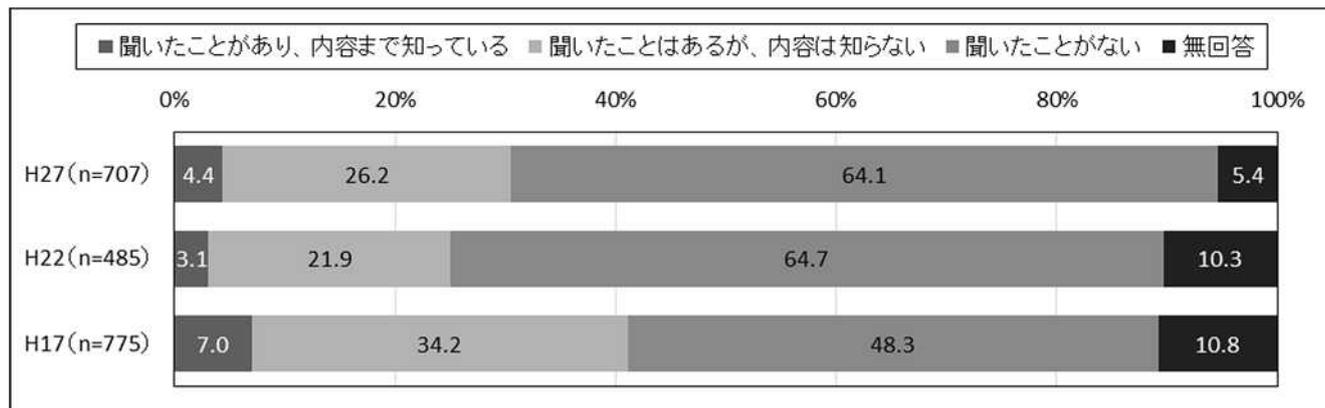
「聞いたことがない」が64.1%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」26.2%、「聞いたことがあり、内容まで知っている」4.4%の順となっています。

性別による大きな差異は見られません。

性別・年代別で見ると、「聞いたことがない」と回答した割合は、女性の「19・20歳代」から「30歳代」、男性の「30歳代」で80%程度と高くなっています。



H17 と H27 の調査を比較すると、「聞いたことはあるが、内容は知らない」と回答した割合は、H27 (26.2%) が H17 (34.2%) より 8 ポイント低くなり、「聞いたことがない」と回答した割合は、H27 (64.1%) が H17 (48.3%) より 15.8 ポイント高くなっています。

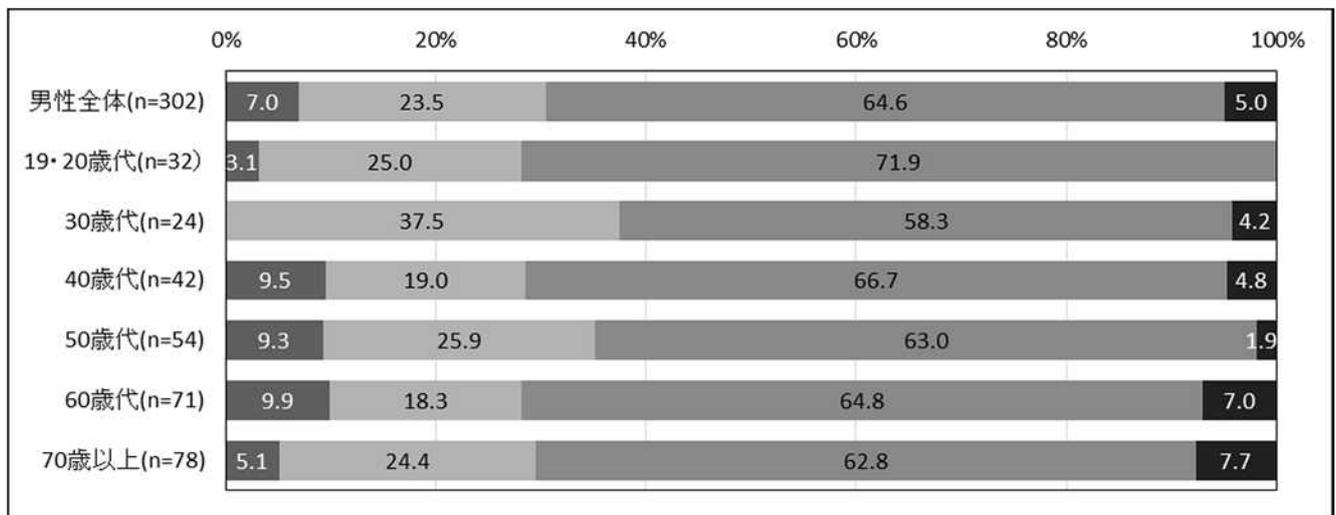
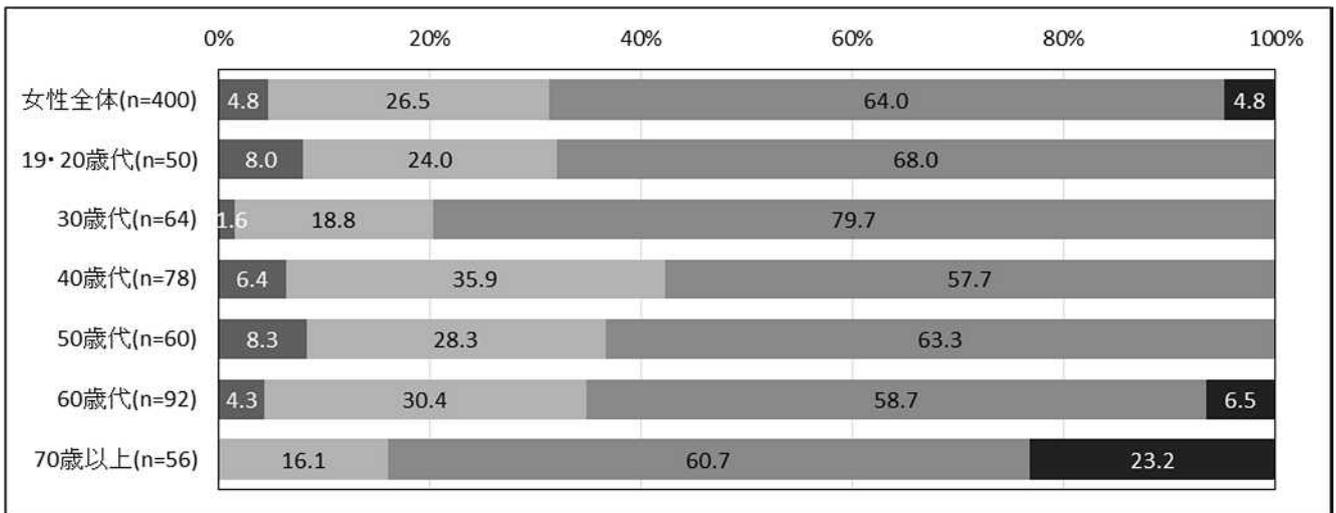
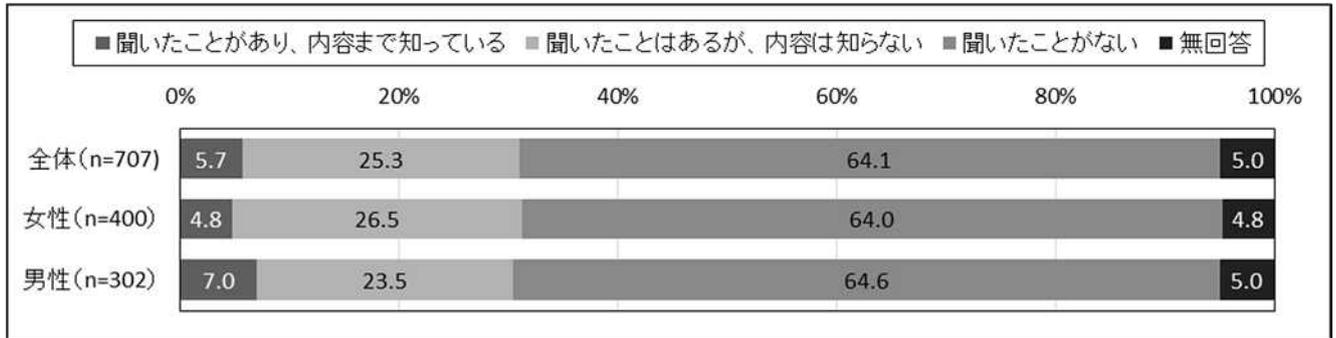


ポジティブ・アクション

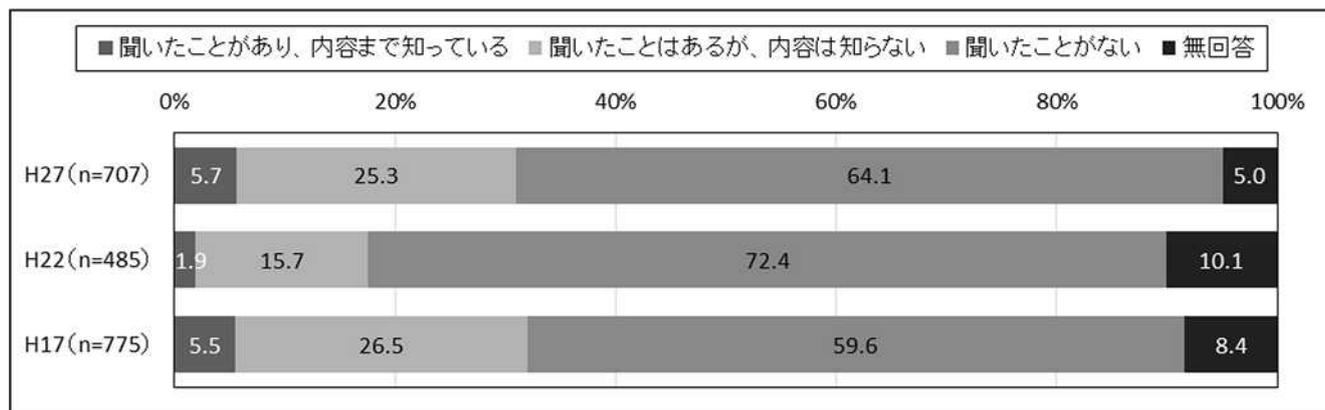
「聞いたことがない」が64.1%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」25.3%、「聞いたことがあり、内容まで知っている」5.7%の順となっています。

性別で見ると、「聞いたことはあるが、内容は知らない」と回答した割合は、女性(26.5%)が男性(23.5%)より3.0ポイント高く、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、男性(7.0%)が女性(4.8%)より2.2ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「聞いたことがない」と回答した割合は、女性の「30歳代」、男性の「19・20歳代」で70%以上と高くなっています。



H17 と H27 の調査を比較すると、「聞いたことがない」と回答した割合は、H27 (64.1%) が H17 (59.6%) より 4.5 ポイント低くなっています。

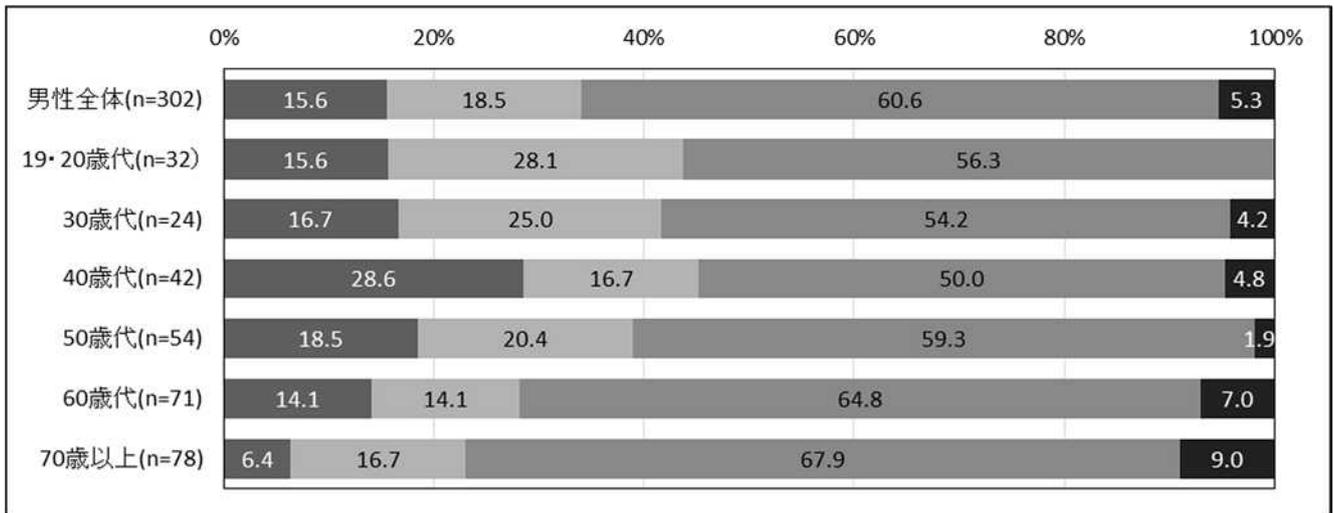
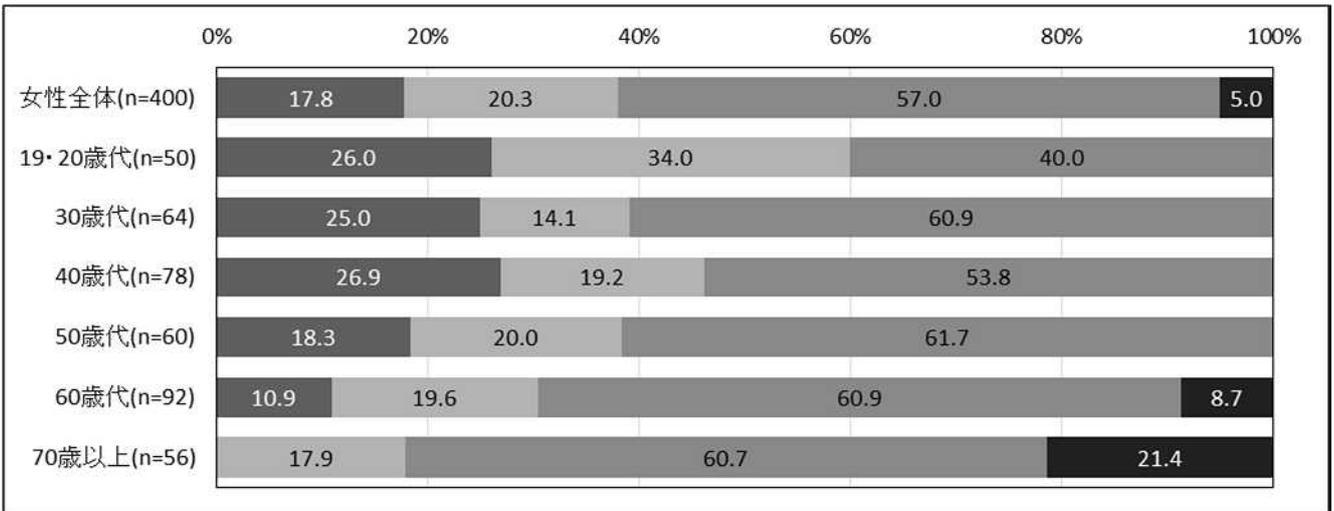
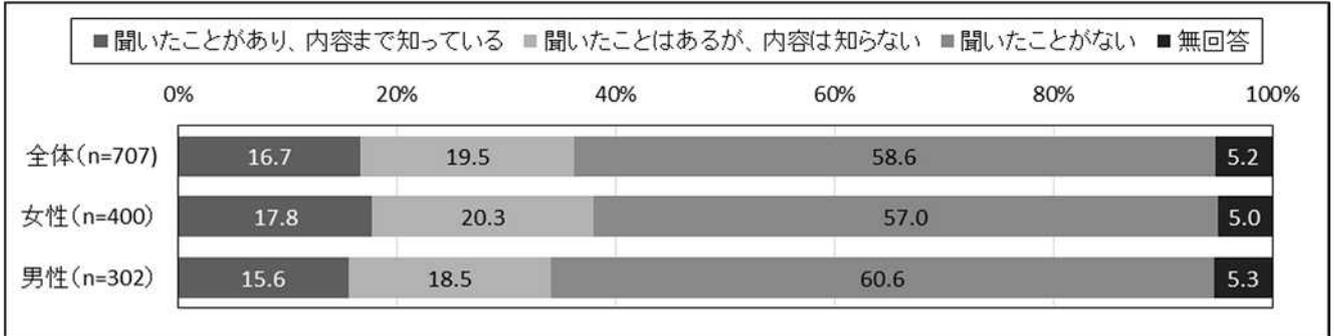


ジェンダー

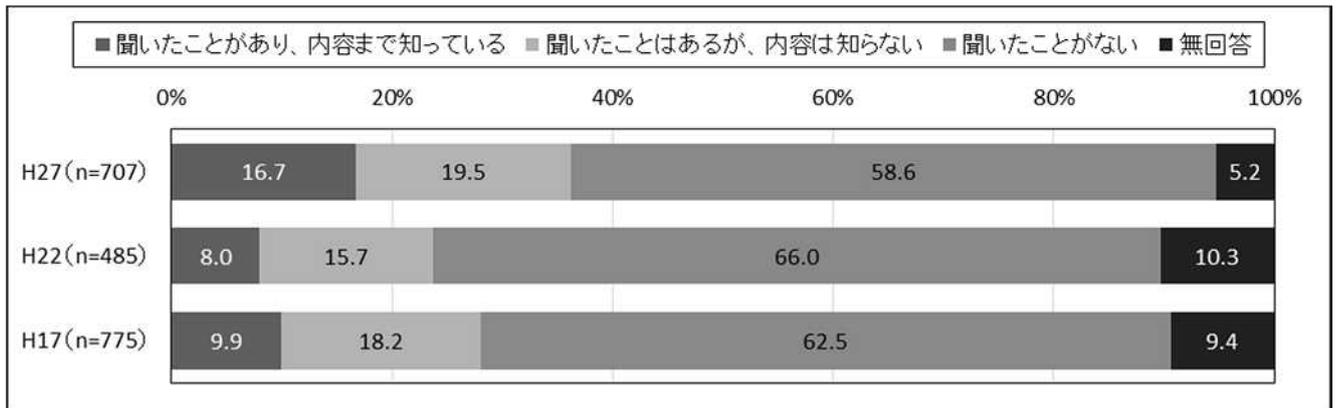
「聞いたことがない」が58.6%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」19.5%、「聞いたことがあり、内容まで知っている」16.7%の順となっています。

性別で見てもそれほど差異はみられませんが、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、女性(17.8%)が男性(15.6%)より2.2ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、女性の「19・20歳代」から「40歳代」、男性の「40歳代」で25%以上と高くなっています。また、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した人は、女性の「70歳以上」ではいけません。



H17 と H27 の調査を比較すると、「聞いたことがない」と回答した割合は、H27（58.6%）が H17（62.5%）より 3.9 ポイント低くなり、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、H27（16.7%）が H17（9.9%）より 6.8 ポイント高くなっています。

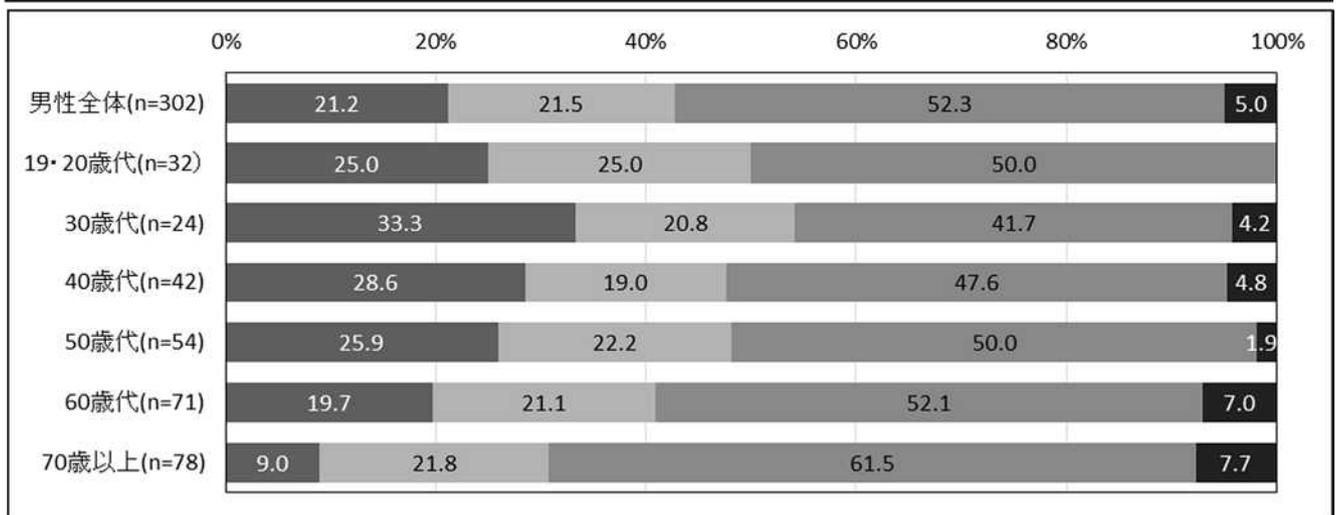
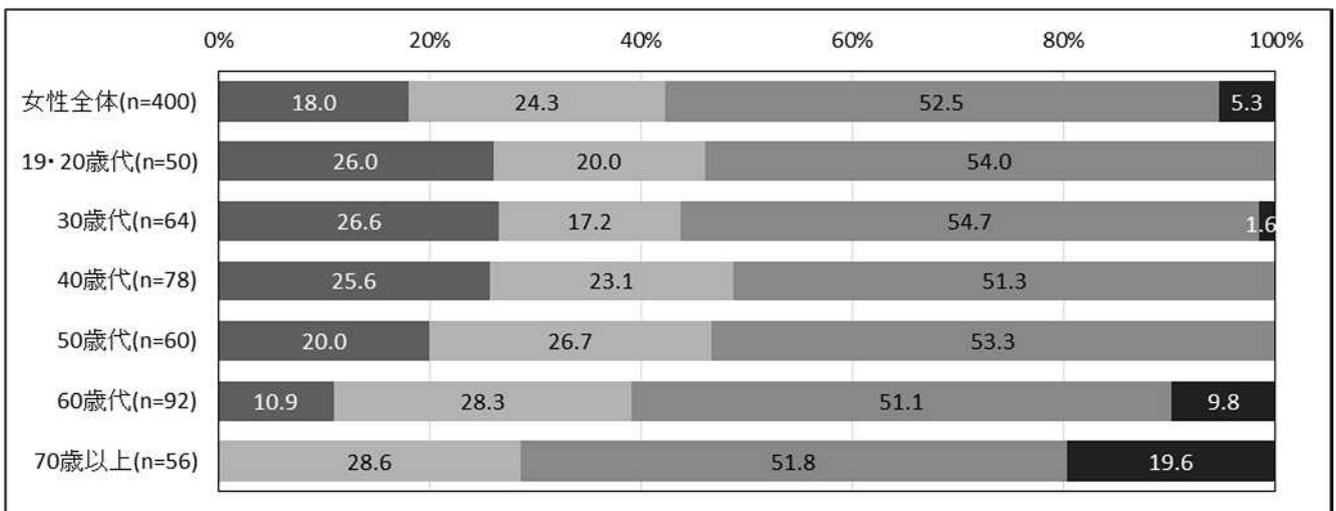
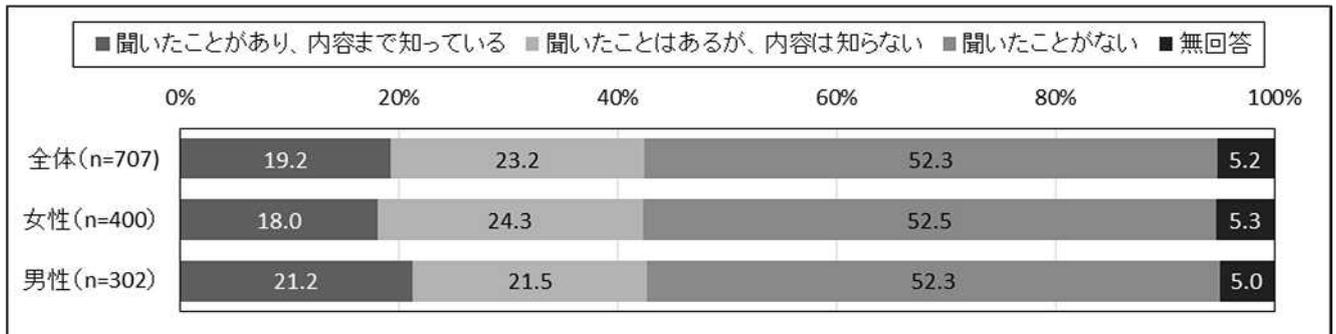


ワーク・ライフ・バランス

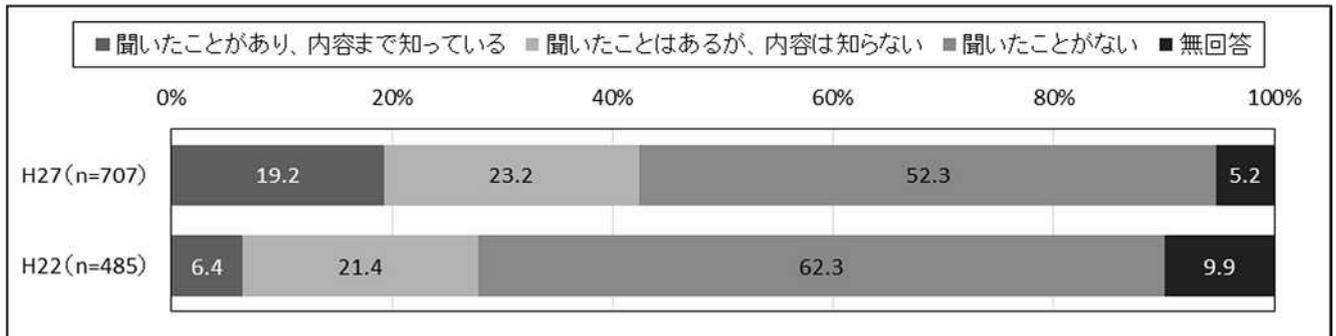
「聞いたことがない」が52.3%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」23.2%、「聞いたことがあり、内容まで知っている」19.2%の順となっています。

性別で見ると、「聞いたことはあるが、内容は知らない」と回答した割合は、女性(24.3%)が男性(21.5%)より2.8ポイント高く、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、男性(21.2%)が女性(18.0%)より3.2ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、女性の「19・20歳代」から「40歳代」、男性の「19・20歳代」から「50歳代」で25%以上と高くなっています。また、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した人は、女性の「70歳以上」ではありません。



H22 と H27 の調査を比較すると、「聞いたことがない」と回答した割合は、H27（52.3%）が H22（62.3%）より 10 ポイント低くなり、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、H27（19.2%）が H22（6.4%）より 12.8 ポイント高くなっています。

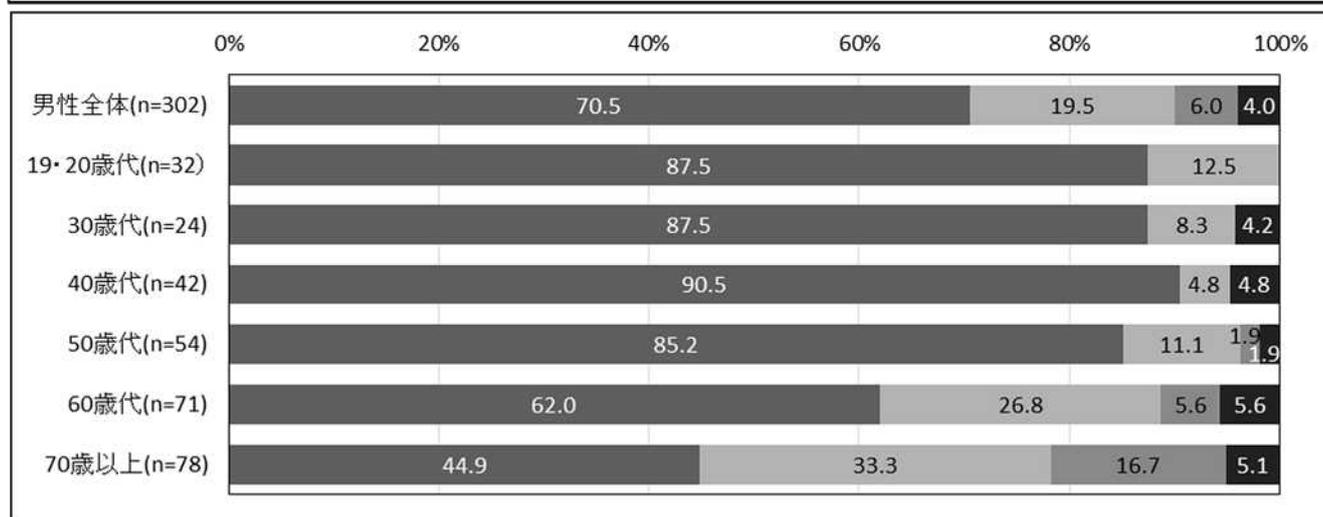
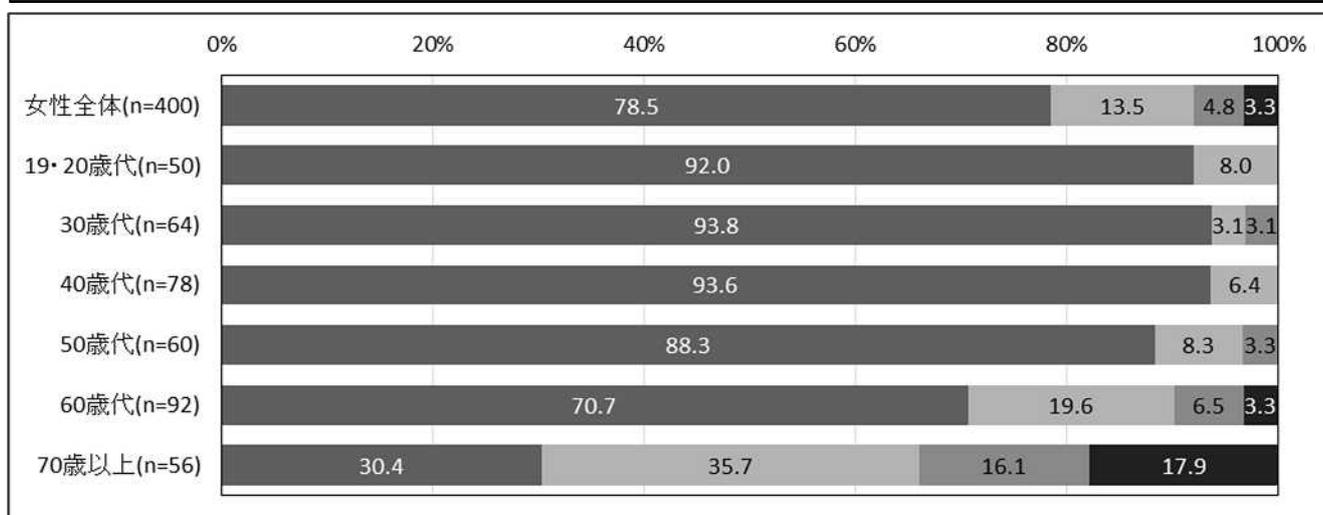
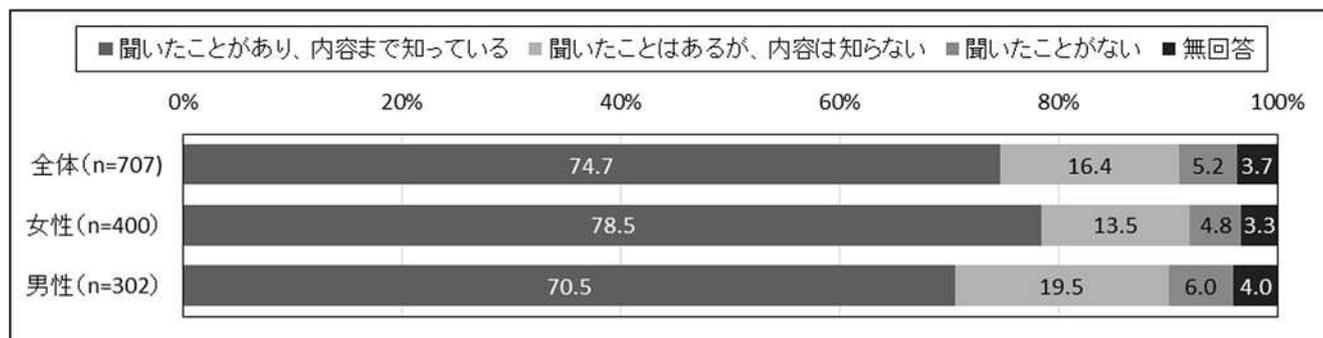


ドメスティック・バイオレンス（DV）

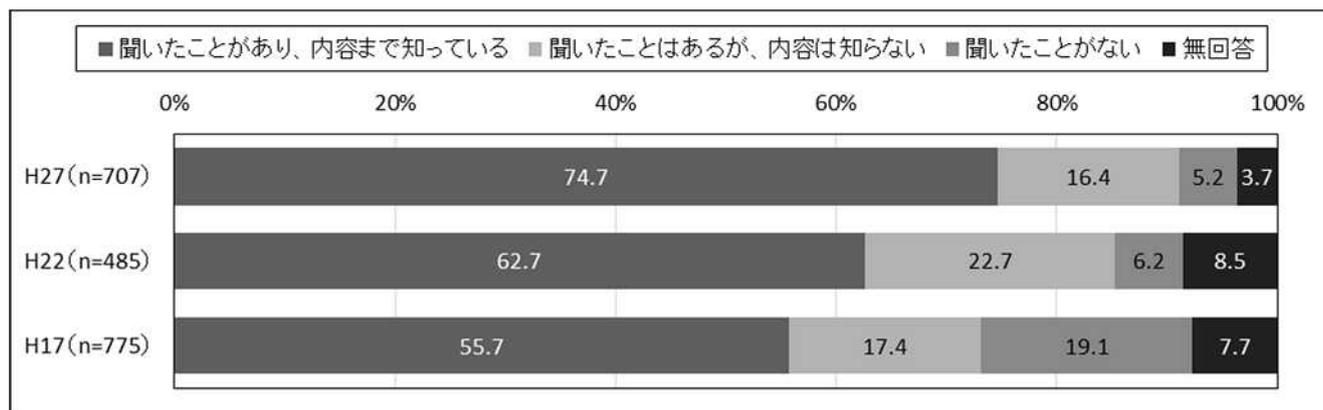
「聞いたことがあり、内容まで知っている」が74.7%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」16.4%、「聞いたことがない」5.2%の順となっています。

性別で見ると、「聞いたことはあるが、内容は知らない」と回答した割合は、男性（19.5%）が女性（13.5%）より6.0ポイント高く、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、女性（78.5%）が男性（70.5%）より8.0ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、女性・男性ともに「19・20歳代」から「50歳代」で90%程度と非常に高くなっています。しかし、「聞いたことがない」と回答した割合は、女性・男性ともに年代が上がるにつれ高くなり、特に「70歳以上」では16%以上と高くなっています。



H17とH27の調査を比較すると、「聞いたことがない」と回答した割合は、H27(5.2%)がH17(19.1%)より13.9ポイント低くなり、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、H27(74.7%)がH17(55.7%)より19.0ポイント高くなっています。

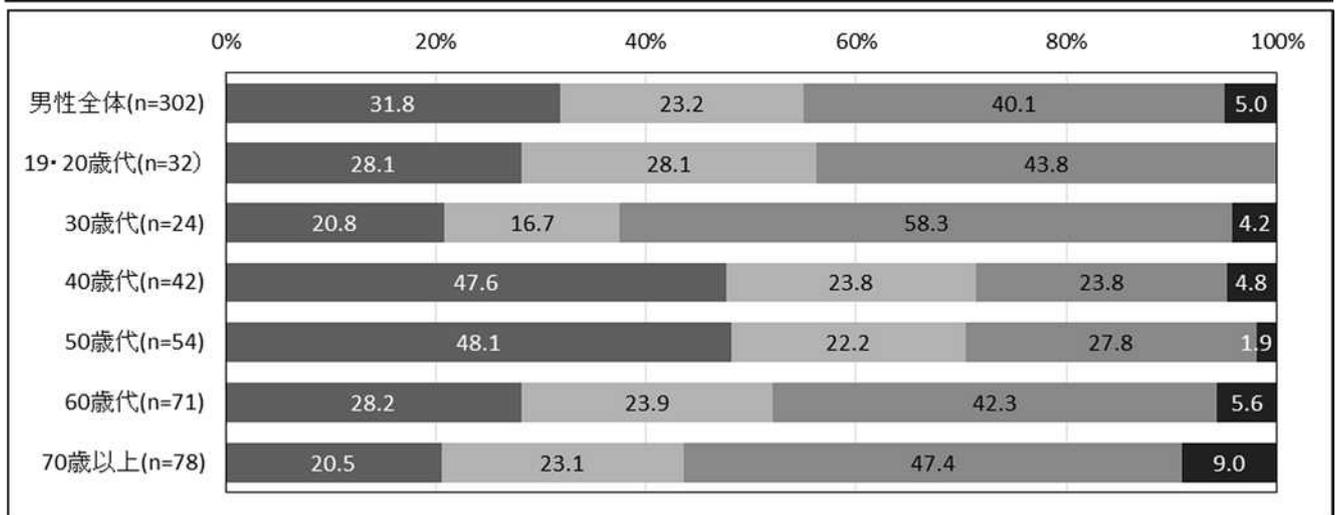
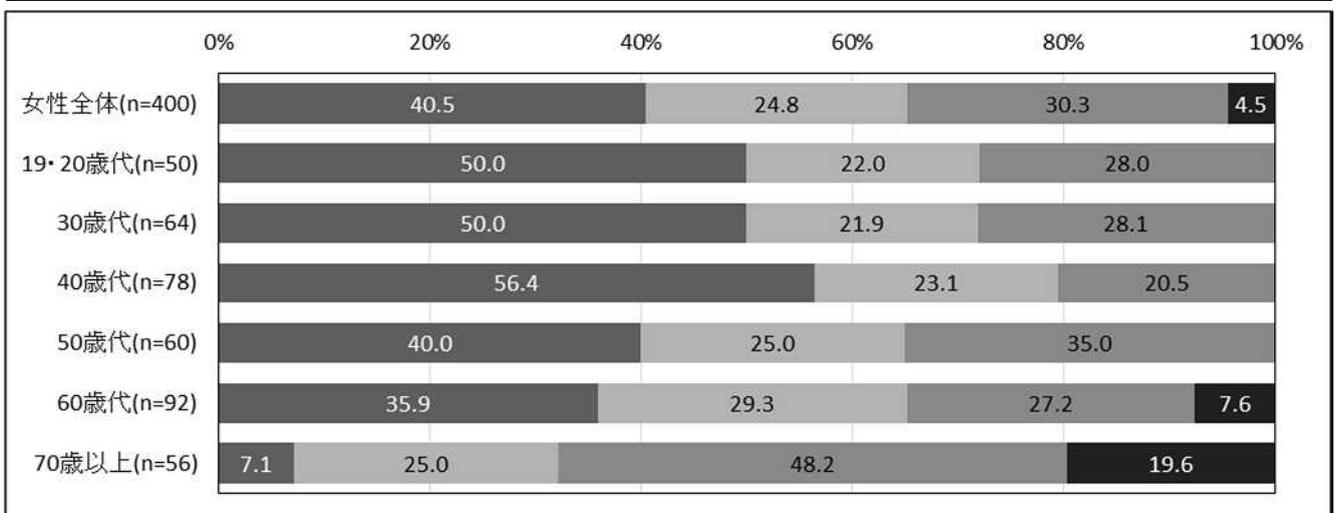
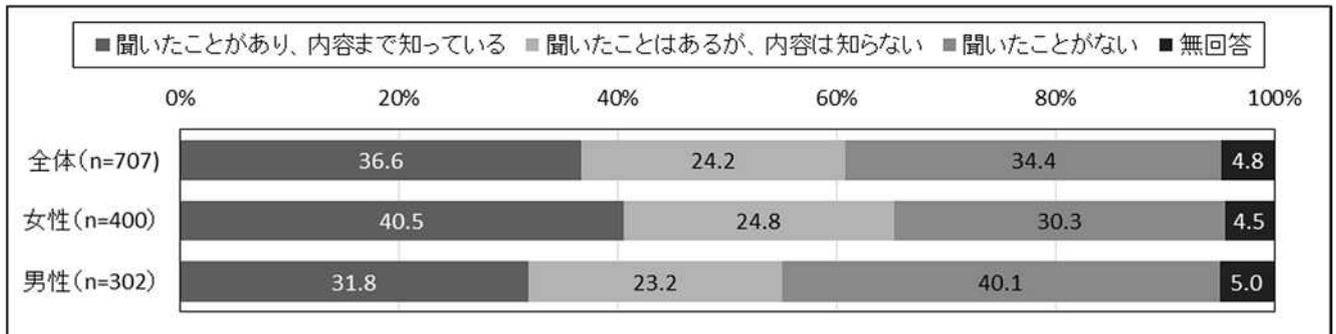


デートDV

「聞いたことがあり、内容まで知っている」が36.6%で最も高く、次いで「聞いたことがない」34.4%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」24.2%の順となっています。

性別で見ると、「聞いたことがない」と回答した割合は、男性(40.1%)が女性(30.3%)より9.8ポイント高く、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、女性(40.5%)が男性(31.8%)より8.7ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、女性の「40歳代」、男性の「40歳代」から「50歳代」で高くなっています。また、「聞いたことがない」と回答した割合は、男性の「19・20歳代」43.8%、「30歳代」58.3%と非常に高くなっています。

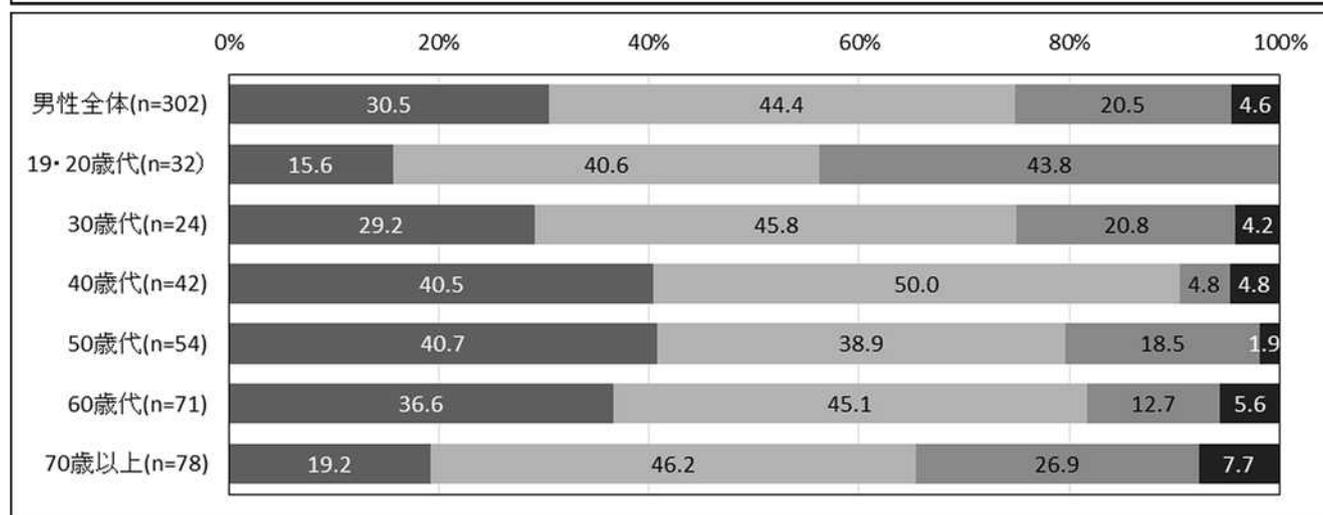
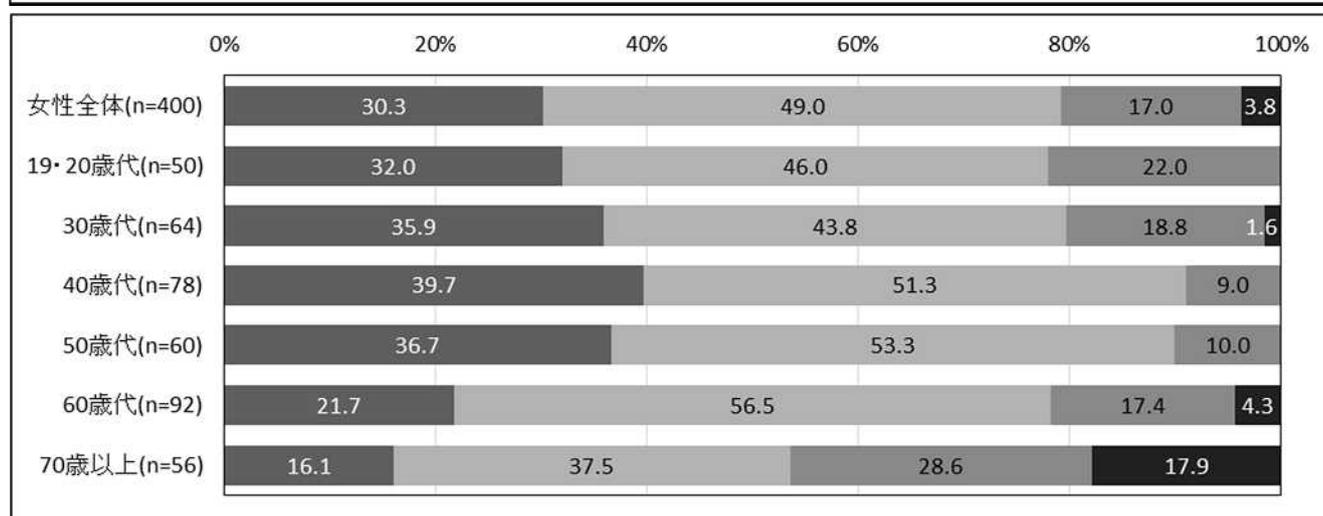
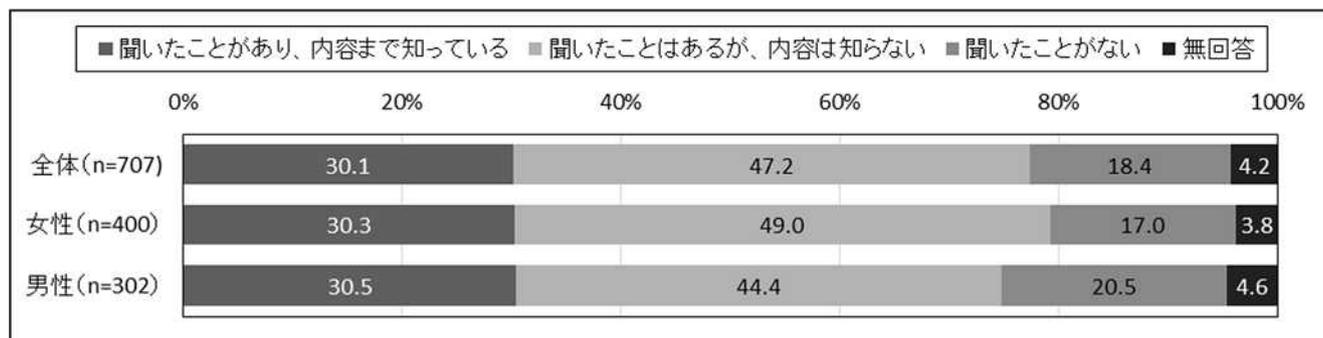


DV防止法

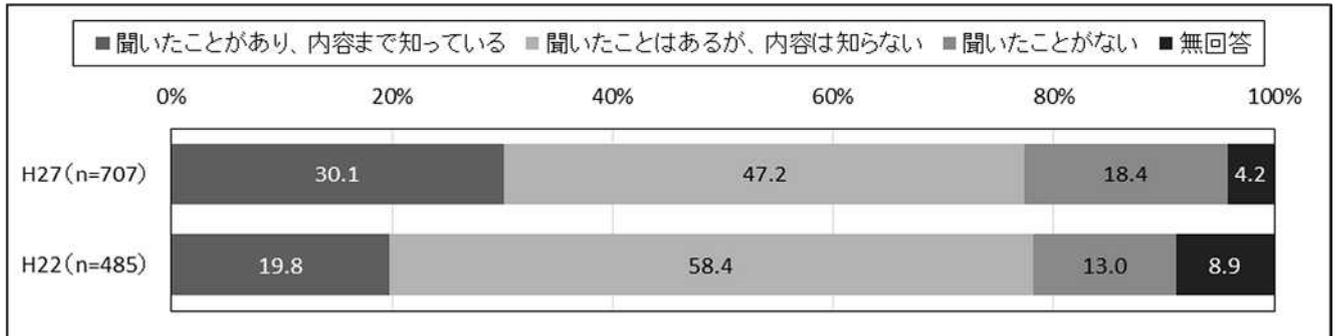
「聞いたことはあるが、内容は知らない」が47.2%で最も高く、次いで「聞いたことがあり、内容まで知っている」30.1%、「聞いたことがない」18.4%の順となっています。

性別で見ると、「聞いたことはあるが、内容は知らない」と回答した割合は、女性(49.0%)が男性(44.4%)より4.6ポイント高く、「聞いたことがない」と回答した割合は、男性(20.5%)が女性(17.0%)より3.5ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、女性の「30歳代」から「50歳代」、男性の「40歳代」から「60歳代」で35%以上と高くなっています。また、「聞いたことがない」と回答した割合は、男性の「19・20歳代」43.8%と非常に高くなっています。



H22 と H27 の調査を比較すると、「聞いたことはあるが、内容は知らない」と回答した割合は、H27 (47.2%) が H22 (58.4%) より 11.2 ポイント低くなり、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、H27 (30.1%) が H22 (19.8%) より 10.3 ポイント高くなっています。また、「聞いたことがない」と回答した割合も、H27 (18.4%) が H22 (13.0%) より 5.4 ポイント高くなっています。

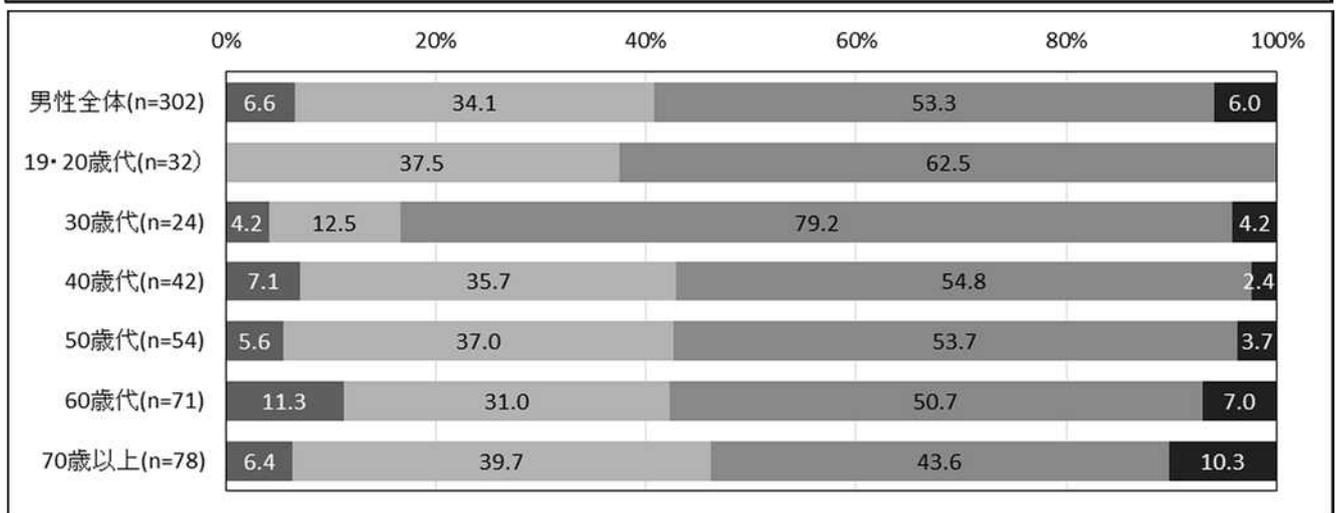
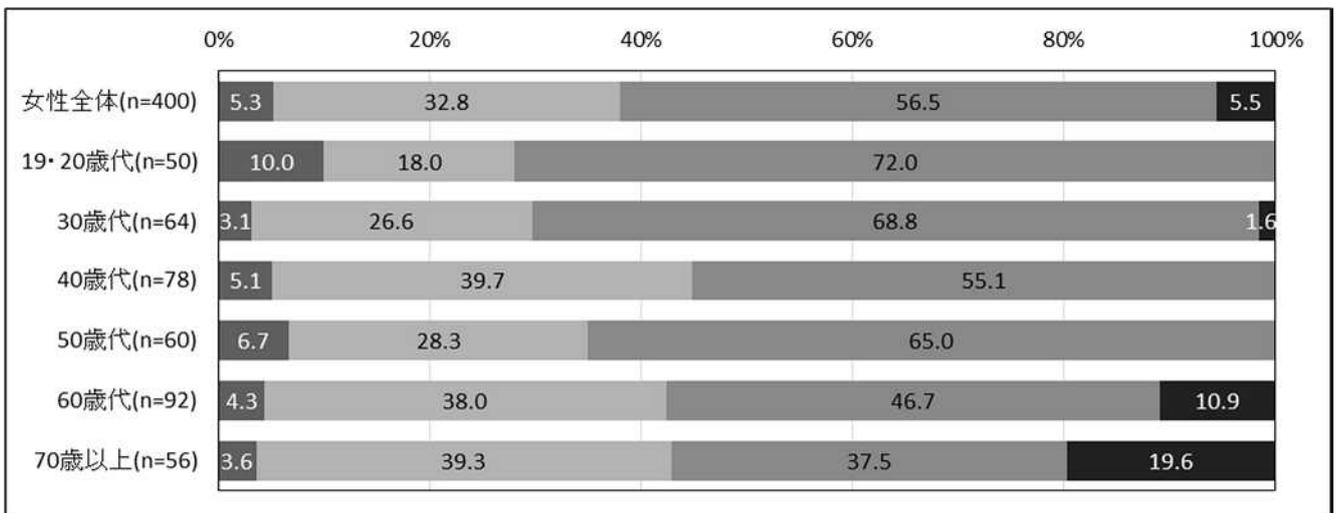
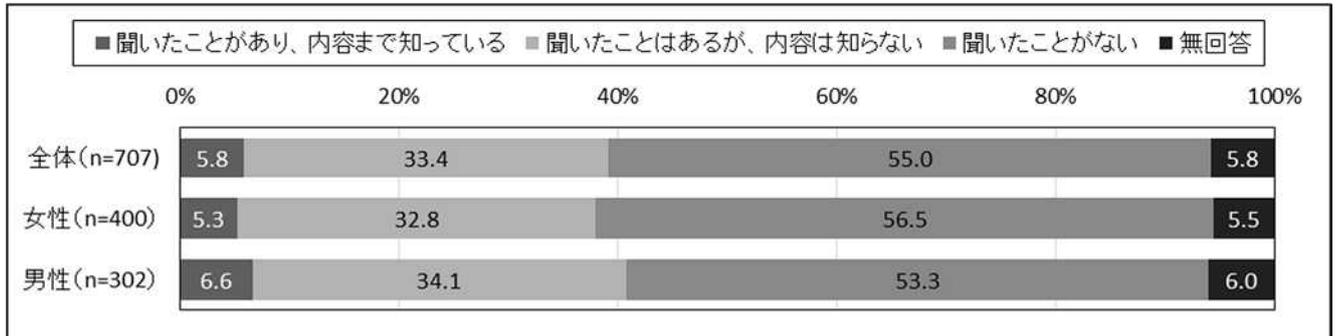


女性活躍推進法

「聞いたことがない」が55.0%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」33.4%、「聞いたことがあり、内容まで知っている」5.8%の順となっています。

性別で見てもそれほど差異はみられませんが、「聞いたことがない」と回答した割合は、女性（56.5%）が男性（53.3%）より3.2ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「聞いたことがない」と回答した割合は、女性の「19・20歳代」72.0%、「30歳代」68.8%、男性の「30歳代」79.2%と高くなっています。また、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した人は、男性の「19・20歳代」ではいけません。

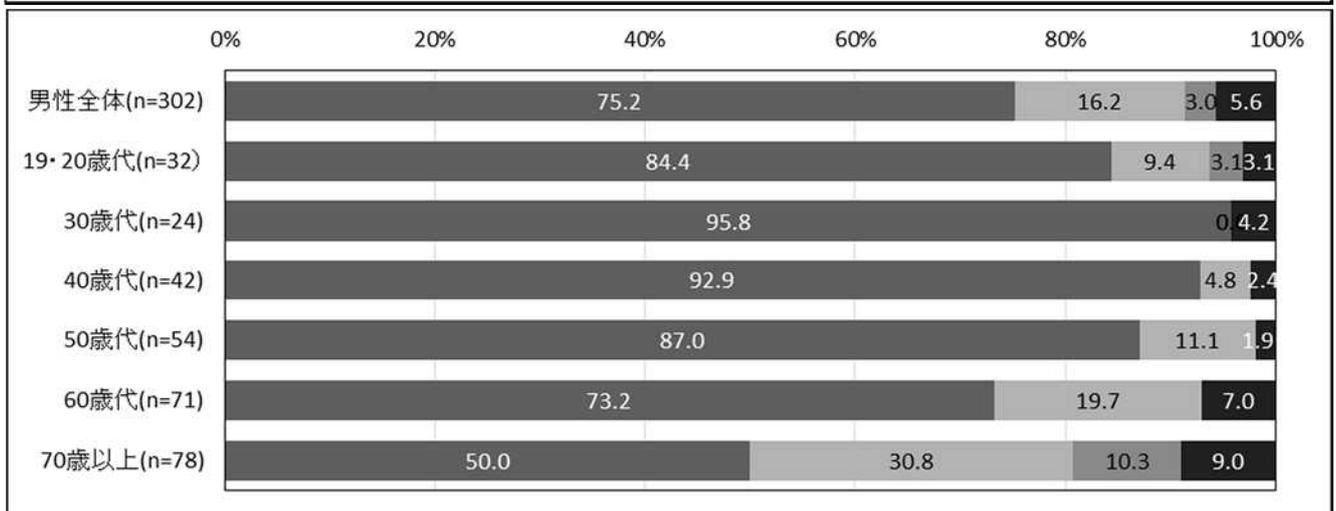
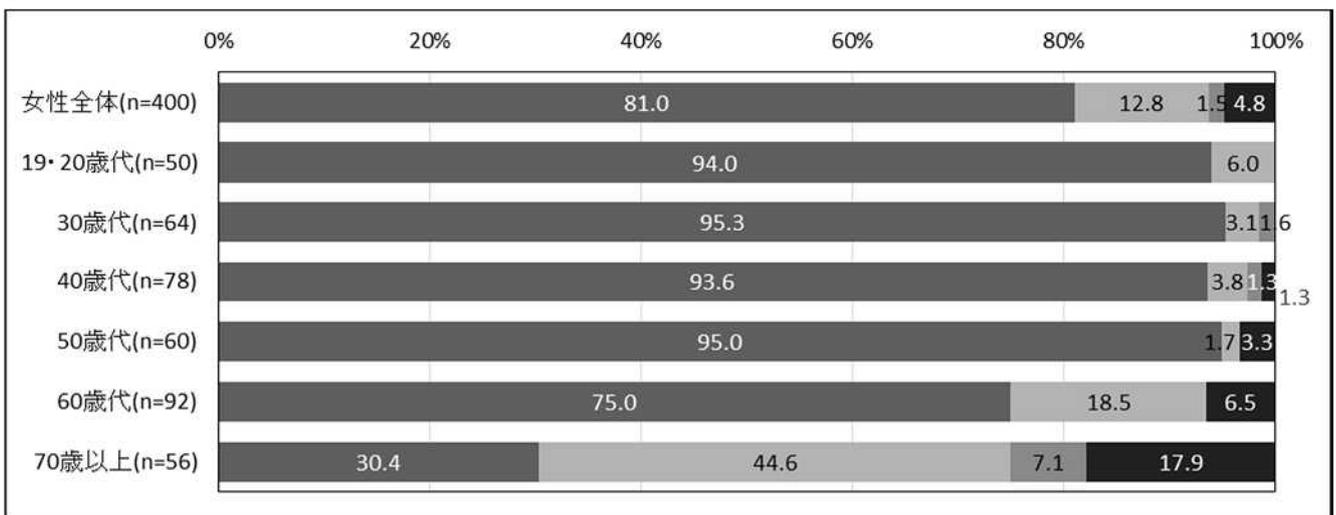
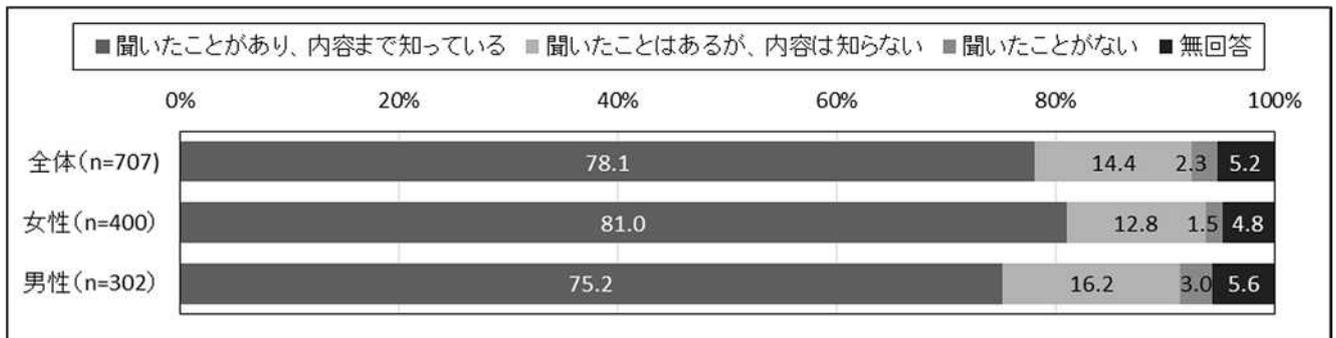


セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）

「聞いたことがあり、内容まで知っている」が78.1%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」14.4%、「聞いたことがない」2.3%の順となっています。

性別で見ると、「聞いたことはあるが、内容は知らない」と回答した割合は、男性（16.2%）が女性（12.8%）より3.4ポイント高く、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、女性（81.0%）が男性（75.2%）より5.8ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、女性の「19・20歳代」から「50歳代」で90%以上、男性の「30歳代」から「50歳代」で90%前後と非常に高くなっています。

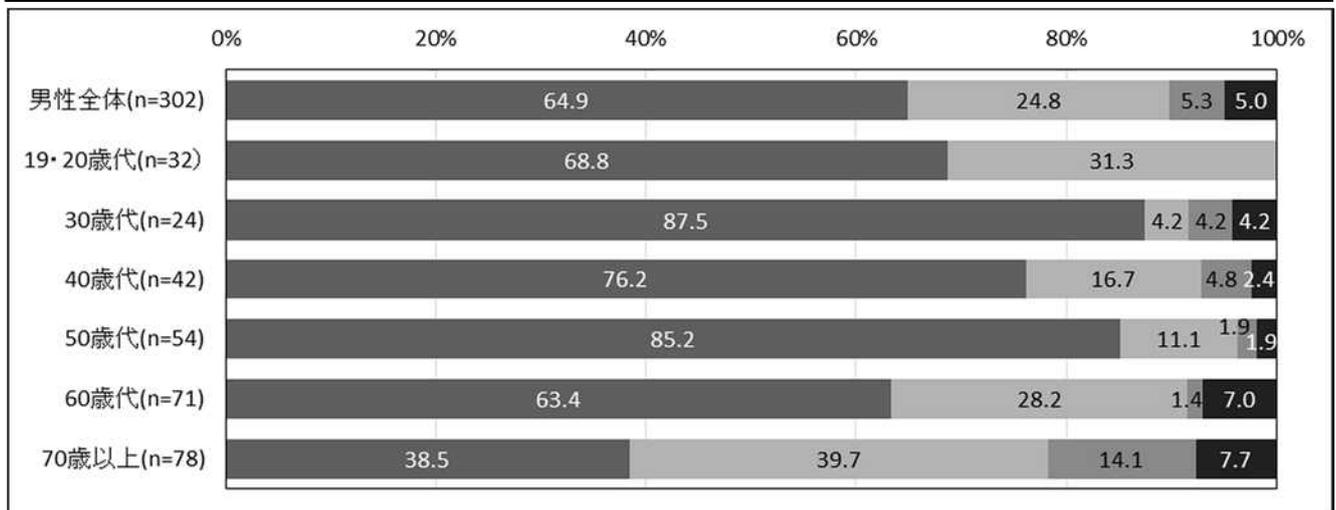
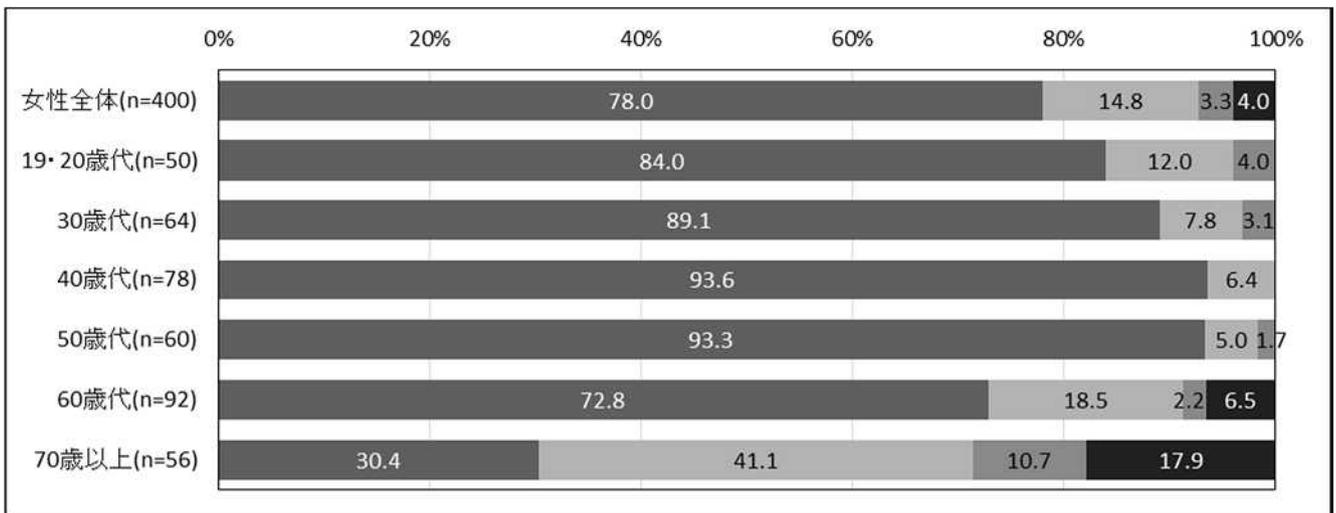
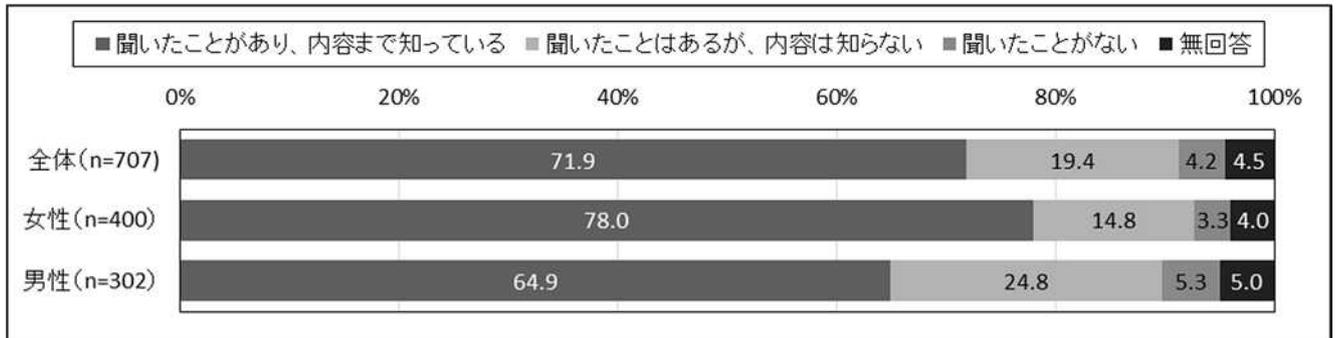


マタニティ・ハラスメント（マタハラ）

「聞いたことがあり、内容まで知っている」が71.9%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」19.4%、「聞いたことがない」4.2%の順となっています。

性別で見ると、「聞いたことはあるが、内容は知らない」と回答した割合は、男性（24.8%）が女性（14.8%）より10.0ポイント高く、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、女性（78.0%）が男性（64.9%）より13.1ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、女性の「19・20歳代」から「50歳代」、男性の「30歳代」「50歳代」で80%以上と高くなっています。

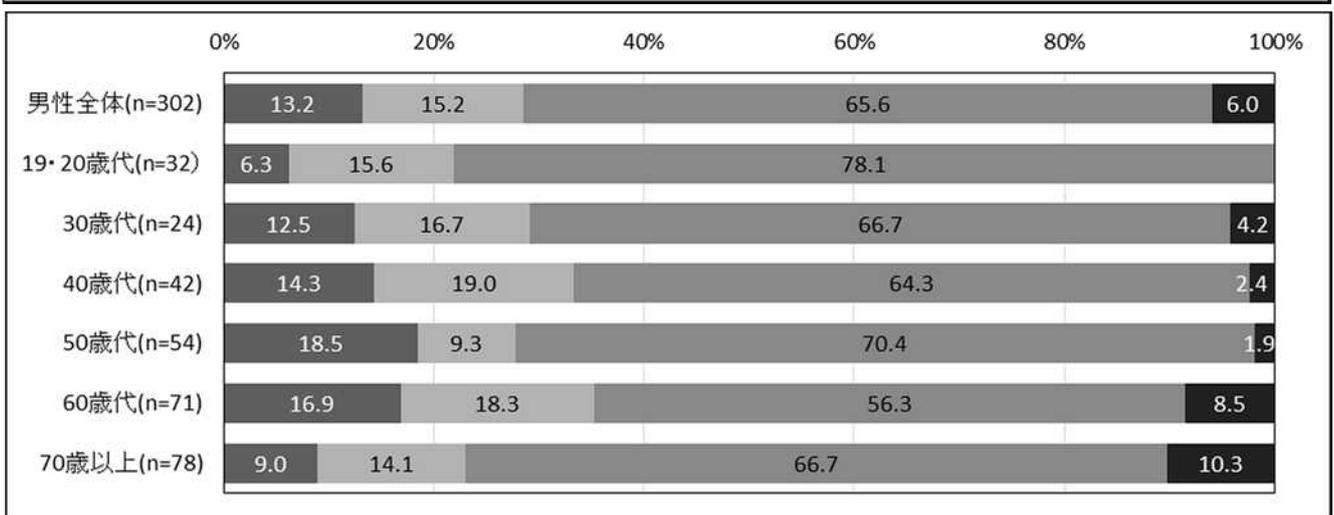
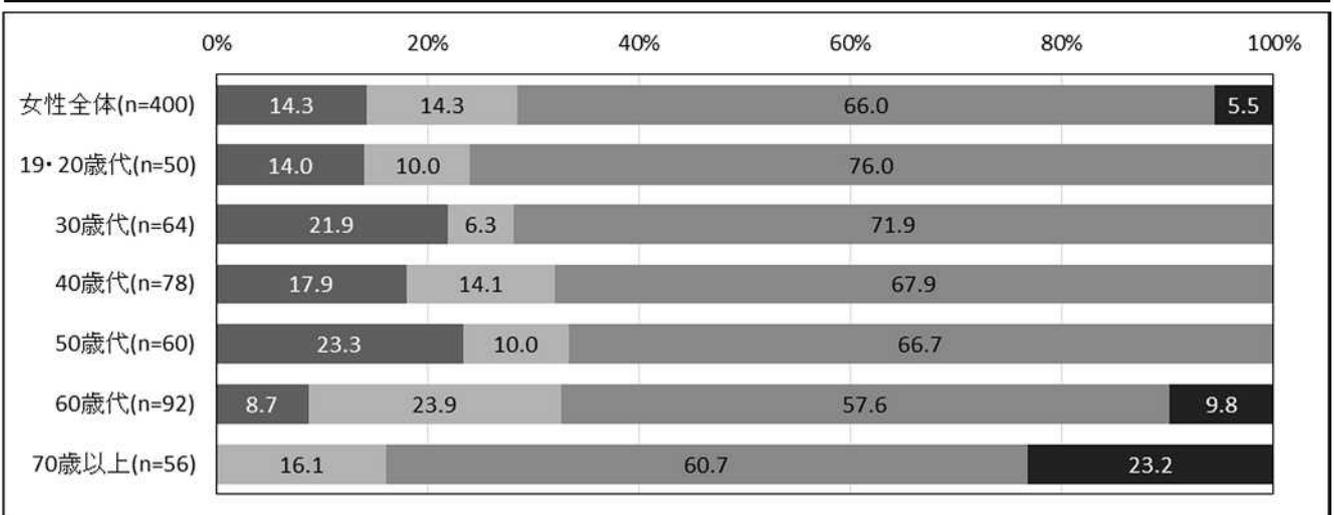
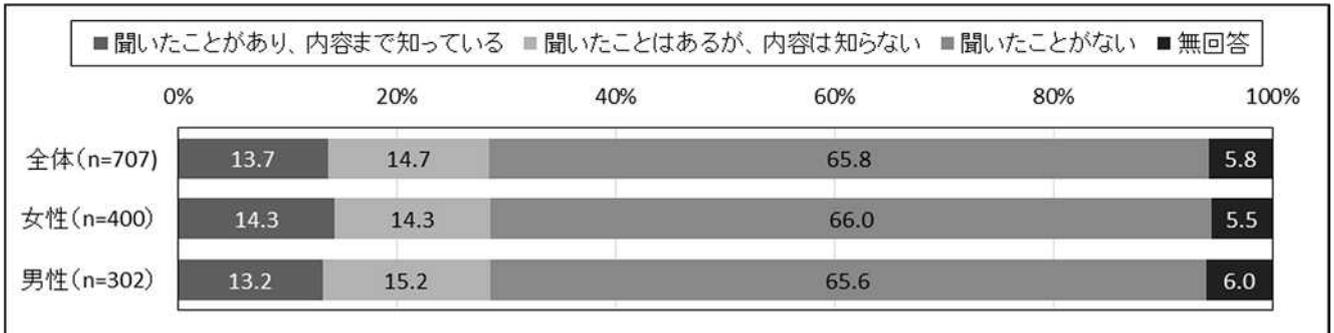


LGBT

「聞いたことがない」が65.8%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」14.7%、「聞いたことがあり、内容まで知っている」13.7%の順となっています。

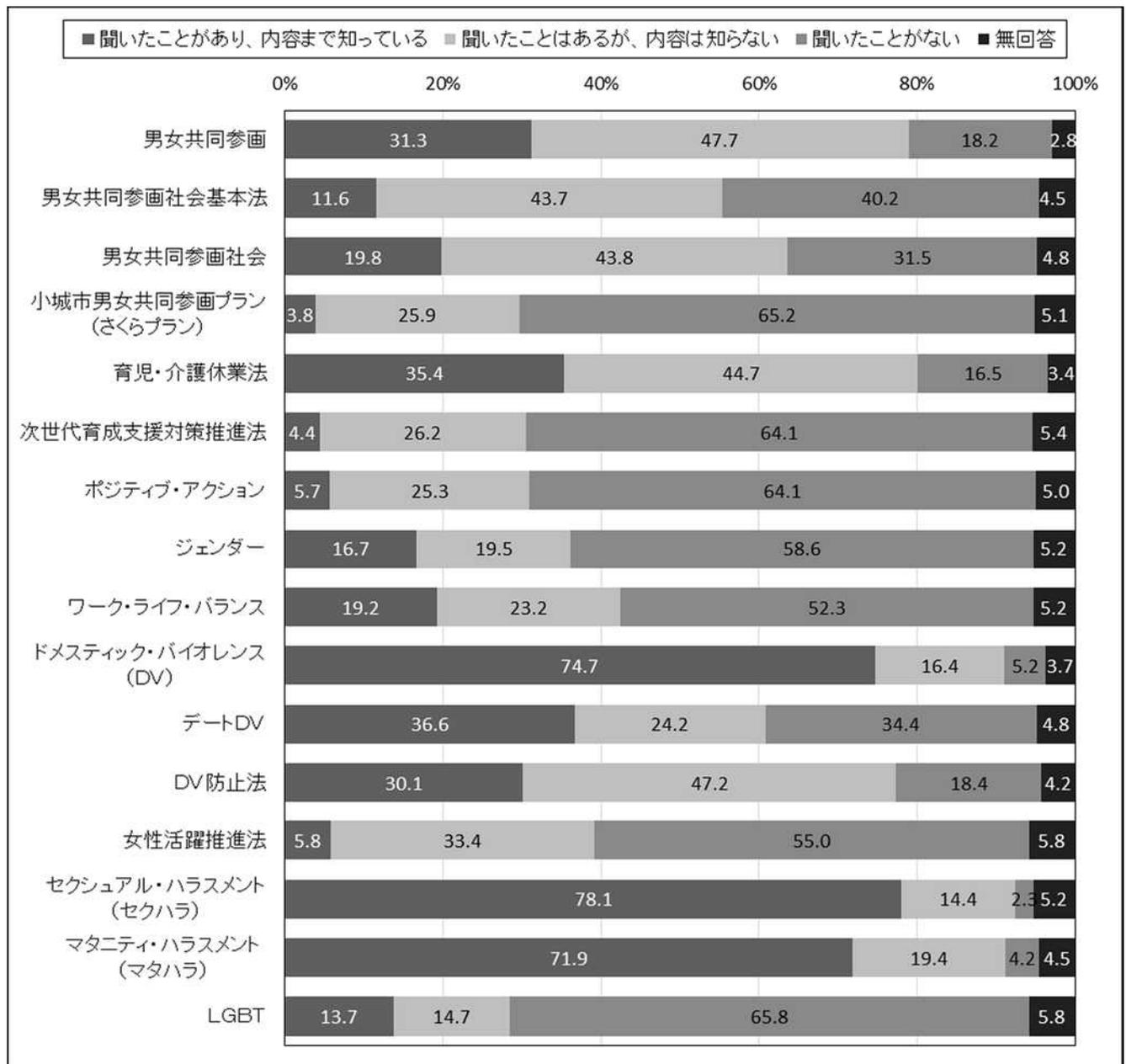
性別による大きな差異は見られません。

性別・年代別で見ると、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、女性の「30歳代」「50歳代」、男性の「50歳代」から「60歳代」で高くなっています。



男女共同参画に関する言葉の周知度では、「小城市男女共同参画プラン」「次世代育成支援対策推進法」「ポジティブ・アクション」「LGBT」については、「聞いたことがない」と回答した割合が、60%を超えています。

一方、「ドメスティック・バイオレンス」「セクシュアル・ハラスメント」「マタニティ・ハラスメント」については、「聞いたことがある」と回答した割合が、90%を超えています。



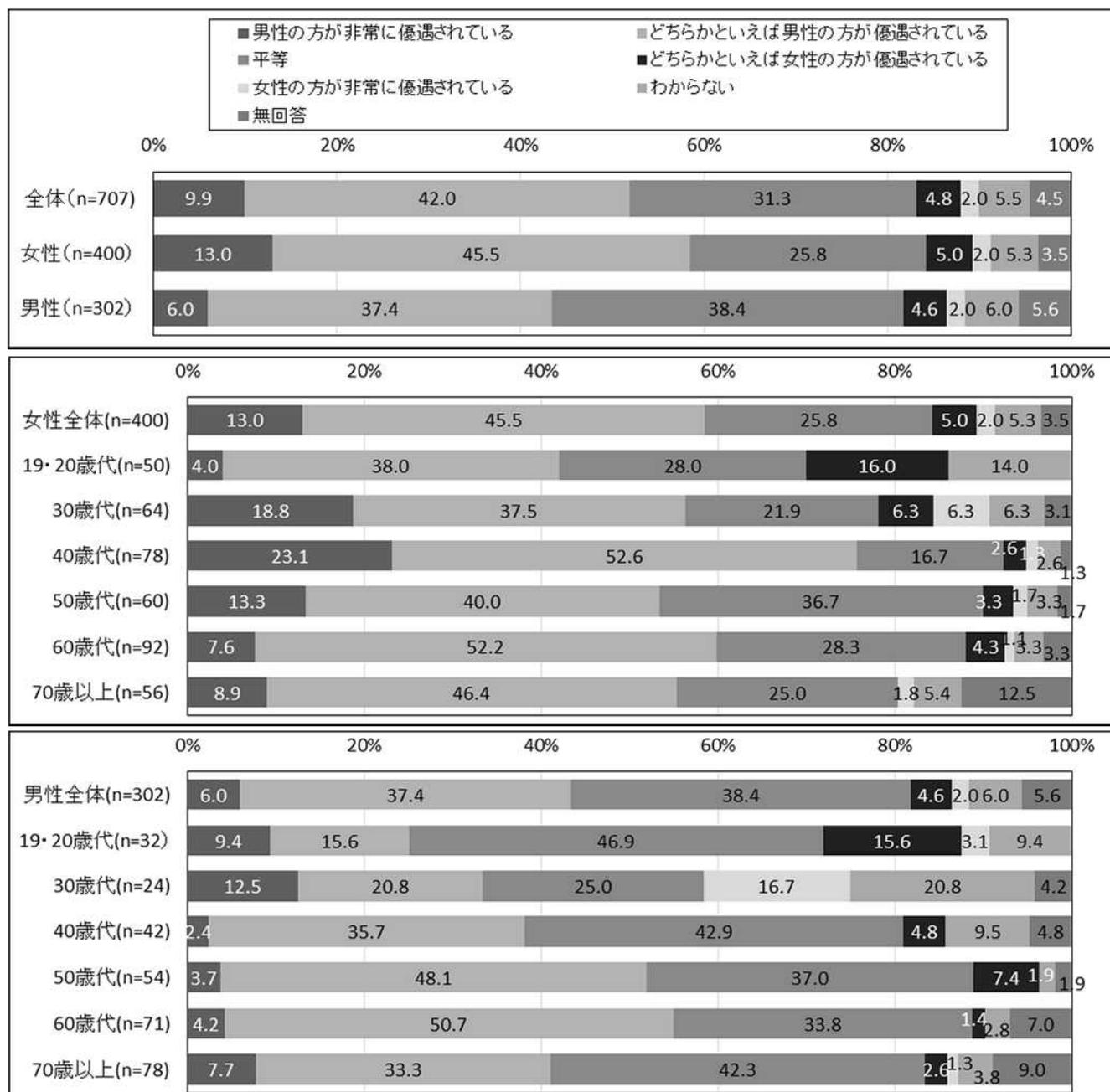
(2 6) 次にあげる分野で、男女は平等だと思いますか。

家庭生活

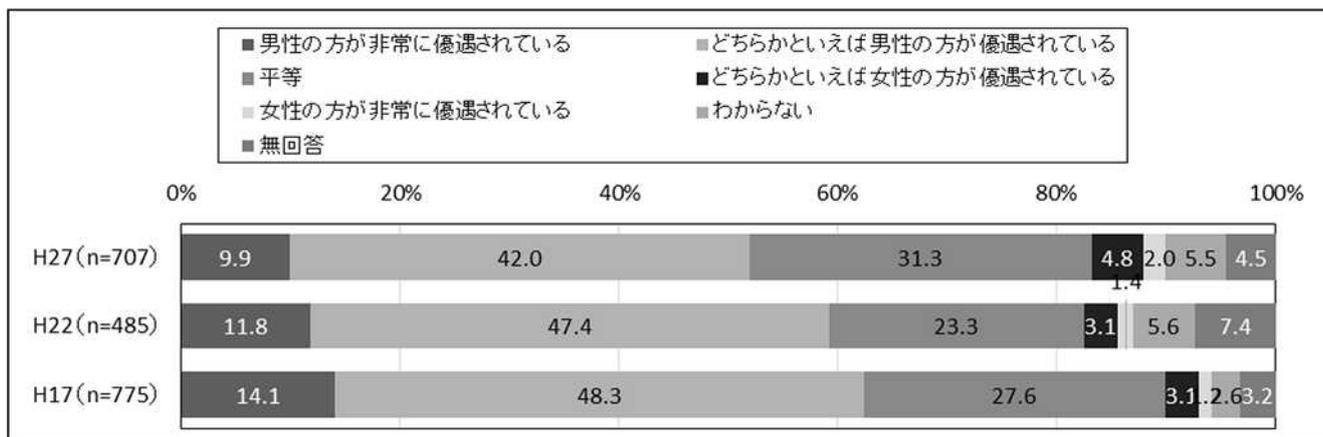
『男性の方が優遇されている』(「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」) 51.9%、「平等」31.3%、「女性の方が優遇されている」(「女性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」)6.8%となっています。

性別で見ると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、女性(58.5%)が男性(43.4%)より15.1ポイント高く、「平等」と回答した割合は、男性(38.4%)が女性(25.8%)より12.6ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、『男性が優遇されている』と回答した割合は、女性・男性ともに「19・20歳代」が他の年代に比べて低くなっています。「平等」と回答した割合は、女性の「40歳代」(16.7%)が、男性の「40歳代」(42.9%)より26.2ポイント低く、平等感に対する開きがあります。

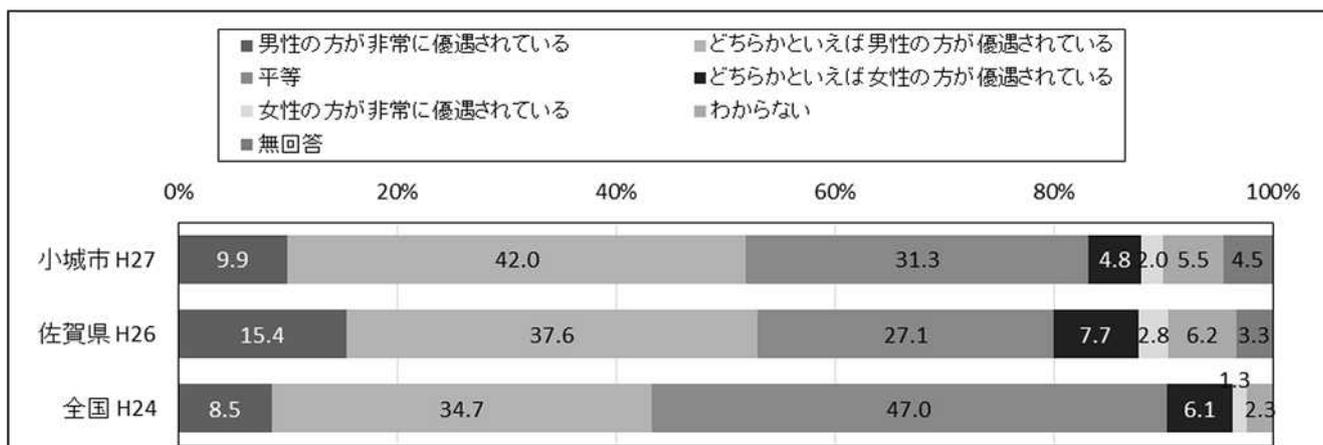


H17 と H27 の調査を比較すると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、H27 (51.9%) が H17 (62.4%) より 10.5 ポイント低くなり、「平等」と回答した割合は、H27 (31.3%) が H17 (27.6%) より 3.7 ポイント高くなっています。



H26 佐賀県の調査と比較すると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合において大差はありませんが、「平等」と回答した割合は、小城市 (31.3%) が、佐賀県 (27.1%) より 4.2 ポイント高くなっています。

また、H24 全国の調査と比較すると、「平等」と回答した割合は、小城市(31.3%)が全国(47.0%)より 15.7 ポイント低くなっています。

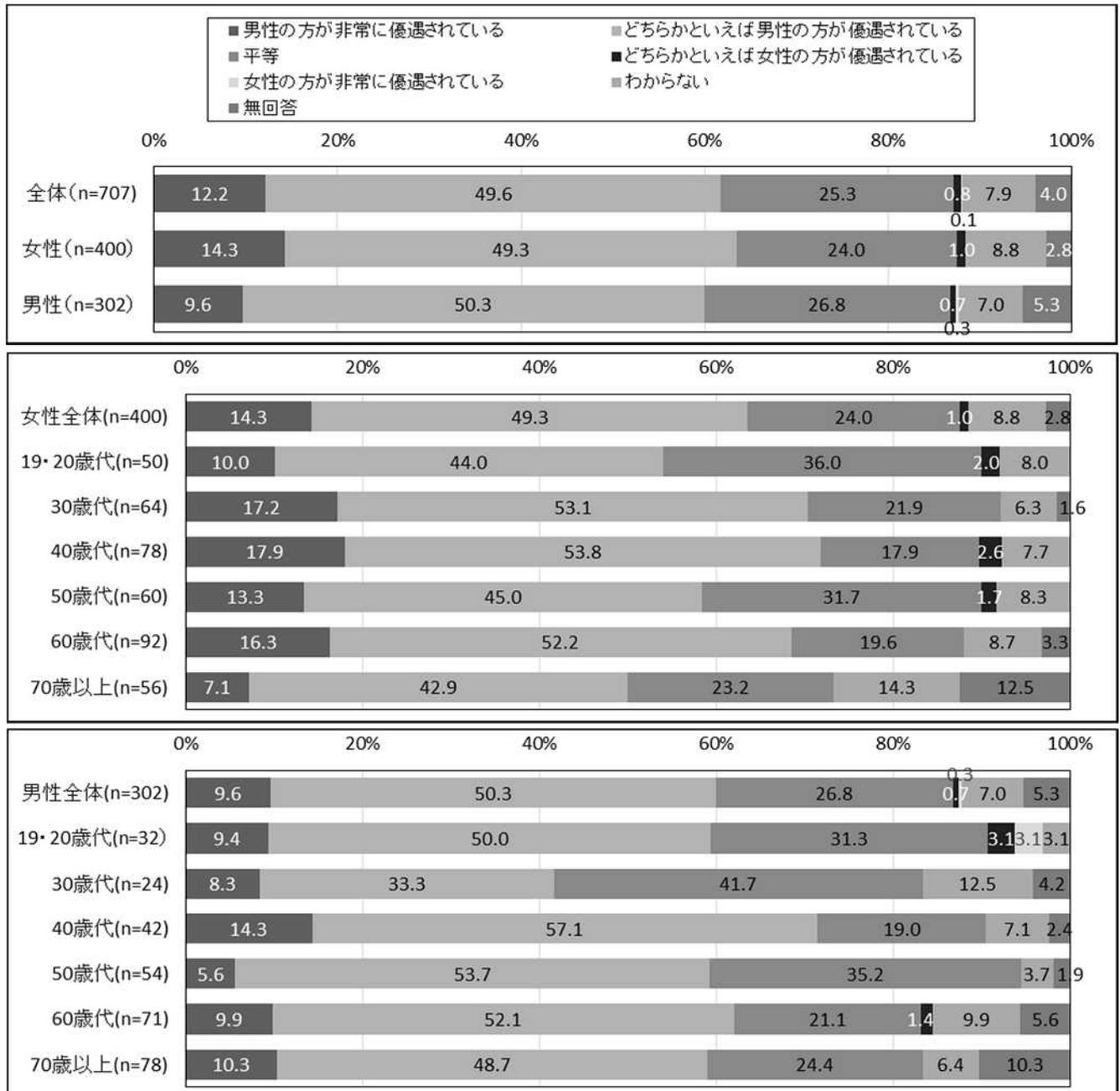


就職・採用

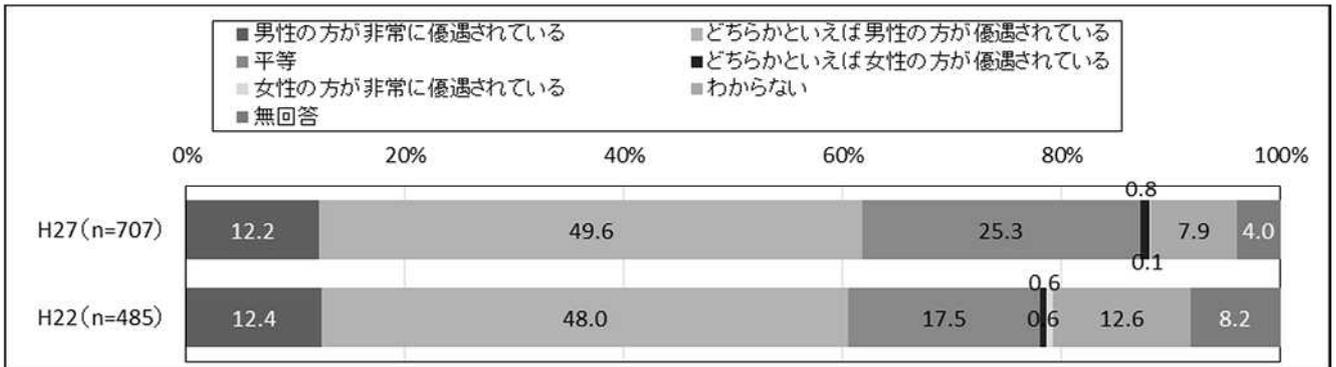
『男性の方が優遇されている』61.8%、「平等」25.3%、『女性の方が優遇されている』0.9%となっています。

性別で見ると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、女性(63.6%)が男性(59.9%)より3.7ポイント高く、「平等」と回答した割合は、男性(26.8%)が女性(24.0%)より2.8ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「平等」と回答した割合は、女性・男性ともに「19・20歳代」、「50歳代」で他の年代に比べて高くなっています。また、「平等」と回答した割合は、女性の「30歳代」(21.9%)が男性の「30歳代」(41.7%)より19.8ポイント低く、平等感に対する開きがあります。



H22 と H27 の調査を比較すると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合に大差はありませんが、「平等」と回答した割合は、H27（25.3%）がH22（17.5%）より 7.8 ポイント高くなっています。

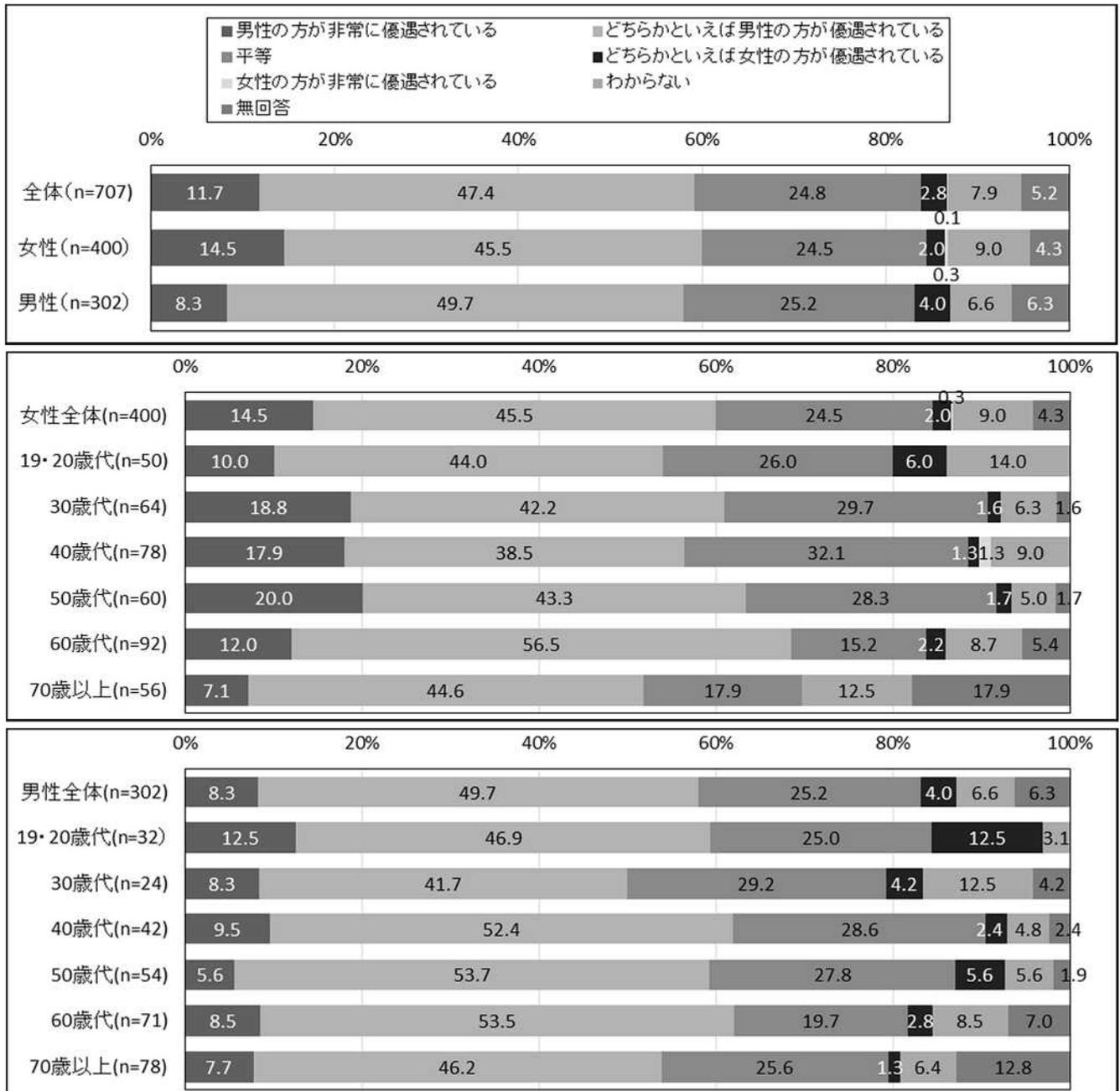


職場

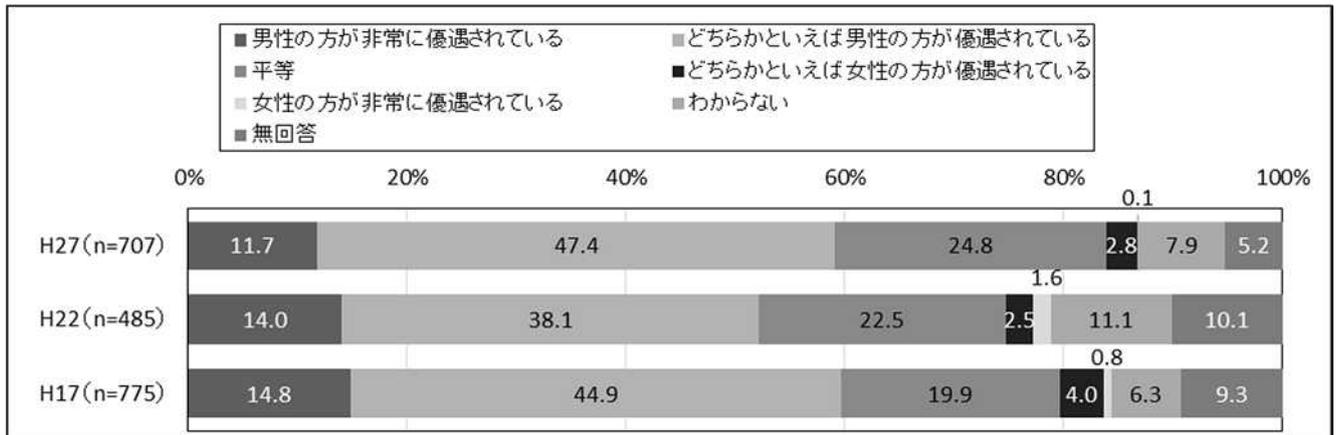
『男性の方が優遇されている』(59.1%、「平等」24.8%、『女性の方が優遇されている』2.9%となっています。

性別で見ると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、女性(60.0%)が男性(58.0%)より2.0ポイント高く、「平等」と回答した割合は、男性(25.2%)が女性(24.5%)より0.7ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、女性・男性ともに「60歳代」が他の年代に比べて高くなっています。また、『女性の方が優遇されている』と回答した割合は、女性・男性ともに「19・20歳代」が他の年代に比べて高くなっています。特に、「女性の方が優遇されている」と回答した割合は、男性の「19・20歳代」が12.5%と高くなっています。

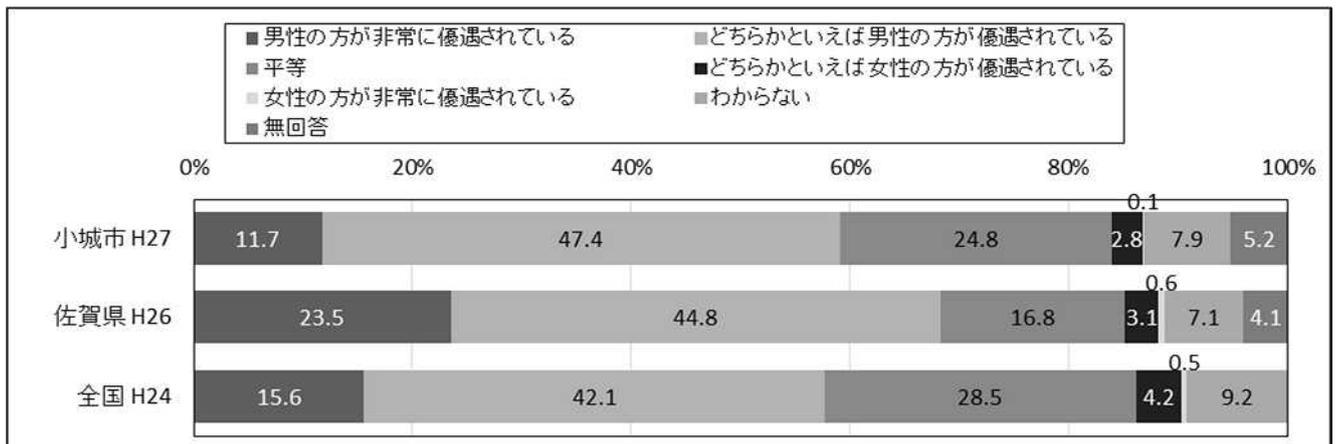


H17 と H27 の調査を比較すると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合に大差はありませんが、「平等」と回答した割合は、H27（24.8%）がH17（19.9%）より 4.9 ポイント高くなっています。



H26 佐賀県の調査と比較すると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、小城市（59.1%）が、佐賀県（68.3%）より 9.2 ポイント低く、「平等」と回答した人の割合は、小城市（24.8%）が、佐賀県（16.8%）より 8.0 ポイント高くなっています。

また、H24 全国の調査と比較すると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合において大差はありませんが、「平等」と回答した割合は、小城市（24.8%）が、全国（28.5%）より 3.7 ポイント低くなっています。

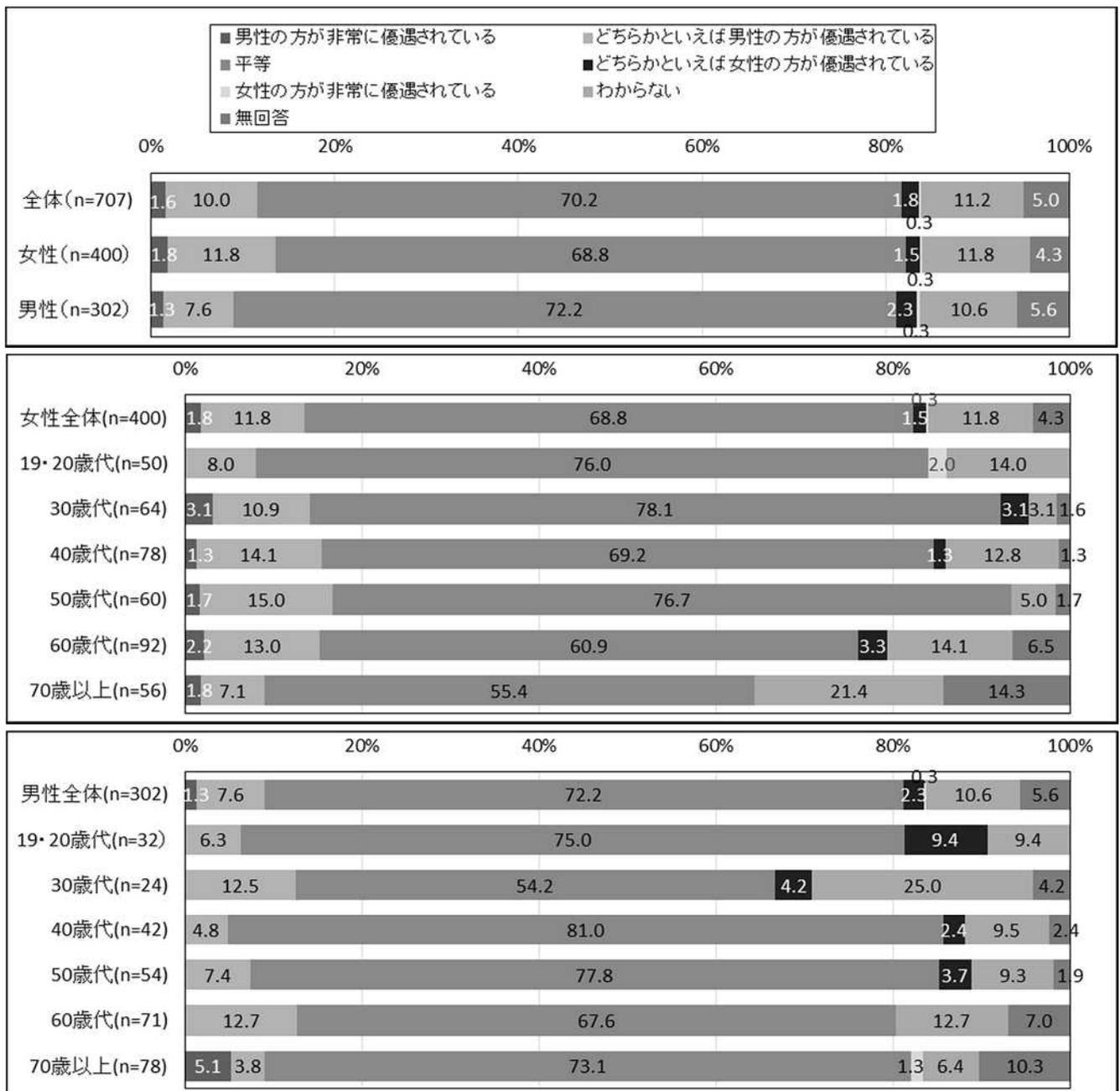


学校教育の場

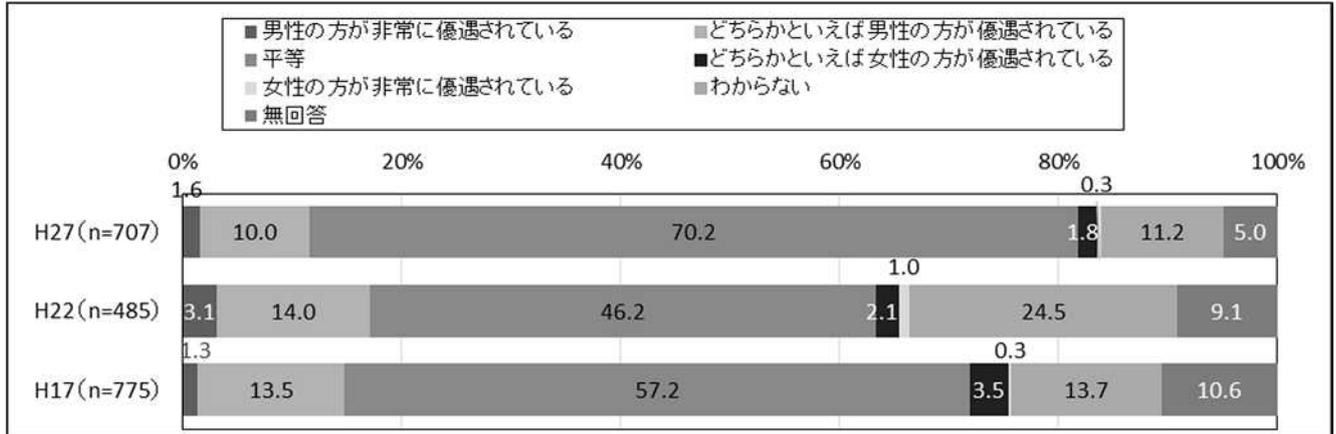
「平等」70.2%、『男性の方が優遇されている』11.6%、『女性の方が優遇されている』2.1%となっています。

性別で見ると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、女性(13.6%)が男性(8.9%)より4.7ポイント高く、「平等」と回答した割合は、男性(72.2%)が女性(68.8%)より3.4ポイント高くなっています。

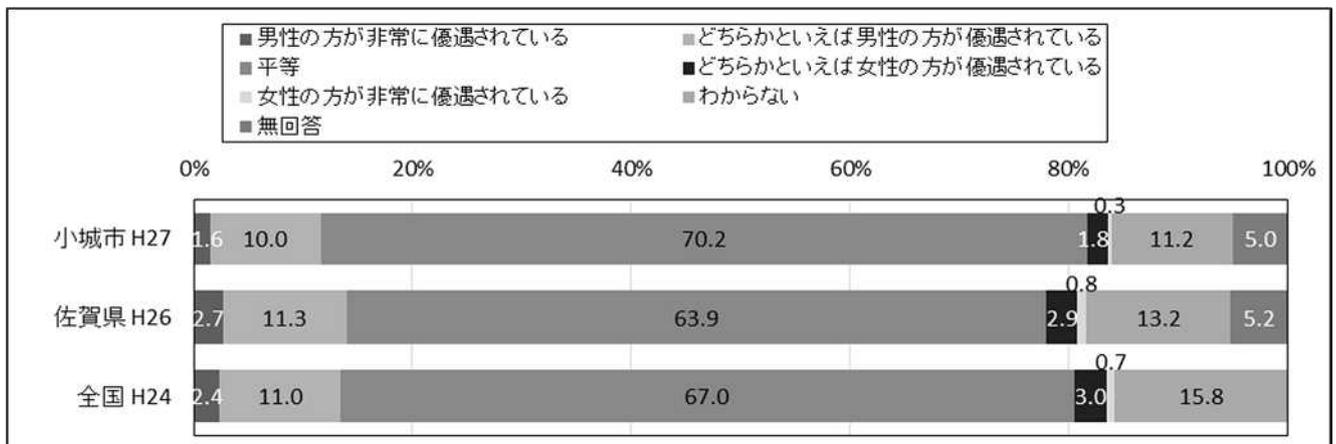
性別・年代別で見ると、ほとんどの年代・性別で『男性の方が優遇されている』と回答した割合が、『女性が優遇されている』と回答した割合より高くなっていますが、男性の「19・20歳代」では、『女性の方が優遇されている』と回答した割合(9.4%)が『男性の方が優遇されている』と回答した割合(6.3%)より3.1ポイント高くなっています。また、「わからない」と回答した割合は、女性の「70歳代」、男性の「30歳代」で20%を超えています。



H17 と H27 の調査を比較すると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合に大差はありませんが、「平等」と回答した割合は、H27 (70.2%) が H17 (57.2%) より 13.0 ポイント高くなっています。



H26 佐賀県の調査、H24 全国の調査と比較すると、「平等」と回答した割合は、小城市(70.2%) が、佐賀県(63.9%)より6.3ポイント、全国(67.0%)より3.2ポイント高くなっています



地域や社会活動の場

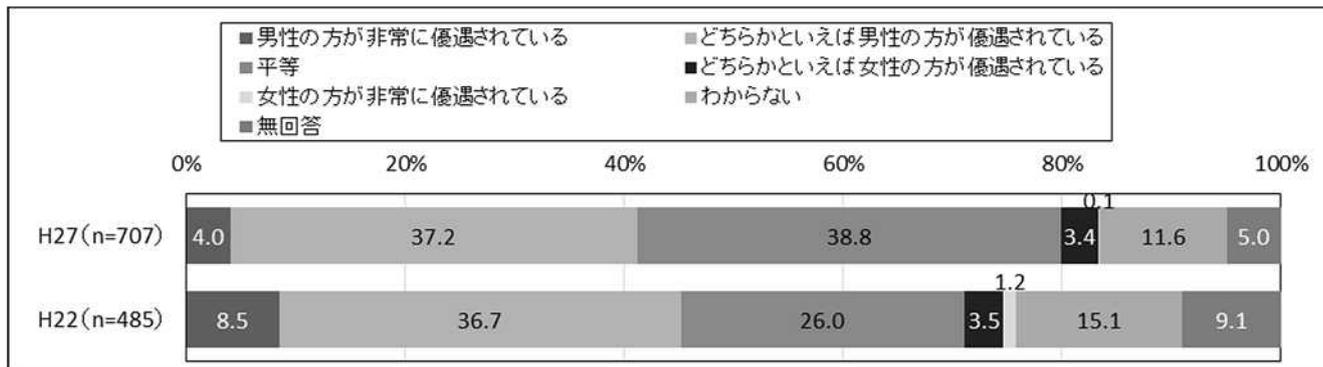
『男性の方が優遇されている』41.2%、「平等」38.8%、『女性の方が優遇されている』3.5%となっています。

性別で見ると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、女性(46.8%)が男性(33.8%)より13.0ポイント高く、「平等」と回答した割合は、男性(45.0%)が女性(34.0%)より11.0ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「平等」と回答した割合は、女性・男性ともに「19・20歳代」で高くなっています。また、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、女性・男性ともに「60歳代」までは、年代が上がるにつれ高くなっていますが、「70歳代以上」ではその割合が低くなり、男性では「平等」が、女性では「わからない」と回答した割合が高くなっています。

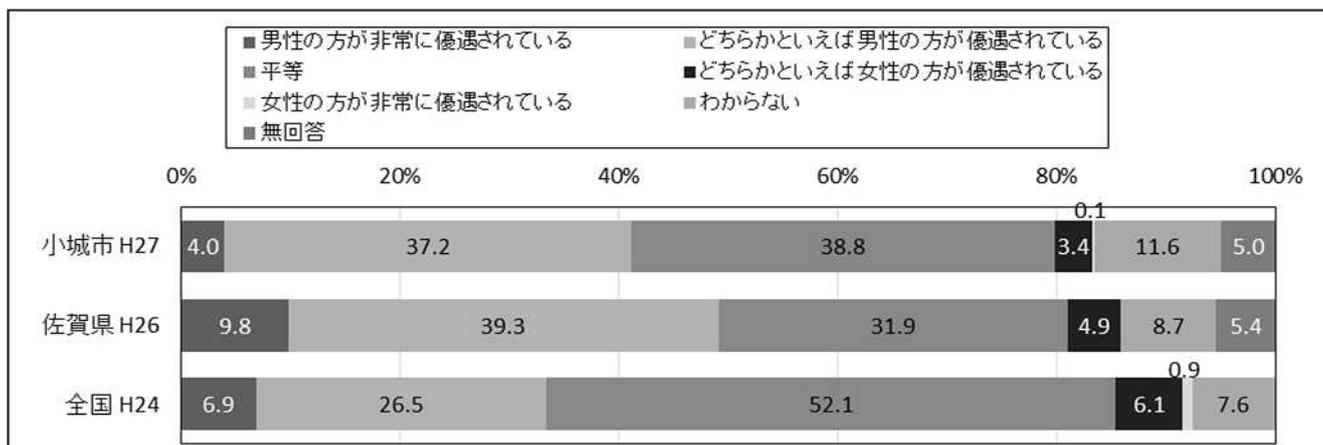


H22 と H27 の調査を比較すると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、H27 (41.2%)がH22(45.2%)より4.0ポイント低くなり、『平等』と回答した割合は、H27(38.8%)がH22(26.0%)より12.8ポイント高くなっています。



H26 佐賀県の調査と比較すると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、小城市 (41.2%)が、佐賀県(49.1%)より7.9ポイント低く、『平等』と回答した割合は、小城市(38.8%)が、佐賀県(31.9%)より6.9ポイント高くなっています。

また、H24 全国の調査と比較すると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、小城市 (41.2%)が、全国(33.4%)より7.8ポイント高く、『平等』と回答した割合は、小城市(38.8%)が、全国(52.1%)より13.3ポイント低くなっています。

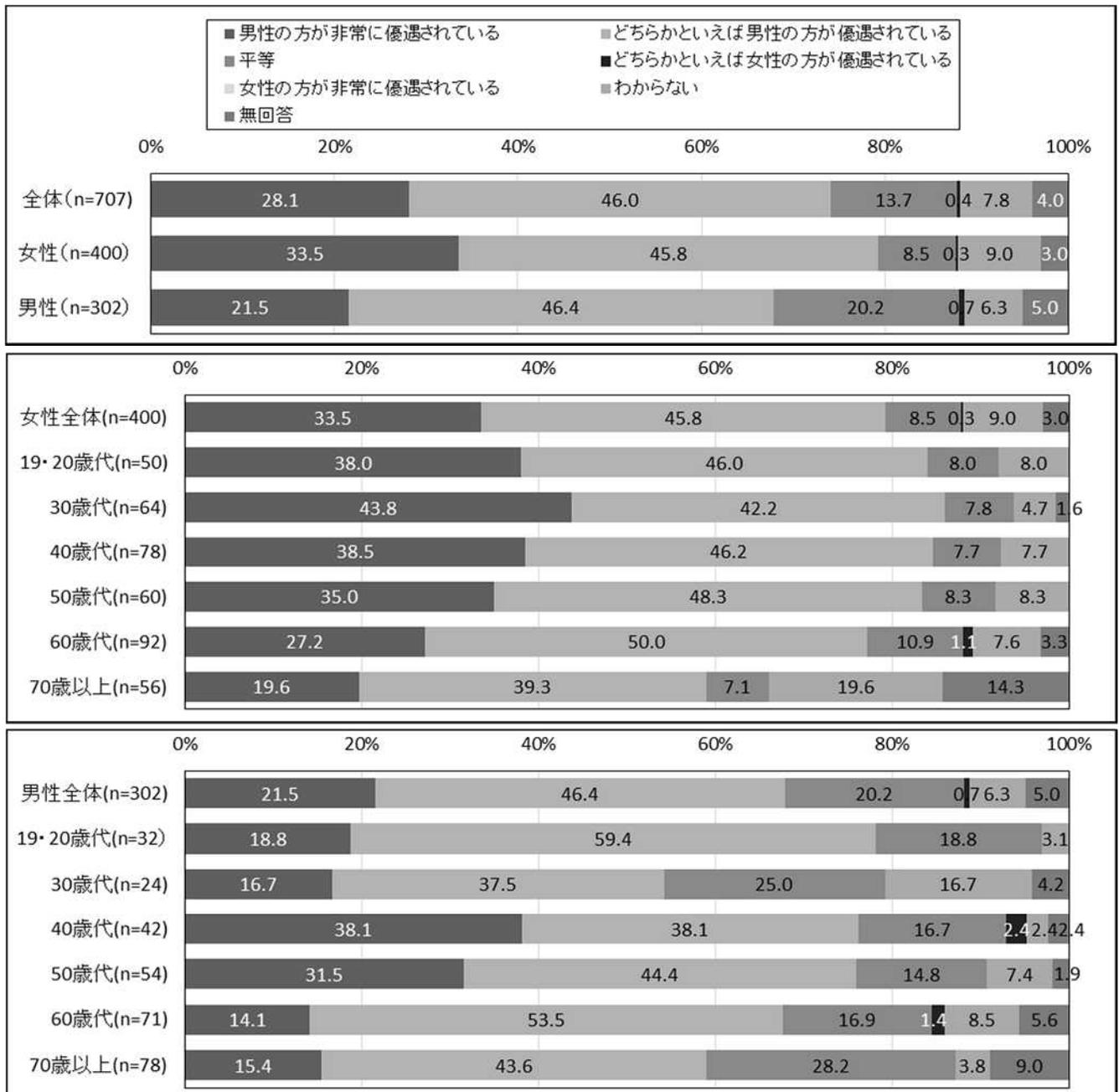


政治の場

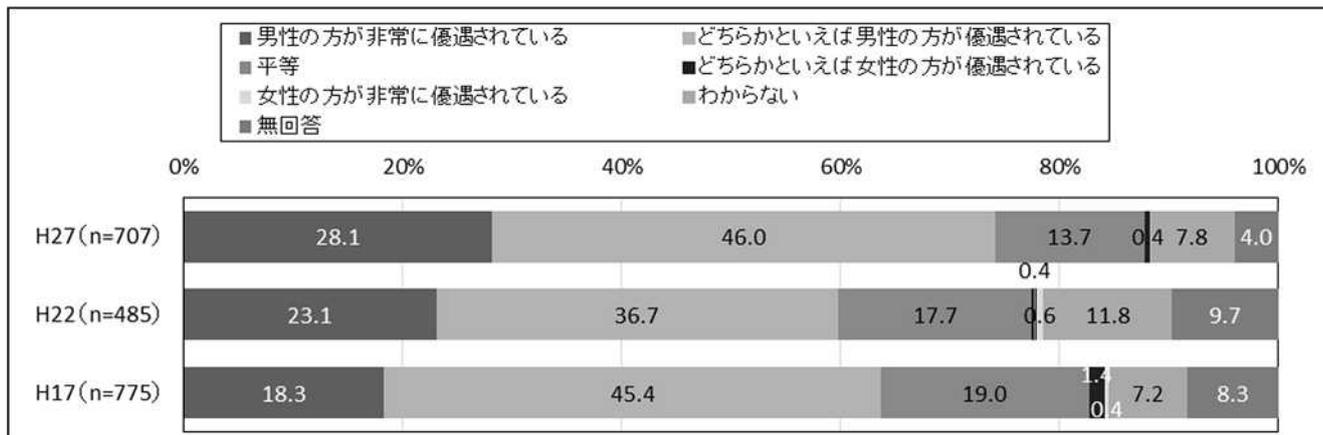
『男性の方が優遇されている』74.1%、「平等」46.0%、『女性の方が優遇されている』0.4%となっています。

性別で見ると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、女性(79.3%)が男性(67.9%)より11.4ポイント高く、「平等」と回答した割合は、男性(20.2%)が女性(8.5%)より11.7ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、年代が上がるほど低くなっていますが、男性の「30歳代」では最も低く、「わからない」と回答した割合が高くなっています。

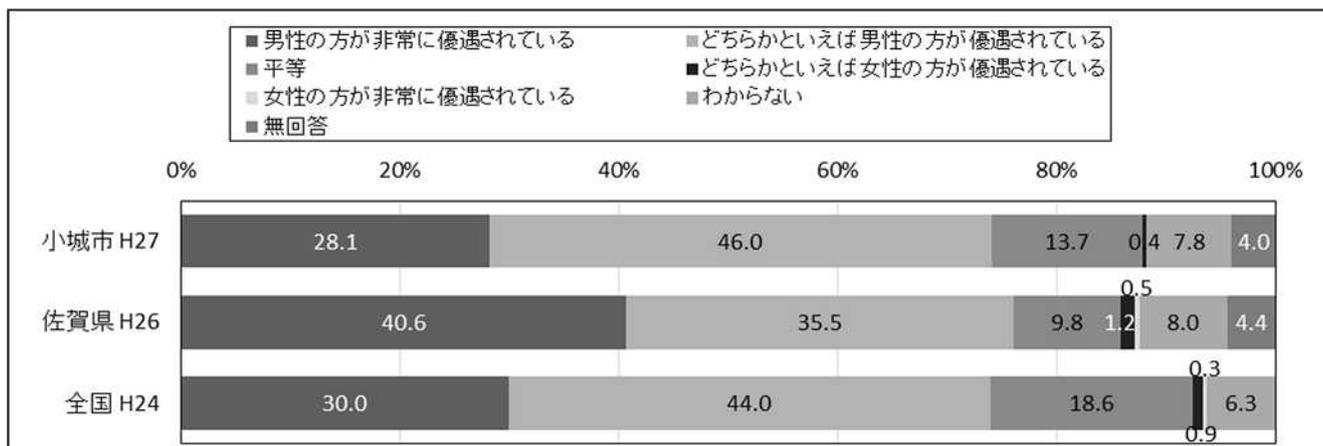


H17 と H27 の調査を比較すると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、H27 (74.1%) が H17 (63.7%) より 10.4 ポイント高くなり、「平等」と回答した割合は、H27 (13.7%) が H17 (19.0%) より 5.3 ポイント低くなっています。



H26 佐賀県の調査と比較すると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、小城市 (74.1%) が、佐賀県 (76.1%) より 2.0 ポイント低く、「平等」と回答した割合は、小城市 (13.7%) が、佐賀県 (9.8%) より 3.9 ポイント高くなっています。

また、H24 全国の調査と比較すると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合に大差はありませんが、「平等」と回答した割合は、小城市 (13.7%) が、全国 (18.6%) より 4.9 ポイント低くなっています。



法律・制度上

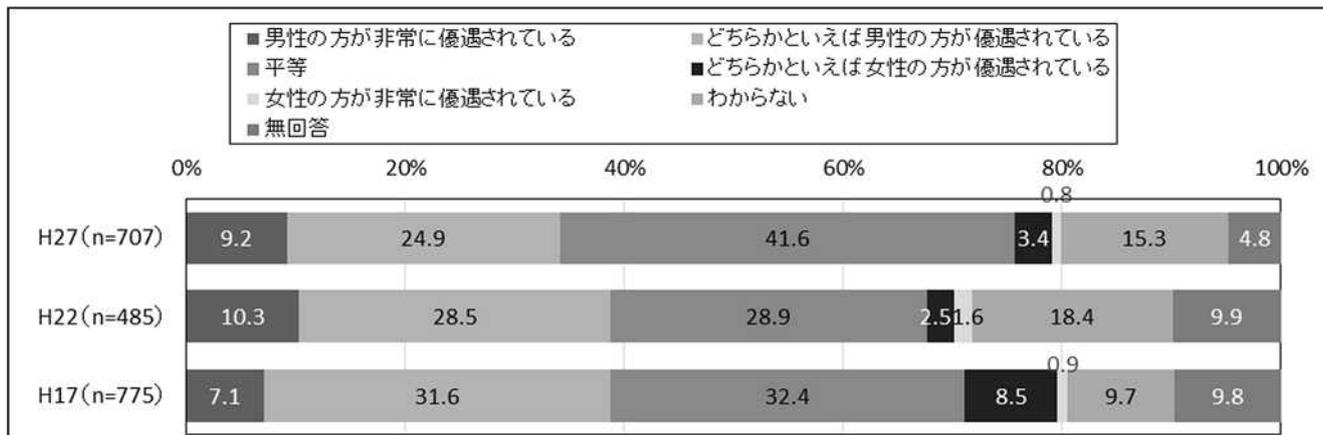
「平等」41.6%、『男性の方が優遇されている』34.1%、『女性の方が優遇されている』4.2%となっています。

性別で見ると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、女性(39.8%)が男性(26.5%)より13.3ポイント高く、「平等」と回答した割合は、男性(51.0%)が女性(34.5%)より16.5ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「平等」と回答した割合は、男性の「40歳代以上」で高く50%を超えています。また、『わからない』と回答した割合は、女性の「70歳以上」、男性の「30歳代」が他の年代に比べて高くなっています。

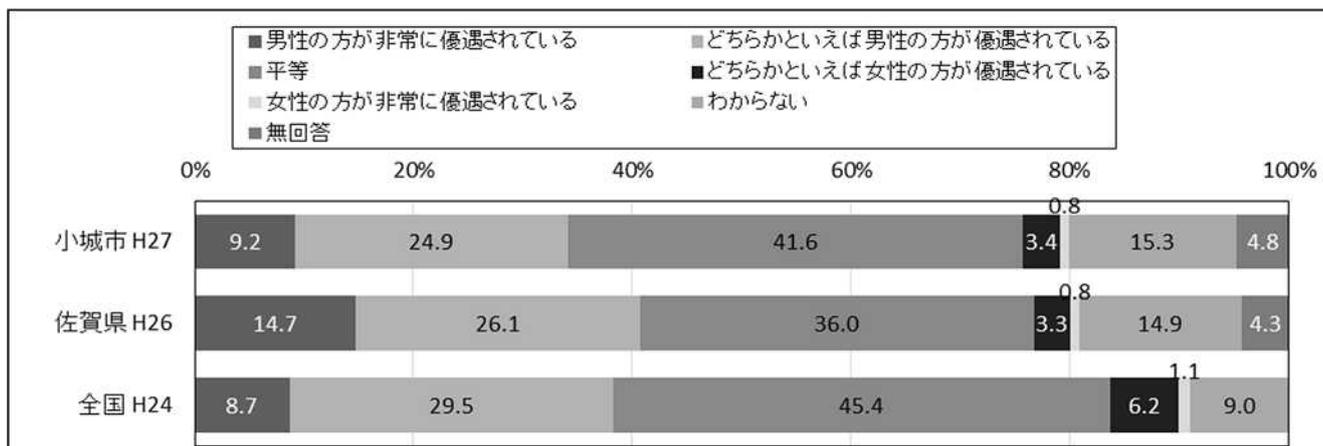


H17 と H27 の調査を比較すると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、H27 (34.1%)がH17(38.7%)より4.6ポイント低くなり、「平等」と回答した割合は、H27(41.6%)がH17(32.4%)より9.2ポイント高くなっています。



H26 佐賀県の調査と比較すると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、小城市 (34.1%)が、佐賀県(40.8%)より6.7ポイント低く、「平等」と回答した割合は、小城市(41.6%)が、佐賀県(36.0%)より5.6ポイント高くなっています。

また、H24 全国の調査と比較すると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、小城市 (34.1%)が、全国(38.2%)より4.1ポイント低く、「平等」と回答した割合も、小城市(41.6%)が、全国(45.4%)より3.8ポイント低くなっています。

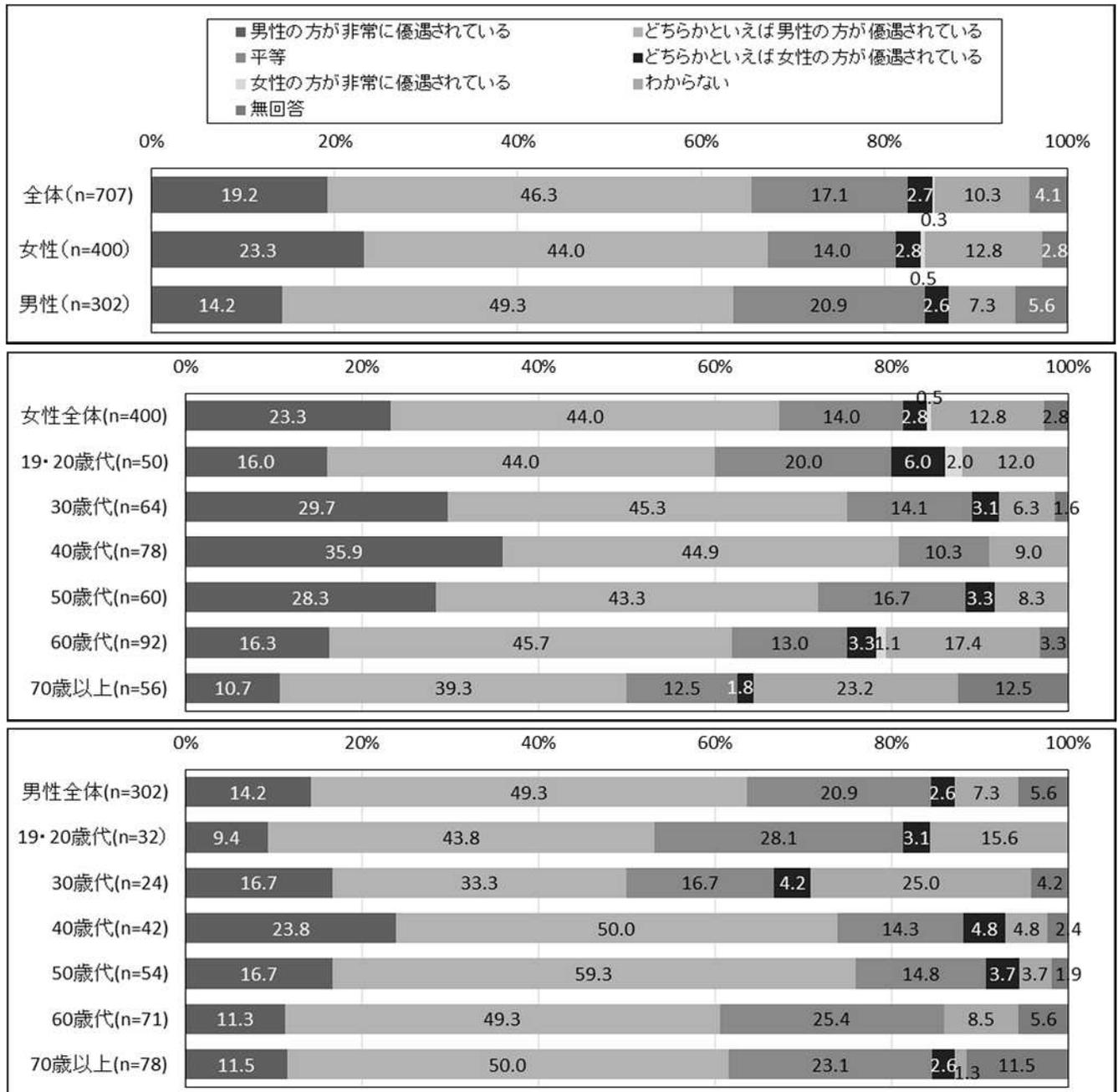


慣習・しきたり

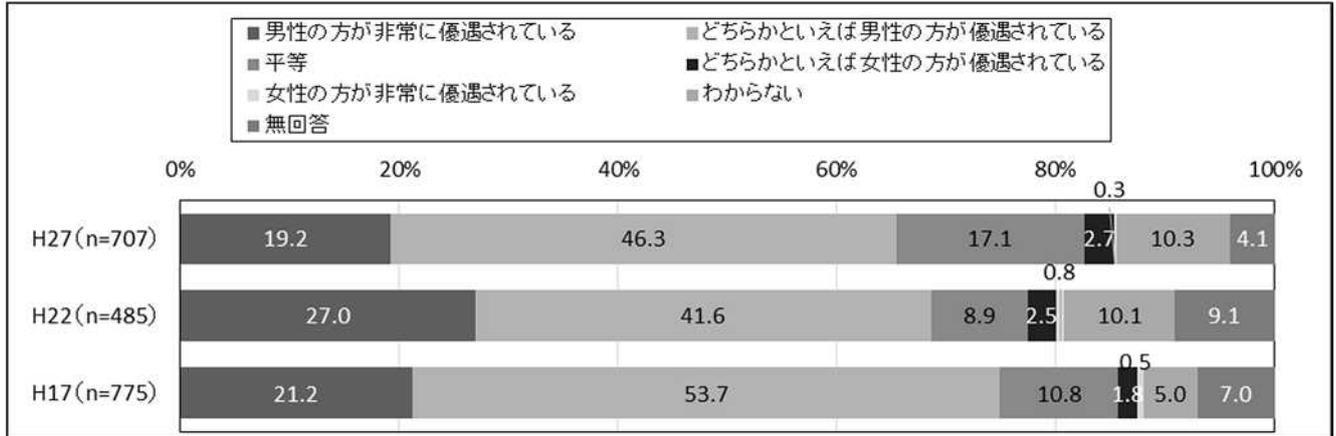
『男性の方が優遇されている』65.5%、「平等」17.1%、『女性の方が優遇されている』3.0%となっています。

性別で見ると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、女性(67.3%)が男性(63.5%)より3.8ポイント高く、「平等」と回答した割合は、男性(20.9%)が女性(14.0%)より6.9ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「平等」と回答した割合は、女性・男性ともに「19・20歳代」で最も高く、女性・男性ともに「40歳代」で最も低くなっています。

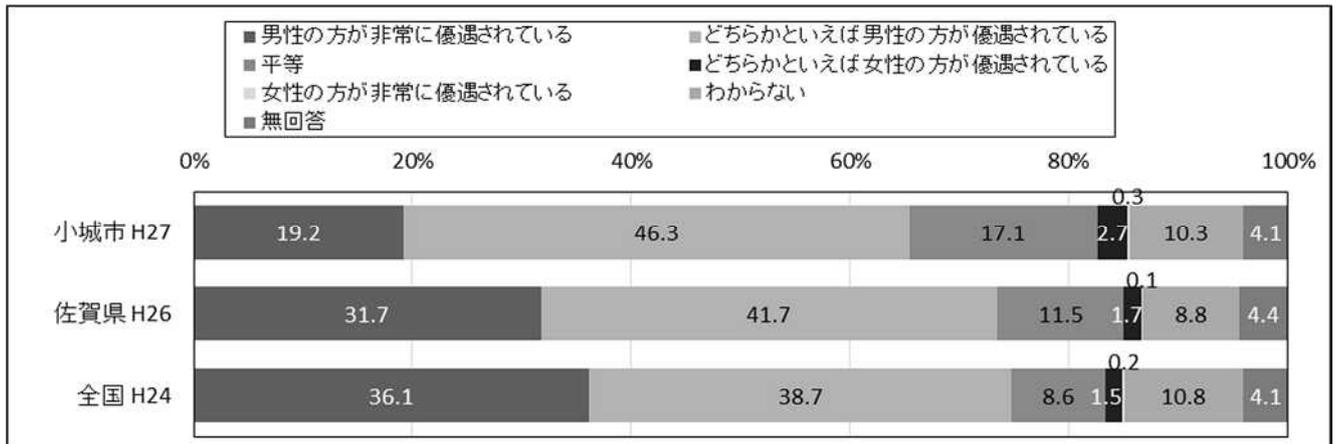


H17 と H27 の調査を比較すると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、H27 (65.5%)がH17(74.9%)より9.4ポイント低くなり、『平等』と回答した割合は、H27(17.1%)がH17(10.8%)より6.3ポイント高くなっています。



H26 佐賀県の調査と比較すると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、小城市 (65.5%)が、佐賀県(73.4%)より7.9ポイント低く、『平等』と回答した割合は、小城市(17.1%)が、佐賀県(11.5%)より5.6ポイント高くなっています。

また、H24 全国の調査と比較すると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、小城市 (65.5%)が、全国(74.8%)より9.3ポイント低く、『平等』と回答した割合は、小城市(17.1%)が、全国(8.6%)より8.5ポイント高くなっています。

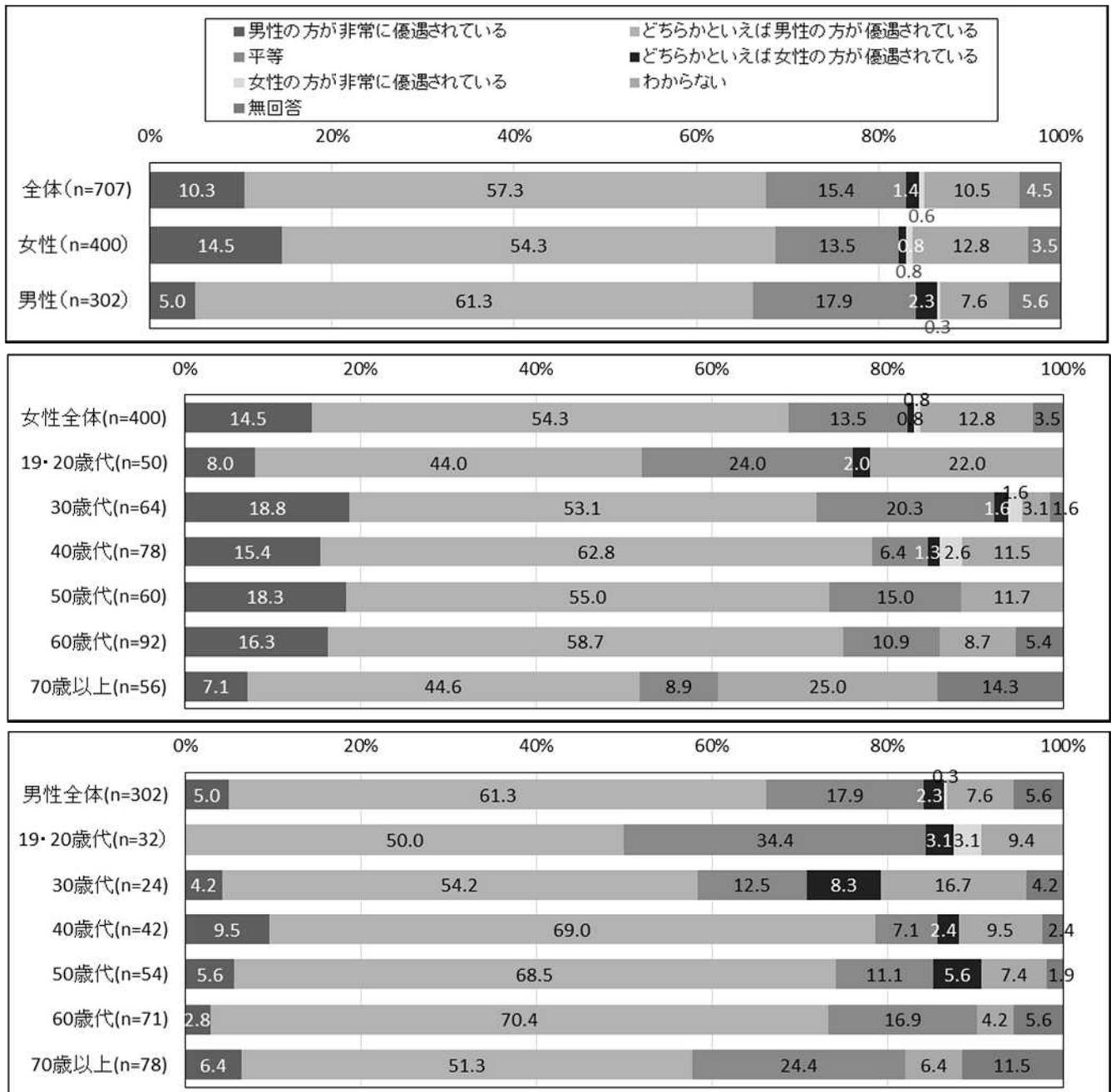


社会全体

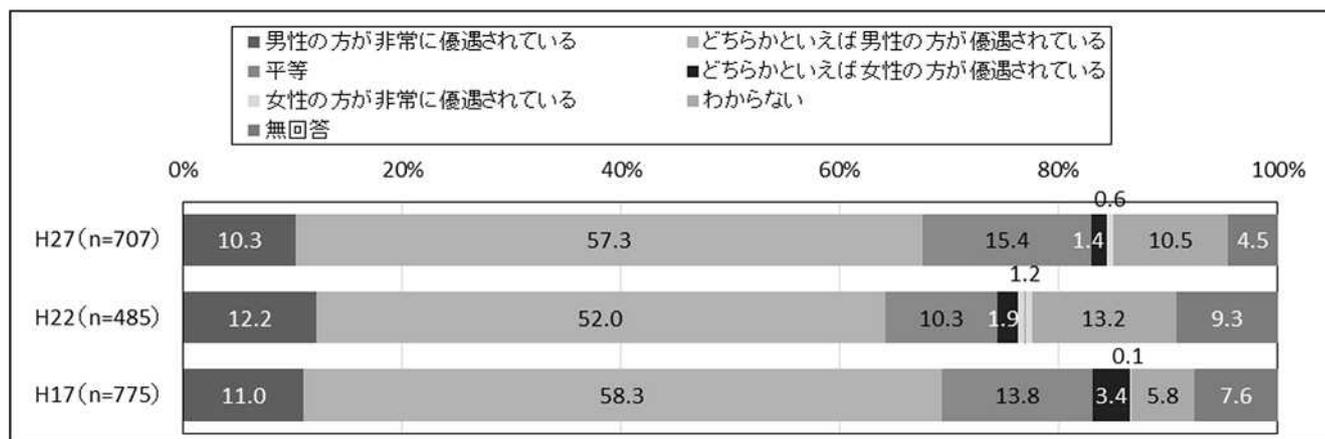
『男性の方が優遇されている』67.6%、「平等」15.4%、『女性の方が優遇されている』2.0%となっています。

性別で見ると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、女性(68.8%)が男性(66.3%)より2.5ポイント高く、「平等」と回答した割合は、男性(17.9%)が女性(13.5%)より4.4ポイント高くなっています。

性別・年代別で見ると、「平等」と回答した割合は、女性・男性ともに「19・20歳代」で高く、女性・男性ともに「40歳代」で低くなっています。また、女性の「50歳代以上」、男性の「60歳代以上」では、『女性の方が優遇されている』と回答した人はいません。



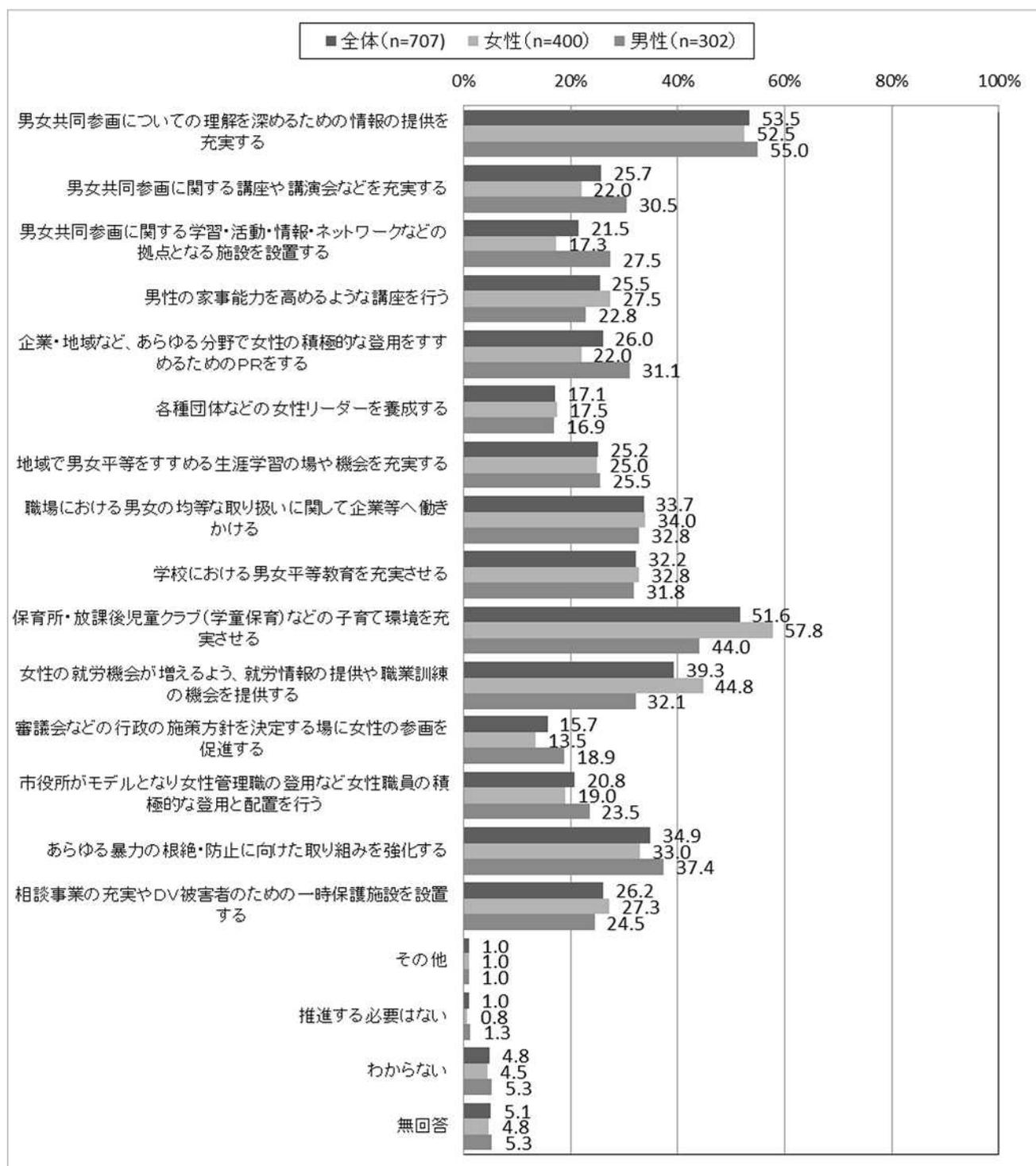
H17 と H22 の調査を比較すると、『男性の方が優遇されている』や『平等』と回答した割合は、H22 が H17 より低くなっていますが、H17 と H27 の調査を比較すると大差はありません。



(27) 男女共同参画社会を進めるために、小城市では、今後どのようなことを推進した方がよいと思いますか。(複数回答)

「男女共同参画についての理解を深めるための情報の提供を充実する」が53.5%で最も高く、次いで「保育所・放課後児童クラブ(学童保育)などの子育て環境を充実させる」51.6%、「女性の就労機会が増えるよう、就労情報の提供や職業訓練の機会を提供する」39.3%の順となっています。

性別で見ると、女性では、「保育所・放課後児童クラブ(学童保育)などの子育て環境を充実させる」、次いで「男女共同参画についての理解を深めるための情報の提供する」の順となっていますが、男性では「男女共同参画についての理解を深めるための情報の提供する」に次いで、「保育所・放課後児童クラブ(学童保育)などの子育て環境を充実させる」の順となっています。



| 性別 | 年代 | その他 |
|----|----------|--|
| 女性 | 19・20 歳代 | 女性をではなく、女性もという措置を取ってほしいです |
| 女性 | 30 歳代 | 身近な相談窓口の設置。24 時間対応相談できる場所の確保。 |
| 女性 | 40 歳代 | 女性の議員を増やす。また、地域の役職に女性を起用していく。 |
| 男性 | 19・20 歳代 | 男性より女性の能力が高くなれば、必然的にそのような社会になるのではないかと思う。 |
| 男性 | 30 歳代 | 社会全体の労働時間を短縮し、家にいる時間を増やす。 |
| 男性 | 70 歳以上 | 女性の意識改革 |

性別・年代別で見ると、女性では、「保育所・放課後児童クラブ（学童保育）などの子育て環境を充実する」と回答した割合は、「50 歳代以下」で高く、「男女共同参画についての理解を深めるための情報の提供を充実する」の回答した割合は、「60 歳以上」で高くなっています。

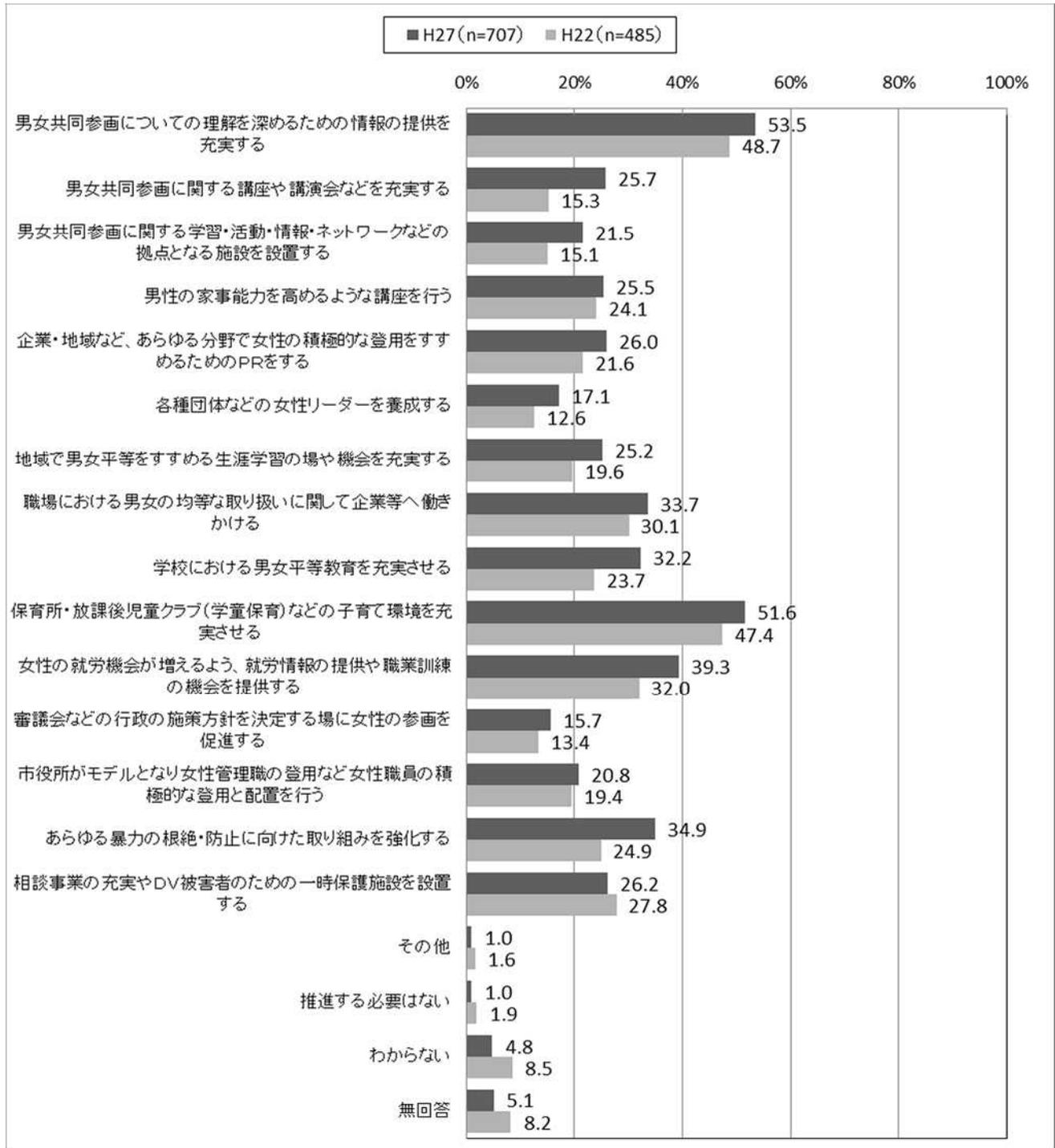
男性では、「男女共同参画についての理解を深めるための情報の提供を充実する」と回答した割合は、「40 歳代」を除くすべての年代で高くなっています。また、「職場における男女の均等な取り扱いに関して企業等へ働きかける」と回答した割合は、男性の「19・20 歳代」、「40 歳代」で高く、「企業・地域などあらゆる分野で女性の積極的な登用をすすめるための PR をする」と回答した割合は、「30 歳代」で高くなっています。

| 選択項目 | 女性全体 (n=400) | 19・20歳代 (n=50) | 30歳代 (n=64) | 40歳代 (n=78) | 50歳代 (n=60) | 60歳代 (n=92) | 70歳以上 (n=56) |
|--|-----------------|-------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|-----------------|
| 男女共同参画についての理解を深めるための情報の提供を充実する | 52.5 | 44.0 | 43.8 | 55.1 | 58.3 | 57.6 | 51.8 |
| 男女共同参画に関する講座や講演会などを充実する | 22.0 | 10.0 | 17.2 | 24.4 | 20.0 | 26.1 | 30.4 |
| 男女共同参画に関する学習・活動・情報・ネットワークなどの拠点となる施設を設置する | 17.3 | 18.0 | 12.5 | 17.9 | 23.3 | 15.2 | 17.9 |
| 男性の家事能力を高めるような講座を行う | 27.5 | 28.0 | 18.8 | 32.1 | 25.0 | 32.6 | 25.0 |
| 企業・地域など、あらゆる分野で女性の積極的な登用をすすめるためのPRをする | 22.0 | 26.0 | 14.1 | 26.9 | 23.3 | 21.7 | 19.6 |
| 各種団体などの女性リーダーを養成する | 17.5 | 22.0 | 9.4 | 19.2 | 20.0 | 17.4 | 17.9 |
| 地域で男女平等をすすめる生涯学習の場や機会を充実する | 25.0 | 18.0 | 20.3 | 21.8 | 26.7 | 33.7 | 25.0 |
| 職場における男女の均等な取り扱いに関して企業等へ働きかける | 34.0 | 40.0 | 37.5 | 41.0 | 33.3 | 29.3 | 23.2 |
| 学校における男女平等教育を充実させる | 32.8 | 46.0 | 31.3 | 26.9 | 33.3 | 28.3 | 37.5 |
| 保育所・放課後児童クラブ(学童保育)などの子育て環境を充実させる | 57.8 | 64.0 | 57.8 | 62.8 | 63.3 | 52.2 | 48.2 |
| 女性の就労機会が増えるよう、就労情報の提供や職業訓練の機会を提供する | 44.8 | 42.0 | 45.3 | 47.4 | 46.7 | 48.9 | 33.9 |
| 審議会などの行政の施策方針を決定する場に女性の参画を促進する | 13.5 | 8.0 | 7.8 | 11.5 | 15.0 | 17.4 | 19.6 |
| 市役所がモデルとなり女性管理職の登用など女性職員の積極的な登用と配置を行う | 19.0 | 16.0 | 14.1 | 19.2 | 18.3 | 22.8 | 21.4 |
| あらゆる暴力の根絶・防止に向けた取り組みを強化する | 33.0 | 34.0 | 31.3 | 42.3 | 40.0 | 26.1 | 25.0 |
| 相談事業の充実やDV被害者のための一時保護施設を設置する | 27.3 | 26.0 | 29.7 | 33.3 | 38.3 | 23.9 | 10.7 |
| その他 | 1.0 | 2.0 | 1.6 | 2.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 推進する必要はない | 0.8 | 0.0 | 1.6 | 1.3 | 0.0 | 1.1 | 0.0 |
| わからない | 4.5 | 4.0 | 1.6 | 2.6 | 1.7 | 5.4 | 12.5 |
| 無回答 | 4.8 | 0.0 | 1.6 | 0.0 | 1.7 | 7.6 | 17.9 |

| 選択項目 | 男性全体 (n=302) | 19・20歳 代(n=32) | 30歳代 (n=24) | 40歳代 (n=42) | 50歳代 (n=54) | 60歳代 (n=71) | 70歳以上 (n=78) |
|--|-----------------|-------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|-----------------|
| 男女共同参画についての理解を深めるための情報の提供を充実する | 55.0 | 43.8 | 54.2 | 42.9 | 64.8 | 56.3 | 59.0 |
| 男女共同参画に関する講座や講演会などを充実する | 30.5 | 18.8 | 20.8 | 28.6 | 22.2 | 38.0 | 38.5 |
| 男女共同参画に関する学習・活動・情報・ネットワークなどの拠点となる施設を設置する | 27.5 | 18.8 | 29.2 | 19.0 | 37.0 | 31.0 | 25.6 |
| 男性の家事能力を高めるような講座を行う | 22.8 | 25.0 | 29.2 | 7.1 | 29.6 | 22.5 | 24.4 |
| 企業・地域など、あらゆる分野で女性の積極的な登用をすすめるためのPRをする | 31.1 | 12.5 | 41.7 | 16.7 | 42.6 | 31.0 | 35.9 |
| 各種団体などの女性リーダーを養成する | 16.9 | 21.9 | 4.2 | 16.7 | 24.1 | 12.7 | 17.9 |
| 地域で男女平等をすすめる生涯学習の場や機会を充実する | 25.5 | 18.8 | 12.5 | 19.0 | 22.2 | 32.4 | 32.1 |
| 職場における男女の均等な取り扱いに関して企業等へ働きかける | 32.8 | 40.6 | 29.2 | 50.0 | 40.7 | 22.5 | 25.6 |
| 学校における男女平等教育を充実させる | 31.8 | 31.3 | 20.8 | 33.3 | 31.5 | 29.6 | 37.2 |
| 保育所・放課後児童クラブ(学童保育)などの子育て環境を充実させる | 44.0 | 40.6 | 54.2 | 52.4 | 51.9 | 40.8 | 35.9 |
| 女性の就労機会が増えるよう、就労情報の提供や職業訓練の機会を提供する | 32.1 | 21.9 | 20.8 | 38.1 | 37.0 | 33.8 | 32.1 |
| 審議会などの行政の施策方針を決定する場に女性の参画を促進する | 18.9 | 6.3 | 8.3 | 11.9 | 22.2 | 18.3 | 29.5 |
| 市役所がモデルとなり女性管理職の登用など女性職員の積極的な登用と配置を行う | 23.5 | 21.9 | 25.0 | 21.4 | 27.8 | 21.1 | 24.4 |
| あらゆる暴力の根絶・防止に向けた取り組みを強化する | 37.4 | 28.1 | 33.3 | 33.3 | 46.3 | 43.7 | 33.3 |
| 相談事業の充実やDV被害者のための一時保護施設を設置する | 24.5 | 18.8 | 20.8 | 21.4 | 29.6 | 25.4 | 25.6 |
| その他 | 1.0 | 3.1 | 4.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.3 |
| 推進する必要はない | 1.3 | 0.0 | 4.2 | 0.0 | 1.9 | 1.4 | 1.3 |
| わからない | 5.3 | 9.4 | 8.3 | 4.8 | 9.3 | 2.8 | 2.6 |
| 無回答 | 5.3 | 3.1 | 4.2 | 2.4 | 0.0 | 7.0 | 9.0 |

H22とH27の調査を比較すると、ほとんどの項目で割合が高くなっています。

特に「男女共同参画に関する講座や講演会などを充実する」と回答した割合は、H27(25.7%)がH22(15.3%)より10.4ポイント高く、「あらゆる暴力の根絶・防止に向けた取り組みを強化する」と回答した割合は、H27(34.9%)がH22(24.9%)より10ポイント高くなっています。



7. 自由意見

(28) 男女共同参画に関してご意見・ご要望がございましたら、どのようなことでも結構ですのでお書きください。

| 性別 | 年代 | 意見や要望 |
|----|----------|--|
| 女性 | 19・20 歳代 | 子供ができて仕事は続けたいですが、就業時間が長く、両親は近くにいないので結局は、仕事を辞めざるを得ないと思います。 |
| 女性 | 19・20 歳代 | 女性が社会進出できる世の中ではなく、男性が家庭に協力的で平等に育児・介護ができる世の中が望ましいと思う。 |
| 女性 | 19・20 歳代 | 子どもを預ることのできる場所をもっと確保しないことには、女性が仕事に就くことも困難だし、子どもの数も減っていくばかりだと思います。ただ、保育園などの建設は、住宅に隣接しないなどの配慮をしていただきたいです。子供の声は、仕方ないにしても、保護者の方の送迎マナーや立ち話の方が問題だと感じています。 |
| 女性 | 19・20 歳代 | 男・女が平等であるという考え方をしっかりと教育していくことが必要。そのためには、全ての大人が子ども達にその考え方を正しく教えていき、実際の行動で示していくことが大切だと思う。 |
| 女性 | 19・20 歳代 | 社会が変わらないと無理があるのでは？市役所などが行っても、市役所だからなど理由をつけて一般企業に広がらないのではないのか。しっかり一般企業の取り締まりをして欲しい。 |
| 女性 | 19・20 歳代 | 共働きであるにもかかわらず、どこかしら家の中のことは女がやる、という暗黙のルールが残っています。亭主関白の風習がそう簡単に消えるのは、難しいです。終戦して100年も経っていませんから風習が残るのは当然。だからといって、その上にあぐらをかいてちゃいけません。「古い考えだから」と言って、その風習をなくそうとするのも少し違います。なぜ夫も妻もやるのか。しなければならぬのか。それを知る事が、新たな未来への一歩へとつながると思います。最近アニメなどの規制の話ばかり聞きますが、規制するだけでは何の解決にもなりません。その場しのぎ、もしくは問題を先延ばしにしているにすぎないのです。正しい知識を持ち、自分に入ってくる情報や置かれた状況で、何が正しいのかを判断できるようにしていくべきだと思います。子どもだから必要ない、まだ早い、知らなくて良い、とこれこそ「差別」しているのではないのでしょうか。小学校高学年、中学生ともなると、もう物の分別がついて良い、つけさせるべき年代だと思います。むやみやたらと正しい知識から遠ざけているからこそ犯罪を産み出している現在につながっている。これも原因の一つだと思います。 |
| 女性 | 19・20 歳代 | 何が男女平等というのか、いまいわからない。 |
| 女性 | 19・20 歳代 | 現段階では、男性がつきやすい仕事・分野、女性がつきやすい仕事分野と別れて存在している気がします。確かに、その性質から男女で差がつかざるを得ない分野というものがありますが、背負うべき大敵にはそのような差が埋まれば良いと思います。男女平等とはいいますが、現行の制度では、女性の権利がより強く主張され過ぎていていると思えます。女性の権利を守ることも大切ですが、それと同時に男性の権利も守っていく必要があるのではないのでしょうか。生物的に男女にそれほど身体的差がないという学者の方がいらっしゃいますが、その差は確かに存在するので、身体的な面で完全に平等にすることは難しいと思います。なので、お互い尊重する部分はきちんと尊重し、他の精神的・社会的なところで男女という性別で区別しない社会をつくっていかねばならないと思います。 |
| 女性 | 19・20 歳代 | DVについて、もっと取り締まるべき。子どもの虐待なども強化するべき。 |
| 女性 | 30 歳代 | 結婚し、出産すると、より社会から離れてしまうので、再就職が難しく感じる。実際に就職するにも、子供の預け先がなかったり、あっても高額だと就職への第1歩が踏み出せない。(就職活動時の一時預かりも同時にしてもらわないと、面接などに行けない。) 両家と離れて暮らしていると、なおさら厳しい。男女が平等に働ける社会とは言うし、一億総活躍社会とも言うが、そのための社会的構造がない以上、無理だと思う。 |

| 性別 | 年代 | 意見や要望 |
|----|-------|--|
| 女性 | 30 歳代 | 男女で共働きすると、どうしても女性の方が負担が大きくなりがちだと思うので、それを解消していくような案が必要だと思います。そして若い世代よりも中年～上の世代の意識の改革も要ると思います。 |
| 女性 | 30 歳代 | 保育園等の制度がなかなかうまくいってない。預けられても、放置してしまうから、土日はみてもらえない。などの理由で土日休みの仕事しかできない。今の祖父母世代は、現役で仕事をしてるから預けられない。働かないと家計が苦しいのに、高い保育料で預けて働いても、ずっと家計が苦しい状態が続く。悪循環。税金が、先が短い人に使われて、先が長い人には使われない。じゃあ、なんで頑張らないといけないのかわからなくなる。子供に対しての制度が手薄。3人目から保育料無料?この状態で3人も産めない。で、少子化対策にも協力できない。女性は命をかけて生むのに、社会が受け入れできない状態で「産め!」といわれてもムリ。 |
| 女性 | 30 歳代 | 子育て世代は、子どもの病気や行事などで仕事をたくさん休まないといけません。共働きの家庭でも、主に仕事を休まないといけないのは母親で、父親でも休みがとりやすいよう企業に呼びかけていただきたいと思います。 |
| 女性 | 30 歳代 | 年代・世代で考え方の違いがあり、難しいと思います。 |
| 女性 | 30 歳代 | 佐賀は特に、まだ男尊女卑の風潮が強く、仕事で女性が遅く帰っても、男性は家のことは知らぬふり・・・小学生のうちから、その辺りの教育をしてほしい。 |
| 女性 | 30 歳代 | 家庭内での会話や態度が大切だと思う。親や子どもなど、大切な人から言われる言葉でこそ意識が変えられると思う。高齢者デイサービス施設や学校・保育園での啓蒙活動を行っていくべきではないか。世代間でさまざまなもの・ことに対する意識や認識に違いがあるのは当然のことだが、なかなか子供ができないことや、働き方について、上の世代の方から心ない言葉を言われ傷ついている。啓蒙活動によって、少しでも意識と行動を変え、男女がお互いに自分らしく生きられればいいと思う。 |
| 女性 | 30 歳代 | 無理に競争参画を進めても喜ばない女性は多いと思う。責任の内仕事をあえて望んだり、「女性がすべき」と思って、自ら進んでお茶くみをしたい女性もいる。「女性」「男性」とひとくくりに考えず、ひとり一人の人間として、どう行動するかが大事。少なくとも私の周りの女性は、共同参画に前向きではありません。 |
| 女性 | 30 歳代 | 何でも男女平等というのには疑問を感じます。子を持つ親としては、子どもはどちらかという母親を求めるとし、母親が仕事をすれば子どもは寂しく思います。保育や学童が充実すればとても嬉しいのですが、私は子どもを一番に考えているので、子どもに寂しい思いをさせてまで仕事に力を入れたくないという考えです。実際、学童に行きたがらない子も多いと聞きます。小学生までは、育児に専念したいのが本音です。女性でも、キャリアを持ってしっかり仕事をされている方も沢山いらっしゃるのに、人それぞれだと思いますが・・・。また、子どもの保育料ですが、今は、2人目が半額、3人目が無料となっています。保育園は、所得で決まるようですが、これもおかしいと思います。中には1人しか子どもを持つことができない方もいらっしゃるのに、その方は補助を受けられない。子どもに関することは、1人目、2人目関係なくそれこそ1人1人に平等であればいいのにな・・・と思います。私は3人子どもがいますが、小城市はそれでも子どもの環境が充実していると思っています。男女共同参画を推進するのであれば、尚更子どもの保育・教育・お金に関することがもっと充実しないといけないと思います。でも、4月からの学童見直し(5年生まで)は、パートをする身としては、とてもありがたいです。ありがとうございました。 |
| 女性 | 30 歳代 | 「女性に働く場を」と運動していただいているのは、とてもいいことだと思いますが、家庭を守るために専業主婦でいることはとても素晴らしいことだという事が、どんどん薄れていっていると思います。女性も外で働かないといけないと感じることで、結婚が遅れ、子どもを産むことが少なくなっているのではないのでしょうか。結婚し、子どもを多く持ち、家族のお世話をするために主婦業に専念するお母さんが社会的に素晴らしいと認められる運動が必要だと思います。 |

| 性別 | 年代 | 意見や要望 |
|----|-------|--|
| 女性 | 30 歳代 | 結婚後、介護・子育てに関し、夫と話し合うことがあります。もし、互いの両親が介護の必要性が出てきた場合や子どもが生まれた場合、どうするかについてです。介護や子どもを育てることについて、夫の職場で「育児介護休暇の取得可か」確認すると「職場の前例がないため難しい」とのことでした。まだまだ育児や介護は女性がする意識は強いと感じました。男女平等の実現に向け、互いの関係性のパワーバランスは、前提にあるとしても、子どもの頃から育った環境に配慮し、子どもの頃から教育としていくことで、将来の男女共同参画につながると考えます。男女共同参画の実現は、1人1人の意識を変え、共働きでも家庭のために介護や育児に時間を割ける職場の理解を得ることです。 |
| 女性 | 40 歳代 | 育児・介護休業法について 現実問題、解雇はされなくても、休業するのはなかなか難しい。休業中、収入が減ると生活ができない。育児・介護にも支障が出て悪い方向にしか行かないと思う。特に介護はしたいが、仕事も休めない。休むと収入が減る……。根本的に改善が必要ではないか。女性の働き方について、子どもが出来ても働こうという意欲がない人が多いということは、社会が働きにくいのではないのでしょうか。男女共同参画と言っているが、現実の社会間まだまだである。 |
| 女性 | 40 歳代 | これからだと思います。 |
| 女性 | 40 歳代 | 子どもを産み育てていく事は、とても大事な事です。そのため母親が、家庭におり「いってらっしゃい。」「おかえり。」と言える環境を作りたかったが、主人の収入だけでは、生活できない現実もあり、働かなくてはならない。仕事から帰り、家事をするのは、肉体的にも精神的にも年々つらくなっている。家事も、主人や子どもに手伝いをお願いしたいが、子どもは勉強中だったり、帰りが遅い主人に頼むのもかわいそうに思える。それなら、私がんばればいいのか？というふうな考えに至る。多分、1人の生活にならない以外は、この生活や気持ちは変わらないのではないかと。 |
| 女性 | 40 歳代 | 小学校の児童クラブを仕事の有無に関わらず利用できるようにしてほしい。現在は、仕事が共働きで、みてくれる人がいない人しか利用できない。しかし、仕事をしていなくても、自分が病気で病院に行ったり、家族を病院に連れて行ったりなど、1日だけでいいから利用できたら、どんなに助かるだろうと思うことがよくある。(芦刈幼稚園は、日預りで1日500円で、朝お願いしても、快く引き受けてくださるので、とても助かっています。)自分のことは、後回しで、育児・介護にあたっているのできつい。仕事をしたくても、結局自分に育児・介護の負担がきて、仕事に就けないのが現状です。 |
| 女性 | 40 歳代 | これからの少子高齢化社会への取り組みとしても、男女共同参画は、重要な役割を果たすことになると思います。いかに、多くの方に理解をしていただけるかがこれからの課題になっていくのではないのでしょうか。 |
| 女性 | 40 歳代 | 家庭での男の子の育て方が大事なところでしょうか。そのためのお母さんたちへの啓蒙が重要なんでしょう。 |
| 女性 | 40 歳代 | 女性ばかりが優位になっても何も意味がない。活動される方に女性ばかりではなく、男性が入ってくることで共同参画は成り立つのではないのでしょうか。偏った意見、間違った考えのばらまきだけはして欲しくないし、自分もしたくないので正しく学ぶことは大切だと思います。 |
| 女性 | 50 歳代 | 男女共同参画が推進されにくい理由に、性別役割分業意識と女性差別があると思います。小さい頃から、男女を色分けしたり、「女らしさ」「男らしさ」を強要したりという慣習を根底から変えていくことが必要です。男性が「女性は自分たちとは違う。下に見てもよい。差別してもよい。」という考えを変えていくことが大切だと思います。まずは、中学校でも男女混合名簿を作ってください。 |
| 女性 | 50 歳代 | 男女共同参画とよく聞きますが、いまいち分かりません。具体的に何をするのか教えてほしいです。 |
| 女性 | 50 歳代 | 男女共同参画は、他人事のように今まで見聞きしてましたが、今回の調査依頼により少し考える時間がとれましたし、これからは、積極的に意識していきたいと思いました。 |
| 女性 | 50 歳代 | 啓発で認知度は高まりつつあるとは思いますが、社会全体では、表面には出ない不平等観はあるように思います。地道な働きかけが必要だと思います。 |
| 女性 | 50 歳代 | 男女共同参画に関する講座や講演会などに積極的に参加させていただきたいと思います。 |

| 性別 | 年代 | 意見や要望 |
|----|-------|---|
| 女性 | 50 歳代 | 子どもに対して、平等を伝えるためにも、家庭・学校・地域が男女ともに活躍している姿を見せる。 |
| 女性 | 50 歳代 | このアンケートがお役に立てば、有り難いですね。とても時間が要しました。色々考えさせられました。 |
| 女性 | 50 歳代 | 男女共同参画・・・というものが、内容等よくわからないので調べてみたいと思いました。 |
| 女性 | 60 歳代 | 男女平等と言っても、意識の差でも大きな障りがあります。性の違いを互いに少しでも理解し合おう、助け合おうとする心、必要とする心があれば社会において、職場において、また家庭においても長所、短所とうまく補って少しずつでも良い方へ転じていくのではないかと思います。社会に出てバリバリ働ける人、家庭にいてしっかり土台を守って次代に育ていける人、男女問わず、向き不向きがあると思います。その道の選び方、自覚と納得が必要ではないかと思う。社会で積極的に働くことも、そして家庭で守り育成すること、どちらも誇りを持って生きること。価値があることを認める社会でありたい。お金がすべてではない。無理なく生きていける世の中でありたい。 |
| 女性 | 60 歳代 | 「小城市男女共同参画」に関する市民意識調査票は、男性にもアンケートをとられましたか？男女別に結果を公表していただきたい。60 才～70 才代の男性は、まだ男性が優位だと思っている人が多いと思いますので。 |
| 女性 | 60 歳代 | 「男女共同参画」この言葉さえ、初めて聞きました。私が思うには、日本はやはり男性社会で今まで来ているし、これから先も、いくら呼びかけても変わることはないと思います。夫婦で働いていても給与が違っているし、やはり男性が多いし、女はいつも仕事と家庭の両立でストレスを抱えて生活していると思います。これから先も右から左に替わるものではないと思う。 |
| 女性 | 60 歳代 | 女性が参加するには、子どもを一時・長期に安心して預けられるすべてに整った施設の完備が全体必要。 |
| 女性 | 60 歳代 | 男女は本質的に違うのだから全くの平等という事はあり得ないと思う。それぞれの特性を生かすような参画の仕方を構築するのが良いのでは？ |
| 女性 | 60 歳代 | 個性と能力を最大限に発揮する社会を目標としていますか？現実的には、まだまだですね。家庭生活においては、男性はもっと家族の一員として協力すべきです。妻が働くにも限りがある。子供がいると、思うようには働けず・・・。家事を応援しているという気持ちではなく、仕事を分担すべきですね。笑顔で過ごしたいのに、笑顔になれない妻達。忙しすぎます。 |
| 女性 | 60 歳代 | 社会では、男女平等と声かけがあっていますが、家庭内においては、まだまだ男性の権限が強く、家事等はほとんど女性の仕事になっています。特に 60 歳代以降の家庭は、家事には見向きもしない男性が多いと、よく耳にしますし、我家もそうです。その年代は、どこもそうだから仕方ないとあきらめている部分もあり、今さらトラブルをおこしてまで手伝ってもらうのも、という半ばあきらめ感が強いです。若い人達、20～30 代の夫婦がうらやましい位です。50 代以降の男性の教育・研修が必要なのでは？男女共同参画は、何も職場だけに限った事ではなく、家庭でも浸透していかないと本当に意味はない!! |
| 女性 | 60 歳代 | 未だに、男性上位の世の中のように見えます。女性を大切にする教育が小さい時期から大事だと思います。 |
| 女性 | 60 歳代 | どんなに頑張っても男に子どもは産めないという原則です。女にしかできない子孫繁栄の子どもを産むという事は、否定できないことだと思います。そのために主産と可育児は大切なことだと思います。ところが、その女性が仕事の決裁をしなければならぬ立場にいと休暇中の仕事が滞ることになったりするので子育ての終わった女性が責任ある立場で仕事するのは、周りに迷惑をかける事になると思う。男女平等といっても、男にしかできない事、女にしかできないことがある以上、男女共同参画は、それを踏まえた上での事だと思う。 |
| 女性 | 60 歳代 | 道の駅、図書館、医療施設、公共の機関とか窓口とか、あらゆる場や団体とコラボして！働きかける機会を増やしてみてもいいのでは？人の集まる場所へ出かけて行って、働きかけると良いと思います。 |

| 性別 | 年代 | 意見や要望 |
|----|---------|--|
| 女性 | 60歳代 | 両親から1回もたたかれた事はないのにという人のことをよく聞きますが、私の小さい頃は、まわりの子どもは親からよくたたかれていました。学校の先生方からもよくたたかれていました。悪い事したら当たり前と思って育ちました。だから主人との間でも少々の事ではどってことありません。男は男の教育、女は女の教育をしないと家庭はうまくいかなくなると思います。 |
| 女性 | 60歳代 | まだまだ男女は平等と言っても、男性上位の社会です。どうしても女性には、子育てと家庭生活をしなくてはなりません。仕事外でのつきあいなど出来ませんので、どうしても男性を超える事は出来ませんので、管理職などはやはり男性に頼らざるを得ません。 |
| 女性 | 60歳代 | 今回、男女共同と思う意に対する問答に、私 歳で昔のと思い問題に対して答えてみましたが、現実的において、女性に対して差別的な感じに今も思っています。現在の男女ともに、勉強等に考え、また男の世界では花の咲くと言う事ありません。また、女性の世界にしても、人生もつまらないものです。世の中は、男性・女性しかいないのだから、平等でなければならぬと思います。今迄の私の人生で感じました。乱筆でごめんなさいね。それと、裏面は、あまり書くと、差別用語の様です。 |
| 女性 | 70歳以上 | 歳の夫は、昭和1ケタ生まれで、台所は男はしない。老夫の世話は、老妻がするべき、また家族がするべきとの考えです。私の家は。長女は横浜で家庭を持ち、次女は1 Km 200m位のところに夫婦と1女(4歳)が住み、長男は 才になるけど独身で、 才になる私が息子の洗濯・食事・老夫の介護で、わたしもリウマチや高血圧・高脂血症で服薬して、リウマチで関節の痛みがあり、共働きの孫(4歳)の保育園の迎えで次女が(次女の夫が)仕事から帰るまで面倒見ているので、男者も車は運転しますが、夫は危なくて運転させないようにして。男女共同参画など老夫は、とてもそんな考えはない。昨年 月末、夫は 癌の手術をしたあと、一日中ごろごろして、トイレまでしか歩かず、病院健診も老老介護しています。家族が介護は当たり前と思っています。 |
| 女性 | 70歳以上 | 実現できればりっぱな事 |
| 女性 | 70歳以上 | 古い考え方ですか・・・悪しからず・・・!! 男女平等とは解っていますが、平等ばかり強調され、男らしく、女らしく・・・を忘れていませんか?生まれた時から男と女は、性が違うごとく、違って当たり前なのです。男は、目先の事よりずっと先の事が見え、女はずっと先の事より目先の事がよく見えると思うのです。なんでも平等、同等ばかり言うのではなく、お互いの性の違い、見方の違いを認め合って支え合うべきです。今の若い方、30代~40代の方々が、貧しく子育てに資金追われ、小さく縮こまっているのが痛々しくてたまりません。保育園作って、資金使い、一日中働く女性増やすより、ゆとりある育児ができ、母と子ももっと寄り添えるような世の中が欲しい事です。 |
| 女性 | 70歳以上 | 市政に期待したい・・・? |
| 女性 | 70歳以上 | 戦中派の私にとりましては、今、三世代で私が一番望んでいた家庭のあり方でとても子供達に感謝しています。我々の夫婦のあり方と比べれば、今の若い者たちは平等で、どちらかといえば、妻の力が強さを感じています。でも、それでいいと思っています。アンケートの中にいろいろと心配ある問題がありますが、我が家においては考えられないことです。幸せに感謝しております。 |
| 女性 | 70歳以上 | 良く見かけますけど、母親と子どもが公園などに遊びに来ているのを見て、母親はゲームを見て、子どもは1人もそもそしている。子育てができないと思う。 |
| 男性 | 19・20歳代 | しっかりしよう!!! 小城市!! |
| 男性 | 19・20歳代 | 小城市に引っ越してきました!!もっといい町になるようがんばってください!!応援しています!! |
| 男性 | 19・20歳代 | 男性が女性の妊娠時における身体への負担などを理解してもらえるように疑似体験や実際に子どもを育てる母親のリアルな声などを聴いてもらえるような講演会があるとより理解してもらえると思う。 |
| 男性 | 19・20歳代 | 国が変わらなければいけない。もっと女性が働きやすい環境を作るべきだと思います。制度の改善、佐賀から男女共同参画をもっと全国に推進していけばいいのではないのでしょうか。こういう調査も年数回行ってもいいと思います。(市が家庭環境をもっと知る事ができるため) |

| 性別 | 年代 | 意見や要望 |
|----|----------|---|
| 男性 | 19・20 歳代 | 学校での教育を十分にした方がいいと思う。自分は覚えがない。幼い時の教育は、人にもよるが影響が大きいと思う。 |
| 男性 | 19・20 歳代 | 中高生に人生設計を考える授業を行う。(何も考えず仕事を続け、婚期をのがしている人が多い。) |
| 男性 | 30 歳代 | 女性が就職・育児・家事を行うためには、夫・家族・社会制度が充実する事が求められると思う。男性が育児に協力する事は、絶対に必要だと思われるが、女性が仕事と家庭を両立させるためにも、生活費(収入)が関係していると思う。男性、女性に限らず、十分な家計収入があれば男女問わず、仕事・家庭を協力し合えるようになるのでは……。今後の経済の安定や社会保障の充実が求められているのではないのでしょうか。 |
| 男性 | 30 歳代 | 男主導の社会から、男女が分け隔てなく、共に社会を動かす取り組みは、その分野でも浸透するのはかなり難しい問題だと思います。理屈では分かっている、個々の考え方、思いの違いで、差別的行動、言動が生じる。日々の意識付けをいかにやっていくかが今後の課題だと思います。 |
| 男性 | 30 歳代 | 成人してから男女共同参画やジェンダー、DV などを知るのでは遅い。小学校・中学校の養護教諭が授業の一員として子どものうちから伝え、考える時間を作れば、大人になって良い方向に発揮されると思う。 |
| 男性 | 30 歳代 | ワークシートも良いのですが、もっと一軒一軒訪問し、情報収集すればもっと違ってくるのかなと思います。本当に改善したいのであれば、外見よりも中身かな。 |
| 男性 | 40 歳代 | 企業の採用時から製造業において同一の求人数ではないため、採用の入口から平等にしてもらいたい。(採用人数) |
| 男性 | 40 歳代 | 男女平等は尊重しつつ、男性しか持ちえない男らしさ、女性しか持ちえない女性らしさも理解される社会が理想。古来、男性にしかできない事、女性にしかできない事もきちんと理解されるべきで、何が何でも男女平等という風潮には疑問を感じる。 |
| 男性 | 40 歳代 | 女性の方にも地域社会・職場において責任ある仕事を任せようとする。男性が前にといい風潮が強いと感ずます。女性も男性と同じように収入・役職をつけるよう、活躍の場を作り、(作るように会社・地域社会に呼びかける)男性も家事をし、本当の意味で男女平等の意識を持つようにする事が大切である。男性が仕事を主に女性が家庭・家事を主にといい考えは、これからは変えるべきだと思う。 |
| 男性 | 40 歳代 | 男は仕事。女は家庭。そんな時代があったことを耳にします。その背景には、色々な要因が混じり合い、様々な足跡を残してきたのではないだろうか？ 高度成長期以前の結婚とは「生活していくうえでの手段」であった。また夫が企業戦士となれるよう妻は家庭を守るという専業主婦の形が存在したことも事実。現代においても、このような形が消えてしまったわけではありません。そんな中、夫婦共働きという形も増加し、共に外で働き収入を得て生活を支えるという夫婦も少なくはありません。しかしながら、男は外。女は家庭。そんな昔の風習が頭から外せない夫がいる。そんな夫に我慢しながら仕事と家事・育児の両立で気の休まる場所を求める妻がいる。その結果、現代社会において増加傾向にあるのが熟年離婚。そんな夫婦のお悩みを聞くことも多々あります。もちろん、夫婦の問題であることに間違いはないのだが、本当にそれだけなのだろうか？ お悩みをお聞きするたび、私はそんな疑念を抱きます。男女の問題の根はどこに存在するのだろうか？ そう考えても結論は出てきません。ただ、現実問題として目に見えることは・女性にしか子供が産めない。男性は、何もできないということ。そんな誰でも理解できることなのに、出産を機に仕事に影響を及ぼす女性、会社(組織)の中での評価が下がるという女性が存在する。世間では、男女平等という言葉が徐々に広まりつつあるようにも聞こえるが、まだまだスタートラインに立つまでには至らない。私はそう実感しています。DV という問題も年々増えており、力で相手をねじ伏せる暴力、そして言葉で相手を追い詰める暴力等々、社会全体で取り組むべき課題である。そんな社会において小城市として取り組もうとされる姿勢。またその小城市の住民である自分を誇りに思います。市としての方向性、「男女共同参画プラン」には個人的に賛同いたします。微力ではありますが、私が所有する資格が力添えになることがあれば・何なりとお申し付けください。名刺を同封します。小城市としてのプランが男女の平等、家事育児等、新たな意識改革につながり、そして小城市がリーダーシップをとって、国を牽引する位にまで充実した男女共同社会を構築されることを願います。 |

| 性別 | 年代 | 意見や要望 |
|----|-------|--|
| 男性 | 40 歳代 | 保育所の増設。保育士の待遇改善。 |
| 男性 | 40 歳代 | 女性の社会参加は結構ですが、自己実現も大切ですが、子育てはもっともっと大切なことだと思います。子育て環境への具体的な支援もなく、ただ女性を社会参加させ男性と同じにするから、出生率も下がります。婚姻もより減ります。出産を増やすのは、人口減少の日本では絶対に必要、その観点から男女共同参画を見て考えていただきたいです。 |
| 男性 | 40 歳代 | 男性女性共に楽しく明るく住みやすい小城市になるように願っています。 |
| 男性 | 40 歳代 | 総てにおいて、勤務先、企業の理解が必要。 |
| 男性 | 50 歳代 | 打ち上げ花火や一過性の施策ではなく、草の根の取り組みが必要。また、底辺に暮らす人々に精神移入する資質や能力がある市役所職員の採用や育成が必要。 |
| 男性 | 50 歳代 | 事例の紹介 |
| 男性 | 50 歳代 | 我が家では、DVなどはないが、報道等にはDVが良く出てくる。(男が女に暴力をふるう)しかし、逆DVもあるのではないだろうか。男は女にDVを受けても、恥ずかしいからどこにも相談できずに困っているかもしれない。そういった相談窓口を設置するのも重要だと思う。 |
| 男性 | 50 歳代 | もっとPRした方がよい。 |
| 男性 | 50 歳代 | アンケートの質問が多すぎる。これで正確なデータが得られるか疑問! |
| 男性 | 60 歳代 | 家庭の家族が増えれば、問題も多くなるが、DVや夫婦又は子供の為の話し合いや問題を共に話し合う気持ちを多く持てる。又、共働きや子育て、老人介護の問題も少しは改善できるのではないかと思う。(親より祖父母の方が分かっている。)少子高齢の問題も少しは変わるのではないか。3世代や4世代の昔の時代が良かった(血のつながりがあり)気がする。(結果、3世代以上の家族を増加させる政治を)そういう家族に補助をした方が、DVや男女共同参加もできやすい。保育園だけ増加しても、保育士の考えや質に問題がある場合がある。 |
| 男性 | 60 歳代 | 男女共同参画に参加しやすい環境をつくる。 |
| 男性 | 60 歳代 | 男女共同参画などあたりまえのことでしょう。こういうことを問題にしなければいけないことなのか?情けないご時世だ。 |
| 男性 | 60 歳代 | 言葉自体はきれいだが、今の世の中ではなかなか難しい事だと思う。まだ、男性上位の考え方がある限り無理。特に地方では、役所が頑張ってもらっても、難しい事だと思います。仕方なしにやっているとしか思えません。貴方達は、民間の会社に勤めたことがないので簡単に言うけど、これは大変な事ですヨ。きつい意見ですみません。 |
| 男性 | 60 歳代 | 内容がわからない。説明会を開催して、市民全体に理解してもらうことが望ましい。 |
| 男性 | 60 歳代 | 男女共同参画については、職場での研修等普及啓発がなされてきているところであり、自分でも理解していると自負するところです。実際どの職場も努力され、改善されてきていると思いますが、今なお、個々においては意識改革が進んでいないのではないのでしょうか。基本的には、性別の差があり、人類の進化の過程で構築された家族制度は、本来人類も生物の生態系の一員であることを忘れ、家族制度が瓦解しようとしています。男女共同参画を考える場合、男女平等な家族のあり方を考える必要があります。地域社会、学校教育等我々を取り巻く環境の中から改善していくことが重要と考えます。 |
| 男性 | 50 歳代 | アルバイト等は、男女に関係なく時給いくらと決まっているけど、正社員になると男女で差があるように思います。企業のオーナーの意識を変える必要があると思います。男は男で、育児休暇を取ろうとすると白い目で見られるところではない社会があると思います。「全ては企業の経営者の考え方を変えないと社会は変わらないと思います。」ひとり相撲行政で何をやっても、何の意味もないと思う。 |
| 男性 | 60 歳代 | ただ単に男女平等を叫ぶのは、神に対して失礼である。神は男と女を別々に創造した。身体(肉体)的構造の違いによる男女差は、否めない上での男女共同参画型社会を形成すべき。男性と同等の身体能力のある女性は、家族・社会の協力を得て全ての業務に関わるべき。男性も女性も等しく、それぞれの業務選択があり、自ら選んだ職業(業務)について差別してはならない。 |
| 男性 | 60 歳代 | 長時間労働しなければならないような職場があることが問題。男女ともに定時の仕事になれば先ず一歩前進と考えられる。交替制もやむを得ない職場もあるが、その場合は十分な手当てが支払われることが不可欠。 |

| 性別 | 年代 | 意見や要望 |
|----|--------|--|
| 男性 | 60 歳代 | 型ばかりの男女共同参画にしないこと。行政は表面的ばかりで、ただすればいいという形にならないこと。 |
| 男性 | 70 歳以上 | 自治会（区）の活動や役職、係など参画するよう勧める。「女だから・・・」と女性であることを武器としたような断り方や、活動に消極的である。（口では、平等と唱える。）意識の低さを感じることが多い。高齢の女性が多く、数少ない男性に役職、係など押し付けられることが多い。 |
| 男性 | 70 歳以上 | 小城市内にも未婚の男女が多過ぎる。市役所・公民館等が中心になり婚活急げ。このままでは、消える家庭が多くなります。 |
| 男性 | 70 歳以上 | 指導・教育を積極的に行ってもらいたい。 |
| 男性 | 70 歳以上 | 女性自身も遠慮している。地域の役員等、男女平等にしていいたいと思う。必ずしも男性がしなくてはいけないわけではない。市議会にも、もっと女性が進出していいのではないか。すいません。歳をとっていますので、お許してください。 |
| 男性 | 70 歳以上 | 法で決めるより、日々の生活で改善すれば良いと思う。（決め事がひとり歩きしている。） |
| 男性 | 70 歳以上 | せつかく、裏面に用語の解説をうたっている。ただ、統計の参考にするでなく、回答者の手元に残るよう別ページとし、これからの参画意識の向上・推進を図る資料とすべきと思うが。 少子高齢化、次世代を担う子供、出生人口が減少している対策に、定住促進、出会い婚活など支援している自治体もある。そこで、婚活縁結びをする仲人を募集、登録をし、結婚の成立に報奨金を支給できるよう制定はできないか。 |
| 男性 | 70 歳以上 | 男女共同参画の推進を図る事には賛同します。私は、子ども（小学校）の授業時間に徹底的に教え込む教育をすることが重要だと考えます。 |
| 男性 | 70 歳以上 | 一度、市主催の行事に 4 回講習を受けたことがあります。独身者が夫婦間の問題などについて講義されても何かピンときませんでした。講師の選び方などを考えたらもっと良い内容になるように思いました。 |

參考資料

男女共同参画に関する市民意識調査

調査の目的とご協力をお願い

平素から、小城市政の推進につきまして、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。

小城市では、男女共同参画を推進するために「小城市男女共同参画プラン」を策定しています。この度、その基礎資料として「男女共同参画に関する意識調査」を行い、市民のみなさまのお考えを伺うことになりました。

本調査は、小城市にお住まいの19歳以上の方2,000人を対象とし、無作為に選ばせていただいております。調査の結果につきましては、すべて統計的に処理した上で分析しますので、個人の名前が出たり、他の目的に使用することは決してありません。

つきましては、ご多用の中に大変申し訳ありませんが、調査の趣意をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

平成28年2月

小城市長 江里口 秀次

◆ ご記入にあたって ◆

- 1 この調査は、あなた（あて名の方）ご自身のお考えで回答してください。
- 2 ご回答は、特に説明のない限り、あてはまる項目を選び、マークをしてください。
- 3 回答が「その他（ ）」にあてはまる場合は、お手数ですが（ ）内になるべく具体的にその内容をご記入ください。
- 4 一部の方だけにお答えいただく設問もあります。
- 5 ご回答いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れて封をし、**平成28年2月22日（月）**までにポストへ投函してください。

【調査主体・お問い合わせ】

小城市 総務部 企画政策課
市民盛働推進係（担当）池田・山田
TEL：0952-37-6115
FAX：0952-37-6163

★マークのしかた



選択式の回答は、該当箇所のマーク○を塗りつぶしてご回答ください。

○: 空白マーク ●: 正しいぬりつぶし /: 不十分なぬりつぶし

記述式の回答は、回答欄からはみ出さないように記入してください。

この用紙は機械で処理します。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したり、折り目を付けたりしないように注意してください。

あなたご自身（ご回答者）についてお伺いします。

(1) あなたの性別をお答えください。

- 女性 男性 その他

(2) あなたの年代をお答えください。（平成28年1月1日現在）

- 19 - 20歳代 30歳代 40歳代 50歳代 60歳代 70歳以上

(3) あなたは結婚されていますか。

- 結婚している
（事実婚を含む） 結婚したが離別・死別 結婚していない

(4) 【(3)で「結婚している（事実婚を含む）」と回答された方】

共働きをいらっしゃいますか。（パートや内職を含む）

- 共働きしている 共働きしていない

(5) お子さんはいらっしゃいますか。

- いる いない

(6) あなたの家族構成をお答えください。

- ひとり暮らし 夫婦のみ 親と子
（二世世代家族） 親と子と孫
（三世世代家族） その他

(7) あなたの主な職業はどれですか。1つ選んでマークしてください。

- 会社員・団体職員 自由業・自営業・家業
 パート・アルバイト 公務員・教員
 主婦・主夫 学生
 無職 その他

★マークのしかた



結婚や家庭生活についてお伺いします。

(8) あなたは、結婚・家庭・離婚についてどのように考えますか。あなたの考えに近いものをそれぞれ1つずつ選んでマークしてください。

| | 賛成 | どちらかといえば賛成 | どちらともいえない | どちらかといえば反対 | 反対 |
|-----------------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい | <input type="radio"/> |
| 2 夫は外で働き、妻は家庭を守るべき | <input type="radio"/> |
| 3 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない | <input type="radio"/> |
| 4 結婚して相手に満足できないときは離婚すればよい | <input type="radio"/> |

(9) 仕事と生活について、あなたの考えに近いものを1つ選んでマークしてください。
(ここでの家庭生活とは、仕事以外の全ての生活をいいます)

- 1. 「仕事」を優先したい
- 2. 「家庭生活」を優先したい
- 3. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 4. わからない

(10) 仕事と生活について、あなたの現実(現状)に近いものを1つ選んでマークしてください。
(ここでの家庭生活とは、仕事以外の全ての生活をいいます)

- 1. 「仕事」を優先している
- 2. 「家庭生活」を優先している
- 3. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 4. わからない

(11) あなたは、1日に平均してどれくらいの時間を家事(育児・介護を含む)にかけていますか。それぞれ1つずつ選んでマークしてください。

| | 1. 全くしていない | 2. 30分未満 | 3. 30分以上1時間未満 | 4. 1時間以上2時間未満 | 5. 2時間以上3時間未満 | 6. 3時間以上 |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1 平日 | <input type="radio"/> |
| 2 休日 | <input type="radio"/> |

★マークのしかた



(12) 【(3)で「結婚している(事実婚を含む)」と回答された方】

あなたの家庭では、次のことを主に誰が行っていますか。それぞれ1つずつ選んでマークしてください。

| | 主に夫 | 主に妻 | 妻と夫で分担 | 主に子ども | その他の家族 | 行わない |
|-----------------------|-----|-----|--------|-------|--------|------|
| 1 家計を支える | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2 食事のしたく | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 3 食事の後片付け、食器洗い | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 4 掃除 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 5 洗濯 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 6 食料品、日用品の買い物 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 7 ごみだし | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 8 日々の家計管理 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 9 財産の管理、運用 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 10 育児、子どもの世話 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 11 家族の世話(介護) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 12 地域における活動(町内会、区役など) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 13 PTAなど学校行事への参加 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

(13) 【(3)で「結婚していない」と回答された方】

あなたは、「もし、結婚したら」次のようなことを主に誰がした方がよいと思いますか。それぞれ1つずつ選んでマークしてください。

| | 主に夫 | 主に妻 | 妻と夫で分担 | 主に子ども | その他の家族 | 行わない |
|----------------|-----|-----|--------|-------|--------|------|
| 1 家計を支える | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2 食事のしたく | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 3 食事の後片付け、食器洗い | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 4 掃除 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 5 洗濯 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 6 食料品、日用品の買い物 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 7 ごみだし | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 8 日々の家計管理 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 9 財産の管理、運用 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

★マークのしかた



| | 主に夫 | 主に妻 | 妻と夫で分担 | 主に子ども | その他の家族 | 行わない |
|-----------------------|-----|-----|--------|-------|--------|------|
| 10 育児、子どもの世話 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 11 家族の世話（介護） | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 12 地域における活動（町内会、区役など） | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 13 P T A など学校行事への参加 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

★マークのしかた



教育・子育てについてお伺いします。

(14)あなたは、子どもの育て方について、どのように考えますか。あなたの考えに近いものをそれぞれ1つずつ選んでマークしてください。

| | 賛成 | どちらかといえば賛成 | どちらともいえない | どちらかといえば反対 | 反対 |
|---|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1 男女を問わず、経済的に自立できるように育てた方がよい | <input type="radio"/> |
| 2 男女を問わず、炊事・掃除・洗濯など、生活していくために必要な技術を身につけるよう育てた方がよい | <input type="radio"/> |
| 3 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい | <input type="radio"/> |
| 4 男女を問わず、生まれ持った個性・才能を可能な限り活かして育てた方がよい | <input type="radio"/> |
| 5 女の子も男の子も同じ程度の学歴を持たせた方がよい | <input type="radio"/> |
| 6 男女を問わず、好きな仕事を選ばせた方がよい | <input type="radio"/> |

(15)あなたは、男性が「育児休暇」をとることについてどう思いますか。1つ選んでマークしてください。

- 1. 父親として当然である
- 2. 父親自身の成長のためにも、とることが望ましい
- 3. 職場環境を考えるととりにくい
- 4. 休暇中の所得補償が十分でないのとれない
- 5. 育児は女性が適していると思うので、男性がとる必要はない
- 6. 男がとるのはみっともない
- 7. その他 ()

★マークのしかた



(16)あなたは、男性が「介護休暇」をとることについてどう思いますか。1つ選んでマークしてください。

- 1. 家族として当然である
- 2. 他に介護する者がいない場合は、とることもやむを得ない
- 3. 職場環境を考えるととりにくい
- 4. 休暇中の所得補償が十分でないのとれない
- 5. 介護は女性が適していると思うので、男性がとる必要はない
- 6. 男がとるのはみっともない
- 7. その他 ()

(17)あなたは、男性の「育児休暇」や「介護休暇」の取得が進まない理由は何だと思えますか。あてはまるものから3つまで選んでマークしてください。

- 1. 自分の仕事の代わりにしてくれる人がいないから
- 2. 同僚の理解が得られないから
- 3. 上司の理解が得られないから
- 4. 収入が減るから
- 5. 人事評価や昇給に影響があると思うから
- 6. 休む必要がないから
- 7. 育児・介護に自信がないから
- 8. 育児休暇や介護休暇の取得の前例がないから
- 9. 男性が育児休暇・介護休暇を取得するのは恥ずかしいから
- 10. わからない
- 11. その他 ()

★マークのしかた



夫婦や恋人同士などの暴力についてお伺いします。

(20)夫婦や恋人同士などの親しい間で、身体的・心理的な暴力を受けること（ドメスティック・バイオレンス＝DV）が問題となっていますが、あなたは、5年以内に次のようなことをしたりされたりしたことがありますか。それぞれ1つずつ選んでマークしてください。

| | されたことがある | したことがある | どちらもある | どちらもない |
|-----------------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1 生命の危機を感じるほどの暴力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 2 医師の治療が必要となるほどの暴力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 3 医師の治療までは必要がない程度の暴力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 4 嫌がっているのに性的行為を強要 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 5 大声でどなったり、暴言を吐く | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 6 「女（男）のくせに・・・」、「女（男）だから・・・」と差別する | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 7 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」とののしる | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 8 交友関係や電話、メール、お金の使い道などを細かく監視する | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 9 社会活動や就職を許さない | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 10 生活費を渡さないなど、経済的に押さえつける | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 11 病気などで身体が動かせない時なども、食事のしたくをさせる | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 12 何を言っても、無視し続ける | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 13 その他（ ） | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

★マークのしかた



(23)あなたは、DVや性犯罪などをなくすためには、どうしたらよいと思いますか。あてはまるものすべてにマークしてください。

- 1. 法律・制度の制定や見直しを行う
- 2. DV防止法やストーカー規制法など法律・制度の周知を図る
- 3. 法律に盛り込まれた施策を十分に展開する
- 4. 犯罪の取り締まりを強化する
- 5. 捜査や裁判での担当者に女性を増やし、被害者が届けやすいようにする
- 6. 被害者を支援し、暴力に反対する市民運動を盛り上げる
- 7. 被害者が安心して相談できる窓口を確保する
- 8. 被害者を保護するための施設を整備する
- 9. 家庭における男女平等や性についての教育を充実させる
- 10. テレビや新聞などのメディアが自主的な規制をする
- 11. その他 ()

★マークのしかた



| | 1. 聞いたことがあり、内容まで知っている | 2. 聞いたことはあるが、内容は知らない | 3. 聞いたことがない |
|------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 13 女性活躍推進法 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 14 セクシュアル・ハラスメント（セクハラ） | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 15 マタニティ・ハラスメント（マタハラ） | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 16 LGBT | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

(26)次にあげる分野で、男女は平等だと思いますか。それぞれ1つずつ選んでマークしてください。

| | 1. 男性の方が非常に優遇されている | 2. どちらかといえば男性の方が優遇されている | 3. 平等 | 4. どちらかといえば女性の方が優遇されている | 5. 女性の方が非常に優遇されている | 6. わからない |
|-------------|-----------------------|-------------------------|-----------------------|-------------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1 家庭生活 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 2 就職・採用 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 3 職場 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 4 学校教育の場 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 5 地域や社会活動の場 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 6 政治の場 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 7 法律・制度上 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 8 慣習・しきたり | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 9 社会全体 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

(27)男女共同参画社会を進めるために、小城市では、今後どのようなことを推進した方がよいと思いますか。あなたの考えに近いものすべてにマークしてください。

- 1.男女共同参画についての理解を深めるための情報の提供を充実する
- 2.男女共同参画に関する講座や講演会などを充実する
- 3.男女共同参画に関する学習・活動・情報・ネットワークなどの拠点となる施設を設置する
- 4.男性の家事能力を高めるような講座を行う
- 5.企業・地域など、あらゆる分野で女性の積極的な登用をすすめるためのPRをする
- 6.各種団体などの女性リーダーを養成する
- 7.地域で男女平等をすすめる生涯学習の場や機会を充実する
- 8.職場における男女の均等な取り扱いに関して企業等へ働きかける
- 9.学校における男女平等教育を充実させる
- 10.保育所・放課後児童クラブ（学童保育）などの子育て環境を充実させる
- 11.女性の就労機会が増えるよう、就労情報の提供や職業訓練の機会を提供する



※男女共同参画に関する用語解説

- ・【男女共同参画社会】
…女性も男性も一人ひとりが大切にされ、社会の対等な構成員として喜びも責任も分かち合いつつ、その個性と能力を最大限に発揮できるような社会
- ・【育児・介護休業法】
…育児休業や介護休業は、男女を問わず取得が可能であり、休業申し出や休業したことを理由とする解雇を禁止している法律
- ・【次世代育成支援対策推進法】
…次世代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、育成される環境を整備する対策に関する基本理念や関係者の責務等について定めた法律
- ・【ポジティブ・アクション（積極的改善措置）】
…固定的な性別による男女の役割分担意識や過去の経緯から、男女労働者の間に生じている差を解消しようと、個々の企業が行う自主的かつ積極的な取組のこと
- ・【ジェンダー（社会的性別）】
…社会的・文化的につくられた性差・性別意識のことで「女はこう、男はこう」というような習慣、話し方、態度、服装、役割などのこと
- ・【ワーク・ライフ・バランス】
…仕事と生活の調和のこと
- ・【ドメスティック・バイオレンス（DV）】
…夫婦や恋人どうしなどの親しい間で、身体的・心理的な暴力を受けること
- ・【デートDV】
…交際中の恋人どうしで身体的・心理的な暴力を受けること
- ・【DV防止法】
…配偶者からの暴力に係る通報・相談等の体制を整備することにより、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護を図ることを目的とした法律
- ・【女性活躍推進法】
…女性が、職業生活において、その希望に応じて十分に能力を発揮し、活躍できる環境を整備するための法律
- ・【セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）】
…相手の心を傷つけたり、不快感を感じさせたりする「性的嫌がらせ」のこと
- ・【マタニティ・ハラスメント（マタハラ）】
…職場において妊娠や出産者に対して行われる嫌がらせのこと
- ・【LGBT】
…同性愛者や性同一性障害などの性的少数者のこと

